コロナ渦 初年度

カリー屋 ナマステ別館堂主人「ニューノーマル探索サバイバル日記」

物書き
うときゅう いっき

コロナ禍 初年度

カリー屋 ナマステ別館堂主人

「ニューノーマル探索

サバイバル日記」

本書は、

今（こん）コロナ禍、二〇二〇年一月からの

「外国人従業員ばかりのネパールカリー屋」おやじの

同時進行執筆、現場レポートです。

副題は「mission impossible ニューノーマルを掘り起こせ」

最終巻が第何巻になるのかは、コロナ次第ですので、現時点では不明であります。

二〇二〇年八月三〇日

（初年度版の前書き
及び
分かり易く読むための目安）

●この日記は、コロナ渦同時進行で書き綴りましたものの初年度の通年合本版です。
同時進行のため、ある程度話が「行きつ、戻りつ」する事や前後左右を照らし合わせた折に矛盾が生じることは承知の上で書き綴りました。
そうして話題があちらに飛びこちらに飛びするので読み憎いであろう事は想像致しておりました。
●そこで、皆様方の整理の目安として、次の様な事を念頭に置いて戴けると郁文読み易いかと存じます。
●即ち
目的はサバイバルである事。
何故サバイバルかと言えば、30 代半ばから今日迄、お話ししてもとても想像して貰えそうもない様な御難続きの連続でしたが、その中で見えてきたのは「立身出世」でも「栄達」でも「名を残す事」でもなく「張りをもってその生をまっとうする」事の大切さでした。
そうしてこの世を去る時には
「面白かったが、草臥れ果てた。これで、これから向こうでゆっくり休める。らくちんらくちん」
といえたらいいなぁと。それで目的を「張りを持ってその生をまっとうする」為に生き抜く、生き残る、つまり「サバイバル」と設定した訳です。

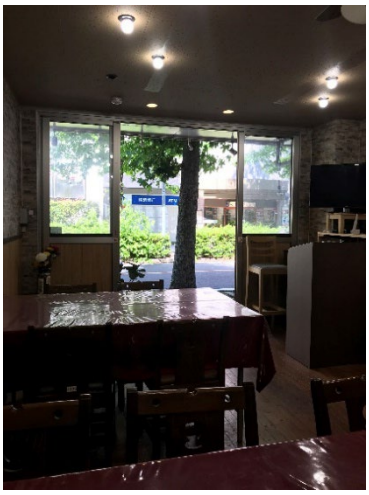
●そのサバイバルには自分のサバイバル
お店（仕事、商売、職業、職場）のサバイバル
我が国のサバイバル
そうして人類のサバイバル
と各段、各層があり、
●その中での各のサバイバル手段として
自分であれば、料理、語学や様々な表意表明表現手段を用いたサバイバル術、
お店で言えば人材育成、人権擁護、存続経営手段等サバイバル術、
我が国で言えば、在日外国人を含め、偶々隣に居合わせた見知らぬ人との交流が結果自分のサバイバル術になり
そして人類で言えば経済と環境の両立の為のサバイバル術がある。
●そうしてまた更に、人類が存続しなければ我が国の存続もあり得ず、我が国がなくなり難民になればその中でのお店の経営どころではなくなり、食い扶持がなくなれば従業員や自分個人の生活も成り立たなくなるという大状況から少状況に至る全てにまたがる話であると言うことでもあります。
●そうならないための解を探す為に、この縦横のマトリクスの格子の目の間をあちこちランダムに飛び移りながら、行ったり来たりして書いているのだとご理解戴ければ、幾分、読み易いかと存じます。
●又、何故コロナ渦が、報道後暫くたった 2 月の末に我々の意識の中ではっきりと認識される以前の 2020 年の年頭から書き始めたのかにつきましては、サバイバルの対象は「コロナ渦だけではない。それは常に我々と併存しており、常時存在しているから」と考え、それ以前からあれこれ書いていたからだとご理解して戴けると幸いかと、存じます。

二〇二一年三月二十五日

序

今を去ること、およそ一年前の　2019/7/29

（「ナマステ別館」堂の主人）



　ろくすっぽお客さんの来ない、カリーレストラン「ナマステ エブリバディ」のお隣、ナマステ別館ですが、たまにお食事をするでもなく、ドリンクをお飲みになるでもないお客様が結構、ふらり、ふらりとお越しになります。

　団地再生機構のエージェントの方だったり、タウン誌の記者さんだったり、新聞屋さん、お弁当屋さんや退職された方々など、来られると大体小半時くらいは、よもやま話をしていかれます。

　今日は、目の前の通りに車を止めて道を聞いてこられた方が、折り返してきて立ち寄って行かれました。

　聞かれたのは近くにある「うさぎ専門店」の場所でした。
珍しいお店なので、飼っているウサギのトリミングにわざわざ高津区から来られたとか。

　で、その方がスマホの中にとってある「うさちゃん」の写真を見せるからと（ウサギはトリミングでお店に預けてあったので）スマホを取り出し、その写真を探し始めたまではよかったのですが、何を思われたのか、突然電話をし始め、きくともなく聞いているとなんと「借金の取り立て」だったのです。

　スマホを握っている手元を見ると約一本指がありません。
「えっ、なんやの？何話してはるの？えっ、こんな話聞いとって、ええのん？ヤバないの？」

　兎に角世の中にはいろんな方がいらっしゃいます。

　しかし、そうした方々に門戸を開放して、得になるのか損になるのかわかりもしない話を

聞いて楽しむ。
　自分は本来、そういうことをしたかっただけなのかもしれないのかなぁ？と、ふと思いました。
　でなければ、ろくすっぽお客さんも来ない開店休業状態がもう１年半も続いていて、丸々大損もいいとこの、こんなお店を続けられるわけがありませんし。
多分自分は、この「ナマステ別館」堂の主人役が、大層、気に入っているのだろうなぁと思いました。

二〇二〇年一月

　当日記は二〇二〇年壱月元旦よりはじまります。それは、まだコロナ禍に見舞われる前のことでした。

2020/1/1

（英語教育に関する文科省への提言）

萩生田 文部科学大臣 様
いきなりの書簡、不躾だとは存じますが。
以下ご拝読いただければ幸甚でございます。

日本人は何故、長期間の教育にも拘らず英語が喋れないのか？
答えはひとつ。
「話す中身がないから」です。
何故ないのか？
「話す中身を作るだけの経験数が少ないから」です。
何故少ないのか？
「一度でも失敗したら、すべて終わり」という風土が、経験へのチャレンジ回数を大幅に抑制してしまうからです。
これは同様に、今回から始まる小学校英語教育において生徒のみならず「現場教員」にとっても同様に作用し、教そわる側だけでなく「教える側」をも恐怖のどん底へ陥れてしまいます。
「失敗は許されない。失敗したらどうしよう？」と。
そもそも、語法、文法が一点非の打ちどころがない「中身のないつまらない話」ほど、聞く側にとって嫌味なものはありません。
外国人もそれがつまらない話なら当然「話が弾み」ませんから、次回から話に来なくなってしまいます。
話が面白ければ、文法等はあまり気にしないのが外国人です。
ですから、まず「失敗を許さない縛り」を解く教育法に変えるのが第一義でしょう。
経験を積めば、話したいことがたくさんできます。どうしても伝えたい相手が外国人であれば、その人は文法より、まず伝える手段そのものから考え始めるでしょう。
何としても伝えたいんですから。
数字や図表、イラスト、絵、ジェスチャーやハグ、踊りやパントマイム、歌やボディーラン

ゲージ等などいろいろあることに気づき、その中の一つとして語学があるに過ぎないことを認識するでしょう。
すると、視野が広がってすそ野が拡がった分、語学で失敗してもセーフティーネットが貼られているので、安心して失敗をおかすことができるようになります。
これは経験が生む自信とバリエーション、即ち持ち駒（手持ちカード）の増加によるかさ上げ効果で語学が自然と上達することにもなります。
ですから、もし英語教育を実のあるものにしたいのなら、遠回りになるように見えますが、最大の近道（ショートカットウェイ）は「失敗こそ成長の源」そのための経験をどんどんすることに価値があるのだという風土を作ることが最優先されるのではないでしょうか？
従来の考えに従った英語教育の早期化、時間の延長はそれこそ「拷問時間の延長」以外の何物でもありません。
こうした提案は、ともすると既存受験産業の利権構造を脅かすことになるであろうことは、想像に難くはないのですが、この際「創造的破壊」をしないと、我が国国民は世界から完全に取り残されることになると老婆心ながら、心底より危惧して居る次第であります。

（以上　本文）

（追記）
上記記事は、2019/12/20 に自分（自店）のフェイスブックのページ・サイトに掲載いたしましたものでございます。
自分はネパールカリーレストランの店主でございます。２年ほど前から横浜市青葉区にて、国籍の異なる外国人従業員を３名雇い、店を始めました。
それまでは英語はほとんどしゃべれませんでしたが、上記のような経緯で今はだいぶんしゃべれるようになっております。当年とって６６歳となりました。
ご参考方々お手紙申上げました。

2020/1/1-2

（英語教育に関する文科省への提言　その２）

何も難しい話から入る必要はありません。一点非の打ちどころのない完璧な話から入ろうとすると、何も話せなくなってしまいます。完成までにあまりにも時間がかかるからです。いや、完成したと思える頃には話のタイミングを失していることになります。
生活レベルの話から入ればいいのではないでしょうか？
それなら難しい単語は必要ありません。ジェスチャーや表情も盛り込みやすいし、適宜話の役に立ちます。
何より皆さんが興味を抱きます。興味を抱くので入りやすいのです。
確かにもう少し込み入った話になると、それ相応の語学力がいります。
例えば生活レベルの話で「怒った」「笑った」「泣いた」「喜んだ」「がっかりした」などの次に、ではなぜそう感じたり思ったりしたのかという段になると話がいささか込み入ってきて上記でいうところの「それ相応の語学力」がいることになります。
しかし「適切な」何故そう感じるのか、そう思うのかの答えを得る前段で、その人の空間の移動の仕方やら、その人の過去の大まかな歴史を知ることで、ある程度、その「何故？」の答えを類推することはできます。非常に簡単な単語と文法で。
ここで一番大切なのは、そう手間暇かけてまでしたいと思う「相手に対する興味、関心」を抱くことだと思います。
この「隣の人は何する人ぞ？」が今の人たちに一番欠けていることのような気がします。
「人は人。自分は自分。相手の領分をおかさない代わりに自分の領分もおかさないでくれ」と一見聞こえのいい正論にも聞こえますが、その実「相手を無視し、自分勝手に凝り固まっているだけ」のような気もします。
左から右に向けて半弧を描き、右から左に向けて半弧を描いても、重なる部分がないと、まじりあう部分が産まれません。又その間を落下物（危機や危険、問題）が通っても、引っかかることなく、そのまま下に落ちてしまいます。人が大勢いてもセーフティーネットにならないのです。そうして一番の問題は弧と弧に閉じこもって交わりがないので、気づかぬうちに本人たちの「孤立」や「孤独」を産んでしまうのです。
要するに現在の我が国の英語教育は「コミュニケーション障害製造装置」でしかないのではないでしょうか？
（続きあり）
（前からの続き）
2019/12/30-2
（英語教育に関する文科省への提言　その２）
昔「エロ本」を禁じられれば禁じられるほど「見たくなった」ものです。もし「いくらでも見ていいぞ」と言われれば、そんなに見たくならなかったかもしれません。

だとすれば、受験英語に端を発した「厳密な採点」を止めるとか、英語を逆に主要三教科から外すとかして逆に締め付けを止めて「緩めた」方が、余程皆さんの英語能力は上がるのではないでしょうか。高すぎる最初のバーをうんと低くするのです。
「誰でも入りやすいように、策の高さを低くする」
そもそも外国人にとって日本人が英語を話すか話さないかは、その人の「インテリジェンス」の問題でも「ステータス」の問題でもありませんし、そういった評価もかられは全くしておりません。
彼らが、思うのは、単に「あ、この人英語話す。助かる〜」くらいのものなのです。
「Oh, you are English speaker!! So helpful」
その点をわが国国民各位は完全に思い違いしているような気がしてなりません。
「I can speak English. I`m a person in High-Society class. Don`t you get a surprise?」
そんなことはだれもおもわないのです。外国の方は。
まずその認識から変える教育を始めてはいかがでしょうか？

2020/1/1

（在日就労外国人に対する日本語教育関する文科省への提言）

英語の文字数はアルファベット２６文字。フランス語、ドイツ語、ロシア語等の文字数も似たり寄ったりです。
ところが我が国の日本語は、カタカナ５０文字、ひらがな５０文字、当用漢字２０００文字超。
それに音訓読みもあります。
となると「一体いくつ文字を覚えれば日本語のスタートポイントに立てるのよ？」と外国人は途方に暮れてしまうわけです。
それに加えて、尊敬語、丁寧語、謙譲語など、もう完全にパニックになってしまうわけです。
外国人はこの複雑極まりない日本語を難なく話しているそのことだけで「日本人はすごい」と思っているようです。
殆どの日本人は、この事実に気づいておりません。
一方において外国人が自分の国以外に行った折に唯一頼りにする言語である「英語」を日本人のほとんどが喋れないという事実もあります。
このわが国民の日本語の複雑さと特異性に対する認識の欠如と世界公用語である英語がほとんど通じないという事実が、在日就労外国人の生活の不便さ、精神的孤立、就労のチャンス喪失のもとのひとつになっているような気がします。
我が国以外で文字数の多い言語といえば中国語の漢字があげられます。日本語表記の母体となった言語です。
その中国においては、どのようにこの文字数が多いという難題を処理しているかといえば、大まかに言ってアルファベット表記をしております。
例えば你好（ニイハオ）は nihao（発音表記は異なります）となります。
であるならば、我が国もひらがな、カタカナ、漢字を無理やり覚えることを第一義とするより、このアルファベット表記（いわゆる我々が言うところのローマ字表記）を主体にした学習法を採用してはどうでしょうか？
勿論、公衆面での看板表記やニューステロップなども併せて。
これで外国人、日本人がローマ字表記でセンターラインに歩み寄れる可能性が産まれます。
そもそも、漢字はともかくひらがなとカタカナだけでもいいよとますが、例えばテレビニュースでひらがなカタカナだけのニュースステロップがありますでしょうか？必ず漢字との混合表記になったおりますでしょう？
なので、外国人は文の中に、一体いくつまで覚えればいいのかすらわからない漢字が混ざったとたん、その時点で読解を諦めてしまうのです。

ですが、耳のいい彼らは、ローマ字表記なら、聞いた音とローマ字表記を容易に結びつけることが可能になります。
この辺の実情を勘案の上、在日就労外国人に対する日本語教育の在り方を、日本人に対する英語教育の在り方と併せて（既提出「英語教育に関する文科省への提言」及び「英語教育に関する文科省への提言 その２」）ご検討戴ければ幸いに存じます。

2020/1/1

萩生田文部科学大臣様

上記ご査収の上、ご検討のほど、よろしくお願い申し上げます。

2020/1/1

（推敲）

自分は書き物作業を一日おおよそ６時間します。
なんでそんなに時間がかかるのか不思議に思っていたので、時間の内訳を思い起こしてみたところ、着想と思いのたけを書くのは１時間余りと少なく、却って推敲にその大半を費やしていることが分かりました。
着想と思いのたけを書きなぐるのは意外とホイホイなのですが、推敲となると一転して、遅々として進まない。
で、よくよく考えてみたら、何のことはない「推敲」というのは、自分の一方的な思いのたけを相手の立場に立ってみながら「どうやったら伝わるか、分かってもらえるか？」の作業に他ならないことが分かってきました。
思いのたけを言うのは「簡単」しかし分かってもらうとなると、これはもう「大変」
昔、小学校の国語の時間に推敲の大切さ（その当時は「一旦書いても、何度も読み返して見直しなさいよ」という言い方でした）を縷々教わりましたが、６０年近くたって、その意味がやっと分かりました。
やはり、小中の教育（基礎のインプット）は大切なのだと改めて痛感致しております。

2020/1/2

（いや〜な予感の胸騒ぎ）

差別化、差異化の究極は「孤立」になってしまう可能性が高いです。
だって、共通する部分がないんですから。
共通する部分が根底にあっての差別化、差異化なら、それは「特徴」になります。
最近、この差別化、差異化を偏重するあまり、根底にある共通部分が軽んじられ、ともすると人々が知らないうちに「孤立、断絶、そして孤絶」に陥っていないでしょうか？
共通部分がないので連絡の取りようがない。つまりコミュニケーションルートがなくなっているのではないか？と。
AI やデータサイエンスを駆使した「完全に個々人にジャストフィットした商品、サービス」の行き着く先は、ひょっとしたら「自分にだけわかる商品、サービス」「自分にとってだけ都合のいい商品、サービス」になってしまい、隣の人には「何のことかわからない」ものになって、会話が通じない、口出しもできない「絶対孤絶の世界」しかもたらさないのではないか？
最近、ふとそんな感想を抱きました。
とにかく、総じて感じるのは「何かが変」だということ。
何が変なのかは明確にはとらえられないのですが、いや〜な予感がして胸騒ぎを覚えることが多くなっております。
近ごろ、とみに。
惜しむらくは、妄想たくましい自分の、杞憂であることを願います。

2020/1/2-2

（新版「見ざる聞かざる言わざる」絵巻）

本当にセクハラや虐待を受けている「おんなこども」さんらは、当然のことながら別として、「おんなこども」というだけで、その尻馬に乗り「権利や立場」を乱用している方々が多々いらっしゃるような気がします。自分の観察したところによれば。
今や「おんなこども」の権力は絶大なものになっているにもかかわらず、更には「影の実効支配者」でありながら「弱者」というプラカードを掲げてやりたい放題を決め込んでいる。
一体なぜこのようなことが起こったのか？
今一つまた別の観察によると。
バスに乗っている折、社内で大きな音がしようが、車窓外でおそろいの帽子をかぶった保育園児たちの可愛らしい列が見えようが、とにかく何も聞こえなかった、何も見なかったがごとくに、ひたすら姿勢を崩さず、反応を示さずにいる人たちによく出くわします。
大きな音も聞こえているはずですし、車窓外の風景も見えているはずです。
恐らくなにかは感じているはずです。驚きや微笑ましさなんかを。
だのに、それを一向に外に出さない。或いは出せない。
誰も出してはいけないとは、一言も言っていないのに。
しかし、強力かつ強大な暗黙の不文律が存在しているのを感じます。
「喜怒哀楽を素直に出したとたん、村八分」というような。
そうしてもう一つの観察。
で、あるにもかかわらず、そこここに見え隠れするのは「かまってほし気な、気づきなさいよ」の仕草。
何も表に出さない。なんの反応も示さない。いや反応を押し隠している。
だのに、
「それを乗り越えて私の（俺の）本心を察し、あんたは私に（俺に）手を差し伸べるべきだ。なぜそれに気づかない？なぜそれをしない？」
「しないのなら、私は（俺は）拗ねてやる。気づくまで拗ねまくって、意地悪してやる」
という強烈な脅しともとれる「hidden and shadow message の渦」
それが若い子ならわかります。しかし、比率から言うと圧倒的に６０代以上の年配の比率が高いのです。自分の観察によれば。男も女も。
自分が子供の頃（６０年前）のバスの車内は、とても賑やかでした。その時代の大人たちはおしゃべりでした。記憶によれば。
だとしたら、いつから変わってしまったのか？
（続きあり）

（前からの続き）
2020/1/2-2

（新版「見ざる聞かざる言わざる」絵巻）

いろんな観点から逆算すると、そのターニングポイントは恐らく１９４５年、昭和２０年、第二次世界大戦、日本では太平洋戦争の終結の翌日からではないでしょうか。
それまで、無茶ぶりをしてきた男の地位が下がり、その反動で、無茶ぶりをされ続けてきた「おんなこども」の地位が相対的に上がることになった日。
これで、男女、大人子供イーブンイコールの対等になれば、何の問題も起こらなかったのでしょうが、失われたそれまでの抑圧分を一気に取り戻せ、とばかりに「おんなこども」に必要以上の権利権限が移ることになったのでは？
特に、頭がまだ柔らかい「こどもの男の子、女の子」に。
当時の大人の男性は、それまでの無茶ぶりから、それに対しておいそれと、正面切ってはモノを言えない状況だったことは想像に難くありません。
当時の子供側にしてみれば、ある日を境に突然、親や周りから「上座に置かれ、ちやほやされだした」のではないかと。
「こんなおいしい話はない。自分が敢えて何かを言わなくても、周りがあれこれ察して上げ膳据え膳してくれる」
「おんなこどもは正しい。おとな、特に男の大人は、横暴な抑圧者だ」
そうして今回最後の観察事例。
スーパーでの買い物風景。
６０代以上の夫婦の姿。
奥さんが先頭を切って歩き、選んだ品物を商品棚から取ると、後ろに付き従った旦那さんのかごにポンポン投げ入れる。
その後ろに付き従った旦那さんの顔に張り付いた「恐怖の表情」
前を歩いているのは「奥さん」ではなく「殺生与奪の権限を持った気難しい上司」であるかのような「恐怖の表情」
大人より子供が上座になり、男より女が上座に位置する世界。
何故、対等にならなかったのか？これでは上座の主が変わっただけの話でしかないような。
対等平等とは程遠い世界。しかもそのことを面と向かっては公言にできない世界。
それをしたとたん村八分にされてしまう恐怖。
何も見えなかった。何も聞こえなかった。だから何も言わない。怖くて言えない。
全国民「見ざる聞かざる言わざる」状態の世界にいるような気がしないでもありません。

2020/1/3

（日本人が自信を持てない理由は？）

多くの日本人の方が、諸外国の人たちと比べて自信がない理由は？
自分の最高価値基準が「背後から忍び寄る他人の目線」にあるからではないでしょうか？
背後からですから姿は見えないし、他人ですからしょっちゅう入れ替わるし、心変わりもします。不安定極まりないし、全く読み切れない。
そんなものに自分の最高価値基準を置いていれば、自信など持てようはずがありません。
それらの多数多様な目線から一括して「自分に対する最高評価を得よう」などというのは妄想以外の何物でもないような気がします。
そんな難易度の高い高等技術を使わなくても、自分の最高価値基準を自分の中に持てば、それは自分自身がコントロールできる範囲の中なので、それよりは遥かに容易に自信が持てるようになるはずです。
訳の分からない他人の目線に怯えて逃げ腰で暮らすより、多少鉄砲玉に当たることになっても、踵を返して、堂々と自分の考えなり、態度を前に出すことの方が、より確率的に高く「活き活きとした暮らし」ができるのではないでしょうか。
自分の考えなり、態度の表明を信じることができる。
その「自分を信じられる」を略して「自信」と呼ぶのではないでしょうか。
繰り返し申し上げますが、背後から忍び寄る他人の目線に殺生与奪の全権限を与え、自らはその奴隷となっている限り、自信など、到底やって来ようがないような気がいたします。

2020/1/5

（本日のささやかな発見）

生きている限り問題は常に存在しているようです。
例え「成功したその瞬間」においても。
成功の喜びが、その瞬間にも存在する問題を覆い隠しているだけでしょう。
それは、常に生まれ続ける問題の存在を単に「見失っただけ」にすぎないのかもしれません。
だから「失敗は成功の基」が、まさに成功のその瞬間から、同時に「成功は失敗の元」にもなるのではないでしょうか。
問題がない日はないのではないでしょうか。問題がなくなった、解決した、のは「その」問題がそうなっただけで、問題そのものは、実は他にも「常に」あるのだと思います。
「問題だらけ」を、無意識に「問題 100」と感じ「問題を解決した」を無意識に「問題０」と感じたりするから間違えるような気がします。
「問題だらけ」は問題 100 と認識し「問題を解決した」は、「その問題」を解決しただけにしかすぎないので「問題解決１、未解決９９」とでも認識した方がいいような気がします。
完全無欠、完璧至極の１００というのは、明らかに変です。また皆無の０というのもこれまた妙です。
完全の１００や皆無の０、即ち純粋培養志向が生み出す考えには、何か嘘があるような気がしてなりません。
明らかに何かが一方に偏っているのです。アンバランスなのです。
この偏りやアンバランスを戒める考え方を中国の故事では「中庸」というそうです。
「常に偏りに注意し、警戒を怠らぬこと」
「中庸」とは世にいう「ほどほど、まあまあ、そこいらへんでいいんじゃない？」という曖昧にしてなぁなぁの意味とは全く異なっているのを知って、驚きました。
本日のささやかな発見でございました。

2020/1/9-2

(リタ・ヘイワーズ)

「徹夜のてっちゃん」明けに、朝風呂につかっていたら、ふと、往年のアメリカ人歌手だか女優だか忘れましたが、リタ・ヘイワーズさんという名前を思い出しました。
その英名に何故か突然
「利他、平和図」
と当てはめてみたら、案外そんなところにヒントがあるのかもしれないなと思いました。
ま、どうでもいいようなつまらないダジャレの話でしたが、なんでこんなダジャレを思いついたかというと、日経の新年特集記事で「逆流する資本主義」というのを斜め読みしていた折、日立とどこかの大学のＡＩ研究チームが「今後持続可能な社会」のためのキーワードとして「利他」と「道徳性」を挙げていたのを目にしたからです。
最近各国の指導者たちの「無茶ぶり」や巨大ＩＴ企業群の「荒稼ぎしっ放し」ぶりに辟易し、もっと違ったライフスタイルはないかと模索を始めた人たちがいることを同記事で知り「あぁ、よかった」とも思い、ならばどうやればそちらの世界に変えられるのかの方向性も科学的に示唆していただいたために、そんな連想がダジャレになったのかなと思いました。
落としネタをばらしたところで、
さて、今日も一日、次の世代にバトンを引く次ぐために頑張ることに致しましょうかね。

2020/1/10

(英語教育に関する文科省への提言　その３ 修正版)

「ひらがな、カタカナ各５０文字。漢字が２０００文字超。おまけに音訓読みに謙譲語、丁寧語、尊敬語まで合わせると一体いくつあるのか想像もつかないような日本語を、話し、書き、読めるだけでも日本人は、スゴイ！！おまけにあの技術力と震災時にも、配給の順番を待つ礼儀正しさ」
とわが国民の計り知れぬ能力に驚嘆の意を隠そうともしない在日外国人さんから見ると
「なんで、英語みたいに２６文字しかない簡単な言葉をしゃべれないのか？しかも中学３年間も習っているのに。高校まで入れると６年間もならっているし、大学まで含めると１０年間も勉強しているのに、なんで？」
と疑問を抱くのも当然と言えば当然でしょう。
で、在日外国人さんが思いついたのが
「英語が嫌いなのよ」とか
「フランス人と一緒で、日本語だけが格式の高い言語で、英語みたいにお粗末な言語なんかしゃべりたくないというプライドからだろう」
等々、勝手な想像をしているようです。
中には「外国人が嫌いだから」とか、話しかけるとそそくさと逃げ出すのを見て「多分、対人恐怖症の国民性かもしれない」と心理学を持ち出す人まで現れる始末。
しかし、どの説をとってみても、どうも今一つピンときていない様子。
思うに、これは日本人だけが気づいていない事柄で、むしろ外国人さんがおぼろげながらも、うっすらと感じているように「これは日本人の能力に由来する問題では全くない」というのが、話せない原因の糸口を見つけるのに有効な手懸りになると思っております。
ところが我が国の英語教育では、それとは裏腹に「能力」アップにのみ教育のポイントが集まり、逆にそれがますます話せない原因を生み出しているような気がしてなりません。
簡単に言うと「余りに初っ端から、とっかかりのレベルを上げすぎ、且つ正解は一つしかないと思い込ませ、更にはそれを一点間違うことなく、制限時間内に、しかもあろうことか「美的であるように解を出させよう」と絶望的無理難題をこれが世界標準とばかりに押し付けるあまり、それが強迫観念（或いは脅迫観念)、平たく言えば「恐怖」を巻き起こさせ「最初の一言を話そうにも、そもそもの、第一声が出なくなっている」だけなのではないかと。
（続きあり）
（前記事の続き）
2020/1/10
(英語教育に関する文科省への提言　その３ 修正版)
　一方、英語は、単にコミュニケーションのための「道具」にしか過ぎないので、前回、その２の記事で申し上げたような、ステータスやインテリジェンス、はたまた格式など、あろ

うはずがありません。
缶を開けるのに缶切りがいる。缶切りにステータスがありますでしょうか？
水を飲むのにコップを使う。コップにインテリジェンスの象徴を見ることがありますでしょうか？
そもそも、英語は道具でしかなく、しかもほとんど日用品に近いものなので、コミュニケーションをとる道具として、いくらでも代用が利きます。数字や図表や絵やジェスチャーなどで。
「唯一の解」や「美的格式」など、どこにもありはしませんし、あると却って邪魔になるだけです。
わが国民は、どうしてこの「いつも身の回りにあって、あまり気に留めることもなく毎日使う日用品」に、こうもいろんな重たいものをごてごてと背負わせてしまったのでしょう。
まさか「缶を開けるだけの缶切りに畏敬と畏怖を感じ、腫れ物にでも触るかのように恐る恐る接し」ていようとは、夢にもおもっていない在日外国人さん達に、この「恐怖の存在」は到底理解してもらえません。
「What? What? What? Why? Why? Why?」
学習者全員に一貫して、初っ端から外交的国際会議レベルの英語を強要するのは、「学習阻害要因」即ち「障壁」をどんどん高くしているようなものです。
却って逆効果です。
この思いもよらぬ阻害原因を省くためには、英語を「自分の手垢でまみれさせる」やり方が一番なのではないかと自分は考えております。
「たくさん失敗してぐちゃぐちゃになるまでやってごらん。かっこは気にしなくていいからね」
くらいでいいのではないかと。

2020/1/11

（英語教育に関する文科省への提言 その４）

なぜ日本人は英語が喋れないのか。
その、原因らしきものとして、なぜ英語にこうも全人格、全人生の評価を下すような重々しいものをゴテゴテと貼り付けてしまったのか、を突き詰めて考えていくと
唐突に思われるかもしれませんが「恥をかきたくない」の「恥」という言葉に行き当たりました。
で、日本人がここでいう「恥」とはそもそも何なのかをあれこれ考えてみたところ、突然ですが日本人にとっての「恥」とは「強すぎる美意識（美学）の裏返し」ではなかろうか？という自分なりの答えが出てきました。
要求される美意識（或いは美学）を達成できなかった時に抱く屈辱感（みっともなさ）、それが「恥」の感情ではないか？と。
では、我々日本人にとっての美意識（美学）とは何なのか？どこからやって来たのか？
それを紐解く前にひとつ。
実は自分は中学生の頃、剣道部に所属しておりました。
その折の型の稽古やら姿勢の取り方、立ち居振る舞いの仕方などの体験やその後の観察を含めた考察等から、
「そういえば、我が国には剣道はじめ、空手道、柔道、合気道、弓道、長刀術、茶道、華道、香道等やたらと「道」がある。他にも道とは言わないが、俳句、和歌、歌舞伎、文楽、文様、式典、工芸品、書式、美食と食事作法、そして極めつけは切腹、介錯、辞世の句を含めた武士道と世界を驚嘆させた精緻な言語」
で、これらは一体何なのか？といえば、一言
「型」もう少し借りやすく言えば「様式美」ばかりではないか！！
考えてみれば、我が国は万世一系、ほぼ２０００年にわたり同じ国が続いている。しかも単一民族（厳密には違いますが）で、単一言語の島国。
そう、このような環境の中で美学が育たないわけがない。美意識が洗練を通り越して、微に入り際にわたって先鋭化されないわけがない。
　ここまできて、また別の視点から観察をしてみました。
我が国国民は他人の目を非常に気にする。どう見えているか？どう見られているかを非常に気にする国民性。
場合によっては、自分の最高価値判断、価値基準が自分ではなく「他人の目線の上」にある。
まず、これでは不自由極まりないし、他人の目線に軸があるわけだから、自らの中に存在するはずの「自信」が産まれるわけがない。
　その伝でいえば、外人と話している折、気になっているのは言葉の通じない目の前の外国人ではなく、むしろ背後からこっそりと「評価選別」しているわが同朋の日本人の目線の方

がはるかに「会話を阻む致命的原因」なのではないか？
その論拠として、日本人は日本人のいない山道で外国人に道を訊かれたら、言葉の不自由なのも忘れて、それこそ親切に、あらん限りの方法で道を教える場合が多々ある。
　で、以上の２点を突き合せた結果、
「このわが同朋であり、且つ外人よりも他人な,その「他人の目線の正体」とは、いったい何なのか？といえば、相互術縛する、あまりにも高すぎる様式美への美的完成度への要求ではないのか？
「一にして完」「一転非の打ちどころなく」「疎そう無きよう」「完全無欠の様式美」を瞬間に果たせという目に見えぬ強大な圧力がその正体なのでは？」
　さらにその根底には、無意識にも自らを「歌舞伎の晴れ舞台で、大見得を切る千両役者」に常日頃見立てている心情。
　内なる要求レベルも外からの要求レベルも極めて高い、ほぼオリンピックの会場にでも立っているかのような緊張状態では、リラックスして英語など話せよう筈がない。英語どころか日常生活すらスムースに過ごせるわけがない」
　ところが、ここでまた一転。
　しかし、上述の話において、この緊張感に、ある時代までは、我が国国民は耐える力がありました。簡単に言うと、その要求される美学を研鑽によって、保ってきたのです。後者の「自らが歌舞伎役者になる欲求」よりも「求められる美的態度」を優先させて。
　ですが、ある時からこの優先順位の前後が変わってしまったようです。
即ち、歌舞伎役者への欲求の方を優先させるようになったのです。
それによって、何が起こったかといえば、その内外（うちそと）で重苦しい過重圧となっている「型を打ち破る」わけでもなく（「まずは、型から」と、型から入り、型から作り始める国民にとって、型の外に出るのが第一義である起業において、その数とレベルで小粒なのは当然と言えば当然です)、中身である研鑽をするのも厭うて、結果、苦肉の策として行ったのが「手抜きして、外の型だけつくる（或いは繕う)」ようになったのです。
簡単な言葉でいうと「見せ掛け」「カッコつけ」「虚勢やこけおどし」をするようになってしまったのです。
それこそ「型」だけ残しての変質。つまり形骸化。
その端的な例が礼儀作法（マナー）の伴わない「美容」或いは真偽のほども確かめないまま連呼される広告表現上の「匠の技」「の達人」「巨匠」「カリスマ」などの言葉の粗製乱造乱発。
ある意味、美容界、広告業界は無意識にも、我が国国民感情を十分にとらえているのかもしれません。
　教育界も同様でしょう。まず型から入っています。しかも実際に喋れるかどうかよりも、「大学名」「資格（ＴＯＥＩＣ,ＴＯＥＦＬ等)」等、型を取ることを優先しています。
（「提言　その５」で後述いたしますが、英語は「型優先の言語」ではなく、基本的に「ア

ドリブ言語」なので、そういった評価の仕方そのものが誤判断のもとでしょう）
そして何よりもまず、その美学を満たすための禁止事項過多、美学を満たすための要求事項が高すぎるか多岐にわたりすぎているようです。
これでは我が国国民である子供達を、同じ大人の我が国国民である「官民諸氏」が総力を挙げて「鎖国したガラパゴス島」の中に封じ込めることをしているような気がしてなりません。

2020/1/15

（起業の理念らしきもの?）

今から６，７年ほど前、ある記事で「ザッポス」というアメリカのインターネット通販会社の記事を目にしました。
確か、靴か何かの通販会社で、業績を伸ばしているというのですが、その伸ばした理由に感銘を受けました。
曰く
「靴に関する問い合わせを受けるだけでなく、例えばおばちゃんが公共の手続きがうまくできなんだけど、どうしたらいいだろうねぇ？と困り加減で漏らしたところ、懇切丁寧にその方法を伝えたらしいのですが、その後もどんな問い合わせにも、このようにこの会社は答えることを続けたそうです」
確かに、靴の通販販売という観点から見れば極めて効率の悪いビジネス運営方法なのですが、とにかく
「こんなやり方もあるんだ。しかも一見非効率に見えるこんなやり方で、どうやって利益を確保しているのかわからないが、とにかく業績をのばしている」
「自分は、こういうことをやりたい」
で、今の会社をスタートしたのですが、なかなかその「どうゆうやり方」が見えてこない。
もう６年もたったのに…
まぁ、それはともかく、このとき思ったのは
インターネット通販ということで「インターネット」で「アタマ」には「情報」が届く。
「手（身体)」には靴という「モノ」が届く。
しかし今の世の中「こころ」にだけはまだなにも届いていないことが多い。そのアンバランスが「物足りなさ」や「寂しさ」や「いら立ち」を産んでいるような気がする。
だから、これからは「アタマ」と「手（身体)」以外にも「こころ」にも何かを届けることをしないとだめだろう、と。
しかし、６年たった今もそれを見つけることができておりません。いやある程度見つけてはいるけれど、食べていくだけの利益を得るところまですら、行っておりません。
まさに、不明、不徳の致すところだと、痛感しております。
会社が潰れる前に、必ずや見つけたいと思っております。

2020/1/15-2

（「桜」を通しての語学論考）

我が国国花であり、我が国の文化を象徴する花「桜」
「桜のようにパッと咲いてパッと散る。後腐れなしで一回限りの潔さが我が国国民の「美学の根幹」
武士道の基、葉隠れの一説によれば「武士道とは死ぬこととみつけけり」とか「立つ鳥跡を濁さず」の諺もそれを示しているような。
要するに端的に言えば「死んだら最後、後はなし。良くも悪くも後はゼロ、を受容する「潔さ」
曰く「文句は言わぬ。これにておしまい。それでよし!!」の美学。
もし、この美学が我が国思考の根幹であるなら
外国人には、失敗したら何度でもやり直せばいいという「粘り強さ」(never give up の精神)としてプラスに映るものが、逆に日本人には「しつこさ、くどさ」や「あきらめの悪い未練がましさ」としてマイナスに映り、逆に日本人には、未練がましくない「潔さ」として重用されるものが、外国人には「疎遠さ、物足りなさ」として映つる場合もあるようです。
また、桜が示すモチーフとはいささか角度が異なりますが、外国人にとっては「思ったことを素直にはっきり（明確に）いうこと」を利点として考えるのに対して、日本人は、それを「慎みのなさ、強引且つ横暴な粗野さ」として苦手意識を持つ傾向もあるようです。
もともとは全く同じ様態なのですが、捉え方がまるで逆になっているようなのです。
その上記２視点を、語学の面に当てはめてみると、我々には「日本語は語彙豊富で切れ味（的確さ）が良い精緻で繊細な言葉」として「的確優美」に映る同じものが、外国人には、我々が的確さを求めるあまり語彙や語学体系が膨大過ぎて「やたらと複雑で、なんでそこまで細分化するのといった過剰過多な言葉」として「迷路的不可解」に映ったりする「行き違い」のもとになっているのかもしれません。
やはり相互理解の初めは、この「同じものが相手にとっては全く別物である可能性がる」という認識に立って、相手の感じ方、考え方に興味を持つことが何より大切なのかもしれません。
仮にうまく理解できなくても、お互い相手の理解しようとしている努力だけはわかるはずです。
だって、同じ人の子同士ですから。

2020/1/15-3

（グローバル化の「グローブ」とは元々は「地球」の意味です）

ビジネスのグローバル化（Globalization）
このグローバル（Global）の語幹であるグローブ（globe）は、元々は「地球」を表す言葉（英単語）です。
言い換えるなら国と国の境、即ち国家、国境を越えてビジネスを行おう（平たく言えばボーダーレス borderless）ということでした。
というのも、国の制度や考え方の違いがビジネスの流れを妨げていた（障壁となっていた）からです。
では、その障壁の撤回を求めてグローバル化の進展を唱えたのは誰か？国家をも超えてその流れのスムースさを求めたのは、一体誰だったか？
それは「グローバル企業（巨大金融企業と新興ＩＴ企業（後のＧＡＦＡ等）」（ＢＡＴＨはこの時点ではちょっと異なるので外しました）でした。企業がビジネスを進めるうえで国（或いは国家）すら邪魔になってしまった。だからその障壁を取り除きたい。で生まれたのが「グローバル化とグローバル企業」
この「グローバル化」は、その語感からして、当初は、皆から、一見いいことのように見られましたが、結果は逆にグローバル企業が「巨大化した」（或いはもともと巨大であった）為に、ボーダー（境＝国家、国民、民族、文化）を超えての中央制御（センターコントロール）が始まり、結果、租税回避や特定企業及び特定組織のみへの富の集中しか生まなくなってしまいました。
景気指数や株価は極めて良好なのに、生活実感が少しもよくならないのは、この金融やＩＴという在庫を持たない非常に限られた企業業績が数値の上でのみ景気指数を押し上げる一方、その恩恵に浴さない多くの在庫を持つ企業の収益はむしろ奪われ、結果それらの企業の従業員給与が少しも上がらないからです。
一方、我々「庶民レベル」での「グローバル化」への本当の期待は、このボーダーレスによるモノや文化や考え方の自由な流れが「我々庶民」に富をもたらすことや、最近スウェーデンの何とかいうお嬢さんが国連や国際社会に訴えたように「地球をビジネスフィールドとして捉えるのではなく、我々が住む共通土台（プラットフォーム）としてまずは考えるべきだ（そのため地球温暖化を断固阻止する）」ということだと思います。そういう意味でのボーダーレスやグローバル化です。
ところが、先述のことから前者と後者を混同した人々が、本来後者のようないい側面もあるはずのグローバル化を十把一からげに目の敵にし、その反動で保護貿易はじめ極端な「ナショナリズム（国家主義、民族主義）」に走っているような気がします。

なぜならそれは、グローバル化が少しも「庶民の生活」を潤わさなかったからでしょう。
いや却ってそれまでよりも彼らの生活を貧しくしてしまい、巨大金融企業や巨大ＩＴ企業、その中でも特徴的なのはＡＩ関連の初任給においては初任給うん千万円で雇われるような従業員」との生活との間に、それこそ「貧富、情報、格付け、未来すら含めた格差」が生じてしまったからです。
しかし今、だからこそ、今一度冷静になってものを考える必要を感じます。
グローバル化を十把一からげにしてはいけない。
ちゃんと「丁寧かつ具体的に根本にさかのぼって」整理し、きちんと分けて、後者のグローバル化、即ち「地球をビジネスフィールドとして捉える前に人間はじめ生物の住む、ＧＡＦＡ等の IT プラットホームとは比べ物にならないほど、桁違いに大きな、共通プラットフォームなのだ」という認識の共有こそ大切なのだ」という視点に従ったグローバル化を、それこそ地球規模で「世界をあげて共に」探さなくてはならないターニングポイント（転換点）に差し掛かっているのではないでしょうか？

2020/1/16

（手本なき世界の憂鬱）

端的に申し上げて、今の世の中、手本がないような気がします。
「こういう風になりたい」「ああなれればいいな」という。
そういった手本がないために、型から入るわが国民は、それを見習っての「型」や「形」が作れない、か、積み上げられないのではないかと思い始めました。
作っても壊れ、作っても壊れで、丁度「シーシュポスの神話」のような状態になっているのではないかとすら思っています。
積んでも、積んでも転がり落ちる小石。まるで積みあがっていかない絶望感。
漕いでも、漕いでも、その力が歯車に伝わって行かず「漕ぐ」という前向きな力が「力む」という後ろ向きの力にしかならない焦りと苛立ち。
結果、その絶望感や徒労感が焦りや苛立ちに煽られて、いつの間にか自己防衛本能が生み出す「恐怖」へと変わり、その変質が今度は形を成すべき「型」を「殻」に変えてしまう。
しかもかなり強固な殻へと。
そしてわが国民の多くの人々が、日に日に厚みを増すその殻の中で、外気にも触れず、外との交流もなく「静かに窒息」する。
最近そんな暗いイメージに取り憑かれております。
なんかとてもさみしく悲しい。
元気溌剌でいてほしいのに、力なく萎んでいるか、力みかえって身体を固く閉ざすかして、まるで元気が感じられない。
それがとても遣り切れないのです。
もちろん自分が、その手本であるなどということでは全くありません。
また「型から入る」ことそのものも、あまりいいとは思いません。
ですが、そういったことを抜きにしても、皆さんに一刻も早く元気を取り戻していただきたいので、少なくとも今時点では「ああなりたいものだ」という「型」ではなく「生き物としての隣人が皆さんの周りに多数」日を置かずして出てきてくださるような「教育に切り替わる」ことを切に願う思いでございます。

2020/1/19

（本日の、どうでもいいお話「惚けトーク」）

以下、どうでもいい話で恐縮ですが。
以前から、なんでそうなったのだろう？と思っていたことで、今突然思い当たったことがあります。
その話と言うのは…
「いいね」という意味の英語「ok」は、なんで ok というのか？でした。
それで今、なんとなくぼんやりと、左手の人差し指と親指で輪（◯）を作り、そのうしろの中指以後を立てて（｜）、「いいね」サインを作ってみると、前の輪が「o」、前の輪と後ろの立て棒が「k」を表し、それを組み合わせると「ok」に見えました。
「あっ、この形から ok というようになったのか！！」
当たっているかどうかは知りませんが、自分なりには納得がいきましました。
本日の、どうでもいいお話でした。
（自動翻訳機のポケトーク（pocket-talk）ならぬボケトーク（惚けトーク）でもしていないと、やっていられない事業環境の今日この頃です）

2020/1/21

（一体なぜ、こんなことに）

黒か白か？
「子供を育てるには、叱った方がいいのか、褒めた方がいいのか？」
時々、こういった議論を耳にします。
要するに二者択一の議論。とどのつまりどちらを選択するのか？という話です。
しかし、何か妙です。何かが抜けている気がする、と前から感じていました。
で、今日、その答えらしきものが…
「時間軸がない」
確かに、判定するのがその一時（いっとき)、一時点（いちじてん）だけであれば、黒か白（ＡかＢか）の二者択一になるのも仕方ないような気がします。何せ他に選べる「時」がないのですから「それはそうだよね」となってしまいます。
しかし、時間（軸）があることに思い至れば、この時点では（今日は）黒、例えば「叱る」を選び、次の時点では（今度は）白、即ち「褒める」を選ぶことだって可能なはずです。
もう少しわかりやすく言えば、今はインパクトを与えるために叱るが、後日、時を置いて、少し冷静になったころに「何故あの時叱ったのか」を説明し、理解すれば抱きしめてほめてあげるような振る舞いが（この例は、時間軸を意識して初めてできる教育法です）
以前の我が国の親には、そして自分が接している在日外国人の親を観察する限りにおいては、この時間軸をちゃんと念頭に置いた「時にはほめ、時には叱る」交互性、入替制が見られた、或いはみられるのです。
ところが、いつから、あるいはまた誰からそんな思い込みをさせられたのかは知りませんが、選択は「たった一時、その時点しかなく」「且つまたその選択は、一度選んだら永久に変更できないものである。なぜなら時間軸がなく、その時点は「点」なのでもはや動かしようがないから」というような無意識の思い込みを。
褒めたらほめ続けるばかりで育てられた子供。叱られたら叱られるばかりで育てられて子供。親は褒めるばかりの親と叱るばかりの両極端な親だらけ、を生み出したのがこれまでの教育で、そこから生まれたのが今の我が国の日常世界。
昔の親と外国の親（在日ですが）は時間軸を取っての「黒と白」の「持ち駒が二つ」
ところが現在の我が国の親は、その時点だけの「黒か白か」の「持ち駒一つのみ」で選択の仕様がない事態に。
選択の仕様がなければ、代替えは利きませんから、最早それに「すがるしかない」追い詰められた切迫状況になってしまっています。
一体なぜ、こんなことになってしまったのか？
この問い（闇）だけは解いておきたい気が強くしております。

2020/1/23-2

（？？？）

大切なのは、分かろうとすることです。分かるかどうかではありません。
連中は、それをしています。本来それをしてほしかった、日本人ではないのが少々残念ですが、それでもかなり幸運です。
彼らがそれ相応に、何とかしようとしているのを見ると、久しぶりに「溜飲」が下がりました。
彼らに望みを託すことに致しました。
「おい、一緒にやろうぜ、いいだろ？」
そんな日本語はわからないので、返事はありません。
「ま、いずれわかるよ」
「？？？」
そう顔に書いてありました。

2020/1/23

（とにかく、苦しいです。今が）

以下は事業での話です。物事全般、全てにまたがる話ではありません。
自分の都合、思い込み、思い入れに飲み込まれているときには、事業を主導するものから見て、論理は、一見、まことしやかに機能しているかに思えて、実は全く機能してないようです。
正しい、或いは有効な論理が機能するためには、それを扱う者が、自分の都合や、思い込み、思い入れを極力排して、それに従わなくてはならないようです。
そもそも論理が「まことしやかに機能している」と思うこと自体、既に自分の都合か思い込みでしかありません。
そのことに気づき、気づいた以上それをごまかさず、その事実を認めて受容することは、とても苦しいことです。
ひどいときには、自尊心や自信もぐちゃぐちゃになることもありそうです。
しかし、その論理に従って、その胸突き八丁を乗り越えないと、いい結果は出てきません。
ここでいう論理とは、道理、即ち「自律的な」メカニズムのことです。
特定された誰かにとってだけ、都合の良い「結果ありきの」出来レースとは全く異なるものです。
だから、今とても苦しいのだと思います。
しかし、ここを通らないと、先はない。
そう言い聞かせて、過ごしております。
とにかく、苦しいです。
今が。

2020/1/24

（自らドン詰まって分かった「これでは、さぞや苦しかろう」）

我々日本人からして、これはやって当たり前、これに気づいて当然、言わなくても類推でこのくらいはわかるはずだというレベルのことですら、外国人従業員にとっては「えぇっ！！そんなことまでやるの？」と驚きと意外性の連続爆弾のようです。
それやこれやで、毎日自分は、苛立ちと気づかれや愕然とする思いで、今度はお返しにこちらが「憤懣やるかたなきガス抜き爆弾」を連日爆発させる始末。
しかし、本日、突然、
「まてよ、連中があれだけ困惑したり戸惑ったりするということは、裏を返せば、わが同朋の国民は、それだけのものに日々耐えながら、鼻から「本件、問答無用に付」と言われたが如く、言うにも言えず、相当に苦しい思いをしているのではなかろうか？
自分のような性格でガス抜き爆弾を日々炸裂させて平衡を保つすべを持たないのであれば、あっちに気を使い、こっちに合わせ、同時且つ連続的に四方八方、それ、上司に、やれ、部下に、おっと家族に、あわわ、通行人にと、一時たりとも漏れ無きように辻褄合わせをしつつ暮らしているのであれば、いかにも苦しい。
これでは他人の目線という膨大なリクエストにこたえるだけで精いっぱいで、とてもじゃないが、それを超えてまで、人様に気づかいを示す余裕などあろうはずもなかろう」
なぜかは？はたまた何が？そうさせるのかはわからないのですが、とにかくお互い同士、相当難易度の高い要求を突きつけあって、それができるかどうか、お互いがお互いを監視しあっているような雰囲気が漂っている気がします。
そして、そのことに気づいたとしても「誰も口にしてはならない」し「根を上げてもいけない」暗黙の箝口令（かんこうれい）が敷かれているような。
一体どうして？
今まで自分は、このわが同朋の無言、無視、無反応に苛立ち、憤ったりもしてきましたが、本日を境に見方が少し変わりました。
「これでは、さぞや苦しかろう、に」
そんな風に、変わりました。
何故そう変わったかといえば、自分自身がわが同朋と同じように、昨日を境に本当に「ドン詰まってしまったから」でした。

2020/1/25

（問題の山に囲まれて、今宵も又、寝付けません）

昭和の時代、人々は楽天的で元気でした。コミカルバンドの「クレージーキャッツ」を見れば一目瞭然です。
平成の時代、人々にはその元気がなくなってしまいました。第二の「クレージーキャッツ」が現れなかったのを見れば、これまた一目瞭然です。
何故か？
簡単に言えば我が国の経済成長が止まってしまったからです。先進国の欧米ですら伸びているのに我が国は殆どゼロが「常態」この２０年あまり。
理由としては、バブル崩壊後、リストラされた企業戦士が大陸に渡り、そこから安くていいものが逆輸入されるようになって、我が国の職場が奪われる羽目になり、別の大陸では、ＩＴ技術をもとに「タダのサービス」が大量に産まれ、それがまたまた我が国の職場を「も」奪ってしまったからです。或いはこれから奪うことになるからです。
言い換えるなら技術力、特に「高度な技術力」が多くの人々の職を奪い、反対に「高度な技術力」を持った、ごくごく限られたものにのみ富が集中する「格差」が産まれたのだと思います。
逆に言えば、我が国からは技術力がどんどん失われたということですし、高度な技術力が産まれていないということでもあります。
しかし、別の二つの大陸を真似て、同じような「高度な技術力」を持ったところで、それは恐らく同じような「富の偏在」つまり「格差」しか産まないでしょう。
政府主導で突然始まった「ＡＩ人材の育成及びその教育」というのは、その点をもう少しよく考える必要があるように思います。
さて、我々はこの先、どうすればいいのか？
その話はこれまでとして、話を元に戻すと、経済成長がない社会では、ともすると限られた範囲内でのパイの奪い合いが起こります。
簡単に言うと競争の激化、もっとフランクに言うと、足の引っ張り合い。すべてが加点主義ではなく、一つのミスでも命取りになりかねない減点主義で、最高得点でも±０の世界観。
これでは、楽天的にもなれませんし、元気の出ようはずもありません。
まず、お父さんに元気がない。お父さんは自信もない。減点主義にびくびく怯えている。
一方お母さんは何故だかいらいらしている。とりあえず安全パイ確保目的で結婚をし、結婚生活そのものには期待はしないものの、それを原資に「楽しい女子会三昧」を描いたものの、何か心底の「本来的欲求」が全く満たされないことに。
というような、お父さんのビクビクとお母さんのイライラの間で育つ子供さんは一体どのような精神状態になるものなのか？
詳しくはわかりませんが「不安定になる」ことだけは、火を見るより明らかでしょう。

さて、上記二つの難題を抱えた今、どうすればよいのか？
毎日問題の山に囲まれて、今宵も又、寝付けません。

2020/1/26

（語学教育、視点改め）

コミュニケーションの神髄は語学や言葉にはない。本当のコミュニケーションをしたかったら、まずその人の行動、立ち居振舞い、仕草を見よ。神髄はそこにしかない。真意はそこにしか現れていない。
語学の堪能さや口に出される言葉は、その真実が自分にとって都合の悪い場合、むしろそれを覆い隠し、煙に巻くことに使われる場合の方がはるかに多いようだ。
これが、この２年間、自分がやって来たこと、即ち国際間、世代間交流事業の総括でした。
原始時代、まだ文字や言語がろくすっぽなかった時代には、それら後者の行動、つまり、立ち居振舞い、仕草の読みこそが、人間というより生物としての「人目人科」のコミュニケーション手段の主役であったはず。
それがいつしか言葉と文字の発明により、その便利さゆえに主従の逆転が起きた。
そうしてそれが「架空の事実」すなわち「嘘」をも作り出すことができることに気づいた人々が、自己防衛本能からそれを多用するようになった。
この時点で内外（うちそと）の乖離が起き、高度化した言語を持つ民族、国民ほど、それを高度な技で多用するようになった。
と、同時にその内外（うちそと）の乖離に密かに苦しむようにもなっている。或いは、いそうだ。
我が国国民のコミュニケーション不足、或いはコミュニケーション下手、更に言えばコミュニケーション崩壊の危機の原因のひとつは、この辺にあるのではないだろうか？
という仮説が成り立つ。
だとすれば、内に合わせて外、即ち言語や言葉の位置づけ、有り様、使い方を変えていく必要があるのではないだろうか？
勿論語学教育の在り方そのものも。
そのようなわけで、本日より、弊社事業の主要部分である、語学教育に対する視点を大幅に改めようかと思い始めました。
まだ、具体的にどうすればいいのか？そこまでは考えが至っておりませんが、まずは視点をそのように改めるところから始めようと思っておりまする。

2020/1/28-2

（語学上達の件）

学校にせよ、企業にせよ、家庭教師を個別に雇うにせよ、先生がいて生徒がいて「授業をする」というのには、コミュニケーションの本来の目的から外れることを除いても、語学上達の上においてすら限界があるような気がします。
何故かというとあまりにも「語学」を意識しすぎ「上達」をも意識しすぎるからです。
ならば、どうすればいいのか？
自分の経験則に従えば
「同じ目的に向かって共に作業をする」ことが一番早道のような気がします。
目的を「語学上達」に限ってさえ、それが一番かと。
「語学上達」において一番肝心なことは「語学上達を忘れる状態に自分を持っていく」ことではないかと思っております。
「語学上達」において一番の弊害要因は「語学上達「過剰」意識」だと思っているからです。
それを除くには「我を忘れて、ともに夢中で作業をする」のが一番早道。
そしてまた、気づけばそれが本当のコミュニケーションに、気づかぬうちに「既に」なっている、というような。
非常に限られた、自分の数少ない経験則上の話ではありますが、一つの選択肢に加えていただければ…幸いかと、存じおります。

2020/1/29

（効果的、効率的と思える英語（語学）教育行程表 案）

英語（語学）学習の効果的な行程表は、ズバリ一言でいえば、
「言葉の生成、発展の歴史過程をトレース（なぞらう）すること」につきるのではないでしょうか。
つまり「言葉や文字のない時代」「言葉や文字を試行錯誤して生み出した時代」そして「言葉や文字が整った時代」最後に「言葉や文字を覚える時代」に合わせて。
これを個人の歴史になぞらえるなら
「言葉も文字も全く分からない赤ちゃんの時代」「言葉や文字を試行錯誤しながら獲得し覚え始める幼少期の時代」そして「言葉や文字を小中学校で覚える時代」ということになります。
上記二つを通して言うなら
まずは「身振り、手ぶり、表情で」次に「数字やイラストや図表で」その次は「かたことのことばや前述の２つを交えたトータル表現で」
しかしそれでは結構大変なので、そこで初めて本格的に、より効率がよく効果的な手段としての「言葉や文字を覚えることを勧める」という具合です。
そうして、この言葉と文字の生成、発展、確定の各歴史的過程に従って国民的英語（語学）教育のプログラムを組んでいけば…。
思うに、我が国の英語（語学）教育の最大の問題点は、この言葉や文字獲得における歴史過程の一番最後の結果でしかないものを、一切合切抜きにして、教育課程の一番初めの段階から「国際会議出席レベル」という「ありえない奇跡」を要求する性急極まりない「無理難題の不自然さ、不寛容さ」にあるのではないでしょうか。
３年間、四苦八苦、試行錯誤の繰り返しで、曲がりなりにも、英語を身に着けた老人の目から見ると、そのような気がしてなりません。
今のやり方では、恐らく１００年英語（語学）をやっても誰も身につかない気がいたします。

2020/1/30

（公立無償教育 幼小中一貫 international school 制度提案）

「鉄は熱いうちに打て」
「三つ子の魂、百までも」
がモノの道理であるなら、高等教育の無償化などに力を入れるより、幼稚園、保育園の無償化に力を入れた方がいいような気がします。
そうして、保育園、幼稚園も international school(=kindergarten)にしてしまってはどうでしょう。
言葉や文字を碌に覚えていないうちに、身振り手振りや表情の百面相や実際の立ち居振る舞い、仕草で会話をはじめ、そのうち自然に「言葉と文字」というのがあることを発見し、それを実体験や情景を伴って覚えていくというような「子供の生活の中の英語（語学)」
こうなると小中一貫ではなく、幼小中一貫教育課程かもしれません。
ここで副次的に大切なことは、この子供の変化を通して、育てる側の親御さんも「世界には違った見方考え方があるんだ。自分たちの見方考え方はその中の一つに過ぎないんだ」ということや「しかし、見方考え方は異なっても、実際に起こる感情、嬉しいとか、悲しいとか、つまんない、とかは全く変わりがないんだ、どの国の人も」という発見が産まれると「も」おもうのです。
となれば、既に半分考え方、見方が固まってしまった「高等教育」に力を入れるよりも、頭の柔らかい幼、小、中教育に力を注ぎ、上述のように「親子ともども新しい世界や発見、変化に触れる」確率の上がることに、我が国の将来を託した方がいいような気がするんですが、いかがなものでしょうか？
（追記）
保育園、幼稚園の無償化であれば高等教育の無償化より国家的財源負担も少なくて済むでしょうし、働くお母さん方のご負担も軽減されるのではないでしょうか？
また、更に言えば就労在日外国人にとっても負担が軽減されることにもなるのではないでしょうか？
蛇足ですが、無償化と言いつつ幼稚園の制服の高額さに、就労在日外国人の母親は度肝を抜かれておりました。(Oh My God!! Unbelievable!!)
（実際に細部にわたって試算したわけでないので、追記とさせて戴きました）

2020/1/30-2

（取りとめもなき雑文）

昨日テレビを見ていたら、相撲力士の豪栄道(モンゴル出身)の引退のニュースが流れていて、その一コマで十何年か前の昇進の時の挨拶の場面がありました。
その口上曰く
「我慢強く、潔くの大和魂をもって精進に励みます」
大和魂の解説で、これほど簡潔で言いえて妙な説明を聞いたことがなかったので、少し感心しました。
で、ふと思ったのですが、この「我慢強く」という言葉の連想から「忍耐強く」「辛抱強く」という言葉がつらなり、そこから「忍耐」「辛抱」という言葉が抽出されて、
戦後我々は、この漢字名詞を忌み嫌うようになっているなと思いいたりました。
しかし、何か釈然としないものがあったので、少し考えてみますと
理不尽なこと、力づくな、こと、納得できないことに対して「我慢」も「忍耐」も「辛抱」もする必要は全くない。
だが、道理があり、自然と沸き上がり、自ら納得したことであれば、それを達成するためには「我慢」も「忍耐」も「辛抱」もして、機が熟するまで忍ぶことはとても大切だ。
どうやら、これまでの我々は、この二つの違いを見過ごし、或いは見落として、十把一からげに前者の解釈だけを取り入れてしまったのではなかろうか？
「苦労をせずに成功だけを手にしたい」濡れ手に粟の一心から。
ところで、話は全く変わりますが上記の「我慢強く、潔く」を英語でいうとどうなるんだろう？と考えてみました。
自分は「我慢強く」という英単語も「潔く」という英単語も知りません。
で、知っている単語で思いついたのが
Never give up, but if the time you should give up, coming, do it at once not by and not with your convenience（ It`s a Yamato-spirit!!）
てな、ところでしょうか？
お粗末様でした。

二〇二〇年二月

2020/2/1

（駒、進む）前記事「儚い夢 」改変改題

コンビニの駐車場で、一羽の雀が別の雀を追いかけまわして飛び上がったり、舞い降りたりしておりました。
「おやおや、雀も怒ることがあるんだ。ちょっかいを出されて頭に来たんだろうか？それとも、怒っているのではなく、好きな女の尻を追いかけまわしているのだろうか？」
雀にだって感情はあるようだ。
無防備無抵抗状態で、その光景をぼんやりと眺めていたせいでしょうか、今度は、ハトが数羽、自分に近づいて参りました。
「おいおい、気の毒だが、餌なんか持ってないよ。上げるものは何もないのよ」
と腹の中でいったのですが、一向に去る気配はなく。更に何羽か、寄ってくる始末。
「ん？餌ではないのか？話がしたいのか？」
それでふと、思いました。
「来邦著しい、外国人ともこうすればいいのかもしれない」
鳥語とか人間語とかの区別を意識しないように、外国語と日本語の区別も意識せず、何やら生来、生き物に共通して備わった「交流感覚器官（communication sensor)」らしきものを使えば、それほど言葉の差を意識せずにお互い相手とやり取りできそうだ。
「なるほど、なるほど」
と、そこで、転寝（うたたね）から目が覚めました。
現実には、同じ日本語を話す息子とさえ、うまくやり取りができていない実情を思い起こして、思わずため息が漏れました。
この夢は、自分の息子とそうありたいと願う、その願望の現れだったのかもしれません。
そう思うと、そこに何がしか、考えるに値するものがある気がいたしました。
脳が、その不思議な働きで、寝ている間に、それまでの「乱麻」を「快刀」し、気づきやすいかたちに整理してくれたものかもしれません。
幾分整理された彼方からの声は、
「人にはそう気働きするのに、何故自分の息子となると「土壇場で」例外扱いして、むしろそれとは正反対のことを、お前はするのだ？」
ここでいえば、言葉に頼るなといいつつ「言葉」でばかり「説得を」しようとしている、ではないか。
そう言っているように聞こえました。

「そういうことなの？」
そう思いいたると、それまでずっと、どちらに進めていいのかさえわからなかった駒が、
久しぶりに一つ、「停滞から動」へと進んだような気がしました。
「この先、まだ道あり」
解を諦めること勿れ（なかれ）
そう思うと、再び一縷の望みが湧いて、気持ちが少し晴れやかになるのを感じました

2020/2/2

(「セルフチェック」self-checking)

「食事の支度は女の仕事」

「冗談じゃないわよ。男だってして当り前よ」

「いやいや、男女平等で」

という議論くらい「阿保らしい」議論はないと思います。

完全に論点、または発想が間違っているのではないでしょうか。

「その時に、手のすいた人がやればいい」か「料理が好きな人がやればいい」だけの話のような気がします。

自分はおよそ１５年間,男やもめなので、料理は、仕事をしながらすべて自分でやりましたが、それは男やもめなので「手のすいた人は当然自分一人」でしたし、何より「料理を作ることが好き」だったからです。

思うに前者の議論は「権利と義務意識」に基づいているような気がします。発想の根底には「自分はやりたくない」から「人に押し付ける」というのが見え隠れしているような気がします。

一方、相手をおもんぱかれば「大変だろうから、今日は料理当番じゃないけれど、いっちょ、俺がやるか（ここは、私がしてあげよう)」になるのではないでしょうか。つまり、手すきの「自分が、手を貸してあげる」という発想です。

話は、コロッと変わって「帝国主義」という言葉があります。ウィキペディアによると「自国、自民族の権益、領土等の拡張目的で、他国、他民族の権益、領土を侵害すること」とありました。

この定義を少し広げて「自分に都合よく自分の考えや事情を、相手に無理やり押し付ける事」とすると、上述の「男女平等論」ないしは「男女役割論」をかなり手前勝手に唱える人は、言い方はかなり強くなりますが、拡大定義したところの、市民社会内「帝国主義」を行う人と言って言えなくもありません。

また、少し視野を変えて、人間も生物の一種であり、人間社会も生物界の一社会にしか過ぎないと考えると、人間そのものが生物界や自然界に対して人間社会の都合ばかり押し付けているという意味で「帝国主義」を発動しているとも、いえる気がします。

「帝国主義は悪い」という理の当然なことを声高に言う前に、自らが隣人や隣界（生物、自然、環境）に対して無意識にも「帝国主義的振舞い」をしてはいないか？

よく self-checking してみる必要を自分自身に感じておりまする

2020/2/4

(親の背中)

マネージメント（management）マネージャー(manager)

を我が国では「管理」「管理者（職)」と訳しますが、海外では「切り抜ける事、対処すること」「親分」の意味に捉えております。

外国の manager が management するといえば「外からやってくる不測の事態に対して部下を守って対処し、切り抜ける」ことになります。顔は外界に向いていて、部下は manager の後ろ姿、即ち「背中」を見ていることになります。

反面、我が国の manager が management する場合は、背中を外界に向けて顔は部下の方を向き「あれしろ」「これしろ」「これダメ」「あれダメ」という具合に「管理」をするのが「管理者」になっているようですから、部下にしたらうるさくてしょうがないし、度が過ぎると委縮さえしてしまいます。

どこでこう言った「誤訳」が産まれたのか知りませんが、海外と我が国ではまるで反対の意味に解釈されているのが実情のようです。

因みに management、 manager のもとになっている動詞「manage」の原義は「いざという時に何とかする（者)」です。

語学上でいえば、明らかに我が国の訳し方の方が間違っているように感じます。

蛇足ですが「子は親の背中を見て育つ」という我が国の諺の方が management, manager により近い感覚から生み出されたもののような気がします。

この伝に従えば､昨今の親御さんは子供に対して｢管理者｣になる場合が多く､｢親分(肌)｣の親御さんは少ない気がします。

子供に顔を向けて｢対話姿勢｣を取る(実は見せるだけ？)のも結構ですが､その実態は､対話など一向になされずお小言ばかり、であるような。

たまには、いや、なるたけ多く、子供さんに親が、外界の不測の事態と戦う「背中姿」をみせてあげてはどうだろう？かな？と思うこともしばしば感じる、今日この頃です

2020/2/5

(「過ぎたるは及ばざるがごとし」の好例)

「過ぎたるは及ばざるがごとし」
何事も度が過ぎるといけないようです。
例えば我が国でよく耳にする「安全安心志向」
食の安全、生活空間の安全、老後の安心、極めつけは生涯すべてにわたる安全と安心、とかとか。
しかし、世の中の事実、実態、真実はリスクだらけですし、リスクだらけのそのリスクをとならないことには何事も始まらないし、何も始まらないので、結果、なんの成果も得ることができないのも、また事実でしょう。
「リスクを一切取らずにおいしい果実だけを頂戴」
等という式は決して成り立ちません。
しかし、その方法があるかの如くに「広告、宣伝」をする企業や、公的私的を問わず「喧伝」する団体、強いては親御さんや教育者が多すぎるような気がします。
成果を得たいならリスクは取らなくてはならない。
取ったうえで、それをいかにミニマイズ（極小化）するか？というなら話は分かります。
しかし、リスクを一切取らずに成果だけ頂戴というのはどうなのでしょうか？
仮にリスクを一切取らずに成果を得た（成功した）としたら、既にそこに最大のリスクが潜んでいることになりそうです。
つまりリスク耐性一切ゼロの状態での成功は、次にリスクが起きたときには耐性ゼロですから、破滅的な結果をもたらすことになりかねません。取り返しようのない致命的な破滅です。
極めて象徴的ないい例が、就職です。
学校を卒業するまでは、とにかく安心安全で育てられる。簡単に言うと「過剰保護」で。
極端な例ですが「いいのよ、いいの。あなたは決して悪くない。悪いのはみんな世の中やほかの人たちだからね」「それダメ。危ないから。代わりのお母さんがやってあげるから」で育ち、ご本人はいつしか「世の中とはそんなものなのだ」という認識のまま就職し、が、しかしそのとたんに、それとは正反対の現実に晒される。そしてパニックに。
それなら、社会に出る前からリスクの存在を教え、その模擬演習代わりに時には厳しく叱り、時にはそのフォロー、言い換えればミニマイズ法として優しく労わるというような家庭や学校での教育を何故行わないのか？
階段の落差が大きすぎれば足を踏えみ外す確率が上がるのは当然です。家庭と社会の落差。ならば家庭にいるときから社会への船出に向けて、徐々に慣らすために距離(手間)と時間はかかりますが、段差の少ない階段を何段も設けるということを何故しないのか？
いや、した方がはるかにいいのではないか？

老人の目から見ると、そんな気がしてならない次第でございます。

2020/2/6

（小春日和の宵に思う）

我々日本人は、非常に「深読み」や「先読み」に長けております。長けすぎるくらい長けております。
一方外国人は、ごく一部の政治家や諜報機関員を除いて、ふつうの一般人は、殆どそんなことはしていないようです。
Ａという事柄であったら、ほぼＡのみと捉えているようです。
しかし、我が国国民は、Ａという事柄であったらＧかＨくらいまで想定し、条件チェックを行っているような気がします。
これはもう、外国でいえば、ごくごく限られた数しかいない筈の政治家や諜報機関員が、我が国では、その数、天井知らずの天文学的数字となり「国民皆兵」ならぬ「国民皆員」が権謀術数に長けたその手の連中みたいなもので、のべつ幕無しに相手の出方や腹を探り合う駆け引きをしているようなものですし、張り巡らされた監視レーザービームの隙間をかいくぐって、電磁網に引っかかって相手に見つからぬよう身をくねらせて歩いているようなものでもあるので、日々、一刻一刻、一瞬たりとも気が抜けぬ、慢性的緊張の連続から、疲弊することこの上なしでしょう。
「しかし、そこで音を上げることは、我が国における社会人として失格の烙印を押されかねないので、おいそれと、それもできない」し。
これは自分が想像するに我が国国民の教育レベルが極めて均等に高すぎるが為に、妙な「節度」と、それを保つために産まれた重圧による心理的変形が「疑心暗鬼」を作り出し、更にはそのありもしない亡霊に怯えて「臆病風」を取り込んでしまったせいなのではないかと思っております。
多分そのせいで実際は「幽霊の、正体見たり、枯れ尾花」でしかない事実に気づかぬまま、「恐怖のみを再生産する頭」でっかちの、「えい、ままよ。いずれこの世は成り行き次第。しからば今日も出たとこ勝負」というような野性味がない生き物に、なってしまっているのが、現時点の我々日本人なのではないかと。
暇に飽かせて、不図そんな気がした、小春日和の宵（よい）でございました。
無責任極まりない老人の戯言故（ざれごとゆえ）、どうか、お気になさらず、捨て置きくださいませ

2020/2/6-2

(「安らかにあちら側に行くため」には)

金融、証券筋でよく使われる「ポジショントーク(position talk)」とは「自分又は自分の支持する乃至は所属する組織に有利に働くような言動を行うこと」です。
要するに、言い方は悪いですが、銀行、証券会社などが、あたかもそこに「道理」があるかのように見せかけて、顧客にとっては不利、手前にとっては有利になるように「色のついた立場で引っ掛けをする」一種の「誘導」です。
結局そこからは何も得ることのできない「イリュージョン」にしか産まない「ポジショントーク」を取り除く工夫を、日ごろの見方に当てはめてみると、いろいろな事実が見えてきます。(勿論以下は仮説扱い乃至は譬えです)
例えば、
世の中にいるのはたった2人種。「まともな人」と「そうでない人」
「まともな人」がまともでなくなるのはいともたやすく「まともでない人」がまともになるのはとても難しい。
結果、その数学的法則から、世の中は次第にまともな人が減り、まともでない人が増えることになり、その帰結として、生物の一つの「種」である「人目人科」は滅んでしまうことになる。
しかし、我々は、まさに当事者の「人目人科」でありますから、そのようなことが起こるとは信じることがなかなかできない。
ですが、地球誕生からの時間に比して、生物の誕生からの時間は短く、その中での「人目人科」の繁栄は、ほんの瞬間、目を瞬きするほどの時間に過ぎないことを知れば「人目人科」の滅亡の後に、別の「種」が地球の主役になってもおかしくはありません。
皆さんが誤解しがちなのは、それが我々より高等知能を持った生物だと無意識に思うが為に、そのようなことはあり得ないと思いがちですが、何も我々より高等な知能を持ったものが主役である必要はさらさらないのです。例えばそれはゾウリムシかもしれませんし、日ごろペットとして飼っている「わんこ」かもしれません。
しかし、一人の人間が、その栄枯盛衰を見るほど長生きをすることはないので、現実的にはどうでもいい話とはなりますが、ぐっと時間を短縮し、いささかスケールを縮めてみると、我々が生きている間に「まともな人」と「そうでない人」の比率が極端に悪くなった場合「国が亡びる」こともありそうですし「家庭が崩壊する」こともかなりの確率でありそうです。
ならば、少なくとも自分や孫子が生きている間、そうならないようにすることは、自分自身と目の届く範囲の子孫、それに我々の隣人にとって極めて大切なことのような気がいたします。
天寿にせよ病にせよ、いかなる延命措置も施すことのできない末期の床に至ったのちに「安らかにあちら側の世界に行くため」には

2020/2/6-3

（「肚決め（はらぎめ=覚悟)」の数学風 説明）

リスクがある場合「すべてを失うことになるのもやむなし」というところまで含めると、リスクを軽減できる確率は「高く」なると思います。それを聞いて
「？」
と思われた方が多いと思います。
どういうことかというと
リスクなし、つまりリスク０（ゼロ）でないとだめだとすると、持てるカードは１枚。
しかし「すべてを失うことになるのもやむなし」をリスク１００だとすると、持てるカードは１０１枚（０を１枚、１から１００を１００枚と数えると、です）
そもそも世の中で、リスクが０ということはありませんから「リスク０」という一枚は持っていないも同じことになります。
待てど、暮らせど、その「リスク０」の持ちカードが持っている筈の「効果」はやってきません。
しかし、リスクを１００まで取るとすると、１０１枚のカードを持っていることになるので、そのカードの内「効果のある」カードがある確率は、前者に比して格段に上がることになります。
無論結果として「全部スカ」もありますが、確率上は高いはずです。
そもそもこの世に（また「この世」という言葉が立て続けに出てしまいましてすみません）完全無欠の１００％もなければ「完全欠」の０もないので、すべては「確率論」の上での話でしかありません。
その確率論において、上述のことが正しければ、リスクがある場合においては、幅広くリスク許容度（乃至は想定度）を取った方が、助かる「解を」を見つける確率は遥かに高くなるので、冒頭の文言となった次第。
「詭弁によって煙に巻かれた」と思われても仕方がないような気もしますが、一片の真実もあるような気もしております。
上記の解法式を日ごろ耳慣れた言葉で申し上げますと、
「肚（はら＝覚悟）を決める」
となり
「肚（原＝覚悟）を決めることがブレークスルー(break through)を産む」
ということになります。
以上は万年「数学赤点」だった老人による、全くの私見でござりまする

2020/2/7

（またまた、ここ一番の大勝負の予感）

最近、外出するとやたらまぶしいし、モノを書く時に焦点が合わなかったり、ぼやけたりするので、本日、社業の合間を縫って眼科検査を受けたのですが、結果は
両目白内障。右目乳頭陥凹（？なんのこっちゃようわからんのですが）で緑内障の疑いとの診断。
「ええっ！！モノを書くことができなくなるの！！」
たったひとつの楽しみなのに・・・。
それにしても、よくもまぁ、次から次へと災厄が続くものです。
（あんまり続くので「数え上げたらきりがない」に従って、いちいち数えたりはしませんが）
確かに振り返ってみると若いころから「不幸のデパート」なんぞという不名誉なあだ名を頂戴するような人生でしたが、ここにきて「不幸のデパート」などというレベルは遥かに通り越し、今ではそれこそ
「アマゾンの超巨大、物流拠点倉庫」並みのレベルです。
ですが、アマゾンの場合はＡＩを駆使して、その膨大な品数を整理運用できるのですが、人間様である自分はＡＩの持ち合わせはなく、人力のみの持ち合わせだけなので、そうはいきません。
はてさて、人力車である自分が、アマゾンの自走ＡＩ運搬フォークリフトに勝つことができるのや否や？
いい加減 too much enough（うんざり）ではありますが、またまた、ここ一番の大勝負が近づいて来ているような予感です。

2020/2/8

（わかりやすいが故の「数字の怖さ」）

昨日朝から、新しく仲間に加わったネパール人コックさんの住居がまだ決まっていないので、決まるまでは家に泊まればいいという申し出を新人コックさんが受け入れて昨夜から本社兼自宅の我が家に寝泊まりしております。
何せ、現在の本宅がアパートとはいえ、前橋にあり、ここ、横浜の青葉区までは片道４時間余りもかかるので、そのような策を講じたわけです。
で、一泊経って観察の結果を整理してみると、
まず非常に礼儀正しい。
時間も守るし、言いつけも守る。
（ただ、下に、足首まであるアンダーウェアーをはいているのに、その上からバスタオルを巻いたりして室内をウロウロ歩き回ったりする「え？なにそれ？なんで？」ということがないわけではないのですが）
また、職場においては、日本では当たり前といえば当たり前のことなのですが、そのほかのスタッフも含めて、トイレの後や調理の前には、必ず手を洗いますし、昨今の社会的且つ国際的な事情から、店内に滞留している間は、休み時間も含めてみな自分の指示に従って、マスクを着用してもおります。
一方、ニューヨークの市内で、マスクをしていた中国人女性が「コロナウィルスがうつる！！」と言って見知らぬ男性ニューヨーク市民から暴行を受けたという記事が載っておりました。
なぜ、こういうことが起きるのか？
思うに、それは個人名が上がるような「具体的な」相手と話をした経験や、同じ時間を過ごした経験がないからではないでしょうか。
がために「生きた情報」不足から、活字や音声「媒体」上の「数字」をもとにイメージを勝手に作り上げてしまうからでは？と。
例えば、相手の国（ここで言えばネパールと中国とアメリカ）のＧＤＰ（国内総生産）の数字の多寡や国民年間平均所得額の数字の多寡とか異なる体制が持つ軍事予算の数字の多寡とかからです。
目の前にいる「具体的な」相手とは、決して「数字」ではありませんでしょう？
血も通って、泣いたり笑ったりする「個々人」でしょう？
自分は図らずも外国人と具体的に仕事をし、ある時は生活を共にするようになってそう感じるようになりました。
国や国籍、性別、年収、文化や習慣はたまた体制等での判断ではなく、まず何よりも目の前にいる「個々人」を見て、ひとりひとり判断してあげないと、数字という極めて分かりやすいものがもたらす「安易な短絡と手抜き」すなわち「十把一からげの断定」によって、大変

な間違いを犯すことになりそうだな、という気が、最近とみに、しております。
以前、このスレッドで、言葉が通じない場合には、数字と図表や絵を使えばいいと申し上げたことがありましたが、今回はそれを逆の形で置き換えて言えば「だまそうと思ったら数字を使え」ということにもなります。
それほど、数字というものは「怖い」ものなのではないでしょうか。使い方次第で

2020/2/10

（「嫌われる勇気」の持ち時？）

誰からも愛されるお父さん。
誰からも愛されるお母さん。
誰からも愛される先生。
誰からも愛される上司。
誰からも愛される経営者
誰からも愛される警察。
誰からも愛される政治家（一部の）
そして誰からも愛される「わたし」
しかし、誰からも愛されるなどということはありません。
仮にいくら善行を積んで、行いがよく、優しく、朗らかで、面白い性格でありながら、且つまた勇気にあふれ、人知れずよく働く理想的な人であったとしても、却ってそれが恨みや妬みを買い（産み）、厭われたり嫌われたりすることがあることは、自ら受ける側としても又それを人に対して抱く側としても、皆さん既に、御自身の体験上、ご承知のことかと思います
しかるになぜか「誰からも愛される」という「想像の産物」が、上記の実体験や経験則に対して矛盾していることや等式不成立であることが見過ごされ、同じフィールド上で一つにつながっていないようです。
「誰からも愛されるなんて言うことはあり得ませんよね？」と尋ねると
「それはそうよ」
とほぼ全員の方から異口同音に同じ答えが返ってくるにも拘らず、にです。
何故か？
恐らく我が国においては「誰からも愛される」という価値観が異常に高く、また我々国民諸氏も、そうなりたいという願望が想像をはるかに超えて根強いが為に、客観的事実をも凌駕して、それがほとんど無意識に独り歩きをしているのではないのかな？と思ったりします。
しかし、この無意識ながら「殆どすべての行動」を決める価値観や願望が、どれほど大きなミスリードを行っているか。
冒頭に何種類も記した「名詞」は、ほぼ全員世の中をリードする者たちの名称です。
それが皆「誰からも愛され」んがために、行っていることやっていることが全く違う、時として正反対の方々達からも支持を取り付けようと「同じようにいい顔」をする、或いはせざるを得なくなっていることが引き起こす二重構造、内外（うちそと）の矛盾からくる二律背反（もっと平たく言えば「二枚舌」）が混乱を引き起こしているような。。
これらを全く逆の言い方でいえば「一人にたりとも嫌われてはいけない（取りこぼしてはいけない）」という強迫観念とも言い換えることができませんでしょうか？

であるなら、ここは一番、その強迫観念を乗り越え、親や上司、先生と名の付く方々は率先して、後進には耳の痛いこと、口に苦いことを「えぇい、ままよ。嫌われてなんぼ、がわしらの商売」と腹をくくり「叱ることをも辞さず」としてはいかがでしょうか？
ある方の人気書籍名（自分は中身を読んだことはないのですが）ではありませんが「嫌われる勇気」を我々老人はじめ、年長者であり社会のけん引役である方々は、そろそろその気概を持って、実行に移す時が近づいているような気がいたします。
毎日、老人の戯言（ざれごと）、申し訳ございません。ご不快がありましたらお許しを

2020/2/11

（本日はＳＦ風に）

目に問題が起こり、文字も碌に見えないような状態になったので、新入外国人従業員の加入資格届出が法定期間内の 10 日間でできそうもなくなり、どうしたらいいかを労基署の係官に尋ねたところ
「社員に日本人がいないなら、社外の他の日本人に書いてもらえばいいでしょ。とにかく期間内に労災が起こった場合困るから、10 日間の期限は守って」
と。
言わんとしていることはわかります。しかし、こちらも社外の第三者にお願いして書いてもらった場合、もし外国人従業員の記載項目の一つであるマイナンバーが何かの事情で漏洩すると、社長の自分の制御可能範囲外になり責任の取りようがなくなりますし、頼まれた方も非常に嫌な思いをすることになるので、おいそれとは人にも頼めません。
このような場合があるので相談しているのに、杓子定規な回答しか得られないのなら、窓口は「ＡＩ＋自動音声」で十分なような気がしてしまいます。
いや、ＡＩなどという高級品は必要なく「エクセルのマクロ＋自動音声」で十分でしょう。
そういえば、そのＡＩで思い出しましたが、ある記事に
「孫よりも痒い所に手が届く受け答えのＡＩロボットに大満足」
といった主旨の内容が載っておりました。
こうなってくると、人間とは一体何なのか？という疑問が湧いてきます。
かつては、機械は杓子定規で気が利かず、人間ならその点柔軟性があるというのが社会蔚年でしたが、今や「柔軟性や気の利いたやり取り」すれも、機能（function）という意味では、既にＡＩに軍配が上がっているような事態になっております。
例えば昨今の「都会の不愛想なバスの運転手」を見れば「優しい受け答えのプログラムを組込んだ自動運転ＡＩ運転手」の方が、よっぽど乗客満足度も高いでしょうし、乗客のストレスも軽減されるでしょう。しかもコストはメンテナンス費用だけで済むとなれば、早晩この辺は一気に切り替わってしまうかもしれません。
となれば益々人間は一体何のためにいるのかという疑問が更に深まってしまいます。
正確さの面でも「やさしさの面」でもＡＩの方が「人間から見てすら満足度が高い」となれば「我々人間のためにも不正確でつっけんどんな人間はいらない」になってしまいそうです。
ならば人間に残された役目は何なのか？となると、ＡＩにはできそうもない「子作り」位しか思いつきません。
しかしこれもＡＩがゲノム編集等遺伝子工学を駆使して、男女の最良の組み合わせを弾き出し、それを人工交配させれば、ＡＩの意図を汲んだ「人目人科（ひともくひとか)」が産まれ、ＡＩの思いのまま、人間を操作支配することも可能なような気もします。
こうなった場合、人間は逆にＡＩの「人間製造牧場の牧畜」のごとき存在となってしまいそ

うです。
なぜこのような面倒なことをＡＩがするかといえば、人間を表に立てることで合法を装い、裏で黒幕となる方が合理的だということを人類の歴史から弾き出すからです。
「…」

2020/2/13

(今夜もＳＦ風に)

「人間中心主義」という言葉があります。
我が国では機械や組織など「非人間的（人間にあらず的なもの)」な冷たさに対して、温かさの意味で用いられますが、もともとは西欧の「神中心主義」から人間に主権を取り戻そうという所謂「ルネッサンス運動」に端を発した言葉です。
一神教の神様から人間へ。そして今度は産業革命以降、大量生産の時代を経て現在のＡＩに至るに及び、再び「人間性」の在り方が問われるようになっております（或いはなるでしょう)。
そういう意味では、現在までの我が国の、神様ではなく機械や組織等「非人間的なもの」に対した意味での「人間中心主義」は先取りした形での、正解といえるかもしれません。
しかし、この人間中心主義が行き過ぎ、肥大化しすぎるとおかしな方向に行くことにもなりかねません。
率直に言うと「生態系破壊」を招くようになりそうだということです。
具体的に言えば、人間の数が増える。その分欲望の数が増える。結果、生産活動が増え、エネルギー消費量が増える。それが生態系をゆがめるなどです。
これは種ではなく個体の話ですが、かつて地球上を闊歩した巨大恐竜が死滅したのも、その巨大化の故にです。
体長３０メートルを超すプロントザウルス等は、その個体としての肥大化から、しっぽを踏まれて頭で「痛い」と感じるまで２秒ほど掛かるようになり、サバイバル的危機管理上、致命的な弱点を持つようになりましたし、余りに旺盛な食欲から、草食動物である彼らは、歩いた後にはぺんぺん草一本のこらない程、植物（食物）を食い散らかしました。
そこへ巨大隕石が落下して（仮説の一つですが)、ダメ押しを押されて死滅するに至ったようです。
これら生物学的歴史上の事実と、地球そのものが持つ自浄乃至は自己防衛作用が働くであろうことを想定すると、やがて人類は滅びることになるかもしれません。
うがった見方かもしれませんが、昨今賑やかに話題に上る「環境問題」の行き着く先はとどのつまりは「人口（爆発的増加）問題」になるような気がします。(食料、水、引いては医療とその延命の意味の是非も含めて)
そして「環境問題」の最終的解決方法は？となると…
「口減らし」？｛間引き｝？その方法としての「間引き目的巨大戦争容認」更には「正当化論」の出現？
「えぇっ！！」
やだ、ヤダ！！それ以上考えると本当に恐ろしくなるので、今日はここら辺でやめておきましょう。

（自分への疑問：なんでジジイの自分が、こんなことを考えているのか？よく、分からない）

2020/2/14

（本日バレンタインデーに「超巨視的歴史上の岐路」を考える）

経済の低成長による限られたパイの奪い合いが、保護貿易主義や国家、民族間の対立や戦争、個人間の種々様々な格差を生む元になっているのであれば「経済成長を取り戻すことがそれらの問題の解決策になるであろう」というのは、いかにも短絡した結論のような気がします。
何故なら、前回の記事でも申上げました通り、人間の経済成長は「過度のエネルギー消費」と同義語にも等しいので、それは同時に、地球という限られたエリアの「生態系の破壊」につながるからです。
そこで、この矛盾を解決する方法はないものかといささか時間を費やして考えてみたところ、おおよそ二つ、しかし正反対の答えらしきものが出てきました。
一つは、経済成長の糧を地球外に求める事です。所謂宇宙開発事業によるπそのものの拡大。これはすでにテスラ社の社主であるイーロンマスクさん率いるスペースXやアマゾンの社主であるベゾスさんらが着手しております。新規市場としてアフリカまで行き着いた先がないことを見越してのことと思われます。
これは、現代資本主義のさらなる「深化」といえる方向です。
そして今一つは、それとは正反対に、現代資本主義そのものに疑義を唱える考え方です。
即ち経済成長は低空飛行が今後も続くとしたうえで（或いは高成長をあえて望まずとして)、お金や資源という限られたパイを「奪い合う（競争)」のではなく「分け合う（シェアしてコラボする共生)」方が、国家、民族を構成する個々人にとって、より「実感を伴った充実を得られる」という価値観（視点視野の移動）の「大転換」を見出すことでしょう。
これによって、ひいては過度の「物質的」エネルギー消費を抑え「生態系の破壊のスピードを低減させる（ゼロにはできませんが)」ことにもなります。
しかし、こちらの方のノウハウは今のところ前者に比して、殆どないか、未経験なので、その解の発見は遥かに困難が予想されます。
それを、実感を伴うような言い方に変えると「得意科目（分野）を活かす」か「苦手科目（分野）を克服するか」の違いみたいなものです。
（自分の経験則から言うと、後者の方が乗り越えたときの充実感、開放感、達成感は前者の数層倍に感じられました。余談ですが）
そう考えると、今や我々は今、人類史上、超巨視的歴史上の岐路に立たされている「緊張」を感じます。
現代資本主義（社会主義国による「国家」資本市議も含めて）のさらなる「深化」か「大転換」かの。

そういえば本日はバレンタインデー。
上記のことと関係があるかどうかわかりませんが、これも何かのご縁でしょう。(笑)

2020/2/16

（超、どうでもいい話）

昔、ある先輩が
「お互い向き合ったサドとマゾにとって一番の苦痛は何か知っているか？」
というので「そんなの知りませんよ、サドでもマゾでもないのですから、自分」
というと
「それはな、お互い何もしないことだ。いじめて喜ぶサド。いじめられて喜ぶマゾ。で、お互いにらみ合ったままで手を出せずが、お互いにとって最大の苦痛ってわけだ」
それを聞いて、ちょっとは面白いしゃれだとは思いましたが、いずれにせよ、自分にはあまり関係のない話なので「毒にも薬にもならんわな」と直ぐに思考野の脇に置いてしまいました。
それから４０有余年。最近それに類したことを発見し、その先輩の話を思い出した訳です。。
その発見というのは、
「それは沽券にかかわる」と虚勢を張って「不動、無関心を装う」男族さん達。それが虚しいことは重々承知しているにもかかわらず、気が付くと張っている男族さん。
一方「私は何もしりません」という顔をしてはいますが、その実「相手から何かを仕掛けさせよう」と、これまた、敢えて「興味、関心なし」を装う女族さん達。こちらも又、そんな「引っ掛け」ばかりしていると、疲れるばかりなので、素直にはなりたいと思いつつも、気が付くと、またぞろ同じ「罠張り」ばかりしている女族さん。
結果、その果てに何が起こるかといえば両者にらみ合いで、手も足も出せずの「だるまさんのにらめっこ」状態だけ。
これは自分の個人的な感想にしかすぎませんが、何か昨今の我が国における男女関係というのは冒頭の「サド・マゾ合戦」に極めて酷似しているのではないかな？と思った次第。
これまた、以下は個人的な私見ですが、この令和の現代にありながら、何のことはない戦前の「男女七歳にして席を同じゅうせず」の古臭い男女観が無意識な地下水脈の如き底流として、そのまんま現代まで残っているだけじゃないの、とも思った次第です。
いささか「なんじゃ、こりゃ」という気がしないでもありません。
これを自分の得意技、即ち「わかりやすく一言でいうと」に倣えば「男女七歳うんぬんが生み出した自意識過剰世界のなせる業（わざ）」とか。
まっ、いずれにせよ、じじぃの戯言（たわごと）。
超、どうでもいい話でした。

2020/2/17

（目が内向きなら､相手｢無きが如し｣は理の当然也）

新しいことを取り入れようとすると「一時的に」混乱が起こります。それは既存、既得との間で組み換えが起きるからです。組み換えが起きると、これまた「一時的に」不安定になるので、不安や苛立ち、時によっては恐怖ともなり、それを厭うと逆に旧来の既存、既得にしがみつくことになりやすくなります。
特に年配者の場合、残された生存時間を無意識に考えるので、そのような「冒険」を侵すリスクを排除する傾向が顕著に現れます。
簡単に言うと
「この年になってもうバタバタしたくない」と。
しかしその一方で「経済的、社会的」な主役の座を去った寂しさから
「本当はもう一花咲かせたい」
という願望は逆に強くなっていきます。
かつての活躍と無意識に比較して、その裏返しで「お荷物になりたくない」「疎んじられたくない」思いから。
「ならば人のお役に立てることが何かできないか？」となればいいのですが、それをする気もなく「お荷物」「疎んじられる」ことだけを忌む（いむ＝いやがる）と、それは単なる張りぼての「虚勢」となって現れてきます。何もせずに形だけのいいとこ取り。
では、その差は一体どこから来るのか？「お役に立つ」ことと「虚勢を張るだけ」の差は？
これは自分の私見ですが、その差の元はその人の心や思考野の中に「相手（他人)」がいるかいないかだけなのではないかと思っております。相手がいるのか？自分だけなのか？
いや、もっと正確に言うと「自分と同じ程度の濃さをもち、自分が働きかける相手として他者が心の中に存在しているのか」
それとも
「自分の存在ばかりが濃く、相手は陽炎（かげろう）のように希薄」でありながら、それとは正反対に「相手の視線にばかり、その主軸があって、本当の自分を持ち合わせていない」ことの差なのではないかなぁと。
しかし、更によく観察すると、その「他人の目線」というのは「自分が作り出した虚妄、幻影、イリュージョン」で、結局何のことはない、自ら作り出した自分の視線で自分という内側を見ているだけに過ぎないような気がします。(分かりやすく言うと「自分は常に視線を集めている。その自分は人からどう見られているか？」という虚妄、幻影、イリュージョン）
この虚妄の起因を端的に言うと「目が外向きか？内向きか？」が引き起こしているだけではないのかな？と思っておりまする。
目が内向きの場合、当然他人様や外界が目（視野）に入るはずもありませんから「無きが如し」は理の当然だとおもっておりまする

2020/2/18

（歴代世界の実相？）

相当時間かかった手術で、麻酔を打たれたら以降そのあとは「何もわからない」という疑似死亡体験をしたときに思ったのですが、
「死んだら生前の偉業や善行に対する称賛も聞こえないし、犯罪や悪行に対する罵詈雑言も聞こえない」のだなぁと。
もし、あの世に行った後も「生前に増して、その称賛が聞こえる」と勘違いしている為政者さんが、その厳粛な事実に気づいたとしたら「そんなことなら、何も血道をあげて権力闘争なんかするのはばかばかしいな」と思うかもしれません。
しかし、反対に「罵詈雑言や罵りが聞こえないのだったら、結局はこの世にいる間だけのこと故、やりたい放題やったもの勝ち」と思う為政者さんもいるかもしれません。
前者が、表（世間）に顔を出している為政者さん。即ち「人気商売・名誉職」の国家元首や大統領など。
後者が、表（世間）に顔を出していない為政者さん。即ち「現金（げんなま）商売・院政」の黒幕、フィクサー、影の帝王さん。
そうして後者が前者を影で操る。
人気なんぞは要らない。表舞台に立ってやり玉にあがらないよう「超法規的に」影でおいしい汁を吸うに徹するのが何より。何せ「確実に在る」のはこの世だけなのだから。
そういった影の帝王さんは、殆ど「確信犯」なので、前者のように「そんなことなら、なにも…」と翻意する改善カードの持ち合わせ可能性が全くありませんから、一般市民の我々にとっては、最悪となってしまいますが、姿が見えないので、我々の手は届きません。
しかし、それが過去から延々と続いている世界の実態、実像、実相なのかもしれません。
「歴史は夜作られる」のではなく「歴史は闇の中で作られている」なのかも、と不図思った明け方でした。

2020/2/19

（「昨日の続編」:「歴代世界の実相？」― が仮にそうであったとしても）

死んだ先はわからない。死んだ先では何も聞こえない。称賛も罵詈雑言も。確実に在るのはこの世だけ。
であるなら、死んだ後の称賛などあてにもならないものなど追わずに、確実に在るこの世の果実だけを得よう。名声を求止めんが為に矢面に立ってドタバタ劇など演じずに、しっかりと裏で、しかも長く安定的に手に入れよう。
統治の面でもその方が、効率がいい。不特定多数を相手に選挙戦を戦う手間も省けるし、限られたトップの首にだけ紐をつけておけばいいのだから。
かくしてこういった黒幕、フィクサー、影の帝王によって「歴史は影で作られている」というのが昨日のお話でした。
しかし、そのあとで「確実に在るのはこの世だけ。死んだあとはわからない」がまごうことなき事実であったとしても、同じその事実に対して「もっとましな捉え方はないのだろうか？」という気がしてまいりました。
曰く
死んだあとはわからない。あの世のことはわからない。
「ならば、それはそれでいいではないか。それはそれで任せよう。しかし、確実に在るこの世において、生きている間だけでも、生きている間のこの世だけでも良くしてみるか」
という在り方もあるのではなかろうか？と。
かつては中国における孔子、その流れを汲んでいるかどうかはわかりませんが、今回新型肺炎で命を落とした中国の眼科医の？？？氏（すみません。名前が分かりません）
そうして我が国における、黒子で縁の下の力持ちだった数多くの「無名の人々」
いや、そういう人たちの数の方がはるかに多いのではなかろうか？とも思い始めました。
「虎は死して皮を残す。人は死して名を遺す」の「名も求めず」に、それぞれは小さいけれど、確実に役立つ数多くの事績を残した人々が大勢いた。
そういう捉え方の方が、遥かにいいのではないだろうか？
そんなことを思った、本日の丑三つ時のお話でございます

2020/2/20

（文才の歴然たる差？）

自分は高校時代、夏目漱石(Japanese great author)に興味を感じ、何度もその著作を読み返しておりました。
その中で「則天去私」という文言を見つけ、無意識にもそれをずっと考えておりました。
そしてそれから５０年近くたった今、こういうことなのではないかな？と思ったのが、
「自分の都合を捨てて、ものごとの道理に従いなさい」
ということなのではないかな？と。
「私」とは、よく「我慾」と解釈されがちですが「慾」という言葉が入ると、とかくややこしくなりがちなので「都合」と置き換えました。
「天」も「神仏」とすると、やはりややこしくなるので「ものごとの道理」と訳しました。
そうして今少し砕けて言うと
「自分にとってだけ都合のいいこと等追いかけずに、自分にとっては都合が悪くても、物事の自律的メカニズムを見極めて、それに寄り添った方が、余程楽ですよ、結果、落ち着きもし、却って最終的にはスムースに事が運びますよ」
ということになります。
但し、その過程においては、周りの世の中がそれこそ「自分の都合だらけ」で動いておりますから、逆に今まで以上に、ある期間、困難だらけにもなります。
しかし、それでも自分の都合で動いていない一種の「潔さからくる爽快感」「地に足の着いた安堵感と手応え感」があって非常に落ち着いた気分になれる気がします。
自分は大文豪でも文学者でもないので「則天去私」などという格好のいい４文字熟語は作れませんが、強いて自分なりに書くとすると
「則自律的道理、去自己都合」
となります。
なんと１１文字熟語で、おまけに「、」まで入ってしまいました。
これこそが文才の歴然たる差なのでしょうね。

2020/2/20-2

（要整理事項に付、至急）

効率的であることと効果的であることは全くの別物です。
いくら効率が良くても目的を間違っていたり、目的にそぐわなかったりすれば、却ってその「効率的運用」は「目的達成」を台無しにし効果を産まなくしてしまいます。
以前ある大手広告代理店で、超過残業時間とパワハラによって入社一年目の女子社員が自殺に追い込まれた事件がありました。
それをきっかけに残業規制や働き方改革などが進展することになりました。
しかしここに大きな「短絡」があるような気がします。
上記自殺事件を真の原因は何だったのか？という原因の比重の置き方。
今一つは、その比重の置き方の間違いから改革の目的と手段両方を取り間違えてしまったような気がしないでもありません。
この二つをきちんと整理もしないまま、とにかく「残業（労働）時間の短縮」だけが、すべての解決策であるかのように自己目的化されてしまっているのではない？かという疑問が湧いております。
それを今少しわかりやすく申し上げますと
「超過残業時間」と「パワハラ」の内、主因は前者ではなく後者なのではないか？という疑問です。
人間、仕事が楽しく夢中になれば、それこそ「時のたつのも忘れて」状態になります。
しかし、パワハラを受けたり、人格を傷つけられるようなことを言われたりすると、残業時間はおろか、規定の８時間内においてすら１時間たりとも職場に居たくなくなるのではないでしょうか？
要するにこれはそこが「楽しい職場ではなかった」ということが主因だと思うのです。
（街を歩くとすぐにわかりますが、多くの人が生気ない顔をしてうつむいて歩いています）
だとすれば、真の改革目的は「時間短縮ありき」からくる、その自己目的化ではなく「遣り甲斐が持て、活き活きできる仕事とその職場環境の醸成」となるはずです。
簡単に言うと「働くものが元気になれる」がその目的となり、その手段として「残業（労働）時間の短縮」という「時間の効率化」が果たして「目的に対して効果的」であるのかどうか？の議論がそこで初めてされていいような気がするのですが。
時短は残業代の減少で働く側の可処分所得が減り生活も苦しくなり元気もなくなります。
又、働く側が同時に消費者でもあるとすると、自社社員ですら消費意欲が減っているわけですから、経営者側にとっては一番気になる景気そのものに悪影響を及ぼします。
そしてここが一番肝心ですが、成し遂げなくてはならない仕事量が減らないまま、残業時間を規制すると、働く側、特に顧客相手の仕事部門は「持ち帰り残業」がかえって増えて、それこそ心身を病む結果にもなりそうです。

目的と手段、効果と効率。
この辺を今少し整理してみる必要を自分は感じるのですが、皆様方はいかがでしょうか？

2020/2/24

(「黒を白と言いくるめる」？悲しい例)

以下はあくまで想像です。外れていることを願います。
数年前、単身赴任のある父親が、週一回の帰宅の折に、再度単身赴任先に戻る夜、見送りに来なかった妻に腹を立て、発作的に家に放火をして、寝込んでいたため逃げ遅れた子供だけが焼死した事件がありました。
報道の論調は、当然悪鬼のごとき父親、或いは夫と被害者の妻、或いは母親と子供の図式でした。
しかし、なぜかその記事に、本当にそれだけなのかな？他に何かあるのではないか？
と何がしかの「違和感」を覚え、その記事のことがずっと頭に残っていたのですが、数日前ある光景を見て、不図ある想像が産まれました。
それは
「母と子の連合軍による夫、或いは父親に対する家庭内いじめ、家庭内しかと（無視)」
その想像の元となった「ある光景」とは、
母、或いは妻と子が仲良く話しながら数メートル先を歩き、そのあと数メートル離れてベビーカーに乳児と山ほどの荷物を積んで寂しいような、疲れ切ったような元気のない顔をしてとぼとぼと歩いている夫、父親の姿でした。最近我が国でよく見かけるこういった光景でした。
ひょっとしたらかの父親、或いは夫は、家族のために単身赴任をし、一週間に一回家に帰っても、誰もその労をねぎらわず、却って一週間に一回「邪魔者」が返ってきたような扱いを毎週受け、その念が高じつつあったところに持ってきて、それまではおざなりにも見送りに来ていた妻が、その日はとうとう「完全無視」で見送りにも来なかった。
そしてその挙句に、やりきれなさと怒りが頂点に達して、とうとう発作的に放火をしたのではないだろうか？と。(無論、その夫、父親の行為が正当であるわけはありません。断じて)
例えばある報道の写真で白の世界が写っていたとします。読者は当然その世界は「白い世界」なのだと思います。
ところがその「白い世界」から少しカメラをパンすると、白の周りは「黒い世界」だらけで、却って「白い世界」は例外だと知ることができ、報道の仕方によっては「黒を白」とも言い含めることが、いとも簡単にできる場合があります。
例えば冒頭の話を、この白と黒の世界の例に当てはめてみると、我が国では DV「家庭内暴力、いじめ」の元は男であり、被害者は女子供という報道が、白の世界。
反対に黒の世界が上述の加害者が合法的ないじめを繰り返す「女子供」で、はじき出されているのが男、夫、父親。
報道はされませんが、その数は後者の黒の世界の数の方が圧倒的に一般的で多いというようなことになります。

無論「白の世界」がゼロだとは思いません。しかし、数の面で言ったら圧倒的に「黒の世界」の方が多いような気がします。自分がしている街中の光景の観察によれば。
前回記事の時短と働き方改革の件でも同じですが、正しい比率で物事を見ないと社会問題の底辺にある真相には一向に至らないのではないでしょうか。

2020/2/24-2

（数字、数字、そして「数字」の掛け合わせ）

「時短と働き方改革」それに「黒を白と言いくるめる世界」の前作２記事の話は、とどのつまりは「数字の話」なのではないかな？
たった今、不図そう思いました。
一番わかりやすいけれど、込められた影の目的を気づかないままでいると。実はとっても「怖い数字」
これもだいぶ前に書いたお話です。
まず「時短と働き方改革」の話では、成果として国民受けしやすい「労働時間（数字）の短縮」をもって「働き方改革の成果」として双方攻防ながら訴える政治家諸氏の方々。
次に「黒を白と言いくるめる世界」では、何のことはない「視聴率（数字）を取りやすいストーリー」が「事実であるかのごときすり替え」を行う罪の意識など敢えて麻痺させて大胆不敵というか、羞恥心なしというか「我こそ正義」とばかりに喧伝する大マスコミの編集デスク諸氏の方々。
そして最後の数字は、勿論「お金」
国民支持率＝政治資金量。視聴率＝給与アップ。
ここで視点を変えて、
同じ数字でも、どうやら数字には量と質がありそうです。
そこで着目したいのが数字の量ではなく数字の質。
で、一転申上げたいのが、そろそろ「数は少なくても」数字一つ一つの「質を問う時代」に差し掛かっているのではないかなぁ？と。
これを、分かりやすくするために数式で表してみますと、
数字の数Ｘ個々の数字の質（量）＝パワー（満足実感）
となり、現在は数字の数は多いが個々の数字の質量が希薄なのに対して、これからの時代は数字の数（量）はたとえ少なくても、巨大な質量（感覚的にわかっていただくために敢えて質量、即ちｇ(グラム＝重さや密度)の概念をもちこみました)をもつ数字を作り出すこと、或いは発見することが大切になるかもしれません。
そうしてその次のステップでは量も多く、質も高いもの同士の掛け合わせの時代と。
そんなストーリーを描いておりまする。
自分は、算数は２、数学は万年赤点だったので、この意見はほどほどにお受け取りくださいませ。

2020/2/25

（悲しき「アリバイ作り」？）

自分はスマホ（mobile phone）が大嫌いです。
スマホも PC も仕事で毎日ゲロが出るくらい見ているのでうんざりしているのです。
それならなぜ PC は大嫌いとまで行かないのかといえば、まだしも画面が広いからです。
なので、外に出ると助かります。外の景色に目を転じることができるからです。
本当にほっとします。
ところが外に出て、交通機関を利用したり、街中を歩いたりすると、みんなスマホを見ています。
例えば電車に乗って前の 7 人掛けのシートを見るとほぼ毎回 7 人が 7 人ともスマホを見ています。
バスに乗れば、立っている人も座っている人もみんなスマホを見ていますし、街中では、歩きながらスマホを見ている人もたくさんいます。
料理店に入っても、せっかく家族で来ているのに、話もしないで、各人各様にスマホを見ている光景に出会うこともあります。
これらの光景を見た外国人が必ず自分に聞いてくる質問が
「一体何を見ているの？どうしてスマホ（mobile phone）ばかり見ているの？日本の人は」です。
仕方なく
「若い人はゲーム。女の人はウェブショッピング。男の人はニュース。じいさんばあさんは、よくわからない」
と答えます。
しかし実のところはよくわかりません。
自分の場合、仕事で長くて一回 5 分。短いと 10 秒くらいなのを、日に間歇的に 20〜30 本くらい見ますが、連続的に 20 分も 30 分も見ることはありません。メールを打ってもせいぜい 1 回平均 3 分。
では、一体みんな何を見ているのか？そろいもそろってみんなそんなに長い時間見るものって、何なの？
そこで思いついたのが
「暇じゃないの。遣ることがあるの」や「周りの人と目線を併せなくて済むこと」のアリバイ作りに利用しているだけなのではないか？という推測でした。
何もそんなに見たいものがあるわけではない。いやむしろいい加減うんざりしている。
しかし、それがないと、大海原ですがるべき浮き輪を見失った時のような不安を覚え、そこへ逃げ込んでいるだけなのではないのか？とも。
老若男女、国民を挙げての「アリバイ作り」か，

隠れ場所としての「ミニ・シェルター」がスマホ（mobile phone）
もし、この推測が当たっているとすると、それはとても悲しいことのような気がします。

2020/2/28

（今朝、ふと思ったこと）

今朝、ふと思ったことがありました。
個別に問題を起こした大企業を責めるテレビ局や大手新聞社も大企業なのではないか？
ということです。
先般お話しした大手広告代理店の超過勤務による自殺事件をきっかけに時短や働き方改革が進展しましたが、それを報じた当のテレビ局や大手新聞社はどうなのかな？ということです。
確かにそれらの会社の正社員や調査対象になる非正規社員も、恐らく時短や育休があてがわれるのかもしれません。
ですが、先般のお話ししましたように、仕事の量そのものが減らないとすると、どうなるか？
これは推測ですが、簡単に言うと「下請けへの丸投げ」が発生するのではないでしょうか？
「お上の命で俺らは休む。代わりにやっとけ！！翌朝とか、休み明け、直ぐに動けるようにしておけよ。できなかったら出入り禁止だ。金もはらわないからな！！」
というような優越的地位の乱用が発生し、下請けさんは時短や育休どころか、却って超過残業（しかもテレビ局や大手新聞社からの超過分の支払代金は恐らく据え置き）や保育園に払う月謝が時間超過分増えるのではないでしょうか？
更に、これは新聞社の話ですが、新聞代の消費税率は昨年１０月以降も８％据え置きとのこと。
この時期、景気を冷やす恐れのある増税に対して、新聞各社が増税アップの大キャンペーンを何故あまり張らないのか不思議に思っていたのですが、どうやらそういうことであったらしいです。
つまり、あまり張ると新聞社だけが８％に据え置かれているのがばれてしまう可能性が高まるからというような。
「な～んだ、新聞社（大手）だって結局、大企業そのものじゃないよ。阿保らしい！！」
余談ですが、今回のコロナウイルスの関してもテレワークなんてできるのは、IT 系の小さな会社を除けば、大企業、そこそこ、規模のある中小企業での話でしかないような気がします。うちなんか、とても出来っこありません。（超零細飲食業者である私どもから見れば、中小企業といって相当な大企業にしか見えないのです）
なので、時短問題やテレワークを含めた働き方改革を言うなら、大企業ばかりフォローしてもあまり意味がないような気がします。
つまり、国も、報じられた側の大企業も、報じた側の大企業自社自身も、もっと広く目を向けて、その下に連なる下請けさんまで含めて考えないと全くの絵空事にしかならず、国民全体の働き方や国の産業構造も何も変化しないような気がした、今朝の、ふとした出来事でし

た。

2020/2/29

（遺言？）

政府公表の「景気は緩やかに回復」（コロナウィルス騒動の前のアナウンス）が我々「庶民」の景気実感とかなり乖離しているのはなぜなのか？を少し考えてみました。
政府の言によれば「生産と消費は生彩を欠いているが、雇用が安定し、有効求人倍率が高いから」となっております。
しかし、有効求人倍率というのは全業種平均でしょうから、例えば医療、介護、IT 関係の異常に高い有効求人倍率が、平均を押し上げているだけかもしれません。
反対に製造業は、上記の「生産と消費は生彩を欠いている」が正しいとすれば、その有効求人倍率は、低下しつつあるはずです。
また、そういった分野において、外国人労働力の参入を加味すると、日本人の半数に達するまでになった非正規雇用の人たちの実感は更に政府とかけ離れたものになっているのではないでしょうか。
これは雇用世界の話ですが、我々極小零細事業者も政府公表に対して同様の違和感を覚えております。
では、どうすれば「少なくとも」この数値と実感のずれをなくすことができるのでしょうか？
自分が思うには「一番数の多い層の可処分所得」（簡単に言えば給料等の実入り額）の増減率の推移と「貧困世帯率」の推移にフォーカスしてみていけばかなり近いものが出てくるような気がします。
というのも、結局は「庶民の懐にいくらあるのか？」が景気（消費者＝生産者）を左右するのでしょうし、大金持ちの可処分所得を加えると数は少なくても一人当たりの額が大きいので全体が薄まってしまうので、それものぞく訳です。
そうして貧困率の増減を見るのは、一番数の多い中間層がどちら側にシフトしているのか？（金持ちになっているのか貧乏になっているのか）を見る必要を感じるからです。
こんなことを書いていると「碌な目に合わないよ」とご心配をしてくださる方もいらっしゃり、ありがたい限りなのですが、これはこれで言い残していかなくてはならないと思っておりまする。
屁のツッパリにもならない「老人の戯言」ですが「一寸の虫にも五分の魂」とおもいなし、この白髪頭に免じて、お許しくださいませ。

2020/2/29-2

（危機管理に対する反省の弁）

今回のコロナウィルス案件に関して
初動の出遅れに対して「公（こう）に危機管理能力がない」と騒ぐ一方「突然の小中学校の臨時休校に対して混乱が広がっている」とも騒いでいます。
これは論理的に考えれば明らかに正反対のことを同時に求めている論理的矛盾でしょう。
むしろ、危機管理意識がないのは「我々国民の側」ではないかとも感じております。
危機管理意識のないものに対して「いきなりの強権発動」はなかなかできなかった。コンセンサスが得られそうにもないから、と予測しております。
今は緊急時です。平時ではありません。
緊急時においてはある程度「強権行為」はやむをえません。しかし強権はあまり良いことではないので、緊急時が過ぎれば速やかに解くべきものですが、ことの起きている当座は、可とするしかないでしょう。
緊急時という戦場において、手続き論ばかりをする長談義をしている暇はありませんし「今まではフルコースディナーを食べていた。何故戦場ではフルコースディナーを食べられないのか？」と騒いでいるようなものです。
これは「緊急時に今までの平時と同じじゃないのはおかしい」と言っているようなものです。
それこそこれは「我々国民の側が平和ボケ」しているからのような気がします。
特段「公」の肩を持つわけではありませんが、物事の公平という意味では、その点を謙虚に考えた方がいいと思います。
公の緊急対策で「卒業式が突然奪われた」という訴えを耳にしましたが、引き合いの仕方に難があるとは知りつつ申上げれば、
シリアやロヒンギャ族の子供たちに卒業式があったでしょうか？そもそも学校にすらいけない。
中国でコロナウィルス騒ぎが沈静化の方向に向かい始めたのはなぜか？
それは、我が国では考えられないほどの「強権」が発動されたからです。
そうしていずれの国民、難民も緊急時とはそういうもので、そんなときに平時と同じものを求めること自体ナンセンスだと身に染みて知っているからではないでしょうか。
我々国民はもっと危機管理意識と「公に頼りすぎない」危機管理能力をそろそろ自前で持つ時が来ているような気がしております。
自らの反省も含めて。

二〇二〇年三月

2020/3/4

（ぎりぎりの瀬戸際に立っているのでは？）

当店の前の通りから人影が消えてしまいました。人影があるのは、朝９時、当店対面、スーパーの開店前に食料品、日常品の買いだめのための長蛇の列だけです。
それを過ぎると瞬時にして人影が消えます。駅までの通りからも人影が消えてしまいました。
まるで一頃の、武漢市や上海市の無人繁華街の映像を見ているかのようです。
某国のミサイル騒ぎの折でもこんなことはなかったのですが、ネットのデマによる買いだめと小中学校の休校が始まってからというもの、人々の認識が変わり、実感として恐怖を感じ始めたのではないでしょうか。
一方、話は突然変わりますが、過去に起きた事実は変えられません。過去に起きた事実の評価は変えられますが、事実そのものはいじりようがありません。そして評価の議論は後日でもできます。
なのに、なぜか一部の場所では「犯人捜し」と「粗さがし」ばかりをして、大切な時間を無駄に過ごしている姿が見えます。
確かに「公」において初動の不手際があったことは否めません。
不手際というのは、我が国国民が多数乗船していたとはいえ、コロナウィルスが蔓延していた英国船籍の船を受け入れてしまったことです。国際法上は受け入れの義務は全くなかったのですが、恐らく人道上の見地と、国民感情を汲んでの判断だったと思います。
加えて、国賓待遇訪日の中国の立場を慮って、中国訪日客にストップをかけなかった不手際も。
現在、ウィルス発生源で現在は沈静化しつつある当の中国やタイから我が国を隔離対象とする措置がとられましたが、外国の常識から見たらこれらの「信じられない受け入れ」をした「エキゾチックな国」を恐れてのことと思われます。（エキゾチック＝異なる文化風習、価値観）
日経のコロナマップや国別新規感染者数（推移）グラフを見るとわかりますが、当該のクルーズ船を除いた感染者数は韓国、イタリア、イランに比して圧倒的に少ないにもかかわらず、コロナ蔓延外国船を不用意に受け入れたことへの評価が利いたためでしょう。
(中国のネットでも多数その声があがっているようです)
しかし最早そのような解釈談義は無駄の極みです。
一刻も早く街に人通りを戻さなくてはなりません。今必要なのはそのための具体的な計画

とそれに従った行動です。それを切り抜けた後で、まだ時間と興味があるなら不手際の「犯人捜し」と「粗さがし」をすればいいだけです。
現在世界経済のけん引役の両輪の片方、中国が減速し、こののちもう片方の米国がコロナによる減速モードにはいると世界経済はとんでもないことになります。1929 年の世界恐慌と似た景色が眼前に広がることさえ想起されます。
それを防ぐためにもまずは「コロナ」の封じ込め。
そして、その要因を除いてすら既に昨年から始まっている我が国を含めた「世界経済減速経済モード」をどうするか？
その議論と対策行動を一刻も早く全世界的に考える「ぎりぎりの瀬戸際」に立っているのではないでしょうか。

2020/3/6

（弊社「ネパールカレーレストラン：ナマステ エブリバディ」の稚拙な宣伝？）

朝、歩いて自宅本社からお店まで出勤すると、殆ど人を見かけることなく、会うのはカラス君たちばかりです。
そういえばここ数日、やたらとカラス君の姿が目につきます。
恐らく、コロナウィルスのせいで、人間様が買いだめした生活財や食品のストックを長持ちさせようという意識の働きにより、排出されるごみの量が減っている（それはカラスの食料が減っているということでもあります）為に、彼らは必死にゴミアサリをするようになったからかもしれません。
うちのお店なども、ここ数日の間には、お客様の減少で、生ごみ系が減っているのですが、そうなるとカラス君たちは、今まで見向きもしなかったプラごみのポリバケツまでひっくり返す荒業をするようになっています。
駅までの表通りも、人通りが減っていますが、それ以上に、営業時間の昼間でさえシャッターを下ろしたままで、翌日になっても開けないでいるお店が散見されるようになりました。
ウィルス拡散防止対策による、こんな「外出手控え令」や、その規制のほかに不安しりの拡大による消費マインドが落ち込んでいるさなかに、広告を打とうが、価格を下げようが、通常考えられる販促手段をいくら打っても、あまり効果があるとは思えません。
費用対効果、すなわちコストパフォーマンスが悪すぎます。
ならばどうすればいいのか？
こんな時は、現在に投資するよりも、未来への布石を打った方が、パフォーマンスもよく、直感的に、銭勘定に合う気がします。
即ち、需要低迷による仕入れ品の価格低下によって、うまくすれば、いいものがタダ同然の投げ売り価格で手にすることができるかもしれない。
例えば小さな IT 投資や設備投資。
どうせお客様による繁忙はないのですから、たっぷりある時間を使ってその辺の下準備はできそうです。
とはいえ日銭を稼がないことには、そうやって先行投資をする未来そのものに届かなくなってしまいます。
で、そこからは、第二の仕事として、現下の苦境を教材とした社員教育による、曲がりなりにも、の売上高維持乃至は減速施策の実行。
で、
「しみったれた顔、すなや。にこにこせんかい。うちらの仕事は銭儲けやないで。お客さんをハッピーにすることや。そしたら後から自然と銭はついてくる。銭の心配は、わしがする。

お前らは、にこにこ笑っておいしいカリーを作ればええんよ。わかった？わかったら、お客さん、happy にする方法、自分の頭ではよ、考えんかい！！」
因みにうちは「ネパールカリー屋」でございます。
話の後、外国人従業員たちが「ガッツポーズ」をとって「ガンバリマっす！！」といったのには、正直胸が熱くなりました。
うちの店の名前はナマステ エブリバディ（Namaste everybody），
加油、ナマステ（中国語で、頑張れナマステの意味）でございます。
以上、弊社の「稚拙な宣伝」？でした

2020/3/8

（当店社是：負を切り替えて正を為（な）す、のそろばん勘定）

ごみの量が相当減っているのか、今朝の徒歩出勤時には、先般お話ししたカラスの姿さえ見かけませんでした。
たまにいると、餌をあさるのではなく、電線に留まって手持無沙汰の暇つぶしなのか？それとも「餌がね〜」といっているのか「かぁーかぁー」と鳴いているばかりです。
その中で驚いたのは、自分がそのカラスが止まっている電線の下に差し掛かった時に突然「かぁーかぁー」ではなく「ははははっ」と笑ったやつがいたのです。
譬えではなくオウム返しの「鸚鵡」が発する人の声みたいに。
自分は思わず
「うっせー、おめぇなんぞに笑われる筋合いはねぇや」
とつぶやいてしまいました。
とにかく日常が様変わりして来ています。
今日、自分は、当店のコックさんの一人が二日酔いで出勤できなくなったために、料理長に頼まれて初めて買い出しの列に並んだのですが、今まではめったに知らない人同士、話をしないこの界隈の人々も、事の重大さがそうさせるのか、そこここで、初対面のもの同士の「臨時井戸端会議」が始まっておりました。
世の中が流動的になると、不安定になり大抵は不安になる反面、その不安が逆に人々を引き寄せ、今までになかったコミュニケーションを呼び起こすこともあるようです。
前者の不安が負の面であるとすれば、後者の今までになかったコミュニケーションの始まりはプラスの面といえるかもしれません。
おそらく、物事にはどんなときにも、またどんなものにも正負の二面があるように思えます。
であるなら、このコロナ禍や景気後退の負の面が強いときにこそ、物事の特性を有効に活かして「負の面が同時に持ち合わせている正の面に目を向け」ることで、この難局を乗り切ることに注力した方が「得」なような気がします。
「万事二面有。負以正為」
上記文は、格好はいいのですが、いささか分かりにくいので下記に意訳をかきますと、
「何事にも二面あり。負を切り替えて正を為（な）す、のそろばん勘定」
が、当店「ネパールカレー料理：ナマステ エブリバディ(Namaste everybody)」の社是でございます。

2020/3/9

（稚拙な宣伝 その２「今、うちにできることはこのくらいでしょうか？」）

「ボス、給料減らしてもいいよ」とか
「ボスから笑顔が消えると、私の笑顔も消える。笑ってください」とか外国人従業員達がいろいろ気遣ってくれるので、挫けてはいけないとは思うのですが。
このコロナ禍とそれが加速度的に増幅する、それ以前始まっていた景気減速モードのせいで、売り上げは壊滅的となり、店を閉めようかどうしようか？と思う日々。
店を開けていれば売上０でも、運営費が毎月 100 万円かかり、かといって売りに出すにも、契約条件で向こう 3 か月の家賃と撤去費用の合計が少なくとも 400 万円。そんな資金があるはずもなく。
と、上述、かくの如しで、進むに進めず、引くにも引けません。
ならばどうするか？
こんな時は基本に戻るしかありません。曰く
一つ。下手に動くな。
二つ。原点に戻れ。
三つ。災い転じて福と為せ。
以上併せて「大機在大変」（大きな変化の中にこそ大きなチャンスがある）と。
第一番目は、ここ、すすき野の地を動かず、この危機と戦うこととする。
第二番目は、一旦銭勘定は棚に上げて「お客様を happy にすること」に徹する。
そして第三番目は、今こそ 10 年先への「種まき」をする。
です。
それで、思いついたのが学校に行けなくなった子供たちの為の「臨時学童クラブ」もどきとしての「英会話教室」です。
一つ。マスク着用で来ること
二つ。除菌スプレーは店側が用意。
三つ。各人１ｍ以上離れて座ること。
四つ。みんなで助け合い励ましあうこと。
五つ。お金は寄付のみ。（してもしなくても ok）
おまけ。あつあつナンとジュースを置いておきます。
今、うちにできることはこのくらいでしょうか？
来てくださるか否かは、皆さん次第です。
上記、お問い合わせは、
ネパールカレー料理 ナマステ エブリバディ（Namaste everybody）

まで、どうぞ。

2020/3/10

（大難のサバイバル法：プラス思考（plus thinking））

コロナ禍（corona virus）に始まる世界経済危機(all over the world economic crisis)、このめったに訪れることのない未曾有の大難は、反面「千載一遇の大機（チャンス)」でもあるかもしれません。
そういったからと言って何も、マスクや衛生用品はじめ食料品を買い占めて大もうけをしようなどというセコイ話ではありません。
何の話かというと、このような大難に遭遇した場合、それまでの平時では決して揺らぐことのなかった「岩盤のごとき既存価値観や制度」が揺らぐからです。流動的になり、新しい切り口が産まれ、現時点において超零細企業でしかない我々にも「万が一のチャンス（大機)」が訪れる可能性を手にすることができるからです。
リーマンショック後、然り。東日本大震災（明日は 3.11 です）後、然り。
ですが、その原理を逆用し、この混乱に乗じて、ミサイルを発射するなど、よからぬ思惑を実現しようとするような輩の行動には細心の注意を払う必要もあります。
それはさておき、長い人類の歴史を紐解いてみると、たとえそれまでの為政者や民がどんなに栄耀栄華を極めていても、その中に「公私を混同した自分勝手な振る舞いや専横、傲慢、偏在（かたより)」があると、いつしか変調がうまれ、その矛盾への最後の痛打として疫病（今回はコロナウイルス）がとどめを刺し、そのガラガラポンの後に意を糺した新しい萌芽が産まれていることに気づかされます。
いってみれば、今回のこのコロナ禍は、リーマンショック、東日本大震災に続く三番目の締めくくりとして、古い衣を脱ぎ捨て、大きく脱皮をするための「生みの苦しみ」である可能性があるような気がしないでもありません。
この、今はまだおぼろげな予感に過ぎないものを、確固たるものとして実現するために必要なのは、ひょっとしたら過去数千年にわたって言い慣わされてきたありふれた文言。
即ち「常に物事の正（プラス）の面を見ようとする前向きな気持ち」だけなのかもしれません。
卓球の石川佳純さんが、試合に勝てない日々を過ごし、その苦しみの中から見出したのが「勝てなかったのは気持ちが、いつしか後ろ向きになっていたからです。後ろ向きになると自信がなくなり迷いが産まれ、基準が相手に移ってしまいます。これでは勝てるはずがありません。軸が相手に移ってしまって、自分の主が自分ではないのですから。それに気づいたとき、負けの原因が分かりました。自分は自分で行こう。それでだめなら仕方ない。引かずに前に出る。「自分」を「信」じる「自信」を持って」
これを一言でいうと「プラス思考（plus thinking)」
ありふれた言葉ですが、今後を生き抜くには、これ以外に方法はないような気がしております。

2020/3/11

（3.11 Spring has come？）

9 年前の大変だった日。
9 年後の今日もみんな大変です。
それぞれみな大変なので、全部書くと、それこそ自分も「大変」になりますし、聞いている方も、あちこち話が飛んでいるのを聞くのは大変そうですので、聞き易くする意味で、的を絞って自分の属している飲食業界について少し。
ネットの記事によれば、今回のコロナ禍によって、銀座や新橋、新宿や渋谷等の繁華街、それも高級志向或いは飲酒で稼ぐお店ほど、ダメージが大きいとか。具体的には、売り上げ減８０％から９０％。
その次が、各沿線駅そばの店内飲食専業が３０％減。
ところが逆に、駅傍ではないお持ち帰りや宅配を併業しているお店は売上が１０％から２５％増。
理由は人の集まり自粛で宴会や旅行が減り、代わりにテレワークなどで自宅傍に生活の軸が移るとともに、保菌可能性が考えられる見知らぬ人と接触せずに食事がとれる場所として自宅が浮上したことがひとつ。
もう一つは、テイクアウトや宅配は調理の手間がいらないために、突然旦那さんやお子さんがいる羽目になった主婦層に受けているようです。
が、しかし、当店でそれ以前に宅配を始めてみはしたものの、あまり注文が来ておりません。コロナ禍以降の今もあまり伸びていないのです。
「なぜ？」「何がいけないの？」「なぜこの好機を生かし切れていないの？」
と、自宅本社であれこれ試行錯誤をしていたところに、お店の外国人従業員から
「宅配注文来た。でも車動かない。雨だから自転車ダメ。カッパ（レインコート）ない」
「えーっ！？何で動かないの？何分経ったの？注文来てから。えーっ！！30 分！！」
であわててお客様に電話をし、事情を説明してお詫びをした後
「え、お待ちいただける！！何とか他の方法で必ずお届けしますから！！」
で、仕方なくタクシーを呼び、店に立ち寄ってカリーをピックアップしてから、更にタクシーを飛ばしてお届けの上、そのタクシーで店まで帰ってまいりました。
売上が 3 人前で宅配料込 2010 円。タクシー代が呼び賃込みで 4400 円。当然結果は大赤字。
が、しかし、この際採算は度外視です。今の状況で千円単位をケチったところで、損益の改善なんてたかが知れています。焼け石に水です。
ならば、将来の布石のために「あの店はあそこまでしてくれた」という「記憶をお客様に残した」方が、意味があるような気がします。
そうしてお店に戻ると、あるお客様が、お店の駐車場への車の止め方を聞いてこられたので、店先で

「今日はお隣、二軒とも定休日なのでどこでも大丈夫ですよ」と申上げたのですが、なんとその方々がネットで手前どものサイトをご覧になって「いいね」を下さり、あろうことか実際に当店にこられた方々だったのです。
今朝、駐車場にまつわるネットの書き込みを見て初めて知りました。
これらの喜びに比べれば、千円単位の赤字なんて屁みたいなものです。
又々、もう少し先まで行けるような気がして参りました。
そういえば今日、外は Spring has come みたいですね。

2020/3/12

（三つの数字読み。逆転の発想で）

別に暇というわけではないのですが、コロナ禍やリセッション傾向で損益的に悪化するばかりの事業での銭勘定ばかりしているのに、いい加減うんざりして、同じ数字でももっと何かないのかなと思っていたところ…
頭に残った数字が三つありました。
一番目、我が国の可処分所得推移。
二番目、ILO（国際労働機関）の世界のニート率
三番目、最近の AI アルゴリズムによる日々1000＄単位での米株価の乱高下（ボラティリティーアップ）
一番目については、景気の長期持続的拡大という判断とは別に、この 20 年以上我々「庶民」の可処分所得（簡単に言えばお給料）は、ほぼ０％アップで一向にあがっていない事実。
二番目については、ニート、即ち就労就学適格年齢になっても働きもしないし学校にも行かない人たちの率が、世界的に上がっていて、今や２０％近く、凡そ 5 人に 1 人にもなっている事実。
そして三番目は、株式市場における個人投資家と機関投資家（プロ）売買高の割合はおよそ７，８割が後者で、しかも AI アルゴリズムにより 1 秒間に数千回の取引（売買）を行い、およそ企業の事業意図や社会的価値などとはまるで縁のない、単なる「金儲けマシーン」となっていること。
現時点の AI やフィンテック（金融テクノロジー）は「金儲けマシーンの部品」にしか過ぎず、いかにそれが奇異なものかといえば「コロナに決して罹らない AI や Fintech」が我々の生活の折衝与奪力を持っているコロナに対し、その後、予想されるリセッションに関わる売買の一切の指令を、完全なブラックボックスの中で行っていること。それが意味不明な連日の 1000＄単位の株価乱高下の正体。
で、この三つを一つのストーリーとしてみてみると、
親はあくせくして働くのに一向に給料は上がっていないし、元気もない（一番目）
大企業に入ろうが、そのためにいい学校に行こうが、その先待ち受けているのは、結局は「お金を巡っての、争い」だけ（三番目）
で、上記二つを見るに
「そんなことをして暮らして何が楽しいの？」
「お金をたくさん持てば幸せになれるの？満たされるの？」
「いい加減うんざり。興味ないよ」で、そんな社会に参加したくなくなったのがニート？（二番目）
なんか、そんな気がしないでもない、本日の 3 つの数字読みでした。
逆転の発想で、ニートの感覚の方が正しいと仮定すると、今後、我々が彼らを参加させよう

と無理強いしている、その社会の側の方を変えなくてはならないことになりますが、そうなると、どのような世界が新たに求められることになるのでしょう？
お金を第一とはしない価値観による社会？
そうなるとそれは、ひょっとして、有史以来の大転換？
さて、どのような…
これらを考えてみるのは、結構面白いことかもしれませんね

2020/3/13

（こんな時こそ、祭りせにゃ、あかんで！！）

中学校の時の理科で習った法則に「エネルギー不滅の法則」というのがあります。
簡単に言うと、どこかのエネルギーが減って見えても、実はその減って見えた等量がどこかに移っているだけで、全体のエネルギー量は一定である、というものです。
つまり、一見減っているように見えるものも、実は失われたわけではなく、全く別のどこかにマグマの如く溜まっているだけなので、視点を変えてそれを見つけ出せば、新しい突破口が見つかることになります。
これを現下の卑近な例で表せば、現在、株式市場、債券市場（安全資産とされる 10 年物の米国債ですら金利下降の後に一転して上昇（＝価格は低下＝信任欠如）です)、商品市場（最直近では超安全資産とされる gold すら売られております）から劇的に失われたお金は、別の何処かにたまっていることになります。
それはどこか？
言わずと知れた「現金(=cash)」にです。
しかも我が国は、マイナス金利政策であり且つ国民の我々も現金信奉や貯蓄信奉が強い性向があるので、銀行にすらいかずに「タンス預金」へと回ってしまう確率が非常に高いのです。
（解説：マイナス金利とは、銀行に預けておくと却って資産の目減りがおこる政策です。なぜそんなことをするのかといえば、預けておいても仕方がない。ならば投資に回そうということで、経済の活性化を図ろうとする意図だったのですが、そうはならず、結局家庭内のタンスで眠ることになってしまったようです）
ですから、大不況がやって来たとしても、完全にお金が無くなったわけではなく、タンスの奥へ奥へとどんどん匿われて（かくまわれて）いるだけなのかもしれません。
昨今自分が住んでいる地域の自治会エリアで「空き巣」が頻発するようになったのも、そんな流れをかぎ取ったアジア系窃盗団（最近は単独ではなくチームプレーでやっているようです。即ち、計画立案と売りさばき役のボス、情報収集役、実行役、見張り役、逃走役の 5 人一組で）のせいかもしれません。
それはさておき、要するにお金が消えたわけではない。ただ、等比級数的に拡大した不安心理がその出口を厚く閉ざしているだけだというのが当店の見立て。
となれば、当店の課題は、少なくともこの近隣地区においてだけでも、その「不安心理をいかに低下させるか？」でしょう。
となれば方法は一つ。
「北風と太陽」に倣った「太陽作戦」です。お金を力でむしり取るようなことをせず、お客様の気持ちを緩めて、自然と払いたくなるような雰囲気の醸成。
で、外国人従業員に

「おい、業者さんには、注文どんどん出して、きちんとお支払いしいや。お客さんには、冗談言うたりにニコニコして、盛り付けもたっぷりしぃ。こんなときこそ never say joke(=冗談言うな)じゃなくて、Say, say joke(=冗談どんどん言え)やで。今こそ、祭りせにゃあかんで。分かった？ん？」

（補足：金は天下の回り物、ではなく、金は天下で次へと回すもの。お金は使わなくては入って来ない。お金は後からついてくる）

2020/3/14

（三度目の危機と襷（たすき）リレー）

本日はホワイトデー（バレンタインデーのお返し日）
は、関係なくて、本日の以下の記事を、実は３．１１に書ければよかったのですが…今日と相成りました。
曰く、
殆どリストラ同然で会社を追い出されたときに貰った退職金の半分をはたいて金地金を買い、それが倍の価格になったころ、2008 年のリーマンショックに遭遇。
その折、他で大損をした穴埋めにその金地金を売り払ってイーブンイコールゼロで切り抜けることができました。
買ったときはうつ病の入り鼻で、なんでそんなものに大枚をはたいたのか、今となるとあまりはっきりとした記憶がありませんが、多分うつ病による失業の恐怖から、碌に意味も理解しないまま「有事の金」の言葉にすがっただけなのかもしれません。。
次に遭遇した危機が 2011 年の東日本大震災。
このときは「こんな時にこそお金を使って、世の中を回さなくてはいかんぞ」と息子たちに言った手前、有り金の大半を使って株を買いました。
日本の株と米国の株。
そのうち日本の株はそうでもなかったのですが、米国の株、特に今でいう GAFA の株と他数社の株が、それ以降数年で、平均 2 倍ほどになって大もうけ。
で、調子に乗って、それをバックボーンにして 6 年前、即ち 2014 年に起業したのですが、それ以来事業は鳴かず飛ばずで、それら株式もすべて売り払い、挙句の果てには今はやむなく、借り入れ事業生活となっております。
そして今回 3 回目のコロナ禍危機に際して、次は何に投資をして、未来につなげるか？を考えてみたのですが、いろいろな経験の末、もう金融資産に投資をするのはいい加減うんざりしてしまったので、今回は「人に投資」をしようかと思っております。
それで「人」即ちどのような人材に投資をするか？といえば、
外国人従業員達と我が国の若い人たち（或いは年齢を抜きにして、気持ちの若い人たち）にしたいなぁ、と。
ま、年齢的にも、これが自分の最後の投資となるような気がしないでもありません。
ですが、この投資で、受けた側の人材が未来につないでくれればいいだけの話なので、自分にとっての最後かどうかというのは、どうでもいい話のような気も致しております。
そういえば東日本大震災の時に、よく「絆（きずな)」という言葉が使われていましたが、今思うと絆というのは何も「太いロープでがっしり縛る」イメージではなくて「リレーの紐襷（ひもだすき)」のイメージの方があっているような気がします。
先祖からもらったものを自分が預かって走り、未来の走者に手渡しして引き継いでいくイ

メージ。
なんか最近は、その方が重々しくもなく、流れがあって、いいような気がしておりまする

2020/3/17

（こんなコロナに、これ困難？ローマは一日にして成らず）

今回のコロナ禍で痛切に感じたことは、たとえどこかの国の大統領であろうが国家主席であろうが、それら地位、財産、権力度合いに関わらず罹患してしまうということです。
それら人間社会にのみ通用することをもってしては、何の役にも立たないという事実です。
ならば、更にお金を使って、大統領や国家元首以上の防疫対策をすればいいのか？
というと、全く反対だと思っております。
防疫対策を施して、守りの姿勢に入り、重たいものをまとって殻の中に入ることで、活動が鈍れば鈍るほど、別の言い方をすれば、その活動不足による重荷で血液流量が減れば減るほど免疫力は落ちていきます。
反対に、多少の危険があっても、戸外に出、運動や活動をすることで血液流量がアップすれば、リスクのアップと引き替えに免疫力を獲得できます。
抗体や免疫力、サバイバル能力というのは危険を代償としてしか得ることができないものだと思っております。
そこを理解すれば、コロナ禍による外出自粛のストレスにさらされ、いらいらしているお子さんや、ご両親自身の対処の仕方もおのずとわかってくるのではないでしょうか。
今回の例でいえば、マスク、除菌ナプキン持参の上、喚起がよく人工物より天然自然の多い人口密集度の低いところを選んで出かけるなどです。
１００％の安全というのは幻想でしかありません。
そんなあり得ないことに時間を費やしたりすることや、公的機関に要求を突きつけるたりするよりも、それぞれのご家庭、地域、職場で、日々どんな形にせよ危険というものは常にあるのだという認識に立って、訓練のつもりで、これまた日々、トレーニング、訓練、体験体感して免疫力、サバイバル能力を高めようという認識とそれに従った能力を高める行動を起こすことの方が、より有効で実のある手立てのような気がしております。
これは経験則上「１００％の安全はない。それを保証するところも一つもない。だとしたらいかに自分自身で、その危険度の低下を図れるか？そのためには日々訓練をするしか他ない方法はないだろう」というものに従っております。
事が起こった後、いくら合法的にお上に文句を言っても、失われたものはかえってきません。
そのようなことに時間と労力を費やすのは、いざことに際してはあまり有効な手立てとは思えないのです。
こんなコロナに、これは困難な解決策です。
ですから、１００％の安全が保障されるまでは外に出ないよりも、７０％でも確実なものを得るために「敢えて積み上げるために日ごろから多少のリスクを冒してでも、外に出る習慣

を養う」ことの方がはるかに有用で大切なことのような気がしております。
なぜなら、ローマは一日にしてなりませんから。

2020/3/17-2

（とてもきつい意見、ですが…）

コロナ禍をはじめとする、様々な想定外の悪環境、悪状況、悪事態の中で、
自分が思うに、
奥さんが倒れたときに、男が料理を作って助ける意欲があるかどうか
旦那さんが倒れたときに、女が働きに出て助ける意欲があるかどうか
その時にその意欲がないなら、さっさと分かれ方がいいような気がしております。
かなりきついものいいですが、それを相手ができないなら、さっさとお別れなさい。
それが愛すべきお子さんの為だと思います。

2020/3/18

（本日の一言）

「おらぁ、バイキンなんぞにゃあ、負けたかねぇ！！」

2020/3/20

（中庸）

「平時においては心配性で油断せず。大難時においては楽観性で落胆せず」が、バランスが取れてよろしいようです。
(注：これを以て「中庸」即ち「常に偏りなく（カウンターバランスを取りセンターラインに戻す)」と申すようです)

2020/3/22

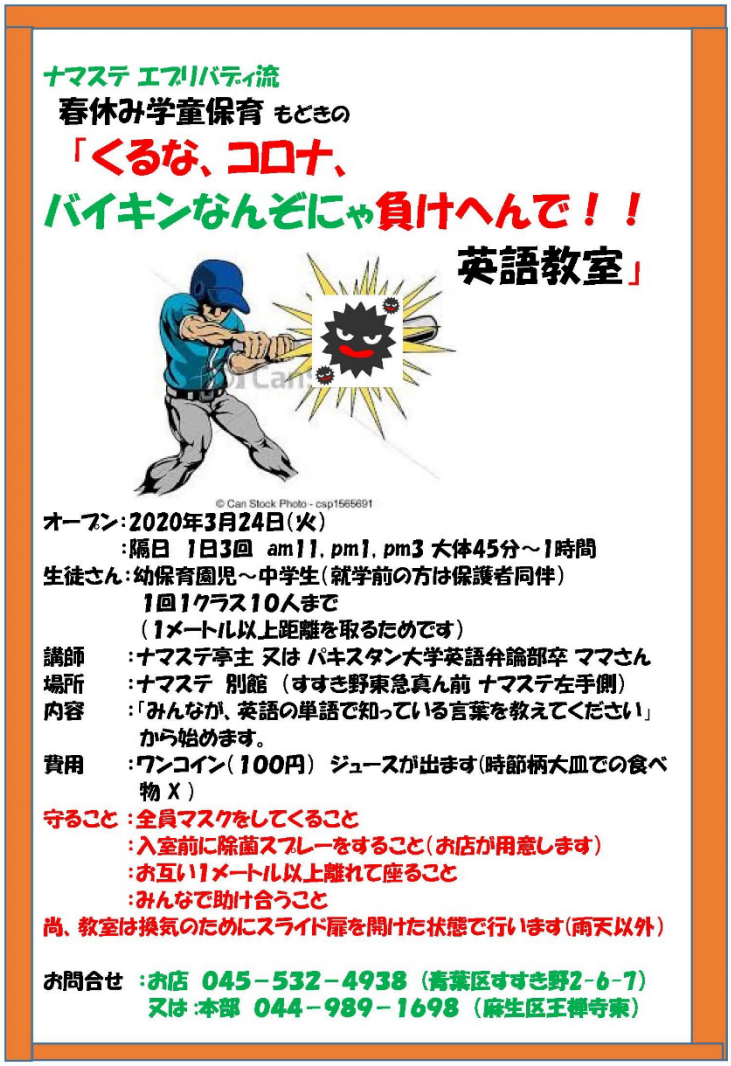
（Be a lightning house!!「灯台たれ!!」）

カレー屋の当店では、ランチタイムのお客さんの数は若干増えているのですが、テイクアウトばかりで一人当たりのお客様単価が暴落。
ディナータイムは、濃厚接触の可能性（とはいえこの地域でまだ感染者はでておりません）が心配されるらしく、ご来店人数が大幅減。
そんなわけで売上が前月比 3 割以上減っていることもあり、外国人従業員達は、口をそろえて
「お客さん来ない。電気つけておくのはもったいない。見せ早く閉める方がいい」
といいます。
で、自分は
「反対や。逆に閉店時間を 1 時間延ばして 10 時にするで」
といったらみんなは目を丸くして、見るからに頭の中は大混乱の様子がありあり。
曰く
「なんで？頭おかしいのと、ちゃう？」
いえいえ、おかしくはありません。
この町はただでさえ夜の人通りが少ない。9 時を過ぎて道を挟んだ前のスーパーが閉まると、殆ど人気もないし、光もなくなる。
それでも、かろうじて飲み屋さんが光をともしていましたが、昨今のコロナ事情で、その光もなくなりました。
「このままでは、町が死んでしまう」
「不安に駆られた寄る辺ない心理が光を失って、ますます萎えてしまう」
それで、当店が、その早仕舞し始めた飲み屋さんのリリーフピッチャーかピンチヒッターとして、灯りをともそうという思いつき。
それでお客様が来るか来ないかは分かりません。
わかりませんが、何もしないでいるのは癪に障ります。
で、外国人従業員達に
「Be a lightning house in this town, we are!!「この町の灯台たれ！！」
と吠えた次第。
一刻も早く平時に戻ることを願うばかりです。
赤字の上重ねは正直やはり「メチャ、キツイ」のです。

2020/3/23

(「バイキンなんぞにゃぁ、負けたかねぇ」ので…)

「バイキンなんぞにゃぁ、負けたかねぇ！！」
ので、一応こんな催し物を考えてはみたのですが、
みなさん、来られるのだか、どうだか・・・



2020/3/23-2

(良くも悪くも「一寸先は闇」)

昨今コロナ禍で、営業日ですら開店休業状態みたいなものですが、今日は定休日でさらに時間があるので、少し四方山話（よもやまばなし）を。
日経電子版を見ておりましたら、黒田日銀とヘッジファンドの空売り対決みたいな記事が載っておりました。
空売りとは自分の理解では、ある時点でお金を借りて株なり債権なりを購入する。そして次のある時点で、その時の株価なり債権価格で売ったお金を貸元に返す仕組みを利用して、例えば借時点１００だとして、次の売却時点で価格が８０になっていたら 80 を返せばいいので 20 の儲け。
と読んで、ヘッジファンドが売り攻勢をかけたのに対して、黒田日銀が何千億の ETF（金融商品）を買い入れる形で金融市場に資金供給したものですから、ヘッジファンドは空売りで儲ける思惑が外れて「大損こいた」とかなんとかいう風な記事でした。
（注：借時点 100 で売時点が資金供給目的の買い入れで価格が 120 に上昇していたら 120 を返さなくてはならないので２０の損となるわけです）
これを読んで、なんかうんざりしてしまいました。
「みんな困っている。職を失うのではないか？食料はじめ生活物資を手に入れることができるだろうか？命が危ないのではないだろうか？」
国民諸氏がそんな思いでいるのに「あんたら、この期に及んで、まだ金、金、金なんかい？銭ゲバもいい加減にしいや！！」
と。
恐らく若い人の中には、自分以上にうんざりしている人もいるような気がします。
年配者と違って若い人は生まれてこの方お金にあまり縁がない人が多いですから。
反対にお金をしこたま持った経験のある年配者（バブル世代）は、更にお金に執着するかもしれません。
それはさておき、仮に自分が、そのヘッジファンドのディーラーに上記のような意見をしたとしても、今まさにその行為のタダ中で、他の人の声なんぞ聞こえやしないディーラーさんからは
「うっせー、わしゃ、今忙しいんじゃ。黙って引っ込んどらんかい」
と言われるのがオチでしょう。
結局、今ある世の中を少しでも別の形にしなおそうと思ったら、やはり今の社会の中で中核を担う就業世代に何を言っても無駄のような。
それで、６年前、変えるなら聞く耳を持った人の居る「辺境から」という意味で「就業期間社会」に入る手前の学生さんやら「就業期間社会」を卒業した退職者さんやら「就業期間社会」ではとてもメインになれそうもない欧米諸国以外の在日外国人さんやらと何かできな

いかな？というので始めたのが今の弊社のもともとの経営理念でした。
ですが、意外にも一番遠いと思っていた在日外国人就労者から、その端緒が始まるとは、その当時、まるで考えてはおりませんでした。
当然コロナ禍などというものは、想像すらしておりませんでした。
世の中というものは「一寸先は闇」
踏み出した一歩先が二の開いたマンホール」や、反対に「ある日突然棚から牡丹餅」という意味でも「想定外の連続」のようです。

2020/3/25

（春に哲学。これじゃぁ、儲かるわけおへん、わな）

またまたカラスのお話で恐縮ですが。
最近やたらとカラスはじめ小鳥たちの姿が目につきます。
恐らく人間様が、外出緊縮令もどきで逆に巣ごもりしているために「これはありがたや」とばかりに、その活動範囲を広げているためだと思われます。
春が産卵時期なのかどうかは分かりませんが、停留所でバスを待っている傍にある木の上では、カラスが餌の代わりに落ちている枯れた小枝を口にくわえて何度も運び込み、せっせと巣作りをしていました。
そういえば、小鳥たちもやたらと囀りあい（さえずりあい)、中には小鳥同士で追っかけっこをしているものがいるのを目にすると「春先猫」ではありませんが交尾産卵の時期なのかもしれません。
こうやって動物界を見る限りにおいては、春はやはり春のようです。
同じように植物界に目を転じてみると、まだ少し早いのですが、薄く淡いピンク色をした桜花が咲き始めていて、それが朝日に透けて品高く輝いております。
例年ならお花見の季節。
しかし「お花見」とはいいつつ「花より団子」で桜に等ちっとも目を向けずその下で「どんちゃん騒ぎ」をするだけの実情より、たまにはこうやって一人しみじみと桜の美しさを味わうのもいいのかもしれません。
今日は、販促用のチラシをバックパックに入れて新聞販売店に徒歩で届けた後、その帰り道に街頭の桜を見ながら「ひとり花見」をしてまいりました。
自然界はいつもと比べると多少の異変はあるものの、大筋ではいつもと変わりません。
変わってしまったのは人間界だけのようです。
コロナ禍による大異変。
しかしこんな時は「ぐぐーっ」と目線をカメラスパンして「忙中閑あり」の息抜きがてら、天然自然界の中での人間界という巨視的な視点で見た方がいいような気もします。
その「寄り道行為」の方が、この大乱大難時を切り抜ける「解」のヒントを見つけやすいような気がします。
兼ねて言われている気候温暖化も人間活動と自然界の融和といったような視点で考え直してみるのにいい機会なのかもしれませんし。
そんなことを言いつつ、足下では尻に火が付いたのも同然の弊社、危急存亡の瀕死経営状態。
ぼんやりと桜を見ながら耳元では
「ボス、のんきに哲学なんぞしている場合や、おまへん、で。しっかりしておくれやし」
そんな外国人従業員からの嘆きともつかない空耳が聞こえたような気がいたしました。
「ま、これじゃぁ、儲かるわけおへん、わな」

2020/3/25-2

（「仲直り」のご提案）

最近よくメディア上で目にする ESG というアルファベット 3 文字熟語。
E=Environment（環境）
S=Society or Social（社会（性））
G=Governance（企業（統治））
これは、投資において財務指標以外に、近年重要視されるようになったものの頭文字を束ねた言葉です。
それを更によく見ると、この文字の並び順にはちゃんと意味がありそうです。
即ち環境＝自分らが暮らしている土台である地球が一番上。
その中での人類社会が二番目。
そして最後に自分たちが実際にお給金を戴いている企業が三番目となる順位、順列でしょう。
では、なんでこれらが、且つまたこの順位、順列で重要視されるようになったかというと、企業活動（経済活動）、即ち G が S を疎んじ、S が更に E を疎んじ続け「下剋上」とばかりに下位のものが、上位からその順番で包含されることが「天然自然の理にかなった関係」を覆して下位が上位を我が物顔に私物化し、破壊すら黙認、且つ見て見ぬふりをする「合法的犯罪に近い行為」または「侵略行為ともいえる敵対関係」にまでなってしまったからでしょう。
もしわれわれが G 即ち企業の中において気持ちよく経済活動を営みたい（平たく言えば気持ちよく「おまんま」を食いたい）のなら、相手の存在を慮り（おもんぱかり）労わる立場に立って、その上にある S 即ち人類社会とまず仲直りをし、そのあとで S は E 即ち地球環境と仲直りすることが、何よりも今求められるのではないでしょうか。
直下、いつ闇が晴れるともわからぬ、この「コロナ禍惨禍」において、天然自然からの「強烈な注意喚起又は教育的指導」とも思える黒雲猊下（くろくもげいか）に恐怖におののき、力なく立ちすくみながらも、その先の人類社会を見た場合には、これらの「仲直り」は、何をさておいても「獲得すべき智慧」として、或いはまた目指すべき行動原則であるとともに為すべき行動そのものなのではないかな？と思っておりまする。
（本日はいささか頭（ず）に乗って、大風呂敷を広げすぎた感が無きにしも非ずですが）

2020/3/27-2

（テイクアウト 500 円ぽっきりの値下げの中身）

ちょっと経理的なお話をしますと、
コスト（費用）には変動費と固定費があります。
売上からコストを引いた残りが利益です。
このコストの内、変動費は、まぁザックリ言って食材費。
固定費は、これまたザックリ言って人件費とテナントのレンタル代です。
変動費を割った値付けをすれば、売れば売るほど赤字が拡大します。
ですが、変動費より少しでも高い値付けであれば幾分かの利益（これを販売限界利益といいます）が残り、その残りで、曲がりなりにも固定費の吸収（平たく言えばいくばくかでも従業員へのお給料の支払い）ができます。
当店では、お出しする商品（カリー）の味や質は絶対落とさない。社員の首は、お店がつぶれない限り、切らない（不正行為やサボタージュは別）という約束をしましたので、この二つをせずに現下のコロナ禍で生き残るには、売り上げを上げるしかありません。
しかしこれは企業にとって一番難しい選択です。
マーケティング能力と企業理念そのものが問われるからです。
しかし約束を守って、且つ生き残るにはそれをやるしかありません。端折って言うと「売上アップ」以外に方法はありません（利益を出す可変項目である売上とコストの内、コストをフィクスすれば残るは売上項目だけですから）
具体的に言えば、その際に使われる手法は昔からよく言われる方法、即ち「薄利多売」です。
お客様の来店数の減少を食い止めるために一品当たりの付加価値を盛って、高値で売るというのは、現下の状況では「あり得ません」
まだしも、気軽に手が延ばせる値段で、且つ品質を維持。
更にはカリーの副産物として、その中に含有されるかプシン（辛み成分）が有する殺菌作用及び血流をスムースにすることによって上がる免疫力の効果も期待されることから、何一つ水増しをせず、手抜きもしないことで、皆様のお役に立てるという考えの元、テイクアウトカリーセットを 550 円から 500 円に、宅配料も 260 円から 100 円へと、すべてワンコインになるよう設定した次第。
が、しかし、本日のところ、値下げをしてもお客様がお越しになっておりません（昼現在）
しかし、これ以外に「解はない」と思っております。
さて、この物語、いかなる結末になりますことやら。
ナマステ エブリバディ座の座長としては、ドキドキはらはらの毎日でござります。
（注：但しカリーとナンの量だけは、質をキープする代わりに５％ほど減らさせていただきました。ご了解くださいまし。これでも現状に比べてお品代１０％ダウンの、残りの５％分赤字幅は拡大しますけど、やむなしです）

以上正直にコストの中身をお話申上げました。

2020/3/28

（天与の「スペシャルホリデー（special extra holiday)」？）

コロナ禍でもなんでもそうですが、苦しいときに現在だけを見るとほぼ９０％絶望的な気分になります。
ところが、少し時間軸を伸ばして未来のある時点をポジショニングすると、距離が伸びた分絶望の度合いが薄まって、現時点の絶望の度合いも９０％から３０％くらいに感じられる時間効果というものを経験則から得ているので、従業員には
「今だけ見て仕事をするな。今だけ見ると暗くなる。明るくなりたいなら、未来に向けて仕事を、せい」
と言っております。
そのため、本日はお店が閉まった後にも、シャッターを全部閉めるのではなく、四分目だけ閉めて、灯りは外を照らすように、室内灯を一晩中つけておくように指示をいたしました。
無論ひとつは、お店の存在アピールと将来役立つはずの、お客様の脳裏への記憶のためですが、そのほかにも、町の人々の不安心理を和らげるためや、今一つは犯罪抑止効果のある監視カメラが少ない通りで、真っ暗になってしまうと防犯上、かなり不用心になってしまうことへの防犯対策にもなります。
こんなことを考えるのは、以前自分が地元自治会の交通防犯部長を務めたことがあったからです。
「犯人は暗がりと物影が大好き。人の交流の少ない町がねらい目」
だと、警察署の講習会で教わりました。
それはさておき、令和の時代において、突然夜が真っ暗になってしまったわけですが、考えてみれば、電気のなかった時代には当然街灯もなく、店内の煌々とした灯りもなかったはずなので、夜間にお店は営業していなかっただろうし、職場での残業などということもなかったかと思われます。
となると、日が暮れればとっとと家に帰り、早々に床について朝までぐっすり寝るしかなかったわけでしょう。
とにかく便利なものが少なかった時代なので、その労働は結構きつかったでしょうから、疲労回復のため長時間の睡眠は必要だったでしょう。
で、ぐっすり長時間寝るわけですから、現代病の一つであるうつ病なんかも少なかったと思われます（不眠がうつ病のもとになる場合が結構ありますし、更に助長させる悪影響も報告されております）
であるなら、この際昔にタイムスリップしたと思って、早寝早起きでぐっすり睡眠した後に朝のお散歩（もちろんマスクを着けてですが）なんぞを家族で楽しんでみてはいかがでしょ

うか？
或いは、夜の過ごし方が変わるので「少子化に歯止め」がかかることにもなるかもしれませんし（？）
あ、いやはや脱線、失礼。
ともあれ、現下コロナ禍においては、とにかく未来のある時点をポジショニングして、今はそれに向けて英気を養うための天与の「スペシャルホリデー（special extra holiday）」くらいに考えた方がいいのではないでしょうかね。
「えっ、切羽詰まっている割には脳天気だって？」
はい、これが親から授かった自分の唯一の特技なのです。
「とうちゃん、かあちゃん、脳天気に産んでくれてありがとう、ね！！」

2020/3/29

（「順番」の大切さ Ordering is very important）

緊急困難時、例えば今回のコロナ禍等においては、苦しい今だけを見るのではなく、未来に目を向けて仕事をすること以外にも、いくつかのテクニカルな escaping way 即ち回避法（＝shock absorbing way 緩和法）があります。
そのひとつが、損益（profit & loss）を見るのをひとまず置いて、手元資金(cash flow)を重点的に見るやり方です。
たとえば、月末締めの損益でいえば大赤字であっても、取りあえず本日の支払いができれば次につながりますので、まずは「本日の支払いができるようにする」施策です。
本日の支払いができるようにするには本日の手元資金がそれ以上あればいいのですから、支払い前に売り上げがそれ以上あるような施策を打つわけです。
例えば苦しい山が来るなと思われる期間の事前に広告広報を適宜行うとか。
次の施策は、日々の支払額をできるだけ小さくすることが挙げられます。
具体的には、月末一括の売掛金払いを止めて、日々の都度払いに切り替えることや、それでも苦しいときには都度払いを分割にしてもらったり、複数業者の支払日が同じ日にならないように分散させたりするわけです。
それでも足りないときには、自分のプライベートマネーを注入します。但し、このように支払いをこまめに分割分散しているので、1 回のプライベートマネーの注入額は数千円単位で済んでいますから、そんなに無理なことにはなっておりません。
従業員の給与も 3 分割払いという事態もありました。しかし 1 円たりともかけることなく満額と給与支払遅延料金（借入想定日割金利分）を足して全従業員に払ってきました。
というのも、従業員から笑顔が消えてしまったら、お客様が来なくなるからです。お客様を呼び込みたかったら、まずは従業員の笑顔ときちんとした振る舞いが先決だと思います。
それが正しい順番なのだと最近とみに感じておる次第です。
やはり大切なのは個々のアイテム以上にそれを行う「順番」なのだと思うようになりました。

2020/3/30

（若い衆！！あとはお願いいたします。次はみなさんの時代ですから）

世界最古の法典（法律)、ハムラビ法典。
確か中学の社会科でそう習いました。
その中身曰く
「目には目を。歯には歯を」
流石に世界最古の法典だけあって、その力は絶大で、現代にいたるも、そのパワーは隅々まで行き届いているかようです。
コロナ禍に端を発した、国際協調をぶん投げした自国自前主義。更には自分だけ出遅れて、損してなるものかという買いだめ、買い占め行動。
これはまさしく、あっちがやったから、こっちも同じ方法でやり返す。
つまり「目には目を、歯には歯を」思考と行動以外の何物でもないような気がします。
無論ウィルス拡散防止や防疫の意味については、全く異論はないのですが、問題を感じるのはそれに起因したその後の行動です。
いい加減「目には目を、歯に歯を」思考や行動を卒業してはどうでしょう？
例えていえば「目には歯を、歯には目を」とか「目には花を、歯には塩を」とかの、要するに同じ土俵にならないよう、或いはお互いにとって役に立つものに切り替えられるようにかわしたり、役立てたりして、お互いに共存可能なようにする発想とでも言いましょうか。
木の枝は、同じ方向に延びるとお互いが邪魔をしあって日照量が足りずに枯れてしまいます。ところが、枝が四方八方にまんべんなく伸びていればお互い重なることなく、十分な日照量を得られる道理と同じです。
国際協調や住民平和というのは、とどのつまり全く違った多様な価値観の「交わし合いと認め合い」です。
今の世の中は「お金」というたった一つの価値観にだけ目が行っているために、丁度満員の劇場で誰かが「火事だ」と叫ぶと皆が一斉に、たった一つの出口に殺到し、押し合いへし合い、ひっぱり合い、押しのけ合いの状態になるのと同じです。
そういう意味では「価値観の分散」というのはとても大切な気がします。
と同時に上記の対応について「火事だ」という緊急事態を大声で叫ぶのではなく、静かに耳打ちして伝令させる「事前」教育や、出口がより多く複数あるような「事前」設計があれば、そう慌てることなく、劇場火災からみんな無事に逃げられるような気がしないでもありません。
要約すれば「分散と事前準備」とでもいいましょうか。
でその先、さらに具体的には？

Oh, My God!! (Alas!!)
悲しいかな、おいぼれじいさんである自分の頭では、今のところここまで考えるだけで精いっぱい。お恥ずかしい。
てな、わけで「若い衆！！あとはお願いいします。次は皆さんの時代ですから。

二〇二〇年四月

2020/4/1

（新会計年度年頭言 暫く「人間を辞める」ことにいたしましょう）

昨日は 2019 年の会計年度が締まり、今日から新たに 2020 年の会計年度が始まります。
昨年度は皆さん同様会計的に劣悪でした。
でも、気を取り直して新会計年度をスタートしようと。
その折、一つだけ心がけようと思ったことがあります。
それは暫く「人間を辞めること」
これではいささか言葉がきついので、もう少し正確に書くと、暫く「人間であることを忘れる乃至は脇に置くこと」です。
人間であると、お金のことやお店の評判のことや見えもしない未来の事などで心を煩わし、ついでに気を患うので、暫く人間様ではなく「一介の生き物」として時を過ごそうかな？と思っております。
要するに「食って出して寝て起きて息をする」くらいにしておこうと。
実はこれ劣悪最高潮の先年度末からし始めていました。
すると、不思議なことにハトやわんこたちが何故か寄ってくるようになったのです。
（さすがにカラスは寄ってきませんが）
話は変わりますが「病は気から」「気の持ちよう」「気は心」など、どうやら人間様の大底には「気」というものがありそうです。
いや人間様「にも」です。
というのも生き物たち（動物＋植物）は、みんな「元（気)」なので、おそらく動植物たちも「気を持ち合わせている」ような、気がするからです。
そうして、上述の「元気」という字は「気の元」（レ点読み）と書きます。
であるなら、それ（元気）を得る一番の近道は動植物に倣い「暫く人間様であることを忘れて休むこと」かなぁ？と思い至った次第。
そうすれば、その振舞いの副産物として「人間社会とそれを取り巻く自然界」を俯瞰できるような気がしないでもありません。
と、それがもたらす「新次元」の商機の俯瞰も。
但し、マスクをして外を歩きながら、ぼぉーっとして桜を見上げて「蓋の開いたマンホール」に落ちたりしないようには「気を付けます」けれどね。

2020/4/1-2

（万事休す？いやや、そんなの）

何故不安になるか？
自分の経験則に則って、一言でいえば
「整理（整頓）がつかなくなるから」
となります。簡単に言うと事態に圧倒されて「思考混乱」
例えばコロナ禍。
対象が見えず、抜本的治療法も現時点でお墨付きのものはなし。しかもその後の経済状況は最悪が予想される事態。
となると、もうこれを「病魔」として一括し、隠れるか逃げるかして、後は「病魔退散」を願うばかりになります。
しかし、これを少し冷静になるために単語置換して「問題」と置き換えてみます。
問題であれば、後は「解」を探す方向に進みます。解を探すためには、当然問題を小分けにするとか順序だてるとかして「整理整頓」をするわけです。
「整理」とは、KJ（川北次郎）法ではありませんが、表に出してグルーピングし、ストーリーを作ることです。
そうして「整頓」というのは、咄嗟の事態においても取り出しやすい順番に並べ替えることです。
そうすると、全体像が見えると同時に対処法の段取りが整います。
総じてことにおいては、まずもってして、冷静になってこの整理整頓をするのがベストなのですが、気が動転すると、これができなくなり、混乱して視界と展望を失い、身構えができなくなるので「不安に陥る」わけです。
これ（整理整頓）ができれば「最終的な解」が咄嗟には見つからなくても、ある程度、平静でいられます。
別の例を出すと、現下昨日締まった昨会計年度の前年同期比売上高は、台風の複数襲来やら、消費税率のアップやら、今回のコロナ禍等の逆風がありながらも even equal ±0 でしたが、もし諸施策の手を事前に打たなければ、およそ 50%の売り上げダウンだったところ、諸施策のおかげでイーブンイコールゼロで収まりました。
しかし問題はその先です。
要するに前年が赤字 700 万円。で売上同等の今回会計年度が同等売上の同等損益を何とかキープしても同じような赤字の 700 万円より 3 万円改善のみでしかなかった。
裏を返せばこれを現有勢力を増やさず、売上高を次年度は単年度換算で 700 万円改善しなくてはならない勘定になります。
「Oh, My God, It`s impossible, Plz God help us!!」
と言ったら前者と同じになってしまいます。

で、整理整頓のために考えたのが、
「東京のコロナ化対策に倣い、我が県も Lock down になれば、Takeout しにもお客様は来なくなる。となれば頼れるのはこちらから出向く宅配のみ。で、その宅配で大切なのは、宅配に行った時の「異邦人襲来感覚」をいかに低減するか。味と配達員への事前信頼感醸成がその「肝」になります」
ところがうちのお店は、亭主の自分の広告嫌いもあり、また配達員がアジア系の外国人と、いかにも「怪しそうな」先入観も有之で、難儀、難題至極を何とかしようと事前配布の事情説明ビラを用意したのですが、なんと、このコロナ禍で、チラシの到着が間に合わず、半分方配布のタイミングを逸した次第。
はてさて、またまた難問噴出。
これで、最近囁かれている上記の「東京 lock down」現実となったら、いかに整理整頓しようとも
「万事休す？いやや、そんなの」
でおます、がな。

2020/4/3

（過酷な日々でも、先予測）

何とはなしに、映像を目にした折に、無意識なのですが、何かが引っかかり「んっ？なんか変」と、ちょっとした違和感を覚えることが時々あります。
今回はテレビで国会答弁や政府の記者会見の映像を見ていてそれを抱きました。
「首相のマスクだけ、なんか少し小さいような」
よく見ると、後ろに並んだほかの閣僚のマスクは目の下から喉上まで覆われた大きなもので、首相のマスクは鼻の上半分が露出し、顎も少し露出している。
更に目を凝らしてみると、他の閣僚のマスクには襞（ひだ）があるのに、首相のマスクには襞がなく、つんつるてん。
で、思いついたのが
「首相のマスクだけ、布マスクで、他の閣僚がしているものは、紙マスクなのではなかろうか」
ということでした。（自分が子供の頃はみな、申し訳程度に口鼻を覆う小さなサイズの布製のものばかりでした）
一方、今般のコロナ禍に際し、国が国民に対して一世帯当たり 2 枚のマスクを配るという話に対して、大ブーイングが起き、中には「4 人家族でどうやって 2 枚のマスクを使うんだ？馬鹿じゃないの」という意見まで出る始末。
絵でいえば「二人羽織」の後ろの人間の耳にマスクのストラップがかかり、前の人間の口にだけマスクがかかっているような感じでしょうか。それが四人家族で二組。
六人家族だと一組三人で、真ん中の人はマスクに触れることもできない状態。
で「馬鹿じゃないの？」と。
話を元に戻します。
別に政府を擁護するわけではありませんが、それを聞いてふと思いついたのが
「ひょっとして、今回配るマスクは布製なのではなかろうか？」
というのも、布製なら何度も洗うことができ、家族で使いまわしができる。
但しその際の前提として、基本的にはマスクを用意するのは各世帯。それで足りない場合補助的に当該の布製マスクを使いまわす目的での、2 枚の配布となっているのではないだろうか？と。
穿った見方ですが、首相が布製マスクをしていたのは、それを映像的に示すための一種のアナウンスメントなのではなかろうか？とも。
いずれにせよ、現下の状況は平時ではありません。黙って寝て待っていれば、リボン付きの包装紙に包まれた「プレゼントとしての」家族全員分のマスクがお国から届くようなこともあり得ません。
あったとしたら、それは「プレゼントではなく」後日、先払い分の回収目的で、マスク数量

分だけ加算的な増税となって帰ってくるはずです。(これは一時的に国が代金を立て替えているようなイメージです)
この件だけを取ってみても、現在がどのような状況なのか？そしてその先将来にどういったことが必然的に予想されるのか？
我々国民は、現下を生き抜くとともに、将来の絵姿もある程度描きながらこの過酷な日々を未来から「も」ある程度、逆照射して暮らした方がいいのではないかと思った次第です

2020/4/5

（コロナ禍における金（gold）論考）

中国やインドは金(gold)選好度の高い国々です。はたまた欧州では嫁入り道具として、両親が娘に「いざという時には、これを使うのよ」といって金（gold）を渡す習慣があるそうです。
なぜそのような選好性や習慣があるかといえば、その国や地域が過去の歴史において、動乱に見舞われることの多かった地域だからでしょう。
例えば中国なら魏、呉、蜀から隋、唐や元、清朝など辺々流転しておりましたし、インドであればムガール帝国、英国植民地支配を経ての独立でありましょうし、欧州におきましてもその国境線はしょっちゅう変わっておりました。特に東欧においては。
ですので、その民、曰く
「お上などというものは、その体制や国そのものの存立も含めていつ変わるかもわからないものだ。であるならば、国や体制に関係なくどこでも使える無国籍通貨(borderless currency)としての金(gold)を持っているのが一番確実」
というわけです。
一方、我が国は幸か不幸か、国そのものが消滅したことが今まで一度もないので「有事の金（無国籍通貨が役に立つ時)」を実感できずに現金選好性が高いように思われます。
現に金(gold)は、金利乃至は利差(interest, yield)を産まないので、平時においては金利乃至は利差(interest, yield)を産む株式や債券や外貨が重用され、或いはまた緊急時（動乱時ではありません）においても流動性の高い（すぐ使える）現金が重用される反面、金(gold)は見向きもされない傾向があるようです。
また、どうしてもわが国では金(gold)というと、詐欺か悪徳商法を連想させる「怪しいまがい物」的な捉え方が多いようでもあります。
しかし、我が国で選好性が圧倒的に高いお金というものは極言すれば「信用価値」以外の何物でもありません。分かりやすく言うと紙幣という紙切れや硬貨という金属そのものには、殆ど価値がないということです。それを裏付けしているのは「国の信用」でしかありません。
ですからその国そのものがしょっちゅう変わる地域においては、無国籍通貨（どこでも換金できる）で現物価値がしっかりある「金(gold)」が重用されるのでしょう。
その選好性の違いは、その民族の過去の「実体験や歴史経験に根差して」いるもののようです。
金(gold)は、有事の金ではありますが、あまり使う場面が多いのは全くいいことではありません。
惜しむらくは、現金で済むような世界や世界の状態であることの方がはるかに好ましいのだと、最近つくづく感じて居る次第であります。
自分がこう申し上げますのは、今まで有事において何度か金(gold)に助けられた経験があり、

且つまたその折の経験が苦々しく不幸な経験ばかりだったからであります。
それでつくづく「金(gold)の出番が少ない世界」こそが、いい世界なのだと実感しているからこそ、です。
今般のコロナ禍においても「金(gold)の出番」がないことを祈るばかりでございます。

2020/4/5-2

（「ダメ元」の詳細）

ダメ元。
即ち「ダメで元々」
そして「とにかくやってみんことには、ナンもわからんし。とりあえず、やってみよか？」
これが自分の基本姿勢です。
まぁ、それはさておき、本日のお題の「ダメ元」
これを、すこし数値を交えてお話ししたいと思います。
例えば、ことを始めるにあたって目標設定する折に「ねばならぬ」思考だと、超えるべきハードルの高さは 100 メートルくらいに感じてしまいます。
もうその時点で過重圧（水圧を思い浮かべると分かります。100 メートル潜水した時の水圧）がかかり、超える前に押しつぶされそうになってしまいます。
ところが「ダメ元」だと、最初からある程度諦めてもいる感覚で「うまくいったら儲けもの」と肩肘張らない分リラックスできるので、感じるハードルの高さは 3 センチくらいのもんでしょう。感覚的には普段歩くのと同じくらいスムースに向こう側に行けます。
以前にもお話ししましたが「ねばならぬ」思考は、ゴールからこちらを見て、まだあと何メートル足りないというマイナス思考でしかありません。
これをプラス思考にしたいのなら、現時点から先を見て「今日はどこまで行けるかな？」くらいの「お散歩感覚」にした方が、結果がいいような気がします。
前者の「ねばならぬ」が「競技志向」であるのに対して、後者は「余暇志向」
言い換えれば前者が「争い」思考であるのに対して、後者は「お楽しみ」思考です。
お国の中枢が後者ではいささか問題がありますが、今般のコロナ禍においては、我々国民はむしろ後者である方が、いいような気がしておりまする。
（注：気を緩めよ、と言っているのでは無論ありません。リラックスしてはどうでしょうかという申し述べでございます）

2020/4/6

（「辛抱」「忍耐」「我慢」という言葉の本来の使い時）

マーケティングの原則に「相手の立場（お客様や仕入れ先の立場）にたつ」というのがあります。
一見当たり前に思えて、何とはない言葉ですが、実はこれが非常に難しい。
例えば、相手の立場でものを見る（こちら側からすれば「見られる」）と、非常に厳しい目で見られることになります。
自分が相手の財布の立場であれば、これまた非常に厳しい値付けを求めます（同様に「求められます」）
要するに「相手の立場に立つ」というのは、自分の利害と正反対の立場に立つことと同義語なのですから、とても難しいことだと言えます。
特に顧客側について、会社で上司から「お客様目線で」とか「お客様の立場に立って」と言われることが多々あると思いますが、そういった舌の根も乾かないうちに、同じ上司から平然と「損益的に問題だから価格をもっと上げろ」と言われたりもします。
それを耳にした部下も、上司の振舞いや言動にうっすらと矛盾らしきものを感じはするのですが、部下も人の子、自分の給料の多寡を考えると、せっかく感じたナントはない矛盾を脇において、それに従ってしまうことがままあるようです。
しかし、原則は原則です。
特にこのコロナ禍のような状況では、現下、損をしてでもその原則を貫く必要があるような気がします。
反対に、昨今品不足のマスクや除菌スプレーなどを、ここぞとばかりに高値で売り付けたりするのは、現下においてはかなりの利益が得られるでしょうが、その実相手の信頼を失い、将来においてはその利益は大幅に目減りすることになります。
結局何のことはない、将来を含めた通算損益の点では、利益の先食いでしかなく、且つ信頼を失った分、現下の利益度合いに反比例して将来の利益は減損。山高ければ谷深しでしかないようです。
であるならば、現下は損をしてでも、原則を貫き通し、利益の回復を、将来の相手の懐回復による自然増に託し、そちらに生きる糧（かて）を積み増す方が理にかなっている気がします。
しかし、その間、ひたすらその時期の到来を信じて待つことは、これまた至難の業です。
いささか物見の角度が変わりますが「辛抱」「忍耐」「我慢」というのは、実はこの時期の到来を信じて待つことにこそ使われるべき言葉だと思います。
なにも理不尽な物言いをする上司の無理難題に対して「取るべき態度」とは全く次元を異にする重要な振る舞いであると、自分は考えております。
「辛抱」「忍耐」「我慢」は、人に対するものではなく「時機到来」に対するもの。しかも、

これなしでは、その先は決してあり得ないと言えるほど大切な態度なのだと思っておりまする。
以前にも書きましたが、皆様方に置かれましては、この言葉たちの使う相手、使う時期をくれぐれも混同されないことを、老婆心ながら重ねてお願い申し上げます。

2020/4/6-2

（本日の売上は 300 円也）

本日は、入学式。
多くの学校が本日、桜満開の下（もと）、入学式だったようですが、どうやらいつもとは違う入学式風景が展開されていたようです。
例えば晴天下、来賓なしの屋外の校庭で、間隔をあけた学校椅子に座っての入学式だとか。
実は、何を隠そう、ナマステエブリバディも、定休日にもかかわらず「入学式」
というのも、以前お伝えした「来るな、コロナ。バイキンなんぞにゃぁ、負けへんで」と銘打ったコロナ休校「学童保育もどき英語教室」の開校式兼入学式だったからです。
本日は 3 人のお子さんがいらっしゃいました。(これを書いている時点では既に昨日ですが)で、45 分間の教室。
みんなちょっと驚いていたみたいです。
というのも学校では「間違わないように」とおそわってきたのに、ここでは「間違わないと、うまくなれないよ」といって始めたからです。
そのほかにも、知っている英単語を言ってもらい、それをカタカナで黒板に板書した後、今度は英語で板書しなおし、次にその単語から、みんなが知っているはずの派生語をグルーピングして「この語幹からこれだけの言葉をいっぺんにおぼえられるでしょう？」話すと、かなり驚いていたみたいです。
そうして、こうやって見ると子供たち自身が「結構知らないうちに英語しってんだ、自分は」とびっくりしていたみたいです。
「な、知っとぅのに、使うてないだけや。お宝の持ち腐れやろぅ？」
「街の看板は生きた辞書みたいやから、街をあるく時はきょろきょろして歩きぃや。お宝の山やから。でも、川やマンホールには落ちんように、な」
これを機に、子供たちが「街歩きの発見探索生活」に入ってくれたらうれしいです。そうし

て外国の人との交流生活にも。
国際間、世代間交流事業。
本日の売上はワンコイン 100 円 X 3 名。300 円でございました。
（写真は日経サイトから拝借しました）

2020/4/9

（「地獄で仏」の顛末）

「弱り目に祟（たた）り目」で「泣きっ面に蜂」
「弱り目」と「泣きっ面」がコロナ禍で「祟り目」と「蜂」が突如、外国人従業員から見せられた裁判所からの督促状兼召喚状でした。
事の顛末を話すと相当に長い話になりますので、思い切りえいやっ！で説明すると、外国人従業員が日本語の文書が読めないために、かつての自動車事故の弁済費用の合意書の返送をせず、毎月弁済費を払い込んでいるにもかかわらず、それが損保会社のデータ上捉えられなかった。
がために、合意文書約束違反で自動的に裁判所に契約不履行の訴えが送付された、ということでした。
まず、ここまで把握をするのに一晩徹夜しました。
なぜそこまでするのかといえば、当該のこの外国人従業員は、当店のチーフコックで、彼がいなくなったら店じまいになってしまうからです。
要するにコロナ禍がなかったとしても「潰れてしまう」わけです。
それであわてて昨日の朝一番で、損保会社に誤解を解こうと連絡をしたのですが、事情は理解していただいたものの、当の手続き担当者が在宅勤務で来週月曜まで手続きができないとのこと。
で、次に裁判所に電話をしたところ、督促状を送って既に 10 日が過ぎているために、自動的に裁判が始まってしまうとのお言葉。
ですが、始まりはするが、それを流すには「異議申し立て」をすれば、実質的にストップがかけられることが分かり、さっそく当該の従業員を呼んで、異議申し立て書を作成しました。
これで、丸二日、コロナ禍対策のビジネス業務が完全にストップ。
で、巻頭の言葉となった次第。
それにしても、日本語学科を有する大学卒の欧米人ならいざ知らず、中学もろくすっぽ出ていないような最貧国出身のアジア系外国人に、世界で最も難しい言語である日本語の、しかも漢字交じりの文章を読み解いて理解しろというのは、無理難題としか言いようがありません。
これらの文書は、せめても英文であるべきだと痛感致しました。（インフラや生命財産にかかわる事柄において、自国語だけというのはわが国だけではないでしょうか）
彼らはまだしも英語は理解でき、読めるからです。少なくとも送られてきた手紙が good news なのか bad news なのか、くらいは。
で「弱り目に祟り目」で且つ「泣きっ面に蜂」状態、途方に暮れていたところ「天の助け」の「地獄で仏」さまがやってまいりました。
お店のお客様が自前で、今般のコロナ禍、外出手控え対策として「横浜市青葉区のテイクア

ウト、宅配可能店情報サイト」を立ち上げたので、よろしかったいかがでしょう？との当店サイトへのメールでのご連絡。
それを見て、いい意味での「泣きっ面」になってしまいました。
言うまでもなく「うれし涙」故、でございました

2020/4/11

（我々は大きな勘違いをしていませんでしょうか？）

我々はひょっとして「大きな勘違いをしているのではないだろうか？」という気がしました。
このコロナ禍の自粛において避けるべきは
「外出」ではなく「3 蜜（密閉、密着、密接）状態」だけなのではないかな？と。
つまり、外出といっても何も家から一歩も外に出ないということではなく、3 蜜がないところであれば、却ってどんどん出かけた方がいい、健康と心身のリフレッシュのためには。
例えば、公園、遊歩道、野山などでの早朝や夜の散歩、ランニング。
変な話、もし家族の一人がコロナにかかっていたら、逆に家の中は 3 蜜醸成状態になっているわけですし。
なぜこんな話をするかといえば、テレワークのせいばかりではありませんが、全世界的にこのコロナ禍の元、却って「DV（家庭内暴力）」が増えているとか。
「亭主元気で留守がいい」だったはずの旦那さんがテレワークで家にいて奥さんがいらいらしたり、女房子供がうるさくてテレワークの仕事がはかどらない旦那さんがいらいらしたり、外に遊びに行けない子供さんがいらいらしたり。
（余談：これは例外ですが、もともと仲の悪かった家族が図らずも家庭内で目鼻を突き合わさざるを得なくなり、関係が険悪化するケースもありそうです）
それ（上記の余談の件ではなく、その上の文章の話です。誤解無きように）を、身近な例でいえば、外出が抑制されている幼稚園就学前の子供の心理が不安定になって、突然大声を出したり、苛立ったりする話を当店の外国人母親従業員から聞きました。
なので、避けるべきは 3 蜜であって、決して外出全般ではないと思うのです。
外出しても 2 m distance（2 メートル間隔維持）をして keep sanitizing（衛生保持＝手洗いとうがい）を守っていれば、外出はかえってした方が、両親と子供のためにいいのではないでしょうか？
これができる家族なのか否か？
親がそれを子供に教育できるか否か？
子供がこれを機に成長できるか否か？

要するに公共道徳を守れる家族なのか否か？
それが今、今般のコロナ禍において、否応なく試されているような気がしてなりません。
何とかこのテスト（試練）に全員そろって合格したいものですよね。

2020/4/12-2

（「不人気」の勧（すす）め）

26 年間、かなりしんどい思いをしてきました。
具体的に書き連ねると、みんな引いてしまいそうなので書きませんが、結構大変でした。
表向きはきれいにまとめて書いておりますが、その実
「なんで、自分ばかりこんなしんどい目にあわにゃあかんの？不公平やないか？」
とおもっておりましたが、最近「こう考えると、合点がいくな」という解を見つけました。
曰く
「これまでの理不尽、不条理とも思えるしんどい思いは、このコロナ禍を生き抜くためのトレーニングやったのかも、な」
と。
また、平時において突出した自分のしんどい思いは、周りの人に理解してもらえなかったが、今、皆が同じようにしんどい思いをしているさなかにおいては、図らずも、却ってみなと思いを共有できるようになっているな、という気もします。簡単に言うとお互い話が通じるようになってきた、と。
その経験からすると、今まで繰り返し何度も申上げましたが、平時であった過去と比較して嘆くのは現状況下において、もっとも虚しくかつ無駄な行為だと思います。
お勧めするのは、そんな比較はさっさと捨てて、頭の中身をパッと切り替えることです。
「このアブノーマルがこれからのニューノーマルやで」と。
そのためには、時間軸を未来まで取って、現下の苦難を少し薄めることです。
仮に未来までスタンスを取って、その未来が更に苦しいものであれば、その苦しい未来を引き込む形で、今が却って苦しくなる場合もあります。
しかし、逆に今に引き込むことで、今度は行った先の未来においては、苦難を先取りした分、いくばくかでも楽になるはずです。
これを国語辞典的な言葉でいうと「平準化」といいます。
政治家や経営者はその先取り（ショックアブソーバーとしての平準化の先取り）を行わないとならないと思います。
例えば、今般の感染者拡大において
「経済なんかどうでもいい。まずは人の命やで！！」
という訴えがあります。当然人情としては極めてよく実感できます。
しかし、それは必要十分条件の内の必要分しか言っていない気もします。
十分条件を満たすには、その先の答えがないと埋まりません。
例えば、
「とりあえずこのコロナ禍において命は助かった。しかしその後やってきた「強烈な不景気」

で、食うに食えずに自殺せざるを得なくなった」
では、命がほんの少し先延ばしになっただけのことになってしまいます。
最終目的であるサバイバルに値しません。
我々庶民は現下の命にまずは執着すればいいのですが、政治家や経営者はその先を見据えて行動しなくてはならない気がします。サバイバルに値するように。
その国民、社員のサバイバルの為には、譬え現状況下において我々からどんなに「不人気な政策、経営方針であったとしても」です。
指導者として現下今般、必要なのは、そのための果敢な行動をすることだけだと思っておりまする。どんなに不人気であったとしても

2020/4/13

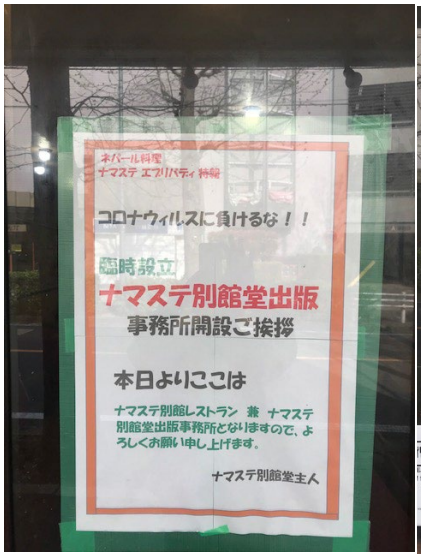
（雷親父（father like a rolling thunder）が叩く憎まれ口）

「地震」「雷」「火事」「親父」
以上四つ。昔、我が国において、怖いとされたもののリストです。
地震については東日本大震災。
雷については、以前勤めていた会社の社長さんがゴルフ場で被雷して、あろうことか突然死。
火事については「火事と喧嘩は江戸の華」と言われるようにかつての日本の都（の呼称）では、数年に一度のペースで大火に見舞われたそうな。
で、以上三つについては万人が「怖いもの」として認知納得し、異論を唱えることはないようなのですが、こと「親父」となると、現在は「全く怖くないものの代表格」のような状態になってしまっているようです。
それというのも、自分の推測では、かつて子供時代に見た米国 TV ドラマ「パパは何でも知っている」の影響がわが日本国のお父さん方に「心底影響を与えた」のではないのかなと思っております。
曰く
「スマートで」「物分かりがよく」「洒落を理解し」「どんなことにも答えを出す」お父さん。
当然自分も「洒落」と「回答（或いは解答）能力」については、異論は全くないのですが、どうやらこの二つはどこかに置き忘れ去られて、前者二つの「スマート」と「物分かりがいい」ことだけが、取り入れられるという、妙なことになってしまったようで。
おそらくそれは、女性の価値観を優先させたことによるのと、お父さん自身が後者二つを実行するだけの自信を持てなかったことによるのではないかなと思っております。
簡単に言うと、取りあえず「格好だけ」「見てくれ優先」
がしかし、今般のコロナ禍において、それではいささか役不足の感が否めません。
戦時であるが如き危機下においては「雷鳴のごとき強力な指示発声」が何より必要ではない

のかな？と。平たく言えば、一時に限り自信と強引さをもって、ずんずんと前に突き進み、後衛をけん引する力強き「雷親父」の姿勢。
こんなことを言うとどうせ叩かれるのはわかってはいるのですが、なんとなくそんなことを言ってみたくなる、直近の街の光景。
在宅勤務で家族と一緒に歩いているのに、何故か「楽しそうでもなく、うつむき加減に歩いているお父さん方」の姿を見ての「憎まれ口」でございました。
（注：適当な写真がなかったので、取りあえず自作自演で自分が「雷親父役」をやってみました。格好だけです。自分はそんな大それた父親ではありませんので。誤解無きよう）

2020/4/16-2

（ナマステ別館堂出版事務所開設の顛末―「下手な鉄砲も数打ちぁ当たる」だろう？）



前回記事の「損をしてでも持ち駒を多く持つ」を実行し始めました。
様々な面から検証、検討した結果、もともと立ち上げてはいましたが、実質「幽霊事業部門」だった「電子出版事業」を二番目の駒として起動をかけることにいたしました。
名付けて「ナマステ別館堂出版」
まず、第一に人員は増やせないので、実業に携わっていない自分（即ち管理者）の持ち駒を使うしかありません。
第二には、今年度売り上げは会計年度末に締めてみましたら、昨年度に比して２％弱の減少にすんではいるのですが、昨年度がもともと悪すぎたのです。
というのも何を間違ったか「あの店は宗教に関係がある」との「言われなき流言飛語」のせいで、一時売り上げが 7 割も落ちたために、1 年早めのコロナ君がやって来たようなもので、今回本物のコロナ君がやってきても、同じような状況でしかなく、相対比で大差なかっただけでした。
ということは、そんな理由が通りそうもない現実を考えるとお国からの補助金はもらえそうもありませんし、もともとが、大赤字なので、その分の売上を上げない限りコロナ君がいようが居まいが潰れてしまうよな！！という危機感。
「同規模の売上主体を作らねば！！」というわけ。
で、上記二つを組み合わせてみると、出てきた答えが「電子出版事業」以外には手持ちの駒として使えるものがなかったのです。
無論「これならうまくいきそうだ」などという気は全くしませんが、兎にも角にも、他には

ないし、あったとしてもその芽を育てている時間がありません。
となれば、ここは例によっての大博打
「んなもん、やってみなきゃわかんないじゃないよ。うまくいくか行かないか、わかんないからやってみるんじゃないよ」
と、分かったような、わからないような「ギャンブルまがいの論理的根拠」
で、兎にも角にも、コロナ情報発端時に、「これは上がるはずや」と借金して金地金を買い、直近の高値で売り飛ばし、差益以外の借金元本を早々に返したその差益のお金を「充て」として（ま、これ自体も結構な大博打でしたが）昨夜
「資金があるうちに、とにかく一括投資をしますから、出版サイト用のプログラムを大至急、組んでください」と懇意にしているプログラマーさんに発注をかけ、今朝は今朝で、早々にナマステ隣の別館に赴き
「ここはこれからナマステ別館堂出版事務所と「も」なります」と大書したポスターを貼りだした次第。
ともかくも、既成事実を積み上げて「自分をその気にさせなくては！！」
で、そこまでさせる「現下、自分を支えている最大の金言」は、といえば
「下手な鉄砲も数打ちゃ当たる」
のみなのです。
かくのごとき薄弱極まりない根拠の元、現下、自分はその弾数（たまかず）を増やすことに一生懸命なのであります。

2020/4/18

（「語学の目的はコミュニケーション也」論説得の為の詭弁？）

最貧国出身で英語が母国語でない外国人相手に現場で仕事を指揮していると（つまり、従業員に実際に動いてもらわなくてはならないと）必ずしも正しい英語を使うことが「有効ではない」場合があることに気づきました。
例えば「行った」という意味の英単語
正解は、[go]の過去形で「went」となります。
例としては、昼近い開店間際になって従業員が
「買い物に行く（I go buying）」というので、
「なに！！開店間際になってまだ買い物に行ってないのか！！」
と驚くと
「No, No. Go, go（違う、違う、行く、行く）」
と又いうので、なんで、No、No の後に肯定形の Go, Go が来るのか違和感を抱いたので
「で、結局、行ったのか？行ってないのか？どっちなんや？」
と訊くと中身のつまった買い物袋を見せてきました。
それで、上記の「Go」が実は「went」の意味であり、文章としては
「I already went and came from buying（もう、買いに行ってきました）」
だと分かった次第。
しかし、これを何とか直させようと、時制の教育をし「行くではなく行ったが正しい」とか
「in the past mode, please use” went!!” Never use “Go”, present mode」
とか、何度教えても覚えません。
というのも「go」の過去形が「went」であるなどとはつゆ知らずのようだし、なんでそんな全く違う形になるのか想像だしていないようでもあるし、のその以前に、そもそも時制の存在そのものが従業員の日常生活の中にはないかのようで、どうやら周りの状況からして本能的に時制を自動切換えしているようなのです。時制変化のない同一単語（モード）で。
それで、仕方なく仕事を動かすために、今度はこちらが前後の状況や時間の前後関係から case by case で、同じ表現の「Go」を時には字義通り「go」と捉え、時には「will go」時には「went」に読み替えることにしたのです。
話の角度は少し変わりますが、なぜこんな話をしているかというと「ワンコイン英語教室」で
「語学というのはコミュニケーション手段の一つでしかない。しやから他にもジェスチャーや表やイラストや表情なんかを使こぅてもできるん」
とか

「英語なんて多少間違うたってええ。相手に伝われば」
とか言ったのですが、どうやら「間違ってもいい」という語句に引っかかりを覚えたらしく、なかなか喉元を過ぎないようで、次の回からは来なくなってしまいました。
で「間違ってもいい」という真の意味を、彼らにとっても肯定的にとらえてもらえる考え方（或いは教え方）はないものだろうかと考えていたところ、上記の話からヒントを得て
かのドイツ哲学の巨星、ヘーゲルによる「止揚（アウフヘーベン)」理論をもじりがちにあてがって
定位：「使い方の正しい英語」
反定位：「敢えて間違えて使う英語」
両定位包含可能＝止揚「受験や外交を除き、目的がコミュニケーションならどちらの使い方も可。且つ having communication cards 拡大にも」
となった次第。
え、何？そりゃまた詭弁だって？（いささか、汗。Little bit sweat!!

2020/4/19

（「ぶつぶつ、きょろきょろ親父」の弁明 ）

もう、昨日の出来事になりましたが。
現在、昼前の外は相当なる雨。雨音激しく、屋根を打ち付けております。
その音を聞いていると「表に出て当たったら、さぞや痛かろうに」と。
で、ふと思ったのですが、朝方お店に出向く折に、ここまでは激しくなかったのですが、それでもかなりの雨が降る中、小鳥が一羽、電線に留まってさえずっておりました。
それを思い出してふと思ったのですが
「人間に比べて小鳥はたいそう小さい。だのに体に当たる雨の大きさは、人間にも小鳥にも同じ大きさ（サイズ）
だとすると小鳥にとってこの雨滴は人間感覚で置き換えてみれば、大きさ重量ともテニスボール大のものが隙間なく降り注ぎ、体に当たっているようなもの。なぜそれでも小鳥は平気なのか？」
と、とても戦時下のごとき生活を送っている人間とは思えない疑問が脳裏をよぎりました。
「うむ。面白い問いだ。考えてみよう」
で、思いついたのが
「羽に柔軟性があってショックを和らげているか、表面がかなり濃度の高い油分で覆われているので、当たった瞬間、雨滴が強烈にはじかれて砕け散り、単位面積当たりのショックが激減されているのか、あるいはその両方によってかも」と。
しかし、羽の部分ならいざ知らず、頭の部分は鶏のとさかに当たるものでもない限り、やはり固い部分なのは人間同様なので、どうしたって痛いような気がし、余り正解とは思えませんでした。
で、更に考えてみると
「あの動体視力や動きの速さから見て、頭をきょときょとする動きで、その頭部に関してだけ、落下する雨滴を微妙な「かわし動作」で、刻一刻やり過ごすなり外すなりしているのではなかろうか？」と推論してみました。
「で、その限界を超えそうになった時に、初めて軒先や木の下に避難するのではないか？」なとも。
しかし、現在のところ事の真相はまだ明らかになっておりません。
明らかになってはおりませんが、それはそれで問題を解く楽しみが残っています。
それにしてもこんなことをし続けて、早 15 年。
暇つぶしや退屈しのぎにはもってこいだし、気分の切り替えもできますし、発想の転換や頭の体操にもなりそうです。
それに何より楽しいし面白いので、なんとなく 15 年も続いてしまいました。
ただ問題は、推論を進める過程で、何やら口の中でぶつぶつ独り言を言って、きょろきょろ

あたりを物色しているが如き風体（ふうてい）の場合が多いようなので、
「またあのぶつぶつ、きょろきょろ親父が歩いている。妙なジジイだ」と噂になっているらしいです。
お恥ずかしい。
のですが、ぶつぶつ、きょろきょろの原因は上記のような訳でございますので、どうかご理解のほどを。
この場を借りて町の皆様への弁明をさせていただきました。
悪しからず。

2020/4/20

（ほんだらほだらか、ホイホイ！！（Hondara Hodaraka Hoi, hoi!!））

本日早朝、あさまだき、自分の師匠であるネパールボスの飲食店の売上が、今般のコロナ禍による影響で、５０％減となり、ついては風の噂に聞いた「お国の補助」を戴きたいと、日本金融公庫に上申しに行くに際し、同行してくれとの依頼により、まだバスの運行がない時間帯故、取り敢えず昨日の売上から軍資金を調達すべく徒歩にて、山向こうの店に向かいました。
その折、街灯のみで、ほの明るいだけの、急な上り坂に差し掛かり、息も絶え絶え胸突き八丁になったその瞬間、思わず鼻歌が口をついて出ました。
曰く
「♬ひとつ山越しゃ、ほんだらったホイホイ
もひとつ山越しゃ、ほんだらったホイホイ
越しても、越してもほんだらほだらかホイホイ
どうせこの世は、ほんだらったホイホイ
だからみんなで、ほんだらったホイホイ
ほんだらら、ほんだらら、ほんだらほだらか、ホイホイ
ほんだらほだらか、ほんだほだらか、ほんだらほだらか、ホイホイ、っと♬」
(♬Hitotsu Yamakosha Hondaratta, Hoi hoi
Mohitotsu Yamakosha Hondarata Hoi hoi
Koshitemo koshitemo Hondara Hodaraka Hoi hoi
Dohse konoyo wa Hondaratta Hoi hoi
Dakara Mon-na de Hondaratta Hoi hoi
Hondarara Hondarara Hondara hodaraka Hoi hoi

Hondarahodaraka Hondarahodaraka Hondarahodaraka Hoi hoi, tto♬）
かの有名な昭和の大スターバンド、クレージー・キャッツの「ホンダラ行進曲」の一節でした。
歌い終わった瞬間、なんだか可笑しくなって、ひとり、山中でゲラゲラ、大笑いをしてしまいました。
そして、
「いやぁ〜、確かに今般、現下においては、まさに名曲以外の何物でもないな。奥が深い」
と大きくうなずいて、独り言ち（ひとりごち）ました。
いやはや脳天気もここまでくると、痛快至極につき、
「呵呵大笑（Wahaha)」
でござる。

2020/4/20-2

（突然ですが、箴言作家として一句）

コロナ禍「後」をにらみ、現下における心得をば、ひとつ。
「人を呪わば穴二つ。人を助けりゃ蔵三つ」
以上

2020/4/20-3

（ちょっとハッピー、little bit happy）

今下、コロナ禍、悪いことばかりではないようです。
なんとなくみんなが変わってきたような気がします。
上は「お上」から、これまでは、杓子定規な物言いしかしなかったテレビのアナウンサーから、町の商工店主から、バスの運転手さんから、なんか、変わってきたような。
若い人が、特に。
「金だけじゃないよな」「ひょっとしたら、殻を破れるかも」「初めて知らん人と話をした」「家に中にいなきゃならなくなって、外に出るありがたさや意味や外に出ることが、チャンスの宝庫なんだってわかってきた」
大変は大機（Big change is Big Chance）
バイキンなんぞに負けるな！！大きな危機をチャンスに変えよう！！
本日、売り上げ減５０％の外国人ボスのコロナ禍支援の手続きをしに、ある公的機関にいったのですが、担当官さんが,
申請者が外国人だと見るや否や、大変横柄な態度に出てきたので、同国人でありながら自分は、思わず怒鳴り飛ばしてしまいました。
余りの怒気にたじろいだ担当官さんは突然態度を改めていねいになったのですが、それを見て、逆にこう言いっぱなしでは、後衛に控える同僚から「あれこれ後ろ指をさされる」のではないかと思い、態度を良い方に変えたことが感じられたこともあって、そっと手招きしたうえ、ひそひそ声で、後衛に聞こえないよう耳打ちしました
「怒っているわけやない。日本人は外国人でも欧米系にはぺこぺこしやはるけど、アジア系となると見下した物言いになるや。それは不平等というもんやし。こちらは大変困っていらっしゃる。助けるのが道理やし？もし助けんで、このコロナ禍が終わって国に帰った後、殻らが母国で「日本ではひどい扱いを受けた」と喧伝されたら、我が国の恥やし、それ以降の交易も落ち込むやろ。それを防げるのは、あんたしかおらんし。それだけ言いたかったから、そういうチャンスをつかむために敢えて、先ほど怒声を挙げたんや」
と、一方的に言うと
その担当官さんは自ら名刺を出して
「何かあったら私に行ってきてください。私が可能な限りすべてお受けしますから」
と。
瞬時のいい方向への激変。
今までには、公的機関の窓口においてはなかったことです。
因みにその担当官さんは、上記に述べた若い年齢の方ではなく、自分と同じくらいの「じいさん」でした。
しかし、何かこの大変時を機に、みんながいい方に変わってきているような気がします。

それが、少なからず感じられて、昨今「ちょっとハッピー」な気がして居る次第です。

2020/4/24

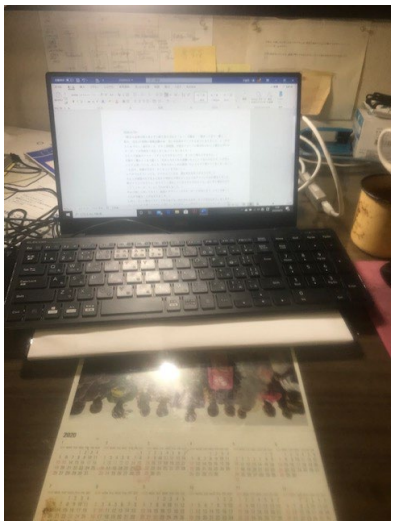
（昨日、記事を上梓出来なかった顛末「けがの功名」）

既に昨日の事。
コロナ禍対応、完全リニューアルの弊社 Home page をアップしようとしていた正にその直前、PC が突然使い物にならないほど動作速度が遅くなってしまいました。
その直前の直前に、OS(operating system)の大幅なプログラム(program)更新があり、ほぼ同時に PC メーカ側からの Bios（Basic input-output system=PC のハードと OS の橋渡しをする PC の一番礎石層に当たる根幹部分です）の緊急アナウンス付きの update もありました。
自分は特に何もしていないのに不具合が発生したので、まずは OS のバグを疑いましたが、不具合報告にあった該当する更新 build number は自分の PC 内ではみつかりませんでした。
で、今度は PC メーカに症状を告げて相談すると
なんと「緊急と言っても、特に現状で不具合がなければ、しない方がいい」とのご宣託。
「え？何それ！入れない方がよかったってこと？」
「だったら、その下に現状で不具合がない場合は、特に install する必要はありませんと書いた方がいいのでは？」
というと、口籠っているので「あなたではなく客がそう言っていたと上司に言えばいいのでは？」
と更に、提案すると「そ、します」と幾分たどたどしい日本語でそう答えました。
で、知り合いの programmer さんにこのメーカの不具合報告を調べて貰うと、結構上がっているとの事でしたので、OS 側ではなく PC メーカ側の原因だろうと解釈しました。
（これではまるで、打ったワクチンの中に毒が入っていたようなものです）
しかし、修正 program が出るのをじっと待っている訳にはいきません。何とかバグ(bug)をうまく避ける方法を見つけるしかありません。何せ HP renewal timing を逸したら、結婚式後に宅配された wedding cake になってしまいますから。
それで、その回避策を求めて 14 時間ほど試行錯誤したのですが、全てダメでした。
そこで「ないものねだりをしても仕方がない。目を振って視点を変えてみよう」
で、まず考えたのが「この PC を諦めて、他の手持ちで何か出来ないか？ないものはない。あるものを使おう」
で、更に手持ちを点検したところ、確かに今使っている PC より速度は遅いのですが、古い PC は取りあえず動く。又、万が一も考えて、今使っている cloud drive とは別の cloud drive に PC の元 data を移行させようと思いつきました。
で、またまたその作業に 9 時間（なんせ uploading speed が兎に角遅いし、外付け hard disk に移行できないかも試したのですが、これも同様に遅いので、ならば後の使い勝手を考慮して「矢張り cloud に」となったわけです）

そして今早朝、それを結合させたら、うまくいきました。修正 program は機種世代毎に違ったので。
その間、何度怒声を上げ、物に八つ当たりしたことか。
しかし、助かったのは起業当初から資金難で IT 関係も業者に丸投げできず、自分でやるしかなかったので、IT の知識がある程度あったことです。
当時、効率的には業者さん丸投げの方が遥かに良かったのですが、現時点、効果的には丸投げしなかった方が遥かに良かった。
しかも、格段にグレードアップ(grade up)した新しい cloud drive も見つけられたし。
今となれば「怪我の功名」となった昨日の顛末でございました。

2020/4/25

（昨日の記事は取りあえず上梓できたけれど「も…」の顛末「一難去ってまた一難」）



昨日、合計 23 時間の悪戦苦闘の末、何とか記事をアップするまでになりました、と「めでたしめでたし」報告をした、その 1 時間後、今度はリリーフに担ぎ出された 2 番目の PC のキーボードが突如全く反応しなくなってしまいました。
立ち上げ画面のパスワードすら入力できないので、まったく何もできません。
不運やご難もここまで続くと「天から与えられた試練」などという気にはならず、いけないこととは思いつつも、むしろ「天からのいじめか虐待」のようにすら感じてしまいました。
「もはや、命運は尽きた。わしもここまでか…」
とアタマはそういっても、どうやらこころは、諦めきれなかったようです。
立ち上げ画面の右下をふと見ると時計が 3 時をさしたようなアイコンに目が留まりました。
何のアイコンだろうと、かろうじて反応しているマウスでたたくと、出てきた項目の中に「ソフトキーボード」というのがありました。
それで試しに叩いてみると、画面にグラフィックのキーボードが出てきて、マウスを使って入力が可能なことが分かりました。
しかし、正しい筈のパスワードを入れても一向に中に入れず、すべてはねられてしまいます。
で、これはもう訊くしかないと PC メーカのサポートに電話すると、ソフトキーボードの使い方に誤りがあることがわかり、それをただすと、中に入れました。
それから、キーボードの復活をかけて、いろんな改善のためのチェックが始まりました。
オペレーターさんの指示に従い、デバイスマネージャーのキーボードのファームウエアをいったん削除して新たに入れなおしたり、電源投入時に「F」キーを連打して、非常時に出す画面にたどりつこうとしたり、あれやこれややってはみたのですが、どれもだめでした。

で、対応策は他にないか聞くと
「出張修理以外に方法はないようですが、とりあえず、出張修理サービスが行くまでの間、外付けの USB キーボードをつなげば、つかえるかもしれません。調べたところ、キーボード以外は全て生きているようですから」
で、その出張修理のサービスマンが来るまでの間に PC が曲がりなりにも使えるように、街に外付け USB キーボードを買いに出かけました。
その結果、見た目は格好が悪いのですが、少なくとも文字入力は出来るようになりました。
「現下のコロナ禍。PC が動かず起死回生の販促策のタイミングを逸したら、うちの会社の命取りになりかねません。どうにかなりませんか？」
そういったのがオペレーターさんに効いたのか、サービスマンと入れ替えのマザー基盤は超最速最短の、明日（といってもう今日になりましたが）朝いちばんに来るそうです。
オペレーターさんはとても明確で親切な方でした。
「Never give up」
その言葉だけが頼りの今日この頃でございます。

2020/4/26

（三日連続、PC の顛末 最終回）

昨日、朝一番で、二番手の「登板」即「降板」だった、リリーフピッチャー役の PC を直しにエンジニアの方が修理に来られました。
小一時間ほどの点検の結果、キーボード本体と、それをコントロールする基板をつなぐフラットケーブルが、恐らく長年の振動で浮き上がり、命令信号が届かなくなっていたようです。
二番目の PC は、暫く使っていなかったので、たまたま昨日、自宅本社からお店に行って仕事をするための移動のわずかの間に積年の緩みの積み重ねの「最後の一揺れ」で限界を超え、プチっと浮き上がってしまったようでした。所謂「接触不良」
やはり長年の積み重ねは怖いものです。
起こった事態は「キーボード、突如、全く動かず」というショッキングなものだったので、その原因として、何か大それたことが起こったのではないかと想像しがちですが、何のことはない、全く想像すらしなかった「扱いに丁寧さを欠いていた」という、日々、日ごろのちょっとした「間違った行為の積み重ねの結果」でしかなかったからです。
ところが今度は、話は替わって一番目の右腕故障中のエースピッチャーのお話。
とにかくこいつがマウンドに上がってこない限り、この厳しい試合の連続を切り抜けることは、どう考えてもできない。そのためにはトーナメント戦開始までには是が非でも故障を治癒しておく必要がある。
「Never can give up（諦めきれない）」
で、二番手リリーフピッチャーの修理の方が帰り、エースピッチャーPC の修理引き取り便が来るまでの間、いろいろ改善方法を試してみることにしました。
二番手ピッチャーの故障の原因が「意外と何でもないこと」だった経験則から、今起こっている他の「小さな不具合」を地道にひとつひとつ、つぶしていくことにしました。
その最初が、音回りの不具合。
イヤホンジャックにミニプラグのヘッドホンを差し込んだ際、何故か、それまでのヘッドホンのみで聞こえていた音が、オープンエア兼ヘッドホン視聴の 2 ウェイになっており、しかも切り替えができなくなっていました。
それをトラブルシューティングで自動改善したところ、なんとアイコンクリック後のアプリ起動の反応速度がいつものサクサク状態に戻っていたのです。
「えっ！？」
本当にたまたまの偶然「瓢箪から駒」の出来事でした。
で、不具合の詳述は今までの記事ではしておりませんでしたが、同時に起こっていた PC 底部からの異音もいつの間にかピタッと消えていたのです。
で、思ったのが、メーカーの担当者が言うような「冷却ファンに積年のごみがたまって起きる摩擦音による物理的な不具合」ではなく、何らかの原因で起きた「誤った命令信号送出」

による音圧の極端な過重圧で極めて小さな内臓スピーカが挙げていた「悲鳴」だったようです。
いずれも全く想像すらしなかった事が原因でした。
本日の教訓「積み重ねを見くびるな、そして、怠るな」で最後にやはり「Never give up!!」
以上。

2020/4/28

（順番を守ることの大切さについてのお話（通算二回目）

以前ここで、順番の大切さの記事を書きましたが、今日は、タイトル名は違うのですが、内容的には、その第 2 回目の記事です。
以前、売り上げの低迷から、或る大手 IT 企業の東京本社傍に、そこで働く Hot & Spicy Curry を常食とする外国人社員 200 人向けにお店を開くことを計画しておりました。
そうして実際にそこで、社員食堂以外の外食を取り仕切る運営会社の幹部と詰めをするところまで行きましたが、結局、その話はこちらから取り下げることにいたしましたけれど。
理由は、
① 大口を得て安定するのはいいのだが、知らぬ間に過度の依存が醸成し、万が一コケタ場合手の打ちようがなくなる。また、一方的に無理な要求を突き付けられ奴隷化する恐れがある。
② 何故それを心配するかといえば、自分の予測からすれば、そろそろ大きな不況の波がやってきてもおかしくないサイクルに入っている。最近、在庫を持たない IT 企業の活躍により、今までの景気の波はもはや当てはまらないニューノーマルといった捉え方もあるが、長年のサイクルはそう簡単には変わらないだろう。ニューノーマルが発生しているというのはあまりにも近視眼的すぎる見方だという思い。
③ そして、これが一番大きかったのですが、大口相手にすると、お客様とのコミュニケーションが希薄になるし、そもそもこのすすき野の地に足を下ろした理由が、国際間世代間交流事業という「昨今壊滅的に失われつつある、コミュニケーションを再蘇生し、醸成するのが目的」だったのに対して、何か筋違いのビジネスモデルに感じたからです。
④ そして、何よりも、このすすき野近隣の地の風景やら環境、雰囲気がとても好きだったから。
ですが、それが幸いにも時期を得た判断となり、現下コロナ禍（景気後退に代わってまさかこんなものが来るとは…）においてもそれほどの売り上げダウンは被りませんでした。
もし、この優先度の選択を間違えて、一番目に立地、即ち都心や駅傍に出店していたら、壊滅的な打撃を受けていたと思います。
それが、判断の優先順位として一番目に事業意思を置き、二番目に景気動向を、そして三番目に立地条件を置く順番を守ったことで、テレワークにより居住地域で仕事をすることが推奨され、職場に通わなくなった変化に対応でき、都心、通勤に使われない駅傍の強烈な売り上げダウンを回避。そして、逆に地元での滞在時間と人数が増えた恩恵に、図らずもあずかることができました（少なくとも現時点においてはで、この先は分かりませんが）
もしあの時、従業員が、やいのやいのいう目先の売上に屈して、この順番のセオリーを守っ

ていなかったらと思うと、心底、ぞっとします。
やはり、どんなときにも順番に限らずセオリーには一目置く必要性を痛感した次第でございます。

2020/4/28-2

（コロナ禍現下、最近分かったことふたつ）

自分のところは外国人従業員のみのカリー屋でございます。
お店は駅から離れており、商店街もさびれている中での事業運営でございます。
それを念頭に置いてお読みくださいませ。
まず一つ目は、
「世の中には「まともなひと」と「そうでないひと」がいるだけ。
出身国や人種、お金持ちか貧乏人か、地位が高いか否か、男か女か、若いか年寄りか、は殆ど関係ないようだ。
外国人皆が皆、礼儀知らずの不正直者で、日本人が皆が皆、礼儀をわきまえた、正直者か？といえば、そんなことばかりではないし、お金があって地位が高い男は、権力を乱用し、お金がなく地位も低く若い女は、清貧な生活をしているにもかかわらず凌辱される傾向が強いという我が国で一般的であり、マスコミ好みの絵姿が正しいかといえばこれも一概にそんなこと言えないし、若くて才能のある人間が、老いぼれでお金のない人間より倫理的に上かといえば、観察する限りそうとも言えない。
であるなら、個々一件、一件の事案と、それにかかわる個々人一人、一人を面倒くさがらずに見ていくしかない。その折、人を見るうえで唯一有効と思われる判断基準は、その人がどんな属性を持った人なのかによらず、先入観抜きにみれば、唯々その人個々人が「まともか否か」であるだけ。
それでは、まともか否かの基準はどこにおいてそういうのか？
それは、自分のことをまず優先して考えるのは仕方ないとして、同時にひとのこと「も」考えられる人が「まとも」で、自分のことしか考えない人が「そうでないひと」に置く。
そして姿勢としては地位が高くお金持ちのひとほど、人のことを優先して考える度合いが多くなければならず、地位が低く貧しい人はその度合いが幾分減免されてしかるべきだな」
二つ目は、
「お金は自分の前を歩いていない。お金は後からついてくる。
お金は自分の前を歩いていないから、追いかけるだけ無駄。自分の前に向けて行うことで意味のあるのは、唯「未来に向けての種まき（投資)」だけ。
そのまいた種が実るよう事績事案を積み上げる努力をし、そこに至った時に、その事績事案が生み出したお金は、世の中を巡り巡って、自然と後ろから、自ら生み出した事績事案を慕って忘れた頃に「こんにちは、その節は、お世話になりました」とやってくる」
という２件の発見、気づきです。
なんのことはない、古来より我が国において広く庶民の間でいわれている諺。
一つ目が
「人を呪えば、穴二つ、人を想えば、蔵三つ（後半は自作です)」や、古代の王が高台より

民の家を見下ろすに、竈（かまど）から炊飯の煙が立ち上るのが見えず、大変心配なさったという故事「想民此天子的王道哉」（これも後半漢語部分は自作）
二つ目が
「急がば回れ」で「損して得取れ」「身を捨ててこそ浮かぶ瀬もあれ」（これは全て本物）
以上二つが、最近分かったことでございます。

2020/4/30

（そこで「長がぁぁい」一句）

「これだっ！！」
というものより、はじめは取るに足らぬことのように思われて、あまりきにもとめなかったものが、こころのどこかで知らない間に育ち、あらぬ時に、あらぬ場所で突如目の前に現れ
「あぁ、こっちだったのか。本筋は」
と後になって「結果的に」気づく。
そして、最後の最後ぎりぎりの瀬戸際で、慌ててそちらに乗り移り、すんでのところで、ご難や誤謬に見舞われずに済んだことが直近の過去において、幾度もありました。
自分は、こどもの頃から親に「猪突猛進の代表的なサンプル」のレッテルを張られるほど「思いついたが 100 年目」の短絡思考の短絡行動人間でしたが、様々な経験を経たのち「思いつきは思い付きでしかない」ことを思い知らされ、最近では「これだっ！！」と思わず膝を叩いても、そのあと「ぐっと我慢して」しばしその思い付きを、敢えて放り投げておくようにしておりました。
曰く
「思い付きは思い付きでしかない。そう思えるようになるまで、当該、各一件に付、必ず時間をおくことにしよう」
先にお話しした、我が国の中では巨大 IT 企業と言われる本社傍に大口顧客を得るために移転する際の話が、まさにこの例でした。
「１００％移転が正解だと思うが、それでもとにかく一旦放っておこう。兎角「１００％」には注意をした方がいいからな」
そこで「長がぁぁい」一句
「万全盤石又は「棚から牡丹餅」には要注意。意表をついての想定外又は「瓢箪から駒」に、むしろ真実、活路在り。
高ぶる鼻息を抑え、しばし待たれるのも、よろしかろう。のう、御同輩。
なにせ「天地の運行」及び「こころの働き」は「脳の産物でしかない人知」では計り知れぬ事、故」
そして締めは
「上記に従っての「人事を尽くして天命を待ち」最後は「運を天に任せる」肚（はら）をくくる、という流れ、かな？」
「辛抱強く、潔く、の大和魂」（左記、力士、豪栄道の言）に従えば、の話ですが。
（追記：確かに「長がぁぁい」一句で、すみません。大幅超過の字余り）

2020/4/30-2

（少なくとも、弊社としては）

日経の電子版をみていて
「えっ、嘘やし！？」
とちょっと驚いた記事がありました。
自己資本利益率（ROE=ratio of earnings）
利益額を自己資本額で割った比率
その過度の重視が現下、コロナ禍で大きな会社をも存立の危機に陥れているのだと。
どういうことかというと
本来なら、ROE（自己資本利益率）をあげるために、自己資本額を分母とした場合、当然ながら分子の利益額を上げるのが常道です。
ところがなんと、名だたる世界の著名企業の経営者達が、あろうことかROE（自己資本利益率）を上げるために、分子、即ち利益額をそのまま固定して、なんと分母である自己資本額を削る（＝そのために負債額（借り入れ）を上げる）という「阿保」としか言いようのない「テクニック」を弄していたのです。
まさに分子と分母の重さの置き方の本末転倒。
当然自己資本額が薄くなれば現下、コロナ禍のような大波が来た時に、自由に動かせる手元資金がすぐ底をつき、ただでさえ自己資本額を減らすために低金利をいいことに借り入れた多額の負債に加え、新たにまた借り入れをしなくてはならなくなる羽目に陥ってしまうわけです。簡単に言うと会社の存亡の危機を招いているということです。
では、なぜこのようなばかげたことが起きたのか？というと、その記事は
「過度の株主偏重が原因」だと述べておりました。
会社を取り巻くステークホルダー（利害関係者）には３者があります。
株主、従業員、そしてお客様。
要するに株主だけに目を向けて、従業員の生活とお客様の安全を危険にさらしていたのが現在の名だたる著名企業の経営者達（特に米国の航空会社）だったのです。
しかも同時に株式市場は、社会貢献や会社の社会的意義などよりも、圧倒的に儲ければいいだけの草刈り場になり、アクティブ投資（考えて的を絞る投資）からアルゴリズムAIに代表されるようなパッシブ投資（考えず機械的に幅広くやる投資）の比率が急上昇し、結果前者による後者への歯止めがかからず、一方向に流れやすくなったために、今回目の当たりにしたような、過度の株価乱高下が起こり人々とその生活をほんろうしました。
「その中で人間には何が起こっているかわからないAIのブラックボックス」によって。
となれば、自分の会社も含めて企業というのは一体だれのため、そして何のために存在を認められ、存立し続けることを許されているのか？
という極めてまっとうであり、根源的な問題に行き着くことになります。

現下、コロナ禍において「コロナ禍さま、まさに問われるべき問題として、よくぞタイミングよく的確な問題を提示してくださった」と感謝申し上げ、この問題を時期を得た極めて深刻且つ重要な問題提起であると捉えさせていただきたいと存じます。
少なくとも、弊社としては。

二〇二〇年五月

2020/5/3

（Namaste everybody からのお知らせ）

いくら一回当たりの額が少ないとはいえ、積み重ねると広告費も結構馬鹿にならないので、
現在弊社では自社サイトの整備を急ピッチで行っております。
そのため、こちらへの投稿が暫くできないか、大幅に回数が減ることが予想されます。
別に会社がつぶれたわけでも、社主がぶっ倒れたわけでもございませんので、大丈夫です。
弊社のサイトは
「株式会社うと Q」か「うと Q」
で検索すれば出てくると思います。
又はダイレクトに http://utokyu.co.jp
です。
Namaste everybody ページ、すすき野留学ページ、supporting for foreign workers ページ、
本社（HQ）ページはほぼ出来上がってきておりますが、全く新規の「ナマステ別館堂出版」
ページがまだで、その完成を急ピッチで行っている次第。
それ以外のページはご覧いただけますので、よかったらお越しくださいませ。

2020/5/4

（今回のコロナ禍に際して感じた、ふたつのおかしな点とそれを考えてみるいいチャンスの到来の件）

今回のコロナ禍に際し「何か変だな」と感じた二つの点についてお話ししたいと思います。
一つ目は、
今は消えてしまったインバウンド（海外からの旅行者来邦）ですが、どのテレビどの新聞を見てもくっついている写真や映像は欧米人が観光地を埋め尽くしているものばかり。
しかし我が国に来邦する旅行者の８０％は欧米以外のアジア系をはじめとする国々の方々でした。
犯罪報道の時にはイメージ写真としては、何故かアジア人の写真を掲載し、インバウンドの時には故意に欧米人の写真のみを掲載している不思議。
又、当店の従業員が指定の弁済費を払っているのにもかかわらず誤解を受け、督促状が舞い込んできた件で簡易裁判所とやりあった中での話ですが、裁判所係官の態度が同じ案件であったとしても欧米人に対しては、ある意味「卑屈なまでの低姿勢」であった可能性があるのに対し、当店の従業員がアジア系であるとみるや否や「きわめて蔑んでいるとしか思えない傲岸不遜な態度」が言われなく示された事例がありました。
こうした２例から推察するに、我が国のマスコミや司法関係という「いわゆるインテリ層」においては、ヘイトスピーチについては必要以上にキャンペーンを張っている反面、当のご自身は、ほとんど無意識の差別意識を抱いているのではないだろうか？という強い疑念を感じました。
今一つは、危機管理体制の脆弱性に向ける矛先についての疑念です。
危機管理については、ある意味裏腹の面があることに前から気付いておりました（3 年前に地元自治会の防犯防災担当役員をやった折にです）
つまり、お上に対して自らの身や財産の安全安心を求めて危機管理体制の完璧さを要求すればするほど、却って自分自身の危機管理能力は衰退し弱体化してしまうという二律背反のことについてです。
仮に、最悪の事態として、その安全安心を求める先の「国そのものが亡くなったとしたら」と、シリアやロヒンギャ族の事例をもとに考えてみるとよくわかるのですが、そういった究極の危機さえも想定すれば、むしろお上に危機管理能力の向上をやいのやいのいう前に、自分自身がどうそれを行き抜くのか、を考える方が先なのでないだろうか？
全て他人任せ、お上任せこそ危機管理上、最大の危機なのではないのかな？
という２点についてでした。
現下、コロナ禍により日常の風景が大きく変わりつつあります。
こうした中において、本当の公平公正や最後に依って立つのは誰（何）なのか？を考えるこ

とも「図らずも、多くの時間がある今こそ」振り返って考えることができる「いいチャンス」なのではないのかな？とおもっております。

2020/5/4-2

（雨の朝、超巨視的視点に立って見たら…）

早朝、自宅本社からお店まで、従業員が来る前の事前セッティングの為に丘や森を抜けて歩いてくると、木々の草花も鳥をはじめとした動物たちもコロナ禍以前と何も変わっていないことに気づきます。
変わってしまったのは人間さまの社会と暮らし向きだけ。
そんな天然自然の様子と我々人間さまの様子を対比してみると、自分自身とんでもなくしんどい思いをしているにもかかわらず、何か自分自身のドタバタがいささか「滑稽」に思えてしまいます（決して皆様方のことや様子ではございませんので誤解無きよう）
話は替わって、仮にこれら動植物と人間さま、天地天空山河をひっくるめて「世界」というのなら、縁起でもない話ですが可能性として、この疫病で「人類が滅んでしまった」としても、残りの動植物や天地天空山河はのこっているわけですから「世界の終わり」ということにはなりません（客観的には、の話です）
一方、人間という主観に立ってみれば、自分たち人間が滅んでしまえば、動植物や天地天空山河が残ろうが残るまいが、どうでもいいことなので「そんなもん知るか！！」となってしまうでしょう。
無論自分の心象もそうです。
しかし、よくよく想像してみれば地球 50 億年の歴史の中で、人類の歴史などたかだか数百万年で、地球の歴史の長さを１ｍとすると、人類の歴史などほんの１ミリに届くか届かないかくらいのものでしかない事実を比較対象に持ち込んで考えてみると、あながち、自分たち人間さまが滅んでしまうなら「後のことなど知ったことか！！したい放題やりまくってやる！！」という考え方は、いかがなものでしょうか？
まぁ、コロナ禍で人類が滅んでしまうことは万が一にもないと思いますが、コロナ禍後の経済活動再開の折に、環境問題やエネルギー問題を考えるうえで、上述の視点は大切なのではないかな?と思った次第。
そのくらい巨視的な視点に立たないと、経済と環境、エネルギー問題の「解」は得られないような気がしております。
本日只今、お店の前の通りにはほとんど人も車も通っておりません。今日の売上、大丈夫かな？
大変な不安に駆られる、5 月 4 日の朝 7 時 55 分でございます

2020/5/5

（いかがでしょう？弊社の「国際間・世代間交流事業」の皆様への以下、ご提案内容は？）

今となっては物凄い差別用語ですが、それを承知で話の取り掛かり上、敢えて言うなら
「美人は三日たつと見飽きるが、ブスは三日たつと見慣れる」
という我が国古来の諺もどきの前半部分「美人は三日たつと見飽きる」にあらわされているように、新鮮なもの、綺麗なものに代表されるサプライズというものは、それほど長く続くものではないようです。
例えばどんなに画期的な新製品であっても、3 日、いや下手をすると 3 分で見慣れ、30 分で心理的に陳腐化することすらあります。
事程左様に、新鮮味の持続というものは難しい点があります。
ですが今のビジネスや経済活動、あるいはそれに伴う生産者や消費者の価値観というものはほとんどみなこの「新鮮味によるサプライズ感の追及」に注がれているような気がします。
例えば艱難辛苦で苦労惨憺の末、事業に成功し、やっと手に入れた憧れの消費財や生活環境も、手に入れて 3 日で、その新鮮味を失ったとすると
「あぁ、俺（わたし）はこんなものを得るために今まで途方もない苦労をしてきたのか！！あぁ、なんだかばかばかしくなってきた」
という感想が漏れても仕方がない場面があったのではないか？無論そんなありがたい状況になったことはないので、自分の個人的な推測でしかありませんが。
ですが、成功者ですら内心、そんな感想を一瞬でも抱いたのだとすると、今般のコロナ禍において、そろそろこの新鮮味の追及である「商品や事業開発」の方向性というものは大きく変わってくるような気がしてなりません。
それを大胆に予測するなら「一瞬の新鮮味の追及」から「コツコツとした積み重ねの追及」への転換ではないかな？と。
例えば、新鮮味ということで「若さだけが重用される」ことから「人生経験という年輪の重み」が重用される風潮とか。
というのも、直近までは年配者が若年者ぶって無用な若作り（外見だけではありません）をしたり、肉体的に若くないというだけで自信を無くしたりするばかばかしさにいい加減うんざりしておりました。
若さだけに価値があるなら、歳を重ねるごとに自分の価値が下降していくことにもなり、それでは経験を積む意味や人生を生きる（年を重ねる）価値がなくなるとも思っておりましたので。
それで、上記のような予測と提案になった次第です。
最期に、今ひとつ。

智慧とは知識＋経験の産物です。知識を得,経験を通して役に立つものとそうでないものを仕分け、磨き上げたのが智慧。
若い人は知識の獲得は早いです。しかし経験が乏しい。年配者は知識の獲得は遅いですが経験は豊富にある。
そのお互いの利点を組み合わせれば（コラボすれば）新しい「智慧の時代」は生まれるような気がするのですが、いかがでしょう？弊社の「国際間・世代間交流事業」の皆様へのご提案内容は？

2020/5/5-2

（CSR ならぬ HER 「雨の朝、超巨視的視点に立って見たら…」加筆改題）

早朝、自宅本社からお店まで、従業員が来る前の事前セッティングの為に丘や森を抜けて歩いてくると、木々の草花も鳥をはじめとした動物たちもコロナ禍以前と何も変わっていないことに気づきます。
変わってしまったのは人間さまの社会と暮らし向きだけ。
そんな天然自然の様子と我々人間さまの様子を対比してみると、自分自身とんでもなくしんどい思いをしているにもかかわらず、何か自分自身のドタバタがいささか「滑稽」に思えてしまいます（決して皆様方のことや様子ではございませんので誤解無きよう）
話は替わって、仮にこれら動植物と人間さま、天地山河をひっくるめて「世界」と呼ぶのなら、縁起でもない話ですが可能性として、この疫病で「人類が滅んでしまった」としても、残りの動植物や天地山河はのこっているわけですから「世界の終わり」ということにはなりません（客観的には、の話です）
一方、人間という主観に立ってみれば、自分たち人間が滅んでしまえば、動植物や天地天空山河が残ろうが残るまいが、どうでもいいことなので「そんなもん知るか！！」となってしまうでしょう。
無論自分の心象もそうです。
しかし、よくよく想像してみれば地球 50 億年の歴史の中で、人類の歴史などたかだか数百万年で、地球の歴史の長さを 1 mとすると、人類の歴史などほんの 1 ミリに届くか届かないかくらいのものでしかない事実を比較対象に持ち込んで考えてみると、あながち、自分たち人間さまが滅んでしまうなら「後のことなど知ったことか！！したい放題やりまくってやる！！」という考え方は、いかがなものでしょうか？
譬え人間さまが滅んでも、そのあとに人間以外の動物、植物、天地山河はのこっているわけですから、それら生き物や環境に対して人間さまとして責任があるような気がします。
「立つ鳥跡を濁さず」とでももうしましょうか。
まぁ、コロナ禍で人類が滅んでしまうことは万が一にもないと思いますが、コロナ禍後の経済活動再開の折に、環境問題やエネルギー問題を考えるうえで、上述の視点は大切なのではないかな?とおもいます。
再び例えていうなら CSR(corporate social responsibility)「企業の社会的責任」ならぬ HER(human being‘ s Earth-Environmental responsibility)「人類の地球環境的責任」とでももうしましょうか。
人間さまとて所詮もとをただせば、地球の生き物の中のほんの一種族でしかないという観点に立てば、というくらいの巨視的な視点に立たないと、経済と環境、エネルギー問題の

「解」は得られないような気がしております。
コロナ禍発生時、ニューヨーク株式市場でAIによる株価が乱高下している中の人間さまの視界に映っていたものと、コロナ禍ロックダウン後、人通りがなく鳥や木々がのどかにたたずんでいる中での人間さまの視界に映っている景色の差を見れば、今後進むべき方向はいともたやすく認識できるのではないでしょうか？映像的に。

2020/5/7

（Namaste everybody からのお知らせ）

ナマステエブリバディのホームページ

http://utokyu.co.jp

の「ナマステ別館堂出版」ページのうち
① 小説・物語
② 語学教育
の今まで発表分の書庫が整いましたのでご案内申し上げます。
随筆・日記及び評論は記事が膨大なため、整理に今少し時間がかかります。
整い次第、ご案内申し上げますので、その節はよろしくお願い申し上げます。
追記）
本日お越しいただいたお客様が当店の従業員が来ている「Namaste everybody」のロゴ入りのＴシャツがたいそうお気に召されたとのことで、ぜひ分けてほしいとのお電話を戴きました。
現在、その件につきまして、販促物扱いにするかオリジナルグッズとして商品とするか、ネパール人のプロモーション担当と詰めを行っておりますので、今しばらくお待ちくださいませ。

（写真がそれです）

2020/5/10

（獅子千尋の谷（ししせんじんのたに）の気持ちで、三方両得のお話）

いい加減「おんぶにだっこ」に、も一つおまけにベビーカーも止めましょう。
過ぎたる歳の、過ぎたる「おんぶにだっこ」に、ベビーカーは、されている本人の足腰を弱くします。
ここでいう足腰の意味は、精神的自立心と経済的自立心です。
親は子に求められるまま、或いは子供を気遣って、良かれと思って「おんぶにだっこ」に、ベビーカーをするのですが、それが却って本人をダメにしてしまうことが多々あります。
ですから、子供の成長を本当に思うなら、過ぎたる歳の、過ぎたる「おんぶにだっこ」に、ベビーカーは止めた方がいいと思います。
子供がそれになれてしまうと、親御さんもしょっちゅう子供に付き添っていなくてはならなくなります。
そうなると親御さんの行動そのものが生涯を通じて束縛されることにもなりかねません。
ですから、ある年を過ぎたら、獅子千尋の谷（ししせんじんのたに）の気持ちを奮い起こして大切なお子さんを敢えて突き放した方が、結果としては親、子、社会三方両得になるものと思っております。

2020/5/11

（「乗り合い自動車（バス）」今昔物語）

自分が子供の頃は、バス通りもまだ舗装されていない砂利道で、凸凹していた関係もあって、乗合自動車（＝バス）に乗っているお客さんは、そのでこぼこに合わせて、体を右に揺らせたり左に揺らせたりしながら乗っておりました。
バスも炎天下では時々オーバーヒートして、運行時間中にバスを止めて運転手さんやら車掌さん（男性の）がボンネットカバーを開けて「ああでもない、こうでもない」とやりだすこともありました。
おまけに冷房がないので、車窓はフルオープンで、砂利道の砂ぼこりが「わんさか」入ってきていました。
それに対して令和の世のバスは、ボンネットなんて当然ありませんし、完全空調で窓を開ける必要もありません。（コロナ禍においては逆に昔みたいに「お客様自身でなるたけ、窓を開けてください」に代わっておりますが）
ところで、自分が時間がないときにやむなく乗るバスルートは、山在り谷在り、左右の蛇行カーブ在りの変化にとんだものなのですが、なんとなく車窓外から社内風景に目を転じてみると、これだけの上下左右運動にも拘らず、ほぼ全員が前のめりにもならず、後ろ反りにもならず、はたまた、左右の揺れも一切なく、殆ど「微動だに」しないが如く「お行儀よく」座っているのに気づきました。
「どない、なっとん？」
で、咄嗟に感じたのが
「なんやら全員緊張しまくっておるな」
でした。
分かりやすく言えば「かっちんこっちん」
そして
「う〜ん、なんやら疲れる〜」
ですが、バス車内の光景について、いろいろ記憶をたどってみると、確かにいつ乗ってもこんな感じであることに気づきました。
と同時に
「みんな絵に描いたようにお行儀がいいのに、つえを突いたじいさんばあさんが乗ってきても、席を譲っているのを見たことはめったにないし、足を引きずっている人に声掛けする姿も見たことがない。というか、そういう人が来ると俄かに車窓外に目線を移す光景が多々あったな」
と、頭の中の映像データ庫が眼前にいくつかのショットを展開してくれました。
で、
「お行儀がよくて礼儀がないほど腹の立つことはない。行儀は、外見（そとみ）礼儀は中身

（こころ）とすれば、いつから我々は、見てくれだけでこころのない「ピーマン紳士淑女」になってしもたん、か？」
本日の記事は、以上体言止め風に終わることにいたします。

2020/5/13

（個人的見解ですが、今コロナ禍で図らずも分かったこと）

今回のコロナ禍で、個人的にですが、図らずもわかったことは、
どんなに高位の為政者であろうともコロナに感染するという事実と
どんなに多額の金品を持っていたとしても、直接的にはそれが何の役にも立たないという事実でした。
要するに人間社会特有のものがまるで役に立たなかった、或いは意味をなさなかったということです。
その反面、何が役に立ったかといえば、免疫力、抵抗力、そして生命力（サバイバル能力）という、何のことはない「人間様」と雖（いえども）結局のところ数多ある生き物の中で、所詮単なるその一種である「人目人科」でしかない「生物由来」のものばかりでした。
もしこの伝に従えば、そして巨視俯瞰的な公平平等の観点で見れば、その国の為政者や体制の持つ力と国民のパワーの総和を比率換算 100（一定）と置き換えた場合に、国家的に医療体制の脆弱な途上国、新興国の国民は、逆に個々人の免疫力、抵抗力、生命力（サバイバル能力）が自然と上がり、反対に国家的な医療体制の強固な国の国民各人の同上の能力は、気づかないまま、相対的に低下することになるというのも一片の真実があるような気が致しました（無論かなりの時間を経て分かる結果論であって、急場のしのぎには何の役にも立たない見方ではありますが）
では、以上のことから何が分かるのか？
それは、地球環境、生態系環境も含めて共生共存という意味で「人間様」はもう少し「人目人科という生物的視点」を根底に置くべきではないか？
もっと率直に言えば、人間様を特別視し、生物界における選民であるという「傲慢」と「他の環境や生物に対する見下し」、それにこれが最悪なのですが「それらを人間様が所有している」という錯覚と誤認識を今少し、控えるべきではないか？
そして今一つは、国家は「ゴネれば、何でも出してくれる打ち出の小槌」などでは全くないことがわかったので、そんなありもしないものに過度に頼りすぎず、個々人の生命力（サバイバル能力）をアップすべく教育機会均等である中学三年までの義務教育の中に、アタマとこころと身体を三方（さんぽう）万遍なく使い、生命力（個々人のサバイバル能力）アップさせる枠組み（システムとカリキュラムと生徒、学生に対する評価方法）を取り入れるべきではないか？
ということでした。
生意気盛りのくそジジイの言葉故、お聞き流しくださってもいいとは思いますが、自分としては、冒頭の「個人的見解」ではなく「世界的見解」になってほしいものだと思っておりま

す。

2020/5/14

(「昨日いろいろありましたからね」での、切り上げ口上)

最近、これが多いのがちょっと難なのですが、
「これは完全に個人的な見立てです」の「個人的な見立て」の事。
或る晩、お母さんが愛娘をよんで、こういいました。
「男に惚れちゃだめよ。惚れていない男と結婚しなさい。操りやすい男と結婚しなさい。そうすれば幸せになれるから。私を見ればわかるでしょう？」
それがそもそもの始まりでした。
おかしなお母さんとおかしな子供と、まるで意気地のないお父さんの物語が日本全国で始まりだしたのは。
その結果、現在我が国の隠れ半数がうつ病予備軍。
そうして、このコロナでの隠蔽生活と失業、失職、失交流生活で新たに加わった要素と合体して、コロナ禍後の経済的問題以上に、この精神的疾患患者の拡大と深化が想像されます。
特に我が国において。
(決して諸外国の話ではありません。外国の実情を自分は知りませんから。ご容赦されたく)
それはさておき、上述のような下地があったために。
特に我が国においては、恐らく超ド級の嵐が来るでしょう。
多くの人がそれによって吹き飛ばされることのなると思います。
しかし、これを超えないと、新しい芽は出ません。
それを信じて、これから数年の嵐を生き抜くことを
「各々方、覚悟召されるがよろしかろう」と申し上げる次第。
今日は結構、派手なものいいですねぇ。
昨日いろいろありましたからね。わたしの家で。

2020/5/17

（大変由来の大機を逃すものか！！）

昨日、電動バリカンを買いました。
コロナ禍の自粛営業のせいで、行きつけの QB ハウスが休業になり、再開のめどが未定となっていたので、無精者の自分もやむなく重い腰を上げて、昨日掲題のものを買ってまいり、今朝、朝風呂上がりに自分でアタマを刈り上げました。
幸いにも自分は坊主頭が常態ヘアスタイルなので。
で、思ったのですが、コロナ禍後、生活行動が相当変わるだろうなぁと。
まず、掲記の散髪の件に関して言えば、braun の電動カミソリが税込約 6000 円。
QB ハウスといえど、一回の散髪代が税込 1200 円。で、月に 2 回行くので 1 か月 2400 円。
となれば、3 か月で braun の高級電動バリカン（１ｍｍ刈り上げ対応はこれが最低価格でした）の元が取れて 400 円おつりがくる。且つまた、お店に出向くための時間が少なくとも 3 時間は節約できると、自分にとっては、いいことづくめ。
多分そういった発見がそこかしこで起き、行動パターンの見直しと変容が起きるであろうと。
その際大切なのは、おそらく「自分の力で、どこまで、またどれだけのことができるだろうか？」という自己点検とそれを行動に切り替える手立ての発見でしょうか？
そうなると、女性はともかく男性には革新的は変化が起こるはずでしょう。
どういうことかというと自分の身の回りのことや「お三ドン（食事の支度等)」を女性に頼る必要のない男性が続出し「そういったことが目的で結婚する」タイプの男性がぐっと減るのではないかと思っております。
で、その男性が女性に求めるようになるのは、それ以外の要素。しかもこれまた単なる「美貌」や「見てくれ」だけではない新しい要素を。
仮にこれを経済で見ると、QB ハウスと電動バリカンは有形資産ですけれど、自分でする散髪のノウハウの獲得は無形資産です。身の回りの世話やお三ドン、将又（はたまた）女性の美貌は有形資産もどきですが、それ以外の見えない魅力は無形資産です。
工場を持ったトヨタの価値が落ち、工場を持たない GAFAM（GAFA+Microsoft）のアプリケーションやソリューションの価値が上がっているのも、そんな世の中の変容を示しているのではないでしょうか？
兎に角大きな転換が起きる或いはすでに始まっていることだけは確実のようです。
こんなビッグチャンス、めったにないので逃したくありません。
それで、以上のような画枯れに即して、当社としてもカリー屋の「ナマステ エブリバディ」という有形資産以外に、インターネット私サイトでの電子出版「ナマステ別館堂出版事業」という無形資産事業に力を入れ始めた所以でございます。

2020/5/18

(大切なものは手間暇かけないと手に入らない)

現在、わが社の外国人従業員である「パキ姉ちゃん（パキスタン姉ちゃんの略)」(といっても２歳の男の子の母親ですが）はイスラム教の年一回の宗教行事である「ラマダン」の最中で、コロナ禍と併せて二重の自粛生活をしております。
イスラム教徒というと、鉄砲を携えたり爆弾を仕掛けたりするように報じられておりますが、実際に彼らの生活を間近で見る限り、非常につつましやかですし、これは聞いて驚いたのですが、その教えに従って毎月給与の中から５％のお金を恵まれない人々の為に寄付しているのだそうです。
こういったことは、残念ながら政治家も言いませんしマスコミも報じません。政治家もマスコミも自分たちの「お金になる」ことだけを、敢えてゆがめて伝えているようです。
こういった正しくない偏りに満ちた情報を「掴まされない」ためには、多方面から情報を日々集めてチェックしなければなりませんが、実はこれは大変な作業になります。
一言でいうと実に「面倒くさい」のです。
一方、今（こん）コロナ禍で、欧米や大陸の大きな国々の「ロックダウン（都市封鎖)」が称賛され、我が国の優柔不断と後手、後手対策が非難されました。
しかし、よくよく考えてみればロックダウンというのは「国家の強権発動」以外の何物でもありません。実に「非民主的な方法」です。
逆に言えば我が国は、法的にも又政府自身も国際的に見れば、戦後世界各国に比して、上記のように「優柔不断」とも思えるほど「強権発動を抑えて」来たように思えます。(第二次大戦中の我が国自身の振舞いへの反省から)
以上の二つの話を俯瞰すると、情報にせよ、民主主義にせよ、大切なものというのは、実は決してお手軽簡単に手に入るものではなく、実に面倒くさい、そしてコストのかかる手間暇ことを、それを厭わず、忌み嫌わず、続けないと得られないものなのだということが分かってきます。
これは商品にせよ、人材にせよ同じことが言えます。
簡単に一言でいうと
「いいものは手間暇かけないと絶対に手に入らないし育たない」
効率ばかりを優先させ AI に行き着いた現代社会。
ですが、AI そのものは良くも悪くもないのですが、使い方が悪かった。
管理監督、監視、金儲けだけに向いてしまった。
そのことに我々が気づき始めた今、AI の使い方を含めた「大いなる修正」が今後始まると思います。
ESG(環境、社会、企業統治)のうまいエコサイクルを産む価値観の確立や仕組みづくりに向けて、に代っていくと思います。

また、そうでないと「コロナ禍」に飲まれるだけで、教訓として役立て、打ち勝ったことにはならないと思います。

2020/5/25

（ご心配を戴き、誠にありがとうございます）

「暫く記事を書いていないようだが、何かあったの？大丈夫なの？」
という誠にありがたいご心配の言葉を、読者数名の方から頂戴し、感謝の極みでございます。
この場を借りて、その方々へも含め、いささかのご説明をさせていただきます。
先の案内でも申上げました通り（多分小さな記事でしたので、お気づきになられなかったかもしれませんが）現在、電子書籍出版の仕事に注力しております。
理由は、現在の飲食事業の売上高だけでは、事業として早晩継続できなくなるからです。
早急に今の一本足打法から二本足打法に切り替える必要に迫られて、のことです。
その第一弾として、２０１５年に出版した自著による書籍「人生終わったなと思った時に読む本」の改変版で、更に相当な改変を入れましたので題名を
（新本）「人生終わったな」と思ってから（仮題）
と題して、発刊準備を突貫作業で進めております。
それゆえ、記事の更新に手が及ばず、ご心配をおかけしてしまったという次第でございます。
尚、上記の電子書籍の発売予定は、Amazon の kindle にて、6 月初旬を目標としております。
定価は 1 購読権 100 円（予価）です。
発刊の折はまたご案内申し上げますが、その節、皆様におかれましては、お楽しみいただければ、誠に幸いかと、存じます。

2020/5/30

（テレワーク実践報告）

今回の出版に当たっては、はじめから最後まで、完全なテレワーク作業でした。例のコロナ君のせいで？
いやいや前から、自分と HP 制作技術者兼「元々物書き」の編集者さんとは。もう 6 年間そうして来ていました。理由はお互い忙しく時間が取れないか、合わないからです。
で、今般のテレワークについて思ったのですが、テレワークがうまくいくか行かないかは、ひとえに、お互いのコミュニケーション姿勢にかかっているのではないかな？と。
つまり、何とか相手に自分の言いたいこと、伝えたいことを分かってもらおうとする姿勢とそれを満たす方法を見出そうとする努力と、相手の言わんとしていることを何とか理解しようとする「耳を傾け相手の真意をくみ取ろう」する姿勢と心の受容力を相互に持ち合わせることができるか否か？ではないでしょうか。
昨今話題のテレワークにおいて、いくら高価でハイレベルな機材やシステムを導入しても、上述のことが満たされていなければ何の効果も得られません。
例えば、鼻から相手をへこまそうとか、相手の言い分を一切受け付けないとか。本心を隠して言い逃れようとか、相手の上げ足を取ってひっくり返そうといった姿勢であれば、何の効果も生みません。
ですが、これはよくよく考えてみれば、何もテレワークに限ったことではなく、コロナ君が来る前のテレワークが今後の仕事の必須アイテムになる以前の直接面談、直接会議、直接ミーティングにおいてもそうだったはずです（
そんな中で、今、明らかになってきたのは、テレワーク以前から、そういった前向きで生産的なコミュニケーションがほとんどなされていなかった事もう少し突っ込んで言うなら、家族との日常会話においても）
それがテレワークの導入によって如実に顕在化してきた。
今回のコロナ禍が我々についつけている最大の問題、課題は（国、階位、性別、年齢、職種、身内か他人か等によらず）すべての人と人、そうしてひとと環境、生物とのコミュニケーションの在り方ではないでしょうか？

二〇二〇年六月

2020/6/1

（「今日思ったこと、二つ三つ」）

それぞれに関連はないような気もしますが、今日思ったことを二つ三つ手短に。
まずその一。
前の前の会社で、商品企画が成功したので、一つ成功話をインタビューしたいとの申し入れがあり、出たのですが。
それが大間違い。
それはその時が、一時の成功「局面」でしかなく、それ以降、ずっと続くわけでもないのに勘違いをしてしまったことがあった。
すべては on the way で、その過程でしかなく、とてもじゃないがいい気になって、成功話なんかして浮かれている場合ではなかったのに。突如インタビューの翌日に、ジェットコースター並みの下降局面が待っているかもしれなかったのに。
二つ目。
うつ病を治したかったら一刻も早くどん底へ落ちた方がいいと思うという話を別のところで書きましたが、それは「それが迷妄であるにすぎないことに気づくには（自然と目の付け所を変えられるようになるには）どん底に行くのが最短コース」という意味だな。
そうして、どん底は、却って「一番安心な場所」だとも。なぜなら、後は上、一方向を見ていればいいだけの安心感や落ち着きが得られるから。
そのどん底から這い上がり始めた上昇基調というのは、その見方からすると、今度は既に、上がるかもしれない上方向と、下がるかもしれない下方向、両方に目を向けなくてはならない煩雑さと、下がる可能性を得た不安を既に抱えていることでもあるな、と。
最高の成功は、同じくその見方からすると、どん底から最も距離が離れているわけだから、本来その落差のショックを考えると、最も不安になっていいはずなのに、なぜかそれを忘れてしまっている、な。
そして三つ目。
世の中というのは「愛情と数字」を両輪に動いている。
ここでいう「愛情」というのは、広い意味で「見守っている」「あなたのこと忘れているわけではないよ」ということ。「数字」というのは、これはもう端的に「お金」や「経済」で、この二つのうち、ひとつも得られないとなると起きるのが「暴動」「破壊」「転覆」
数字はそう簡単に得られないまでも、「見守られている」「気にかけられてはいる」もっと言えば「目をかけられている」と思えれば、まだしも数字が来るのが遅れたとしても我慢のし

ようがあるが、数字も来ない、気にかけられてすらいないとなると、人々はもうやけくそになるしかなくなってしまうな、と。
以上、それぞれに関連があるかどうかわかりませんが、今のコロナ禍下、世界各地で頻繁に起こり始めた極めて危うい状況を見て、本日思った二つ三つを思いつくままに書いてみました。

2020/6/1-2

（「爆走、ド派手なお忍び戦車」）

以前、自分が勤めていた会社の同期生の友人が、某国を訪れたときのお話。
その友人は、それまで赴任していた某国に久しぶりに仕事で「里帰り」し、郊外の民家で男女の楽しみを十分に満喫しすぎて、帰国の航空便に間に合いそうにもなくなった折、以前赴任していた某国の友人である陸軍将官に電話をし
「というわけで何とか帰りの航空便に間に合わせたいのだが」
と電話すると、頼んだ本人は陸軍御用達のセダンが横付けされると思っていたのですが、図らずも来たのはなんと戦車。
で、その友人の将官曰く
「近所で走っているのはこれだけだ。問題ない。裏はネゴってあるから乗って行け」
と。
で、その戦車は国道をキャタピラーの音高く、セダンに比して目方が重く、ガタイの大きな戦車としてはものすごいスピードである時速 80 キロ近い激速で「ええい、邪魔だ、下々の者ども、下がりおろう！！戦車様のおとおりだぁ！！」とばかりに「葵の御紋」を振り立てるが如く、某国のお上の権力を振りかざしながら爆走し、無事空港に時間内について、当該の友人は日本国内の役員会議に間に合ったとのことでした。
少なくともこの「ド派手なお忍び戦車」には戦車長、操縦士、砲手、砲弾装填手、機関士の 5 人くらいは乗り合わせている筈なので、5 人分の「心づけ」(要するにワイロといいますか口止め料と申しますか) をはらってのことでしょうし、想像するに、当該の友人が大人しく戦車内に座っていたのか、それとも戦車の砲塔の上に立って、双眼鏡片手にイケイケどんどんサインを出していたのか？は定かではありませんが、兎にも角にも無事帰国。
で、当時うつ病病み上がりの回復期だった自分は、この話を聞いたとき「やはり役員まで行くやつは違うな」と思ったような記憶が。
ところが、この同期の友人は、その後、その会社で起きたある大事件で、その一端を担いだ不正が発覚して「失脚」と申しますか「塀の中」への招待状が来たと申すようなことに。
で、うつ病快癒後にこの話を耳にして
「やはり、戦車の件も含めて不正は不正。天網恢恢疎にして漏らさず、であるな」
等とは全く思わず
「いや〜、あの話を聞いたときは実に痛快な思いであった。こういう「超法規的」ともいえる奇想天外な「羽目外し」こそ、今の我が国国民諸氏とっては、まずもって何よりも必要に違いない。
今度出所するときには、どうせ、の事なら、そんなところに知り合いがいるかどうかは全く知りもせぬが、いればその陸自幹部にでもお願いして、「オイ、すまんが、景気づけに一台回せ」とばかりに「陸自戦車」に出迎えに来させるのもオチがついていいかも、な」

と思った次第。
こんなことを言うと、どうせブーイングの嵐でしょうが、現下これが、自分の偽らざる感想でございます。

2020/6/5

(「悲しき推論」)

コロナ禍防止のための「3 蜜（密閉、密集、密接の３つの密)」で、ふと思い出したのですが、自分らが若いころは、カップルが並んで歩くといえば「腕を組んで」が一般的だったのですが、最近観察したところによると、そういったカップルは、殆ど絶滅危惧種になっている、どころか絶滅してしまったようです。
その代わりによく見かけるのが「手を繋いで」歩く姿です。
これは一見、微笑ましい姿に見えそうですが、自分の目から見ると上述の「3 蜜」に出てくる「密」を避けるための高等回避手段のように思えてなりません。
そう思い始めたきっかけは、大学生同士と思しきカップルが駅の自動改札までは手を繋いで歩いてきたのですが、その後そのゲートを通るために手繋ぎを解いた後の姿を見て、そう思ったのです。
それというのも、手をほどいた後、彼女は彼氏の後をついて同じゲートを通るかと思いきや、いったん止まって考えた後、踵を横に向けて隣のゲートを通過し、その後、あたかも後ろを通ったかのように何食わぬ顔で、又彼氏と手を繋いだ光景を見たときからでした。
それを見て以来、腕組と手繋ぎの違いを考え始めました。
そうして思い当たったのが、腕組の場合お互いの体は密着するが、手繋ぎの場合は、肩から手先までの物理的距離の掛ける 2 倍分だけ、絶対にお互いはそれ以上近づけないという事実に気づきました。
「なぁんだ、仲よさそうにしていながら、相互に完璧な防御壁を作っているだけなんだ」と。
そうしてこの隙間存在は、横並びの中での差から、今度は結婚後、奥さんがスマホを見ながら先頭を切って歩き、旦那さんが奥さんの影を踏まないように三歩下がって「妻の影を踏まぬよう」うなだれたポチが如くにベビーカーを押して歩く姿に変わっていくのではないだろうか？とも。
心ある人から見れば、観察による推論は、かなりえげつないものに映るかもしれませんが、自分の目には、そうとしか映らないのが、正直怖くもあり、悲しくもある次第でございます。

2020/6/7

（「ソーシャルディスタンスの功罪」修正版）

本日のお題にちなんで、まずは弊社の事業コンセプトにもう一つの交流を追加させていただきます。
現在の事業コンセプトが
「国際間世代間交流事業」
なのですが、これに
「隣人間交流」
を追加いたします。
英語にすると
“International, inter-generational with neighbors communicating business”
英語の方がより意図を表しているのですが「隣人間」というより「自分のお隣の方と」というニュアンスの事業項目を敢えて一つ追加します。
そのきっかけとなったのが、現下コロナ禍におけるソーシャルディスタンス（社会生活に於ける人と人との距離を取る）とテレワークに接したことが発端でした。
これに接してまず、直感的に思ったのが、いちいち満員電車で職場まで行かずとも済むようになるというプラスの面より、
「これで益々人と人が疎遠になる」というマイナスの面。
そして次に「疎遠になればなるほど、その反動として人と人のつながりを求めるニーズは高くなるはず」
ということでした。
その裏には、昨今のインターネットやSNS(social network system)の隆盛は、現実世界において隣にいる人とのコミュニケーションがとりづらくなり、その代替物或いは逃げ場として格好の場所だからではないか？という観察結果がありました。
曰くネット上で姿が見えなければ「リア充のいいひと」になれる。或いは、それも面倒くさければ、半匿名をいいことに「言いたい放題の仕置き人か私刑宣告裁判官」であるが如き存在になれる。
といったお手軽簡単便利な「逃げ」か「はけ口」として有用だからと。
しかし、この人と人のつながりをお手軽簡単便利であるがゆえに、現実世界のまさに隣にいる人を置き去りにして、私的な時間のみならず公的な時間（テレワークやビデオ会議）にまでその傾向が拡大侵食すると、そもそもが生物である人目人科さまは、その生物が本来持っている「コミュニケーション欲求（平たく言えば、人肌のぬくもり）」からの無意識の警告アナウンスに基づき、一転翻って、それらを求め始めるだろうというのが自分の読みでした。
現に、自粛緩和により「今のところは」開店している「飲食店、居酒屋、レストラン」にど

っと人があふれだしたのを見れば一目瞭然。
昨日川崎駅前のラーメン店を外から見て、びっくり。ソーシャルディスタンスのお達しもなんのその。仕切りもないまま殆ど肌触れ合わんばかり距離で、汗を拭き拭きラーメン、チャーハン、餃子をなりふり構わず、わせわせとかき込む「ド３密ぶり」や、着ているものが半そでになっただけで、昨年暮れとほとんど変わらぬ夜の歌舞伎町界隈の風景。
といったようなわけで、新たに「隣人間交流事業（with neighbors communicating business）」を付け加えた次第にございます。

2020/6/9

（うと Q ホームページ内「ナマステ別館堂出版」ページ全面改訂のご案内）

思うところあって、掲題の件を行います。
思うところというのは
「うときゅういっき と 只六の作家色をトーンダウンすることにし、出版目的を前面に打ち出すことにしました」
ということです。
そうして、その改訂内容は以下とする予定でございます。

電子書籍出版
ナマステ別館堂出版部の目的を少しご説明いたします。
「元気が何よりじゃ」
表題は、今は亡きおふくろの言葉です。
これだけでは、何のことかわからないと思いますので、今少し
続きを書かせて戴きますと
「お金も家も二の次。
三度のご飯が食べられて、元気なのが一番。
それで充分。
あとはオマケみたいなもんだから」
これは、バブル崩壊で一夜にして父が大損をしたときに口にした
言葉でした。
そうして、その父は、元は船乗りで、自分が子供の頃、よくこう言って
おりました。
「船長は、全員の無事退艦を認めてから、最後に船を降りるものだ」
それを息子である自分が少し進めて
「元気が何よりだとして、もし今、自分に元気がないのなら、
それは、どうしてなのか？」
ひょっとして、その一因は「逃げ」から生まれているのではないか？
これを仮説として、その原因を考え、ご自分なりの答えを見つける
きっかけを提供する出版物の発刊を
「ナマステ別館堂出版部の目的」とすることにいたしました。
自分は、今は、あの世暮らしとなった父と母を大変、尊敬して
いるものですから、それを引き継いで、そう致しました。

トップページの URL は以下となります。
http://utokyu.co.jp
その中の「ナマステ別館堂出版」のタブを叩いてご覧くださいませ。
反映は本日午後となりますので、よろしくお願い申し上げます。

以上、ナマステ別館堂出版主人でした。

2020/6/10

（「大変は大機」の千載一遇のチャンスに焦るも…）

現下コロナ禍「大変は大機（Big change is Big chance）」
と書いて、このチャンスを逃すまいと焦っているわけですが、何がチャンスなのか一向に見えてきません。
例えば「New normal（新常態）」という言葉が毎日の如くメディアで踊っていますが、それも抽象語にしか見えません。
せっかく千載一遇の機会に接しながら、うかうかしているうちにその好機を逃してしまうのではないか？
それが今一番痛切に感じている心配事です。
何かヒントはないか？
で、小一時間ほどつらつらと考えてみたのですが、一つだけ思い当たったことが。
「なんかお金にはもううんざり。手垢にまみれすぎている」
10 万円の給付金と言ってもいくら待っても手元には来ない。
実体経済がこれほど棄損しているにもかかわらず、株価ばかりが何故か上がる。
あろうことか、このコロナ禍で大変な目にあっている人が多いのに、特殊詐欺が非情にもそれらの人々をどさくさ紛れにカモにしている。
マスクの買い占めや消毒液の高騰。
寄って、たかって国民諸氏が給付、救済と押し寄せる反面、押し寄せられた政府や銀行も早晩、台所は火の車になりそうで、今後どうなるかはわからない。
というわけで、なんだか「お金の話にはうんざり」となったわけです。
となると、この暑苦しさを晴らす（cool down）のが、お金以外の何か新しいもの？
となったわけですが、そんなものそうそうありそうもなく。また、お金相手に喧嘩したところで、勝ち目がありそうにもなく。そもそも貨幣経済そのものをひっくり返すなどという前代未聞の大技などできるはずもありませんし。
で、またまた考えたのが
「兵法最大の目的は、戦わずして勝つ。相手のせん滅ではなく、相手を味方につける事」
だとすれば「お金を味方につける」のが得策。
で、更にさらさら考えたのが
「お金そのものに罪はない。悪いわけではない。問題は、その稼ぎ方と使い方にあるのではなかろか？」
となりました。
翻って見るに、現在はお金をいくら持っているかというお金の多寡の量に価値基準があるわけですが、それを今後は、その多寡によらず「どのように稼いで、それを何にどのように使うか」が問われるのが新常態(new normal)になるのではなかろうか？と相成った次第。

マスコミ用語的に平たく言えば ESG(Environment, Social, Governance)を考えたお金の稼ぎ方と使い方が問われるのだろうと思い始めました。
そうしてそれを踏まえたところにこそチャンスがある。
が、しかし今はまだ、事業としての具体的な姿が見えてきておりません。いまだ全然。
毎日、巨額赤字垂れ流し続きです。弊社は。

2020/6/12

(「今、欲しいのは…」)

やっと特別給付金の案内が来ました。
例の国民一人当たり 10 万円の給付。
しかし、なんとなく「有難さ感」に欠けるといいますか。
というのも、お店の運営のための借金の額に比べては、殆ど焼け石に水でしかないし、個人として憂さ晴らしに使おうとしても、旅行に行くにも、同じく芸者でも挙げてドンチャン騒ぎをしてストレスを発散するにもなんとなく「無言の自粛監視裁判」にかかっているようで、心晴れ晴れというという訳にもいかない。食道楽をしようと飲食店に出向いても恐らく同じ。
ならば地道に生活費の足しにでもしようかと思うと、それはせっかく戴いたものが、いかにもしょぼい形でいつの間にか消え失せているのも癪に障るので、いま少し「そんなのでいいの？」と考えてしまうことになって、戴きはするものの、戴いたものは結局「帯に短かし襷には長がし」で「誠に的を射た、いかにも有難い下されもの」の趣に欠ける気がしたのです。
せっかく下さるものにこれほどに難癖をつける自分は我儘者でへそ曲がりなのかとも思うのですが、仕事あっての家族や生活という思いから、自分の立場である「自営業経営者の視点」に立って考えてみると、端的に言って
「この 10 万円では希望が見えてこないなぁ」
という思いが強いことに気づきました。
であるなら、むしろこの 10 万円よりは、例えば
「AI を使ってお店の近隣のどこに需要の山があるかとか、役所の申請手続きを最短 5 分で済ませるようにしてくれるとか、ケータリングバイクを 1 年間無償で貸し出し、かかった費用は返済不要とか、周りの 5 階建て以下のエレベーターなしの団地に、外付けでそれをつけてお年寄りのお客様がお店に来やすいようにするとか」
そういった提供する側と提供される側相互に効く、実効的な需要喚起策を施してくれた方が、余程今後についての不安解消になり、やる気も起こり、先行きに希望が持てるような気がするのですが、そう思うのは、自分だけなのでしょうか？
なんかこのままだと、使うに使えず、使った気もしないうちにいつのまにかき消えてしまっていて、なんとなくもやもやした不完全燃焼感ばかりが残るような気がして仕方がありません。本当に中途半端なようにしか思えない。
お国とすれば総額、相当な支出額のハズです。だのに個人が感じる「有難さ感」は、言っちゃ悪いですが「焼け石に水」状態か「不完全燃焼感」をかえって引き起こすことでしかないような。
以下のように思うのは自分だけかもしれませんが、今一番欲しいのは当座のしのぎもありますが、それよりここを「何とかしのぎさえすれば」その後にはきっと何かが待っていると

思えるような「希望」や「期待感」の方がより重要な気がするのです。
希望が見えれば、今を何とかしのげます。しかしなければ「当座をしのぐこと自体」虚しい行為にしか思えないのですが、いかがでございましょうか。

2020/6/15

（本日は、ちょっと興奮気味に）

「適者生存」
最近、自分の中でみるみる頭角を現してきたのが、この言葉です。
皆さんお察しのとおり、コロナ君出現の影響です。
地球の歴史、生物の歴史、人類の歴史の中で、残ってきたものは、その環境乃至環境の変化に適したものだけだったという事実。
決してその大きさ、その当時の権勢力の故ではなかったという事実。
そうして、それらは、権勢を誇っていた側から見ると、全く別の選別基準に従っていたのだと、後日になって分かる「驚愕すべき」事実。
例えば、一時、陸上を席巻した、到底滅びることはないと思われた巨大恐竜が亡び、小さな哺乳類が生き残ったのも、アジアヨーロッパにまたがる広大な版図を有し、同じように旭日破竹の勢いを示して、よもや滅びることがないと思われた「元」帝国すら亡び、その帝国の前には領土的にはちっぽけで、虫けら同然のわが国が存続できたのも「適者生存」の原理原則の故。
そこで、現在、超近視眼的になっている我々の目を、この視点まで引き上げてみると、コロナ君の強さと恐ろしさが見えてきます。
一言でいうと、コロナ君の方が我々人類よりも適者生存率が高いであろうということです。
もう少しわかりやすく言いますと、コロナ君たちは現環境の「下で」適者生存を図る戦略を取っているのに対し、我々人類は、その快適指向が生み出す欲望の総和量が、地球環境が受容できる総和量を何倍も超えてしまい「適者生存基準」そのものをないがしろにしたまま、破壊し続けているからです。
「人類とて、単に地球上のひとつの「種」にすぎないと判断基準を持った地球環境という名の法主」から見れば、どちらを存続させたいかは火を見るより明らかでしょう。
不吉な予言ですが、恐らく上述のような理由で、このままいけば、人類はこの戦いに敗れてしまう公算が大だと思います（差岩にも covid-19 に勝ったとしてもいずれ訪れる covid-2X とか covid-N とかに）
であるなら、どうすれば勝てるのか？
第一は、何よりもまず自らの地球「経済的サイズ」を環境「超」から環境「下」に至急変えることでしょう。これには相当な痛みが伴います。平たく言えば経済のダウンサイジングによって生活が「貧しく苦しく」なります。しかもかなり長期間にわたって。
そうしてこれがもっと肝心だとおもうのですが、第二は既述の「経済」が、それを求めて向かっているところの「幸福」の概念の見直しでしょう。
例えば「お金＝有形財産＝有形財産保養量＝幸福」という等式の見直しです。方向としてはまず「お金→幸福」から「幸福→？」と少なくとも正反対にすることが first of all かと。

日ごろから大法螺吹きで大言壮語壁のある自分ですが、今日はここまで大言壮語するとは自分でも意外。
家庭内で、まったく予期せぬ稀有の「ちょっといいこと」があったせいで、興奮しているからかもしれません。いや、きっとそのせいでしょう。これだけ大胆な見直しをする理由は。

2020/6/15

（ナマステ別館堂出版からのお知らせ）

ナマステ別館堂出版発刊の

「人生終わったな」と思う間もなくトンネルの、闇を抜けて広野原

を期間限定で、無料購読できる手続きを Amazon の kindle で行いました。
明日 16 日より 5 日間、購読が無料になります。
ご興味のある方はどうぞお読みくださいまし。

QR コードを張り付けておきます。

2020/6/18

（「適者生存」の為の民族大移動？）

コロナ禍で、今後しばらくして大幅な収入減乃至は収入の不安定さが予想される中、最大の負担要素はローン関係でしょう。
ローンの中でも特に重たいのが住宅と教育のローン。
一方、今回のコロナ禍で、図らずも露わになったのが、マンション等の集合住宅内での 3 蜜の危険性と都心のオフィスまでわざわざ出向かなくてもある程度は郊外の在宅で仕事ができるという事実。
そして、今一つは、高いお金を払って仮にブランド大学をでても、必ずしも安泰だとは言えない事実。
というのも、その大学を擁する国家そのものがブランド国家といえども安泰ではなさそうな気配が漂い始めているからです。西でも東でも。
下手をすれば、西の大国でも東の大国でも、省ごと、州ごとに独立国家に分解、分裂してしまうかもしれない可能性すら感じます。
そうしてさらに「どこを卒業したかではなく、何を学んだか」「お免状よりもスキル、ノウハウ」を社会は求め始めた、という事実。
となると、何も高いローンを組んで、都心近くにマンションを持つ必要はない。3 蜜も考えれば地方で戸建てを借りた方が安上がりだし健康的でいい。
教育もお免状（ディプロマ）よりも資格、資格よりも「真の実力」が得られるところをこまめに探した方がいい。
そもそも地方で、と雖も戸建てを持つなら、そんなに教育費はかけられないし。
かくして、そろそろ都市や大学の一極集中からの分散が始まる可能性が出てきそうです。
（そもそも、都市や大学への集中というのは長い人類史の中で、高々ここ 150 年程の異例の事態でしかないようですし）
或いはまた、その基盤となる IT 技術や事業の分野においても、GAFA のプラットフォームやクラウドに代表される統合、囲い込みの弊害への気づきから、分散、開放へと向かい始めるのではないだろうかとの予測も成り立ちそうです。
「地方の時代」と言われて久しくなりますが、それが今までは「一部の人々の都合から生まれたポジショントーク」でしかなかったのですが、今、その「分散」という方向の必然性が遅ればせながら再認識されつつあるような気もします。そうして単に「分散」だけではなく「シェア（分かち合う）」という概念も。
となるなら、今後お国は、コロナ禍後の復興に向けて、その有形資産、無形資産をミックスした社会基盤整備（特に無形資産である IT 技術とノウハウの「正しい活用」）への「財政政策発動」をすることが、最大の復興事業になり、それに多くの人々が意欲をもって参加することで国民生活の再興と活性化が期待できるのではないかと思っております。

これらによる「分散」「シェア（分かち合い)」「格差平準化」こそが「適者生存」の為の第一歩のような気がしてならない次第でございます。
いい意味での民族大移動が必要なのかもしれません。

2020/6/19

（「転んでもただでは起きない」ぞ）

コロナ禍渦中、昨今の世界情勢の流動化をみていて、不図ある言葉を思い出しました。
嘗て、言われた言葉「不確実性の時代」
しかし、これはよく考えてみれば、世の中が不確実性の時代に突如変わった、或いは不確実性の時代に突然突入したというのはおかしな話で、世の中が不確実であることは、有史以来少しも変っていない事実だからです。
又、一方、80 歳の爺さんの先行きが短く、20 歳の青年には未来があるというのも、単にそれは「一般的には」の話でしかなく、20 歳の青年の方が交通事故や自然災害等不慮の出来事で先に他界する場合だって、多々あるわけです。
そのように考えてみると、確実なのは、自分が無事に生きているのは「今」だけであって、それこそ 1 秒先はわからない「一寸先は闇」「船底一枚下は地獄」でしかなく、その事実に気づくと、日々の暮らしに対する認識や態度が大きく異なってくるような気がします。
平たく言うと「一瞬冷や汗が出る思い」から、とでもいいましょうか。
そうなると、まず変わってくるのが、一瞬たりともおろそかにはできないという緊張感のレベルです。
そうして次には、思い通りにならない他人任せや成り行き任せばかりになんかしていられない。少なくとも少しはましにコントロールできる自分範疇のフィールド内に取り入れて、自分で何とかするようにしないと身が危険にさらされて危ない、となるような気がします。
これも平たく言うと、プロにお任せと言いつつその実、中身は完全にブラックボックスでしかなく、いざという時に全く自分の意思での改善作業に手の施しようがない「投資信託」の歯がゆさや苛立ちから、選択責任は自分に来る怖さはあるものの、手元にあって確実に自分の目に見え、コントロール可能な「個別一品選別株投資」に切り替えるような感覚かもしれません。
「同じダメでも、訳も分からず、は御免だ。たとえ結果はダメでもせめて納得づくのダメくらいにはしたい」といったような思いから。
もし、この切り替えが多く起これば、今回のコロナ禍は我々の「自覚自立」のきっかけとして大いに役に立つことになるかもしれません。
「災い転じて福と為す」と申しますか「好機到来唯一渦中」（自作漢語）とでも申しますか。
どうせ転ろぶなら「転んでもただでは起きない」ようにはしたいとおもっております。

2020/6/20

（適者生存の為の「学習の勧め」個人的な深い反省より）

「なんという幸運。あなたは選ばれた人だ」
等という口車に乗って、その気になるようであれば、これはもう思考回路的には末期的症状かもしれません。
今こうしてここに居るのは、先般からの記事でも申上げておりますように、たまたま今時点の「生存条件」の枠内にいるという線引きの結果からにすぎません。
まず、生物学的或いは医学的生存条件に合致しているから。
そうして今一つは経済的条件に合致しているから、です。
ところが今回、その第一条件である生物学的要件の部分を、コロナ禍が直撃しました。
同じくそのコロナ禍が、経済的要件の部分をも直撃しております。
簡単に言うと「適者生存要件」が我々を篩（ふるい）にかけて選別し始めたとでも申しましょうか。
それに対し我々人類は、まず、第一要件に対して疫学的対応を取り、第二要件に対して国はお金の「供給」を、国民諸氏はお金の「ため込み」をするという行動に出ました。
コロナウィルスというのは、主に呼吸器系疾患の病を引き起こします。その結果酸素獲得不足になり、血流にのって酸素が体内の隅々にまで行かなくなり不全を起こします。
同様に、経済の血液である「お金」の供給不足（主に不測の事態に備えてのため込み）によって社会機能が不全を起こしもします。
この解決策としては、疫学的にはワクチンの開発、経済的には「ため込むだけではなく、未来に向けての投資」を怠らないことが大切なのではないでしょうか。
不測の事態に備えてお金をため込んだ。しかし、そうして生き延びたとして、未来に向けての投資をしていなければ、その生き延びた先で待っているのは「生き延びはしたが、結局あれは延命でしかなかった。行った先では、何も待っていなかった」という悔悟の念が残るだけかもしれません。
人間様以外の生物たちは、思考がシンプルな分、こういった「適者生存の篩（ふるい）」の選別に対して、素直に学習し、進化、適応をし、その適者生存の範囲の中に納まります。つまり生き延びていきます。
ところが、人間様は、脳が発達した分、思考力、想像力が却って邪魔をして、余計な迷妄を生み出し、せっかく学習したことがそれらに紛れて、いつの間にか薄められ、忘れてしまう。
ひょっとして「歴史は繰り返す」というある種、性懲りもなく、その忘れっぽさ故の「過ちを戒める言葉」は、他の生物諸氏ではなく「人間様にだけ当てはまる警句」なのかもしれま

せん。
こうしてみると「我々は万物の長、霊長類、選ばれし存在、エヘン!!」などとふんぞり返るのはいい加減やめにして、少しは他の生物諸氏を見習って謙虚に学習することが今、一番必要なのではないかな、と個人的には深く反省しております。

2020/6/21

(「もう、うんざり」)

今日はちょっと感覚的なお話を。
ある選挙で候補者が、コロナ禍前の
「生活を取り戻します」
というような主旨の公約を掲げていると聞いたのですが、それを耳にして「ああ、もううんざり」という気になりました。
「新しい生活を作りましょう」というのならわかるのですが。
コロナ禍直下の生活もひどいですが、コロナ禍以前の生活だって負けず劣らずひどかったような気がするからです。
感覚的に言うなら、手垢にまみれて「ベタベタのドロドロ」
そのくせ一方では「カサカサでイガイガ」の生活。
前者は強欲まみれの金まみれ。後者は殺伐として疎遠な隣人関係。
そんな生活に戻ってどうするんでしょうか？
どうせ目指すなら、これまた感覚的な物言いで申し訳ありませんが
お金に関しては「サラサラ」で、人間関係に関しては「しっとりプルプル」な「ニューノーマル」を目指しましょう、とかなんで出てこないんでしょう？
何か本当にイヤになってしまいました。

2020/6/25

（またまたご心配をおかけしました。「残り後１日」待ったなし）

またまたご心配をおかけしてしまったようで、大変申し訳ございません。
一応、業務上はアナウンスをしておいたつもりだったのですが。
「根本的に考え直すので、2−4 日間、時間を戴きたい」
と。
それというのも、コロナの第２波が来たら、多くの飲食事業者は今度こそひとたまりもないからです。
行動制限によるお客様の来店数の激減、或いはお客様自身の収入の激減や失職。はたまたその反対に、サプライチェーンの寸断や物流網の寸断によっての物価高騰、換言すれば不況下のインフレ、即ちスタグフレーションの到来の予感。
それに対し仮にお国が更にお金をばらまくと言っても、もうそんなにお国にもお金はないだろうし、在ったとしても、今の硬直化したお役所システムでは、目詰まりを起こし、支援先がつぶれた頃にお金が届くといった「結婚式の後に宅配されたウェディングケーキ」にしかなりそうもありませんし。
飲食業とは半分は飲食ですが、半分は接客術です。
お客様がソーシャルディスタンスで、席数が半分。更に接客術換算の売上が半減した分を掛け合わせると売上総額は最大で今の４０％にしかなりません。
更にその上にサプライチェーン、物流の寸断による食材費等の高騰で、更にその何掛けかのダウン。
となると、弊社の業務内容そのものを見直すレベルの視点にまで遡ぼり、更には後２か月のうちにその「解」を見つけて「行動計画を策定」し、実行に移さないと万事休す。
それをたった４日間で考えようというのですから、集中力を増すために、すべてをシャットダウンして籠ったわけでした。
しかし現時点、その「解」は見つかっておりません。
ヒントは以前にも申し上げましたように、非接触でも成り立つことを考え合わせると「有形資産」方向ではなく「無形資産」の活用方向。
そうして唯一弊社にある無形資産は「電子書籍出版」事業のみ。即お金になりそうな「特許資産」などありようもなく。
しかしこれも力を入れ始めて１か月がたちましたが、EC サイトの書籍販売実績は「青虫のおそそ」レベル。
はてさてどうしたものか？
残りあと１日。

待ったなし。

2020/6/25-2

(「解」を得たる「灯台下暗し」)

時間は２か月間しかない。或いはもっと短く１か月間しかないかもしれない。
検索条件は非接触型で無形資産の事業。少なくともここ２年間は。
その後、非接触型無形資産が接触型有形資産に回帰融合できるもの（なぜなら非接触無形だけでは結局「つまらない」からです）
以上二つ。
それを今ある資産の中から探す。
それというのも、世の中のありとあらゆる事業形態から探している時間がないし、在ったとしてもそれは、コロナ禍前の視点による形態探しでしかなく、役に立たない可能性があるのでひとまずカット。
で、自社の手持ち資産を点検してみて「あっ」と驚きました。
今の柱は接触型有形資産である「カリーレストラン事業」
そうして、前の記事で書いた非接触型無形資産である「電子書籍出版事業」
そこまでは、既にお話ししました。
ところがなんとわが社の事業内容の内、なんと７５％が既に「非接触型無形資産可能事業」だったのです。
曰く
「すすき野留学」（語学教育事業）
「supporting for foreign workers staying in Japan」（在日就労外国人支援事業）
それに既述の「ナマステ別館堂出版」（電子書籍出版事業）
以上三部門で四分の三、７５％
現業の「Namaste everybody」（カリーレストラン事業)が一部門で四分の一、２５％
最後の現業を除いた 3 事業部門ともリモートワークが可能だったのです。そうしてまたコロナ禍後のニューノーマルの中で接触型有形資産事業との融合も可能。
では、なぜ、このような「灯台下暗し」現象が起きてしまったのか？
これはひとえに何度トライしてもうまくいかなかったので、アタマが勝手に消去してしまっていたのだと思います。
「あぁ、何たるチア、サンタルチア！！」
これで明日からやるべきことが明確になりました。
曰く
「丁寧且つ具体的に根本に遡って、ひとつひとつ」
その実行です。特に具体化について 3 部門の徹底的見直しを図りましょう。
2020/6/27

（破れかぶれの「ボケ談話」）

「金の生（な）る木」どころか「借金の生る木」ばかりが5，6本も生えているような状況ですので、いい加減うんざりして、ボケ談話をひとつ。
早朝、お店に向かって歩いていると、電柱の上の方からカー公が、いつもと全く違う音色で「あはははは！！」と見下すように高笑い。
「はん？うるせぇ！！こちとらお前になんぞ笑われる筋合いなんぞありゃしねぇ。お天道様になに恥じることなくまっとうに生きているんだから、笑うんじゃねぇ」
次にいつもの中継地点のコンビニによると、今度はハトと目と目が合い、何やら物欲しげに近寄ってくるので
「金もエサもねぇ。悪いがほかを当たっておくれ」
というと、突然ハトはパッと飛び上がり、自分が立っている真横の柵に留まって、何やら言いたげなので
「何もないんだってば。代わりにお前が何か持っているんだったら、置いて行ってくれよ」
と心の中でいうと、分かったのかわからないのか定かではありませんがハトは「頼られても。頼ってはだめ」とでも言いたげに、パッと舞い上がりどこかへ、飛んでいってしまいました。
次は、夜。
カナブンが飛んできました。カナブンは黄金虫とも言い、童謡では
「黄金虫は金持ちだ。金蔵建ぁ〜てた、蔵建てた」
のはずが、金目のものは何も持って来ず、代わりに灯りに引き寄せられるも、目が悪いのか、その辺の壁に意外なほど大きな音を立てた何度もぶつかり、挙句の果てに、自分が仕事をしている机に来て、机の上に敷いてあるガラス板で滑って転び、でんぐり返って起き上がれなくなったのですが、それでも何とか試行錯誤の末、起き上がりました。
カナブン（黄金虫）君には、転んだらすぐに駆け寄ってきて抱き起してくれるお父さんもお母さんもいないわけですから、自力で元に戻すしかないのです。
一方、万物の長である人間様世界はというと、コロナ君のせいで、これはもうめちゃくちゃみたいです。
お金に絡む悪事、不祥事、意味不明の珍事、乱事、頓事があちこちで頻発。
コロナ君に加え、台風、風水害、直下型地震の同時襲来の憂慮の他、世界の為政者様方は「再選」や「基盤固め」の為に理性を失い、民を犠牲にしてまでやりたい放題。更には時代の寵児ともてはやされた、質実剛健で知られるある国の「フィンテックの雄」が監督官庁すら見抜けない悪事のやりたい放題。
それやこれやで、気が付くと「えっ、これも？えっ、そんなことまでも」と手の施しようもないくらいの断末魔の大混乱が如き展開。
それやこれやの事柄を見ると「人間様なんて、たいしたことないなぁ」と。

そうしてカラスが笑ったり、ハトが何か言いたげに近寄ってきたり、カナブン（黄金虫）が必死の自力ででんぐり返しを元に戻そうとしたりしているのは
「あんたらもう少しまともになったらどうなの」
と言っているような気がしないでもありませんでした。
本日は、破れかぶれの戯言でございました。

2020/6/28

（この地に店を構える理由）

コロナ禍猛威の中、既存のものが大きく揺らぎ始めました。
巨大企業といえども、財務基盤の弱いところは存続できない可能性が出てきた。同じく国家といえども、財政基盤の弱い国々は亡国の可能性も出てきた。
また、個人レベルでは、弁護士や税理士、公認会計士でも喰えなくなってきた世の中で、それでも「喰いっぱぐれのない」職業として絶対的地位を保ってきた「あの医者」ですら、コロナ感染を恐れる来院診察者数の激減で、大病院はじめ個人開業医の別なく閉院、閉所の可能性が出てきました。
これらの現象を大胆かつ非常に単純な言葉で言うと
「すべての肩書（社会におけるその人の属性）が剥がれ落ち始めた」
ということではないでしょうか。
国家公務員の肩書。一等国の市民であるという肩書。グローバルな巨大企業の社員という肩書。弁護士、税理士、医者という肩書などなどが突然色褪せはじめ、ぺらぺらの紙切れのように不確かなものに感じられ始めた。
同じく素材としては単なるか紙ペラでしかなく、国家という発行体の信用に準拠した札束（紙幣）すらも、コロナの前でその発行体の存立が危うくなれば、絶対的なものとも思えなくなってくるかもしれない。
要するに今まで人間が信じ込み築いてきた信用や価値、それとその集積体である人間社会そのものが揺らぎ始めたということなのかもしれません。
となると、これはもうリーマンショックどころか、１９２９年の大恐慌をも超える、いや全く異質の大転換期に突入している可能性をも思考野に入れる必要がありそうです。
となれば、今回のコロナ禍は、最早「単なる経済対策」だけでは意味をなさないことも予測されます。
今の社会人から、肩書とお金が剥がれ落ちたときに、いったい何が残るのか?社会の最小構成要素である個々人に何が求められるのか？或いは個々人は何によって存立、存続しうるのか？
一言で言えば
「何を頼りにすればいいのか？」「それを頼りにすることで希望が持てるのか？」
残念ながら、現時点自分は、その答えを持ち合わせておりません。
ですが、ただぼんやりながら思うのは、肩書や財を取り除いた「生物由来の真水部分(apple to apple)の人間（関係）」の中にヒントはありそうな気だけはしております。
これまた、実感的に申し上げますと、
定年を迎えて肩書もなくなり、収入も激減した我々退職者に「何が残っているのか？」それらがなくなっても我々退職者は「価値を産めるのか？」

更にザックリ言えば「元気に輝けるのか？」
それが問われているような気がしております。
その答えを見つけたいが為に、高齢になりつつある年金生活者の多い、この団地群の一角に大赤字を続けながらも去らずに、ジジイの自分は、この店を構えているような気もしております。

2020/6/29

(「退職後の人生大なしの元？」)

「人生の前半は自分を育て、人生の後半は人を育てる」
であれば、次世代につながって、ことさら「自分劇場」の終わりでしかない「終活」等という妙な区切りをつけなくても済むのに
「人生の前半は自分を育て、人生の後半は、それを手放すものか！！の既得権お化けになる」ものだから、それを失うまいと無理な守りに入り「虚勢」「張りぼて」「意地悪」「貶め」などなど、変なことに血道をあげるようになっているような気もします。
特にそれが退職者の後半人生を台無しにしている元のような気がしないでもありません。
それをやめて、それに使っているのと同等のエネルギー量を後進育成のために使えば、かなり豊かな後半人生になるのではないのかな？と時々思うことがあります。
特にコロナ禍の現在は、そう思うことが増えました。

二〇二〇年七月

2020/7/1

（「本当に怖い話：もう勘弁してください！！」）

コロナ禍で、いや不況下全般で、目の前の生活苦や不安から単純な事実が常に忘れ去られます。何かというと
「生産者は同時に消費者であり、消費者は同時に生産者である」
という事実です。
何のことかというと、生活不安から消費者がお金を貯めこんだり使わなくなったりするとモノを買わないわけですから生産量は激減します。生産量が激減すれば当然生産者の給与は減るか解雇になりますから、今度はその裏返しで益々消費量は減るわけです。そうしてこの悪循環から益々不況は深刻化するわけです。
一方、お金の量そのものが減少しているかといえば、そんなことはないようです。なぜなら各国政府や中銀は、不況対策として低金利のお金をどんどんつぎ込んでいるからです。ある意味マネーはジャブジャブ状態です。
ですが、そのお金がどこに行っているのかといえば、どうやら殆どが肝心かなめの「庶民の懐」へは向かわず、株式や商品先物などの金融市場にのみ向かっているようです。或いはそれを動かすことが出できる一部の人たちの元へのみ向かっているようでもあります。
これだけ不景気なのに、それと全く乖離した実感の伴わない昨今の株価上昇はその表れかもしれません。
要するにお金は限られた「あるところ」にのみ偏在し（かたより）、また死蔵（ねむってしまう）為に不景気が更に深くなるわけです。
と同時に格差が拡大し、国民の間に不満がたまってきます。
こういう場合によくあるのが、そのガス抜きと自らへの批判をかわすために外部を敵として喧伝し、その矛先をかわすという手段です。
簡単に言うと「戦争を起こす」ということです。
保護主義、自国第一主義、民族主義の焚き付けと台頭は、それを如実に示している気がします。
戦争をすると多くの人が犠牲になりますが、反面軍需産業などすそ野の広がりが多い産業の活発化で自国民の雇用が賄われる面もあることに為政者は注目するわけです。
直接ではありませんが、戦後我が国の奇跡の復興の裏には「朝鮮動乱」という戦争があり、その軍需産業の下請け策の効果があったことは否めません。
なんだか、本当に怖くなってきました。

やはり歴史は繰り返されるのでしょうか？
また多くの家族が泣くことになるのでしょうか？
もう、勘弁してください！！

2020/7/2

(「コロナ禍後の希望的観測」)

コロナ禍後、我々の意識がどう変わっているか？
それをちょっと想像してみました。もちろん自分なりにですが。
まず、
「国も役所も会社も地元自治会も思っていたほどあまりあてにはならなかった」
「近所の付き合いや会社の付き合いもなんとなく嘘だった気がする」
「ただ、反対にマスクの件で、人の目の怖さと息苦しさだけを強く感じた」
「これは一体何なのだ？」
「確かなものも頼れるものもほとんどないことが分かってきた」
「結局、他に依存していたらだめかもしれない」
「自分のことは自分に従って決め、自分で動くしかない」
「自分の主を自分に取り戻そう（今までは他人が、世間が主だった)」
「だとしたら、働く時間も場所も決められたり、縛られたりしていたけれど、これからは時間も場所も自分で決めるようにしたい」
というわけで、社会においてはフリーランスが、会社内においてもフリーランス的従業員が増えるのではないかなと思います。
それを一言で言うと
もはやどこにも「寄らば大樹の陰」はない。
大樹の陰の元の「大樹には、自分がなるしかない」
ということになるのではないのかな？と思っております。
かなり個人的且つ「そうなってほしい」という希望的願望乃至は観測ではありますが。

2020/7/2-2

（コロナ禍での「新鳥獣戯画」）

朝、たまたま床に目をやると、かなり大きな足長蜂が息絶えて転がっておりました。
昨夜、仕事中にボッコンボッコンと、五月蠅いくらい何度も円盤系の蛍光灯に体当たりをしていた奴のようでした。
「これだけの体で体当たりをしていたなら、あれだけの音がしても不思議ではないな」
しかし、それにしても今コロナ禍で
「通常エアコンは換気機能がないので、成る丈、エアコンをかけずにこまめに空気の入れ替えを」
という助言に従って、夜は、玄関扉と反対側の窓を開けっぱなし（自分が起きている間はですが）にしていたにもかかわらず、なんで死んでしまったのだろう？と不思議に思いました。
つまり
「扉があいているのだから、外に行けば餌にありつけたはずなのに、衰弱死するまでこの部屋にいたなんて。何故なのだろう？」
ということです。
それで思い当たったのが
「虫の習性である集光性に従いすぎて、扉が開いていることに全く気付かなかったからだろう」
ということでした。
で、その先不図思いついたのが
「我々人間にも同じことが言えるな。一つのことに目がくらんでいると、肝心要の大切なものやそれ以上にいいものの存在を見逃してしまうことがある。例えばお金。
それにばかり気を捕らわれていると、何か大切なものを見つける出口を逸していることだってあるのかも」
でその先更に

「自分が電気を早めに消していれば、この足長蜂は助かったかもしれない。玄関扉が開いていることに気づいて」
で、さらにそこからまた想像が膨らんで
「今コロナ禍は、天が人間にお金や過度の快適さという「電気」を消して、他にももっといい出口があることを示しているのかもしれないぞ」
と、思い始めました。
たかが、虫の死骸が一つ転がっているのを見つけたからと言って、そこまで考えるのは度が過ぎているのかもしれませんが、最近周りの「鳥獣」たちが、ある「戯画」を自分に示してくれているような気がしてならないのです。
だんだん頭がおかしくなってきているのかもしれません。
昨日も自転車に乗って買い物に行って、自転車を置いたまま買い物袋だけ下げて歩いて帰って来しまいました。
それに気が付いたのは家に帰ってきてからでしたから。

2020/7/3

（「奥ゆかしい」経営を目指す？）

今、自分が事業をしているうえで、最大の過ちは「絶望しきっていない」ことのような気がしてきました。
１２年間に渡るうつ病が快癒した最大のきっかけは「自分に絶望しきった」ことであったことを思い起こすと、どうも今コロナ禍の飲食店事業運営に於いて、中途半端な打開策や延命策に無意識のうちに安堵してしまっていて、根本的な手が打てていないような気がしてきました。
いや、もう少し正確に言うと「絶望」ではなく「うんざり」仕切ることでしょうか。
これだけでは何のことかよくわからないと思いますので、幾分注釈を付け加えさせていただきますと
「お金や既得権、これまでの常識といった手垢にまみれた今までのすべてにうんざり。特に今コロナ禍を切り抜けようと「見せんが為に」ああでもない、こうでもないと喧しい（かまびすしい）メディア記事にうんざり。特に識者の「得意顔写真入り」記事、言い換えると「我こそ一番の広告臭ふんぷん」記事にうんざり」ということです。他にもいろいろありましたが、一番実感をもって感じられたのはそのことでした。
ちょっと感覚的な物言いになりますが、量的拡大による「圧倒」
位置的高さの延伸による「見下し」
費用対効果の超希釈による「はったり」
などなど、余りにも露骨で「慎みがない」ともうしますか「奥ゆかしさに欠ける」とでももうしますか、一言で言うと「度を越してえげつない」世界。
それらに本当に「うんざり仕切る」ことが今一番の急務のような気がするのです。直感的には。
例えば上記で述べた広告を例にとると、現実世界ではありえない「私が一番、私ってすごいでしょう」という今の基本的な姿を改めて、敢えてこちらからは何も言わず黙っている。但し、喧伝や宣伝はしないが、日々の努力は、表面涼しげな顔の水鳥の足掻きが如くに水面下で営々、黙々と続ける。
そうしてその事実に、こちら側からのアナウンスではなく相手側からの気づきによって発覚した時の「驚きと感心」のインパクト（波及臨界点）効果を待つ。そういった奥ゆかしさ。
この日本語の「奥ゆかしさ」の語源は、自分のうろ覚えな知識によれば、江戸時代、為政者より町家に対して華美装飾を慎むようお達しが出たのに際して、これら町家が表に面した間口は狭くとったものの、表に現れない奥行きをずっと伸ばした建築様式に替えた、その「奥行き」に由来しているもののようです。
曰く表は狭く見えるが「奥行きが深い」
で「奥が深い」ことを敢えて言わずにいることを「奥ゆかしい」と。

今般、このコロナ禍をきっかけに広告に際しても、弊社の経営に際しても、こういった方向に大転換できればいいなぁと思い描いてはおります。
まだまだ実力は遠く伴っておりませんが。

2020/7/4

（「大いなる誤解の元」？）

前回の記事同様、これまたうろ覚えな記憶で誠に恐縮なのですが、
「大昔、傲慢になった人間たちが天に届こうと建造物を作り始め、それに怒った神さまが、天に向かって建造物を建てる共同作業ができないように「言葉」（会話、コミュニケーション手段）を奪ってそれを阻止した」
という話を思い出しました。
この譬えが、以下の話にそのままコピーとして当てはまるということではないのですが、昨今のコロナ禍対策で「ソーシャルディスタンス」「非接触」「テレワーク」などの言葉や要請を見聞きすると、一つには傲慢になりすぎた我々への天からの戒めのようにも受け取れますが、自分には、そのことよりも更にある種の「大いなる誤解」の元になるのではないか？という心配の方が先に立ちました。
どういうことかというと、上述の言葉や要請は、元々は安全確保に由来した万やむを得ない措置なのですが、これが進みすぎるとコミュニケーション不足による「孤立」や「幻影」がもとになって「暴走」や「分断」果ては「敵対」や「憎悪」が生まれやすくなるのではないかとの危惧のことです。
いくら安全確保のためとはいえ、これはあくまで「当面」の話で合って、決して望ましい姿ではないという認識が必要かと思います。
本来人間、いや、生き物は「接触」や「ハグ」「人肌のぬくもり」を求める存在だからです。
原始時代、まだ疫病という概念すらなかったころには、原始人の家族がこの病にかかって倒れたりすれば、却って抱きしめて労わり、それが逆に更に疫病を蔓延させたことだって考えられます。
ところがそれらに反して「ソーシャルディスタンス」はじめ「テレワーク」など、扱いを誤るとさらなる疎遠、疎外の元にしかなりかねない方策方図を、ただ単に一括して「ニューノーマル（新常態）」と称し、あたかもそれらがこれからの正解のように伝播させるのはいかがなものでしょう？
これらは決して「新常態」などではなく「一時的回避施策」に過ぎないのではないでしょうか？（もう少し正しく言うと「新常態」ではなく、我が国で個別的に使われだした「新生活様式」という言い方の方に問題があるとも思いますが）
だとすれば、別に折衷案を出すつもりはありませんが、それを「ニューノーマル」に昇華させたいのなら
「ソーシャルディスタンス」はお上の密室談合の場に推奨し、
「テレワーク」は都市一極集中の歯止めとフリーランス育成に使って、社会構造改革を推進する一方、人と人の本来の姿である、生物由来のコミュニケーションを取り戻す上では、却ってその言葉が無思慮（自動的）に生み出す悪しき産物である疎遠と疎外を戒め、「分断」

や「敵対」を産まないように気を付けることが大切な気がいたしました。
なんだか最近、すべてについてポイントがずれているような気がしてならないのですが、どうお思いになられます?皆様方は。

2020/7/4-2

（本当に言いたかった「ニューノーマル」ビジネス）

直近の記事で書いた内容で、何かいまひとつ率直に書きたいことを探り当てていないな！！と。
何か言いえていない。なんとなく不完全燃焼。
で、そんな気持ちで仕事の後、自宅一人の飲み会を自宅でしながらテレビを見ていたら
「琴バスのバーチャルツアー」の映像が流れました。
もちろん、今コロナ禍での売り上げ激減の回避策の一例としての特集でした。
そうして、そのツアーを終わった後の全国からのバーチャルツアー参加者の感想
「参加してよかった。なんというか、参加してよかったなぁって」
映像を見る限り、現地に行った方がよっぽどいいことが分かりましたが、それでもそれをいいという参加者の顔を画面で見る限り、取材対応で作っているようにも見えない。
多分、本当に良かったと思ったんだろう。
では、何故？
自分の見ているバスツアーとして、それほどのレベルではない映像と、参加した人の決して嘘ではない満足の違いは？
それで思ったのですが、参加された方は、参加したバーチャルバスツアーの行った先の映像に感動したわけではなく、むしろここまで、映像のほかに、参加した気分になるスタッフの流す現地直で張り付いてのライブ映像だとか、立ち寄り先の事前配布（郵送）の昼食やお土産などの、計り知れない努力に対して、同じ働くものとして「ここまでやるか！！」という琴バススタッフの涙ぐましい努力に対して
「感動をした」からなのではないかな？と思った次第。
その現場に立ち会うことができたという満足感と稀有の事態に接したとう希少価値が生み出す、子供時代以来長らく忘れていた「新鮮な」感動。
まさにこれからは、モノより金儲けより「感動を一番欲しかったものとして価値と考え、それを提供することを喜びと考えビジネスの根幹に置く」新しい時代に入りつつあるのではないか？そんな気がした次第です。
そうして、上述の違和感の答えとして「感動を一番の価値とする」ことが本当に自分の言いたかったことのような気がします。
「ニューノーマル」が今後のビジネスの適者生存条件の必須条項であるならば。

2020/7/5

(「ごもっともなお怒り」)

民のほとんどの「ガス抜き」が封鎖された感があります。
一例を言えば、7月4日は米国の独立記念日。例年ならたいそう盛り上がっていた日です。
我が国でも、夏祭りやら花火大会なんかが封印されそうです。
そもそもこういったお祭りは、日頃シンドイ思いをしている庶民の数少ないガス抜きの役目を果たしていたと思います。
がしかし、今回のコロナ禍で、それが一切ダメ。
じゃあ、集団でダメなら、ガス抜きとして仲間同士で愚痴のこぼし合いをしようにも、2メートルディスタンスで、ひそひそこそこそ話もできない。何故なら2メートルも離れて愚痴を言えば、その他大勢の無関係な人にまで、愚痴の内容を聞かれてしまうからです。
というわけで、民のガスは出口を失っておなかの中に充満するばかり。
その一方で、人間様の身勝手な所業に怒り狂っているのか、天はその他の風水災害で、我々を苦しめております。
例えば、我が国の今回の九州での大雨災害。
身勝手な所業は都市部の方が遥かに上だと思うのですが、何故か天は、殆ど罪のない田舎の過疎地域を中心に怒りを表しているようで、その辺、それ自体も何か的外れでいい加減な気もします。
事程左様に、すべてがちぐはぐで、起承転結がまるで成り立たない筋書き無き、いや、海路図、灯台なき暗黒の航海のような感じです。
我が店も6月、つまり先月は売上4割ダウン。今月、7月は更にそれを下回りそうな予感。
お客様も夏のボーナスは減り、冬は時間差効果で更に減るや、もしれず。
年金生活のお客様とて、安心はしていられないでしょう。これだけお国が大盤振る舞いをした後、年金支給額の見直しが予想されるからです。もちろん下方修正に。
かくして我々民は、ガス抜きを止められ、天災に叩かれ、続いて経済災にも腸をくりぬかれそうで、立っていることすらままならぬ状態。
下はガス栓止め。上はおまんま喰うな、の口減らし封じ。おまけに全身、水でずぶぬれ状態とも。
踏んだり蹴ったりの中、不安は増大するばかり。賃金は下がり、血圧だけが上がる昨今。
はてさて、どうしたものか？
これはもう、経済「災」を何らかの施策で経済「祭」に変えるしか、ないようです。
「で、あんた、その具体的アイデアあんの？」
「はぁ、そこがまだ今一つ…」
「馬鹿じゃないの、アンタ。話、聞いただけ、損したわ」
非才嘆くも方図なし。

「はい。ごもっともでございます」

2020/7/6

（「それでは、コロナ禍に於ける時節柄の長句をば、一首」）

裾野、広ければ山高し。
裾野、狭ければ山低し。
裾野、広げんが為に、せっせこ、せっせこ、耕し（たがやし）中。
耕し中は実入りなし。
実入りなしにて、赤貧中。
赤字続きで、節食中。
外出自粛で、お昼寝中。
開店休業、お手上げ中。
お手上げついでで、阿波踊り
「エライこっちゃ、エライこっちゃ、ヨイ、ヨイ、ヨイ、ヨイ」
踊って凌ごう（しのごう）コロナ禍大風、笑って過ごそう,生き地獄
笑う門には福来る。待てば海路の日和あり。赤子泣いても蓋取るな。
金がなければ知恵を出せ。
智慧がなければ汗を出せ。
汗も出せねば、屁でもこけ。
屁すら出なくば、走りだせ。
とにかく何かをすることだ。
とにかく何かをすることだ。
最期の一手はそれだけだ。
（詠み人：飲食業界 ネパールカリー屋「 ナマステエブリバディ」亭主）

2020/7/7

（「役所後進国」）

今日は一年に一回、牽牛と織女が天空で逢瀬を重ねる「七夕」の日であり弊社の給料日でもあります。
とうとう弊社もこれまで、堪えに堪えてきましたが、今コロナ禍での急激な業績の悪化に伴い、万やむを得ず今月分から給与カットに及ばざるを得ない事態となりました。
業績悪化は 40%のダウン。しかしそれを諸に従業員給与に反映したのでは、社員の生活が成り立たなくなりますので、カット幅は 10%のダウンにとどめる旨、昨日従業員を呼び集めて説明致しました。
一方、今月９日には社員の定期健診を行わねばならず、この費用が法人会の割引を適用しても３人で７万円弱かかります。今回弊社としては創業３年目にして初めての社員健康診断ですので、出費は臨時経費扱いとなり、その財源として代表取締役自分個人に支給される筈の特別給付金（例の国民全員に１０万円）を想定していたのですが、これが待てど、暮らせどやってこない。
ならばキャンセルするかといえば、外国人従業員とて人の子。特に今コロナ禍やこれから到来する夏場の食中毒季節を迎えるにあたっては、飲食業者は何よりも社員の体調管理に注意を払わなくてはなりませんから、そうやすやすと止めるわけにはいきません。
それで万やむなく、上記給与カットを今月支払い分からする事態となった次第。
かくいう自分は元々会社からの給与は当初より０円なので、引きようがありませんでした（年金のみで暮らしております）
ですが今朝、ここまで考えてはたと思い当たったのが、自分に１０万円が振込まれないためにこれだけ困窮するという事は、距離は相当離れているのですが、同市内に住む外国人従業員とて同じ事態。要するに未だ未給付で自分と同じく困窮が予想される。
で、これまた考え直して、その給付金が彼等に支払われるまで、今月の給与カットは先送りしようと。
大企業であれば、7 月の業績悪化は半年後の 12 月のボーナスや下期の給与からタイムラグを置いて反映されるのですが、極小零細企業の弊社のようなところでは、そんな余裕もなく即座に断行しないと明日からの資金繰りに困ってしまい、食材の仕入れすらできなくなってしまうのです。
で、更にさらさら仕方なくその費用の捻出先として、２台ある宅配車の内、来月更新を迎える一台分の車両保険更新を止める事にしました。要するに「一台は運転しない」
ところが、こういった水面下でのやり繰りや地獄の懊悩を知ってか知らずか、わずか２００メートル先の隣接する市では６月半ばに給付金が既に払われているのに、当市の住民は未だそれを受け取れていない現実は完全に棚上げして、同市やその地域内の市税事務所からは、マイナンバーが済々と稼働していれば一回で済む筈の同じような提出書類が何の改善

反省もなく縷々続々と送付されてくるばかり。
今コロナ禍、他国比まさに「役所後進国」
いい加減にせんかい、アホンダラ!!
と言いたくもなります。

2020/7/8-2

（「前向きな闇談合の勧め」）

以前にも別なところでちょっと書いたのですが、困難あって最後はめでたしめでたしの「ハッピーエンド」のその後日談はないのかな？というお話。
で、本日は、話をやや斜めに振って、困難ばかりがあって何も解決しないままになっていた「報道内容」の後日談はないのかな？という改題版。
コロナと言ったらコロナばかりの報道。
九州激甚水害といったら激甚水害ばかりの報道。
で、仮に今度は首都圏直下型地震が起こったら直下型地震ばかりの報道になるのでしょう？
我々視聴者から見れば、その報道が画面上、為されなくなったら、あたかもその案件、事件、災害が消えてなくなったような、解決してしまったような印象や錯覚を抱いてしまう傾向があるのですが、実際には報道がされなくなった後も、その場その地では困難や戦いが消えてしまったわけでも解決したわけでもない筈でしょう。
場合によってはそれらが積み重なって二重苦、三重苦になっている場合だってありそうです。
本件については見る側にも確かに多々問題はあるのですが、同じく報道する側にも多々問題がありそうです。
「おい、今日お前のところ何を流す？えっ？じゃぁ、うちもその辺で一線並びにそろえておくわ」
と、言わずと知れた、世界に有名を轟かせたる、我が国サラリーマン報道機関の「突出を避け、石橋をたたいても渡らぬ横並び意識丸出し報道」
で、その結果どのチャンネルを見ても同じような報道内容の山、山、山。
もううんざり
「あ、省も懲りずに、またやってらぁ」
であるなら、被災者、被災地の為にも、局の為にも、見る側の見識の為にも、三方両得になるよう、
例えばこんな風にはできないものでしょうか？
「A 局はコロナ、B 局は水害、C 局は地震を流そう」
となると各局財務担当さんや政策プロデューサーさん側は必ずこういうでしょう。
曰く、それでは視聴率（実入り）に差が出て、どの局も貧乏くじを自ら進んで引くわけがない、と。
であるなら、上述の日々行っているプチ闇談合を逆手活用して
「こと国民的有事の報道に際しては、報道同時間帯の広告料収入は各社合算の上、後日均等割り配分で行きましょう」

とか、柔軟な運営で役割分担するとか言った発想は起きないのでしょうかね？
資本主義陣営であり、自由主義国家であるはずの我が国の報道機関が、戦後いつまでたっても戦前の大政翼賛会発行大本営報道と同等、アジア大陸の端っこにある「どこぞの国」と同じ傾向というは、いささかどうなのかな？と思うことが多い昨今でございます。
（追記：この選択肢の狭さ、硬直性から、国民諸氏、特に若年層は TV 番組を捨て、自分で選択できるネット（記事・番組）に流れているやもしれませんね）

2020/7/9

(「ジジイの大反省」)

「風林火山」
「大胆にして細心」
「多にして一（いつ)、一（いつ）にして多」
と思いつくままに、三つ成句を並べてみて思い当たったのが「偏り（かたより)」という言葉でした。
「風林火山」とは嘗ての武将武田信玄公が旗印にした文言で以下となります。
「速きこと風の如し、静かなること林の如し。激しきこと火の如し。動かざること山の如し」
次の「大胆にして細心」とは、自分が知る限り彼の巨匠黒澤明監督に冠された言葉です。
そして最後の「多にして一、一にして多」は自作で、般若心経の「色即是空、空即是色」からの連想です。
で、こうつらつらと成句を並べてみて「何が偏っているのか」といえば、戦後生まれ、戦後育ちの我々老人は、知らず知らずの内に上記文言の中の一部の文字のみを偏重してきたのではないのかな？ということです。
何の事かを申し述べさせて戴きますと、元々これらの成句は「両極の中での変化、変動」を表しているのですが、実際には
「風林火山」の内の「動かざること山の如し」の「不動」のみを珍重。
「大胆にして細心」の「細心」のみを偏重。
そして「多にして一、一にして多」の「一」のみに傾重と。
纏めると「不変不動」且つ「微細精緻」で「均一一丸」がわが国民性と相まって戦後「海外貿易」により「奇跡の復興」と称される我が国の繁栄の元となったような気がしますが、現下においてはその成功体験の呪縛から、却って「風林火」の「動」や「大胆にして細心」の「大胆」、「多にして一、一にして多」の「多様性」の部分がなおざりにされたまま時代の変化についていけず、硬直化したまま置いてきぼりを食っているような気がしたのです。
ところが我々ジジババは、過去の成功体験からそのことをなかなか受け入れられずに、何とか権威を維持し、それを若い者に認めさせようと「虚勢」「意地」や「沽券」を必要以上に振りかざしているような気もします。
今回のコロナ禍で図らずも露呈した大企業やお役所の見事且つ致命的なまでの DX(デジタルトランスフォーメーション＝世界潮流であるデジタル変革)への遅れも、何のことはないその一端が現れたに過ぎないのではないでしょうか？
緊急時に際しての役所手続きの目詰まりや危機に際しての初動の遅れ（不動さ）や変わらぬ横並び意識からくる大胆さの欠如、男気、思い切りのなさ等々は、何のことはない若い世代から始まったことではなく、我々老人から既にその種を撒き続けてきたような気がしてな

りません。
そうしてそれを若い世代のせいにする傲慢さも。
道を譲っても礼を言わない無礼。周りに対する気づかいのなさ。レジ袋有料化やつり銭のトレー置き渡しへのイチャモン。反面、見て見ぬふりをする事なかれ主義や臆病。今少し我々老人は世界の変化を素直に受け入れ、聞く耳を持つ謙虚さにそろそろ思い当ってもいいような気がしております。
自らへの深い反省から。

2020/7/9-2

(「ネパちゃん健診顛末記」)

本日、弊社始まって以来の従業員定期健康診断を受けに行ってまいりました。
しかし、そこに行きつくまでが大変でした。
まず、問診票に記入漏れがないかのチェックで、ひと騒動。
だいぶん前の記事で、ネパちゃんことネパール人料理長さんが、自分の子供の誕生日すら覚えていないのか？と大騒ぎになったことがありました。
しかし、そんなのは序の口もいいところで、何と今日は自分の歳や生年すら覚えていないことが発覚。慌ててそれらが記載されている在留カードを探すも、そのカードは持っておらず、スマホの中に保存されている筈のカードの写真すらなかなか見つけられない事態。
それでも事なきを得たのは、余りに自分が何回も役所や入管に提出する彼らに関する書類を作っていたものですから、生年についてはうろ覚えながら記憶があり、それ以外手立てもないので、生年はそれとし、そこから逆算して年齢を割り出した次第。
で、そのまま「えいやっ」とばかりに記載。
で、次なる試練と申しますか珍事は、バリウム胃部検診の場で発生。
自分も久しぶりにこの検査を受けて、オペレーターのアナウンスに従がって、左転したり右転したり、逆さになったり腹ばいになったりとかなりアクロバティックに体を動かしたので思ったのですが「一体こんな指示を、日本語が碌にできないネパちゃんは理解できたのだろうか？」という疑問が湧き、検査後オペレーターさんに訊くと
「あ、結局、検査できませんでした。こちらが言っていること全く分かっていなかったみたいで、本人もこちらも諦めざるを得ませんでした」
と。
えーつ、何？一般的な検診では、検査項目が少なかろうと、資金逼迫の折、何とか遣り繰りし、1 ランク上の健診コースをやっとこどうにか選んだのに、その大枚は無駄金になってしまったということ！？
で、いささか腹の虫が収まらないので、健診後本人に
「てめ、何やっとぉ!!大枚、無駄になったやぁないけ!!」
と怒鳴りつけると
「ミルク、ダメ。ミルク飲むと神様怒る」
どうやら、宗教上の教えで牛は神様の使い。牛のミルクはご法度、ネパちゃんはバリウムの色を見て、それを牛乳だと勘違いしたようです。
で、そもそも回転式検査台に上ることすらなく、バリウムを飲むか飲まないかレベルの喚問で、脱落または拒否したのが事の真相のようでした。
しかし、一事が万事こんな調子。横に付き添っていないと何をしでかすか分からないところが多々あって、何となく自分は彼ら園児を引率する「幼稚園の先生」みたいな気がしてきま

した。
そういえば在留期間中、他職場での検便、検尿もしたことがないらしく、止む無く一からそのやり方をトイレに実際に連れて行って疑似実演を交えて手ほどきした次第。
一体どのレベルまで、面倒を見ればいいのか？最近よくわからなくなってきました。
コロナ禍なのに、とても商売どころではありません。

2020/7/10

(「警鐘に見せ掛けた完全なる脅し」)

今回のコロナ禍はじめ、それに起因した経済活動の蒸発や寸断による超収縮や、それまでの過大な経済活動の「付け」が回ってきたかのような気候変動による風水害、或いは今後かなりの確率で予想さる巨大地震の発生も含め、どの地域によらず我々人間社会全体は、現下、まさに現在進行形で、大きな地殻変動の真っただ中に立たされている気がします。
これに対して「国際秩序と連携の在り方」「経済活動とその果実の分配の在り方」「危機管理の在り方」等をひっくるめて、今までの「人間社会の在り方」そのものが待ったなしで、更に深く鋭く地球全体的規模で問われているのかもしれません。
その中において我が国では特に次の在り方の大転換が問われている気がしてなりません。
即ち
「過度の安全安心志向（指向、思考)」の見直し、です。
観察するところ、我々は上記の安全安心と引き換えに、或いは完全に取り違えて、自分の周り不可視な高い壁を張り巡らし、外界に関心を払わず、差し伸べるべき手も出さず、いやむしろ反射的に手を引っ込め、人と直に触れ合うことをある種の「非衛生感」をもって避け、且つまた予防的見地からお互いを密かに相互監視しあい、自分がする監視を相手も又そうだろうと無意識に推測することで生まれる「その恐怖」から、益々高い壁の中で手も足も出せなくなって窒息しかけている。
有体に言えば孤立して「死に体（死にたい、とも)」となっているかのような状態。
それに対し、
まずは、お互い競い合うように高くしてきた「見えない壁」を少しでも下げる方向、即ち全く反対方向に転換する（向きを変える）ことです。
そうしてその先、
困難や自分以外の他者に背を向けて逃げるのではなく、踵を返して面と向かい「立ち向かう」又は「向きあう」か「向かい合う」ことです。
それにはかなり勇気がいります。損失（ダメージ）も覚悟しなくてはならないかもしれません。
しかし、これを今やらないとその先がない気がします。
今、これを我々民レベルで、速やかに転換即実行しないと、自国内或い大方の予測に全く反して、我が国は世界の中で一番先に、没落、崩壊又は亡くなっているような気がしないでもありません。

2020/7/11

(「ズレ」)

「なぁんか、ズレてんだよなぁ」
最近そんな光景をしばしば見かけます。
例えば、テレワーク時の朝。
自転車に乗って、そんなにスピードも出ていないのにヘッドギアをし、晴れてもいないのにサングラスをし、自転車上で３密でもないのに黒マスクをし、そのくせ信号は無視して走り去るほどに朝っぱらから「気合」の入っているサイクラーさん。
そうかと思えば、どう見ても過度にカラフルなスウェットスーツやランニングウェアを身にまとい、これまた必要以上に息を上げてやたら「ハッハ」言いながら、なぜか歩道ではなく、よりによって車の込み合った車道を走る、これまた「気合パンパン」なランナーさん等。
「なんで突然気合が入ったのか？」
「なぜ今、気合なのか？」
「コロナになんぞ負けたくはないから？」「ニューノーマルに備えて意識の切り替え？」「はたまた事前準備？」
といろいろ推測してみたのですが、どうも絵姿や光景と思いついた「動機」「起因」「趣旨」が今一つしっくりこない。
で、視点を変えてそれら動機、起因、趣旨を改めて考えてみると思いついたのが
リア充の「証明」
リア充というのは言わずと知れた「リアル生活充実」の短縮語。
しかし、よくよく考えてみれば、リアル生活（現実生活）が本当に充実していれば、何もそれを人様に「証明」をしたり「アピール」をしたりする必要はさらさらないわけだし、必要性すら思い及ばない筈。
だのに、それを敢えてせざるを得ないか、そちらに力点が置かれているのは、正に実態がそうなっていないからの逆証明でしかないわけで。
これを簡単に申しますと
「中身が満たされていれば見せ掛ける必要は感じない。反対に満たされていないからこそそう見せようと、見せ掛ける必要が産まれてしまう」
反対に我々個人事業主は今コロナ禍において、まさに「リア充の塊」となっております。
言わずと知れた「尻に火」状態で、とてもではないですが「見てくれ」や「見せ掛け」なんかしている余裕は皆無ですし、気合が現れすぎて、逆に違和感を与え、それがもとで客離れを起こす心配から却って「入りすぎている気合」を抑える方に、むしろ気が向いている位。
これをまた簡単に言うと「餌を追いかけるアニマル」と化しているから。
アニマルに肩書や衣装はありません。それどころか、特に狩りをする際には目立たないことが最重要です。

その現下、餌を取り逃がすまいと必死になって、アニマル化している商店主から見ると「気合サイクラー」さんや「リア充ランナー」さんは、獲物を前に突如、旗を振りだしたような違和感と申しますか「場違い感」を無意識にも感得するからなのかもしれません。
おそらくコロナ下での「非日常性」が普段の抑制を吹き飛ばして「こういう状態ならこのくらい派手なことをやってもおかしくは見えないだろう」と思わせたからなのかもしれません。
立場の差がズレを感じさせたのかもしれません。

2020/7/11-2

（「これからはニュータイプ夜話をトライ」）

疫病の後は大恐慌、その後に来るのは世界大戦。
というのが、歴史が教えるところです。
その折、登場したのが彼のヒトラーさん。
ではなぜ、彼が国民諸氏の熱狂をつかんだのか？
それは、言説が正しいとか論理的であるとかではなく、単に「アタマに入り易く、覚え易く、語呂がよくて、感情移入もし易かったから」くらいのことかもしれません。
当時、今から振り返ると論理的で正しい視点に立った立場の人もいたのだとは思いますが、それは論理的であるがゆえに、言説が長すぎ、アタマに訴える分インパクトに欠け、却って頭に入りにくかったのかもしれません。
世の中は正しいか正しくないかではなく、分かりやすく覚えやすいか否かの方が勝っているだけのような気もします。
だとすれば、正しいことを頭に入り易く、覚えやすく、語呂がよくて、感情移入しやすいように語らなくてはならないでしょう。
というわけでもないのですが、特に在日外国人さん向けの英文記事を本日より、日本の方向け直訳タイプの長文から、上記の事項をトライした短文に切り替えることにいたしました。
どうぞ、よろしくお願い致します。
（Notice：For foreigners short-short style our articles, we will upload on below site）

a. utokyu corporation with Namaste everybody HP
http://utokyu.co.jp/venturesupporting.php
menu: “supporting for foreign workers”

OR

(b)Google blogger
Utokyu ikki`s blog)
https://utokyuikki.blogspot.com/

please visit our site!!
Thank you.

2020/7/11-3

（言葉をかみ砕いてみよう。本日は「危機管理能力」）

今コロナ禍で経営者に求められるのは「危機管理能力」であると。
しかし、こんな御大層でハイレベルな言葉を使うと却って身近に感じられなくなってしまう気がします。同じ意味でも、使われる言葉によって、印象度、実感度、受体感温度がまるで違ってきます（勿論使われる場面やタイミングによっても）
では、平たく言うとどういうことなのか？
曰く
「世の中、いつ何が起こるか分からない」
「明日は今日と同じとは限らない」
「予想すらしなかったことが、ある日、ある時、突然起こる」
「良いことが起こることはそれ程望まないが、これだけは起こらないでほしいと思うその悪いことに限って、狙いすましたようによく起こる」
「一寸先は、正に闇」
「万全の安心安全手形など何処にも無い（無かった)」
という事を、絵姿を伴ったレベルで想像、実感し、その実感をすべての根底に置いて物事を組立て、発想し続ける臨場センス。
それは、人によってレベル差こそあれ、磨けば誰でも持てるものだと思います。
「能力」の有無とは別物ですから、親からの遺伝形質等、自分以外のせいにもできません。
それを持とうとするかしないかは、まさに個々人の話でしょう。
そう実感するには「危機管理能力」という整った漢語では幾分、役不足な気がいたします。

2020/7/12

（言葉をかみ砕いてみよう「自分を大切に」）

以前にも書いたお話ですが、ブログでは初、という事でご勘弁を。
「えっ、何それ！？」
これは「「自分にご褒美」というコマーシャルの文言を耳にして、咄嗟に口をついて出た言葉でした。続いて「自撮り写真」はおろか「自撮り棒」なる商品を見るに至っては、何となくおなかの中で「くわばら、くわばら」を唱え「触らぬ神に祟りなし」と思うほどに敬遠してしまいました。
そうして、その感触が無意識に進んだ先で、ある言葉が現れました。
曰く
「自分を大切に」
以前から「間違いではないよな」とおもいつつも、何となく言い知れぬ不快感を覚えていた言葉だったのですが、その不快感、違和感、底知れず巧妙にすり替えられた、ぞっとして鳥肌の立つような「闇」の正体が何故か一瞬にして忽然と分かりました。
その正体は
「俺（わたし）の「都合、立場」を誰よりも第一に優先しろ（しなさいよ）」（という身勝手極まる相手への強制命令形）
それを
「俺（わたし）の本来生まれ持った「素質、素性」に素直に従い、自らが不利となっても外部環境に屈せず第一優先にします」（の自発的且つ損得勘定を超えた自己宣言形）
の意味に見せ掛けた言葉ではないのかな？と。
衣装、デザインは後者で、中身、実態は前者。
一言で言うと「わがまま、自己中の理論化、正当化」或いは「それに対する論理的根拠の付与」短く言えば「理論武装」その実、中身は「目くらまし用煙幕」
そうしてその中に隠された本当のメッセージは
「自分を大切にって、つまり、これからは、何はばかることなく、自分の都合を最優先させてもらうっていう事。いいよな（いいわね）」
それを、相手の受諾なしに一方的に言い放っただけ。
その巧妙なすり替え術。
そうして本人すら気づかない誤認識が産みだす「闇」または置き引き犯すら驚く高等テクニックでそれがうまくいってしまったが為に、先送りされた分却って事態の悪化を招く「行く末の闇」「闇の行く末」
この誤認識とそれに従った実選択、実行動は、今回のコロナ禍よりもさらに悪質で手ごわい「心理的疫病」の蔓延を招くような、或いは既に招いているような気がいたします。
コロナ禍と違い、これにはワクチンはありません。自らの力で自己生成し免疫抗体を作り出

すしかないようです。
こちらの方の疫病（感染症）に関しては。

2020/7/12-2

(言葉をかみ砕いてみよう「リーク」)

予報通り、そろそろ風雨が強まり始めた深夜、換気、風通しの為に窓を開けて、激しい風雨の音と、その風雨にさらされて漆黒の中で、うねるように波打つ木々とその葉っぱを眼前間近で見ていると
「まだ懲りないのか」
「いい加減そろそろ懲りたらどうだ」
「懲りないなら、もっとひどい目に合わせて、イヤというほど思い知らせてやるぞ」
「そうなる前に、早く目を覚まして、改めろ」
と天然自然が厳しい言葉で強く耳打ちしているような気がしました。
我々人類の所業に対する善意の「リーク」として。

2020/7/13

（大いなる岐路「猿の惑星前夜ポジション」）

昨日、２か月ぶりに久しぶりの息抜きがてら駅前にある馴染みの中国レストランに行ってきました。
宴会室を２つ抱える結構大きなお店なのですが、入っていたお客さんは地元の方と思しき８人組のお客さんが一組と一人客の自分だけ。昨日は日曜日なのにこの状態。
中国人の女将さんに尋ねると、自粛解除後も売上は６０％減だそうで。
別の沿線ですが、自分のネパーリボスの駅傍のお店も５０％超減。
そうして郊外店の自分のお店が４０％減。
一方我が国の感染症学や医学の著名な学者さんがオンライン対談で、首都での連日２００人を上回る新型コロナ新規感染者数の増加から予測される第二派到来に対して
「この戦いは野球で言うとまだ二回表の段階」「今後わが国でも感染者が１０万人出てもおかしくない」と述べておられました。
これを数値化すると野球の試合が９回で、その裏表があるので１８イニング。二回表が３イニング。二月中頃から現在の７月中頃までが約５か月。で、５X（１８÷３）＝３０か月。しかし既に５か月たっているわけですから３０－５＝２５か月。
つまり今から後、約２年、このコロナ禍が終息するまで時間が掛かるという事になります。
上述の状態のような売上減が半年ならまだしも何とかしのげます。しかし後２年となると我々飲食業ならずとも、全世界、全産業にわたって恐らく滅茶苦茶になってしまうでしょう。
そうして恐ろしいのは、このコロナ禍蔓延の中にあってその他自然災害に加えて、為政者による「犯人捜しの矛先かわし」目的の人為的な戦争でも起こったとしたら、制御不能の状態で疫病が爆発的に広がり、最悪の場合、我々人類の存亡すら危うくなってしまうかもしれません。
そう思った折、突如ある映像が浮かびました。
猿の惑星のラストシーン「廃墟となった砂の中から現れたのがトーチを持った自由の女神像の右腕と冠」
猿の惑星は、何のことはない、滅亡後の地球だったというオチの映像。
我々は今、とても大きな岐路に立っているように感じます。
そうならないために、我々「民の方が」より全力を尽くさなくてはならない時が来ているようです。

2020/7/14

（It`s a Great chance for foreign IT engineers staying in Our country!!）

もし、アフターコロナにおいて DX(=digital transformation=デジタル未曾有的変革)が世界新潮流のキーワードとなるのであれば､国の将来価値順位は大きく入れ替わる気がします。
それを今コロナ禍において実感、いや痛感致しました。
実感、より的確に申せば「痛感」の元（ソース）はわが国の役所、財団法人、社団法人等公的機関及び準公的機関の緊急状態下でのあまりのスピード感のなさです。
ニーズに対して殆どすべてが「結婚式の後に来たウェディングケーキ状態」
全く意味をなさないか、深読みすれば殆ど嫌味状態でした。
ヒト、モノ、カネ＋時間、の時間（タイミング）こそ,前者全てを活かすものなのに。それがいつのまにか「欠如してしまった国」
これでは世界に太刀打ちできません。
逆に、外国から来られた IT 技術者さん達にとっては、絶好のビジネスチャンスでしょう。
兎に角、見込み対象顧客は山ほど（それも many,many どころか、huge,いやうんざりするほどの too much enough ”many”ほど）いるんですから。
「殆ど、濡れ手に粟の草刈り場」同然ですよ！！外国から来られた IT エンジニアの皆さん！！
時間があるなら、本職以外の副業にももってこいですよ！！皆さんならコスト競争力がありますし(顧客にとってのコスパが高いですし)
ウィズコロナ、アフターコロナがもたらす千載一遇の「グレートチャンス」でっせ、みなさん！！
（日本の IT エンジニアの皆さんも負けずにコスパを上げてくださいね！！これこそまさにあなたが生きている間の最大にして、残れなければ最後になるファイナル・サバイバル・バトルですから。かねてより申し上げておりますとおり「適者生存枠外」になりますから）

2020/7/14-3

(「ストップ ザ 空回り」)

気力、体力、時の運。
この三つが重なった時に運気が開ける。
ところがこの「成功の方程式」に照らしてみて、今の自分の場合、在るのが「気力」のみで「体力」と「時の運」がない。
この後者二つがない場合、何が起こるかといえば、気ばかり焦る「空回り」
暖簾に腕押し、徒手空拳、二十日鼠の円形回転籠内での無限マラソンを思い浮かべていただければ皆さんにも想像がつくと思います。
で、上述の運気を再獲得するためには、
「気力」を維持しつつ
「体力」の回復を図り
「時の運」の到来を待つ
しかありません。
要するに
「希望を失わず、十分に休養を取り、撒いた種の芽が出て、先様からお呼びがかかるのを焦らず、ゆっくり待つ」
それを一言で言い換えると
「辛抱」
「辛」さに耐えつつ、放擲することなく敢えて「抱」え続け「時の運」が、「時」機を得て、それこそ向こうから「運ばれて」くるのを待つことが「辛抱」
又は「時運辛抱」とも。
以前にも申し上げましたが
「忍耐」はじめ「辛抱」という言葉は奴隷の如き「忍従」とは全く違う「希望損失」をミニマイズし「時機到来」即ち「運」を逃さず掴むための最高の「経営戦略」
そう思えるからこそ今コロナ禍においても「落胆失望」せずにいられるのかもしれません。

2020/7/14-4

（「立場変われば言、変わる」）

いいものは手間暇がかかっている。或いは掛けないとできない。
しかし、我々は往々にして前者、即ち提供される料理や衣服や家具についてはそれを相手に求めるのですが、後者、即ちこちらが提供する側になると、その労を厭い「効率よく」の美名のもとに手抜きをする傾向があるような気がします。
無論、無制限に手間暇はかけられませんし、ただ、只管（ひたすら）掛ければいいというものでもありません。とてつもないコストアップになるからです。
そこは折合い。
つまり、限られた、または設定された定時間内にどれだけ手間暇をかけられるか？手間暇をかけて品質を上げられるか？もっと言えば制限時間内に品質を「盛り込める」か？というコスパが大切でしょう。
しかし現実はといえば、冒頭でも述べましたように、消費者としての要求レベルはいやがうえにも上がっているのですが、同じ消費者が生産者でもある同じ我々の生産活動遂行時間になると、何故だか一転して何の矛盾も感じることなく、全く正反対の反比例方向に向かってしまうように気がします。
何故か？
思うに、昔々のその昔、ある総理大臣が「消費は美徳である」といったその標語が、貯蓄を消費に回して経済活動を活性化させようという本来の趣旨を伝えきれない「言葉足らず」のまま、完全に独り歩きしてしまい、その残滓が我々の中にまだ根強く残っているからのような気がしております。
正しくは「生産者である皆さんの生活をより豊かにするためには、貯蓄に回して個別家庭の安定安全を図るのも間違いではないが、あなたを含めお互いがもっと豊かになるためには、その貯蓄に回すお金を社会に向けて放出した方がよいでしょう。ですから「浪費」は罪悪ですが、そうではない「消費」は美徳であるのです。これからは。生産者であるあなたが消費者になることで、生産者であるあなた方が潤うのですから」
で、ここからが肝心ですが、購買行動で実際に消費者となった生産者の生活が豊かになると、この際、透明語でつかわれた「貯蓄」という言葉がいつの間にか「勤労、勤勉」＝「労苦、忍従」と連想、連鎖反応を起こし「勤労、勤勉（＝手抜きしない）は悪である」と変質。
で、冒頭のような同じ人間の中で、求める立場（場面心理）と求められる立場（場面心理）のアンバランスが生じてしまったのではないのかな？と本日は推論してみました。
当たるも八卦、当たらぬも八卦。

2020/7/15

（「意地悪」分析）

いじめと意地悪。
どちらが悪いか？
むろんどちらもよくありませんが、自分の感覚では、圧倒的に後者の方が悪辣だと思っております。
何故か？
いじめにはある意味、それをすることで「罰せられる」危険性が伴います。ところが意地悪は、その危険性をまず除外して、こっそりと隠避にやる「卑怯さ」を感じます。
（TV アニメちびまる子ちゃんに出てくる「いけずぅ（＝いじわるぅ)」とは全くレベルの異なる陰湿さ）
例えば、気づいているにもかかわらず、気づかぬふりをして、通行の邪魔をする。
近づくと
「おや（あら)、ごめん（なさい)。全然気づかなかった（わ)」
嘘をつけ！！って。
意地悪とは日本語では、読んで字の如く、持っている「意」識の「地」合い（そのもの）が（もうすでに)「悪」い。で、意地悪。
今、我が国では、子供の間や職場での「いじめ」が問題になっていますが、その遥か数万倍の数で「意地悪」が発生しており、そのことはどのメディアにも取り上げられておりませんが、自分としては、こちらの方が余程、我が国の今後を考えるうえで、より重大且つ喫緊の問題だと感じております。
では、何故意地悪が発生するのか？
それは、「自分に気づいてくれないことへの意趣返し」だと読んでおります。
要するに我が国国民は途轍もなく「やっかみ」が強く「すぐに不貞腐れる」傾向がある。元をたどれば、子供のころちやほやされて育てられ、大人になるとそうはされない。で、
「子供の頃みたいにいい子、いい子、して。あたしを一番先にして」
「（わたしは生涯不変、特別待遇 VIP のはずでしょ）なんでそうしてくれないの？」
「してくれないなら、拗ねてやる」
この国民全般に蔓延しているある種の精神的疫病は、表向きちやほやされているのに、その実は、少しも尊重されていないことを密かに感じることから生まれる「寂しさ」故だと自分は推測しております。
これまた当たるも八卦、当たらぬも八卦にて。

2020/7/16

（「実現すれば事業冥利に尽きるも、未だ道遠し」）

「信じられない程難しい日本語をいとも容易く（たやすく）話すのに、何故簡単至極な英語を話せないんだろう?少なくとも３年間も勉強しているのに」
とか
「コロナ禍はじめ東日本大震災の配給時にも、何故騒ぎもせず、ちゃんと並んで順番を待つことができるのだろう？誰から言われたわけでもないのに。しかも表情一つ変えず、涼しいな顔で」
とか
「どうして日本の人は、来ます、来ます、必ず来ますと口では言うのに、実際に来たためしがほとんどないのはどうしてなんだろう？」
とか。
在日外国人さんは、我が国のことを全部「知ろう」とまでは思わないまでも、何かその辺、よくわからないというか、不思議におもうことがいろいろあるので、出来れば知りたいのだけれど、と内心思っていることが多々あるようです。
一方わが同朋にしてみれば、出身国によって幾分差はあるものの在日外国人さんに対して
「なんであぁも喜怒哀楽をはっきり表に出せるんだろう？」
とか
「なんで Yes, No を遠慮会釈なくはっきり言えるのだろう？」
とか
「なんで、あぁも人目を気にせず、押しも強いんだろう？」
とか色々感じているところがあるようなのですが、相変わらずこれに関しても、表立っては口に出さないようです。
しかし、外国人さんが日本人に対して多様な面からいろいろな疑問を持つのに対して、わが同朋はおおむね一点に集中して疑問を抱いているようです。
曰く
「何故、そう、自信たっぷりなのか？」
弊社としては、その辺お互いのいいところをバーター仕合い、コラボすることができれば、事業冥利に尽きるのですが。
まだまだ道は、遠いですねぇ。

2020/7/17

(「とどのつまりは」)

「とどのつまり、自分は、何をしたいのか？どうなりたいのか？」
すべての個人的難題、難問の脱出の鍵は、上述の問いにあるような気がします。
困難にぶちあたったら、まずは原点基点に立ち返える気になって、誤魔化すことなく、きちんとそれと向き合い、自分の都合を一旦脇において、その答えをちゃんと出す。
そうしてその答えの「評価」をこそ「自分自身で」きっちりやる。
即ち「それは本心からか？」
「では、なぜそれをしたいと思うのか？そうなりたいと思うのか？」
その問い掛けを「その答えの責任は自分がとる」という気持ちになるまで、繰り返し続ける。
それ以外にないような気がしております。
大変かったるく、面倒くさくはありますが、自分の経験則上は、そうなっております。

2020/7/17-2

(「あてにならない数字」と「あてになる数字」)

今、コロナ禍で痛切に分かったことは、テレワークに必要性でもなく、内部留保金の必要性でもなく、ニューノーマルの始まりの予感でもありませんでした。
何かというと、
あてになる数字とならない数字があること。
前者は、経済指標と株価。まるで肌感覚を反映していない。
更には、給料等。
例えば、駅傍に多額のローンを組んでマンションを買った。ところがそのあと、ボーナスはおろか、給料すら出るのか出ないのか定かでなくなった、というような事態が起こる。
では、どんな数字が当てになるのかといえば
気温、気圧、などの自然科学の数字。
出生数や死亡数などの人口動態の数字
そして、日時等の時間の数字等。
以上を簡単にまとめると、あてにならないのが「思惑」の数字。あてになるのが「事実」の数字、ということになりました。
「思惑数字」に振り回されるのはもううんざり。
こういう状況下では「事実数字」に目を凝らした方が、いいような気がします。振り回されず、落ち着いて見ていられますから。

2020/7/18

（「猛省」の巻）

物事の順番というものはとても大切だと思います。
その前提となる考え方として「大状況が小状況を規定する」というのがあります。
まず自然状況が景気状況を規定し、
景気状況が国又は勤め先状況を規定し、
国又は勤め先状況が家庭状況を規定し、
家庭状況が個人状況を規定している。
今回でいえば、コロナ禍や風水害が、現在の景気の悪化を招き、景気の悪化が国又は勤め先経営状況の悪化を招き、国又は勤め先状況の悪化が家庭内状況の悪化を招いて、それが個々人の心理を圧迫している、となります。
しかし我々は平時において、その順番を忘れるかないがしろにして、全く正反対の順番を無意識に立てている。
即ち、自分の都合、思惑、願望だけを考え（第一番に置いて）、後は適当、曖昧、いい加減に best（most happy and most lucky）story を思い描いて「危機管理意識ゼロ」の「隙だらけの生活」を送っている。
で、今回のような状況になってはじめてそのことに気づかされる。
自分は、物事の順番（＝着目すべき優先順位の置き方）を間違えて考えていたので、現下、大変な目に合うことになっております。
猛省。

2020/7/18-2

（「本日の観察レポート」）

ブログを書いていて、日本の読者の方と外国の読者の方で「いいね」のつけ方に面白い違いが現れてきました。
曰く
日本の方は、ちょっとひねった「起承転結」スタイルを好み、外国の方は「転」即ち「ひねり」が入ると混乱するようで、どちらかというと「転」を除いた「起承結」を好まれるようです。
少なくとも、弊社の外国人翻訳者が日本語を英語に翻訳する際「転」が入ると訳文の「主語人称」がいつの間にか入れ替わってしまったり、時々翻訳が、面倒くさくなるのか「転」そのものが抜けてしまっていたりで、訳出されたものが「これっていったい何だっけ？」という訳の分からないものになっていたりします。
アタマの思考構造が、日本人は小説、フィクション、芝居仕立て構造で、外国人はビジネス文書、レポート、ニューズ・ウォッチング構造なのかもしれません。
外国人から見れば日本人の物言いや書き方は、持って回ったように見え、日本人から見れば外国人の物言いや書き方は、そっけなく感じられるようです。本日只今時点での、自分の観察によればですが。

2020/7/18-3

（「同乗船、隣接乗組員」）（2020/7/18 pm 7:35）

コロナウィルスの第二波が来る前に、既に「真っ黒な世界」がやってきてしまったようです。
本日、なんでこんなに恵まれているのに、というような若い人気俳優が現時点原因は分かりませんが、自殺をし、同じく、首都圏の一部では、追跡可能な臨界点を超え、補足、制御不能になったことを覚悟しなければならないかのように、最高値のコロナ感染者が出ました。
こんな時どうするか、どう考えて行動すればいいのか？
自分の考えでは、我々はいま「日本という船」に乗り合わせた乗組員だと考えるしかないと思っております。
国籍はどこか？どこの国から来た人か？というのは無意味で、どの階級に属しているか?首都圏に住んでいるのか、地方なのかというのも無意味。母国がどこであり、出身地、出身階級がどこであれ、とにかくこの「日本という船」に現下、たまたま、且つ奇しくも乗り合わせた乗組員であると認識すべき時だと思います。
乗客と乗組員ではなく、全員が乗組員として、船を大嵐から守る行動をしないと、どんな肩書や属性の人も、一人として助かりません。
お上がどうの、民がどうの、老人がどうの、若年層がどうの、男がどうの、女がどうのと、責任を押し付け合っている場合でもありません。
仮に押し付け切ったとして、そのあとで船が沈んでしまったら、その手柄を誰が記録し、誰に報告するのでしょう？
茶番でしょう。誰も喜ばない名誉を抱いて水底に沈んで、海の藻屑として消えてください。
全員海の藻屑として水底に沈むことなく、次の寄港地にどうやったらいけるか？全員が知恵を絞って、全力を尽くして働くしかないのではないでしょうか？
少なくとも今は、意見や利害を異にする隣人を、一時なりとも受け入れてはどうでしょう？
同じ船の乗組員という「肩書」ではなく「状況」を。

2020/7/19

(「非常に地味なご提案」)

「テレワークを１００％導入し、オフィスをなくします。固定費も減り、いいことずくめです。もう元には戻しません」
と晴れやかな顔で語った社長。
「テレワーク１００％導入を計画していましたが、小規模ながらオフィスを残すことに結論を変えました。現状の仕事は１００％テレワークでいいのですが、未だないこれからの事業を築く上では、面と向き合った方がいいアイデアが出ることが分かって来たからです」
と、幾分不安げな顔で語った社長。
さて、どちらに投資するかといえば、自分なら後者でしょう。
何故か？
それは、物事には１００％というものはないこと。今一つはそのせいで、後日必ず揺り戻しがあること。
例えば、上記の後者社長の理由以外に、メンバー間に連帯感が生まれないとか、何か物足りなく寂しいといった人間系の反動が必ず出てくることが予想されるからです。
で、あるなら、その分テレワーク率１００％に比べると現時点の評価は悪いのですが、それを先取りして織り込んだ分、コロナ禍後のその向こう側に行った折、応速度が圧倒的に早いであろう後者に賭けた方が、トータルパフォーマンスがいいと思われるからです。
世の中に１００％はありません。必ず期初からそれを織り込んでおいた方が得策だとおもうのですが。

2020/7/19-2

（「隠れ鉱山探索日記」）

「恋し、恋し、と鳴く蝉よりも、鳴かぬ蛍が身を焦がす」
（これは、昔の「都々逸（どどいつ)」という一種のリズム付き川柳みたいなものです。別に「ドイツ」と言おうとして、慌てて「ド」をダブったわけではありません）
それはさておき、こういう事って、虫の世界だけではなくて、我々人間様の世界でもありそうです。
「黙っている奴ほど、底知れず怖い」
とか
「痩せて枯れたように見え、表向き萎んだじいさん、ばあさんは、実はエネルギーを失ったわけではなく、出せないまま、却って押し込まれたか、押し込んだ分、その中に言い知れぬ「寂しさと口惜しさ」が生み出すマグマがとぐろを巻いてうねっている」
とか。
初めのが「隣人を遠ざける」もっとも「大きな原因」
二番目のが「その放出（ガス抜き)」こそが、じじばばに限らぬ我が国国民諸氏の「最大の隠れニーズ」
（ひょっとしたらお金よりも）
さて、この二大難問をこれからどうやって解いていきましょう？
どこまで行けるか分かりませんが、行けるところまで行ってみましょうか？
この「隠れ鉱山探索日記」で。
で、行く行くは「隠れ鉱山発掘日記」そしてそれに続いて「隠れ鉱山事業化日記」になればいいなぁと思っております。

2020/7/20

（隠れ鉱山探索記「エネルギー不滅の法則」）

「エネルギー不滅の法則」
要するにエネルギーはその形を変えただけで、変わる前と変わった後の総量の和は変わらない（消えずにいて不滅である）と。
これを「おぎゃー、おぎゃー」と元気に泣き叫ぶ赤ん坊と、９０年後の見る影もなく萎んで元気のないじいさんばあさんになる人の一生に当てはめると「おぎゃー、おぎゃー」の元気（エネルギー）は形を変えて、じいさんばあさんのどこかにエネルギーとして同量残っていることになります（世間では国語辞典的な意味で「元気」とは言わないかもしれませんが）
それでは、何に化けたのか？
そう、いちいち書くと嫌味になりますから、割愛しますが「ろくでもない粘着質の汚泥」に化けてしまったのです。
赤ちゃんが発するのは「声と汗」ですが、我々年代のジジババが発するのは「微熱を帯びたガス」です。総量和は同じ。変化なし。ただエネルギーの質が変わってしまっただけ。
「歳をとってエネルギーが無くなった」というのは認識の大きな誤りでしかないような。
となれば、あとはエネルギーの放出の仕方です。
ガス抜きという言い方はあまり正しくなくて、有毒ガスのエネルギーをクリーンエネに変える方法さえ探せばいいだけような気もします。
エネルギーが無いというのは、完全な誤認識でしょう。
まずは、そこを変えないと。

2020/7/20-2

（隠れ鉱山探索記「幽霊の正体見たり枯れ尾花」）

「幽霊の正体見たり枯れ尾花」
要するに
「なぁんだ、そんなものに怯えていたのか、あほらしい」
という事で。
いい例が、我国民が何故長期間に渡って英語を習うのに喋れないのかの真因。
それは、言葉の構造の違いでも、教育方法の不適格でも、英語を喋れなくても困らない単一民族単一言語のせいでも、体格差からくる劣等感の故でもなかった。
「それらは数多ある付随的原因のひとつでしかなかったのか」
本当の真因は、
「しゃべろうとする後ろで見ている我が同朋、日本人の目が怖く固まってしまうから」
これが
「幽霊の正体見たり枯れ尾花」
の幽霊の正体、そしてこれが上述の一句の使用例模範解答としての好例ではないでしょうか。

2020/7/21

（隠れ鉱山探索日記「お疲れの元？」）

昔「デブ専」という言葉を初めて聞いて驚きました。
因みに「デブ専」とはデブ専門という意味。
それまでは、痩せてほっそりしたのが男性一般の好みだと思っていたのですが、
「痩せに興味はない。デブ、大好き」
という年下上司に付いて、初めてその「言葉」を知ったのです。
その言葉を知って以来、観察してみていると、
「若いのより。年増好きも結構いるようだ」
から始まって、知り合いの範囲が外国人にまで広がると
「３０歳って何の歳？日本では何かあるの？」
位のことでしかない事が判明。
だとすると「痩身且つ年齢３０歳未満の女性でないと価値がない」という判定基準は我国だけに見られる「許容幅 0.5 センチくらいの、ピンポイント、ジャストミートのみが許容範囲」のような気がしてきました（因みに自分の好みはこの枠外ですし）
「狭っ！！？」
「しかも、それ以外は無価値扱いだなんて」
価値幅が狭いうえに高すぎる。更にそこから１ミリでも外れると徒党を組んでの「ダメ出し」
何かとても狭量のような気がしてきました、我々の価値幅は。
本日の話は自分が男なので、男の側の話をさせて戴きましたが、逆の側からも、更に外の面でも同じような傾向がありそうです。
学校、老後、社会的ステータスの許容範囲なんかも。
だからみんなビビッて、本姿を出せずに、疲れ切っちゃっているんじゃないでしょうかね。
何もしない内から。

2020/7/21-2

（隠れ鉱山探索日記「過ぎたるは」）

貯蓄率の高さ。垣根、生垣。海外に対しては超寛容、国内に対しては超不寛容。
これは何かといえばわが国民性の特徴。
外国では、どちらかというと「宵越しの銭」は持たず、あるとすぐ使ってしまう。
外国では、垣根、生垣のある建築様式の方が珍しく、大抵はオープン。
そうして、最後は、大方、外国では外の対して不寛容、内に対して寛容になっている。
最初二つは、言わずと知れた「守り」の姿勢。
三番目は、一見前者二つとは趣を異にするようだが、実はこれも「守り」の姿勢、というか、その極意。
というのも、相手を寛容に扱って油断させ、身内は密かに引き締めてバッファー（のりしろ）を作り、いざという時に出し抜けるようにする。
（昔の話ですが、受験の子供が相手を出し抜けるように為された親の身代わりテレビ視聴や昼行燈を演じた忠臣蔵の大石内蔵助の例からの類推）
こうしてみるとわが国民性は、いかに「安心、安全志向」が強いかが分かります。
それで、今コロナ禍においては、検査数の話を除いても、感染が抑えられ助かっている面はあるのですが、コロナ禍後においては、余りに守りに徹しすぎて要らぬ気を使い、その分「進取、先取」に出遅れ、世界から取り残される恐れも。
「過ぎたるは及ばざるがごとし」
わが国民は何かにつけ、いささか「し過ぎ」のきらいがあるや、に。
「おのおの方、ほどほどになさりませぬと…」

2020/7/21-3

（隠れ鉱山探索日記「前からあった？自粛警察」（加筆））

コロナ禍で、近ごろ大流行の「自粛警察」
正確には「赤の他人が自粛基準を守っているかどうかをチェックする警察官以上に事細かにチェックするような人」のことを意味します。
「あれやっちゃダメ。これやっちゃダメ」「あれはおかしい。これもおかしい」等。
いい加減うんざりしますが、実はこれ、前からあったような気もします。
「その飲み方はおかしい」とか「その具材の入れ方の順序はあり得ない」とか（因みに後者のことを我が国では特別に「鍋奉行」といいます）
他にも親として、年配として、上司として、夫として、妻として、新人として、青少年として「あるまじき」等々延々と。
そろそろ切れるころじゃないかなと思っております。コロナ禍での「自粛警察」はそのきっかけにすぎません。
今まで積もりに積もった同じ様な「善意の警察行為」に対する鬱積不満が連鎖的に爆発しそうな気がします。
いい方に爆発するか？悪い方に爆発するか?
当然悪事の方がスカっとするので、後者になる危険性が大です。
ならばどうするか？
こんな時こそ「笑ってごまかせ、自分の失敗。あくまで罵れ、他人の失敗」の内「笑って」以外はすべてオフにして
「お茶目」「おふざけ」「いたずら」「ジョーク」でガス抜きをされてはいかがでしょうか？
要するに「お祭りをされては」いかがでしょう？

2020/7/22

（気分転換の為の「始業前のボヤキ」）

朝、お店に赴く途中
「カラスによく会う日は、請求書の数が多く、知り合いのわんこによく会う日は、クレジット払いの入金の数が多い」
という法則らしきものが自然界と弊社損益勘定の間にはあるようで。
それにしても、弊社の場合請求書は日々「敵の弾丸雨あられ」の如く降ってくるのに、入金連絡の方は「待てど暮らせど来ぬ人を、宵待ち草のやるせなさ」状態。
結果、真っ赤に染まった数字が「フルヘッヘンド」（うずたかく積みあがる＝中学時代に習った杉田玄白著「蘭学事始」の一節にあったオランダ語）しております。
一方、例の給付金 10 万円のアナウンスはやっと 20 日（一昨日）に来ました。
働いていない、同じ住所の息子には 1 か月前。コックさんのネパちゃん二人には、1 週間前。
そうして個人としては一番少ないものの、会社としては誰よりも多く税金を納めているオーナーの自分のところへは最ドンケツに。
こちらの方は一体どういった法則に則っているのか皆目わかりません。
まさか眉目秀麗度とか？見た目が一番いいのが息子で、一番不細工なのがオーナーの自分だったからとか。
或いは静かなのが一番で、がー、がー「うっせぃ奴」が一番あと、等の担当者の「好感度判断」で、ではないでしょうね？いくらなんでも。
まっ、今コロナ禍、役所には随分ねじ込んだことは認めますけれど。

2020/7/22-2

（「被り物をしたトトカマ男とカマトト女」）

注）トトカマ＝知らないのに知ったかぶり：カマトト＝知っているのに知らないふりの事
「人間らしく」や「自分らしく」という言葉には十分注意をした方がいいと思います。
我が国の場合。
「人間らしく」が機械に対しての温かみや融通を指すのであれば分かります。
「自分らしく」が指すのが、お互いの個性を認め、受容し、活かしあうという意味のコラボであるのなら、それも理解できます。
しかし、上述の文句を敢えて意図的に「曲解」する受け手が言う場合の「人間らしく」や「自分らしく」は、実は両方とも「自分らしく」を、言葉を変えて言っているだけではないでしょうか。つまり「人間」も「自分」も等しく「自分」と言っているだけ。
そして更に言えば「自分の都合を誰よりも何よりも先にするお墨付きを得たのよね？」という免罪符強要宣言。
そもそも上記に出てくる「人間」等というものは通りのどこにも歩いていません。
歩いているのは男か女かそれもどきか両性具有の５種類が歩いているわけです。
同様に出てくる「自分」といった処で「自分って、何者？」と真摯に突き詰めた形跡も見当たらないようですし。
つまり曖昧な定義のまま曖昧な結論を曖昧に一方的に tweet しているだけ。
何一つ噛み合ってはいません。
では、どうやったら噛み合うのか？
まずは、目晦まし用の被り物を脱ぐ事。
「トトカマ男」と「カマトト女」の被り物を。
だって、被り物をしたままでは、相手の顔も見えませんし、自分がどのように見られているかも分かりませんから、話が噛み合う筈ないでしょう。

2020/7/23

(「なんで？なんで？誰のせい？」)

「家電製品が壊れるときはいっぺんに壊れる。なんで、なんで？」
「災害が発生するのも同じく一度に発生する。これまた、なんで、なんで？」
余りにも理不尽、誰のせいだ！！
(全世界を覆うコロナ禍、我が国のみならず大陸の大国ダム周辺でも起きている大雨災害等)
ということで、その犯人探しや原因捜しを我々設問者以外に求めがちなのですが、案に違い、その原因は自分自身にあったりすることがまま、あります。
例えば、家電製品でいえば、住宅購入時に纏め買いをするケースが多いのですが、同時期纏め買いをするせいで、耐用年数がほぼ同じである家電製品群が一度に耐用年数超過を迎える、つまり壊れる。
原因の一旦は自らの同時購入。
一方災害の方は、人々が「快適さ」を追い求める余り（以前にも申し上げましたが）その快適希求総和量が、自然環境の耐久受容量を超えてしまい、生態系やエコサイクルを寸断、破壊して、天がその警告と調整機能の発動、即ち、寸断、破壊実行者の間引きにより生態系、エコサイクルの回復を試みているとも取れます。
勿論「間引かれることになった」被災者さん達が、それを被るに妥当な方々なのかといえば、全然違っていると思います。
が、我々残された者はこの尊い犠牲の元、そろそろ痛切に「原因の多くは自分たちにありそうだ」と強く認識する時期を迎えている気がしてなりません、自分としては。

2020/7/24

(「飲食店 New normal の予感？」)

「艱難汝を玉にする」とか「憂き事の尚この上に積もれかし。限りある身の力為さん」
とか言っている場合ではなくなってきました。
曰く
「艱難私を貧乏にする」とか「憂き事はもうそろそろご勘弁。限りある身に負荷掛け過ぎやで、ホンマ」
とか。
ですが、状況を変えるにあたって、その原因や責任を自分以外に求め、相手がそれを「うんそうだね」と素直に受け入れてくれるのならいいのですが、そうでない場合、まずは自分の中でその原因や負うべき責任の一端を探した方が手っ取り早く、有効である場合が多々あるような気がします。
何故かといえば、自分と立場が違い利害の中身も違う相手を納得させるのはとても大変ですが、自分の範疇の事であれば、ある程度は自己裁量でできるので、結果も早く出るし、何度でも試行錯誤や実験ができるからです。
そういう思いから、言い出しっぺとして自ら状況打開の為の様々なトライアルを日々行っているのですが、先に述べたようにはなかなかうまくはいきません。
それでどうしたかというと、
取り敢えず昨日は、中華料理店に飲食に行きました。もちろん「3 密って何の事？」という感じのガラガラのお店に。
で、そこで何をしたかというと、再び「取り敢えず」で恐縮ですが「ぼーっと、だけ」しておりました。
そこで一句。
これからは「ガラガラの方がいいお店」
それがこれからの New normal, New standard
そんな予感もしております。

2020/7/24-2

(「コロナ禍、我が安眠熟睡のコツ」)

相手に切り札を持たれていると不安になります。
今コロナ禍、勤め人は所属事業体の状況如何によっては「首を切られるのか否か？」
「それが分かるのはいつなのか？」
の答えが向こうからやって来るのをじっと待ってなくてはならないからです。
悲しいかな、殺生与奪の伝家の宝刀を握っているのは相手で、自分にはないからです。
同じく事業の縮小に当たって「引き際（撤退）をいつにするのか？」
これも市場の動向把握に依るという意味では、自分に切り札はなく、市場動向に切り札を握られているわけです。
しかし、これら二ついずれも自営業であれば、市場動向以上に自分の「意志」で「これだけは実現したい」「やりおおせたい」というのであれば、撤退するか否かは、自分で決められるわけです。損をしてでもやり通すのか、その価値がなかったと判断するのかを決める切り札は自分にあるからです。
結果さえ覚悟すれば「引くも引かぬも自分次第」
切り札、カード、持ち駒を、どんなに小さなものでも、自分の手中にさえ持っていれば、危機下に於いても、びくびくイライラせずに、案外、毎晩、安眠熟睡できるもののようです。
脳天気な自分の場合は、ですが。

2020/7/25

（「推測話し」）

「嫌よ、嫌よ、は好い、の内」
と、始まり
「つれない素振りでこころ惹き」
と進み、果てはおどろおどろしく
「その声で蜥蜴喰らうか不如帰」
いずれ男女の仲は駆け引き。権謀術数、外面如菩薩内面如夜叉の世界。
特に女性は、その道の練達の師であるのは世界的な傾向なのだろうと、つい最近迄まるで疑いもしなかったのですが、近頃
「本当にそう？」
と思い始めました。
「これって、我が国特有の話では？」
それというのも、海の外の女性は、関心があると率直にその興味を表し、決して「気づいて気付かぬふり」とか「興味あるのにない素振り」といった内外（うちそと）正負逆転反応を示したことが殆どないからでした。
もし、そうだとすれば、その原因は一体何にあったのか？
独断と専横に満ちて言うなら、
「男女七歳にして席を同じくせず」
ではないかと。
無論表向きそんな警句は死語になっている筈なのですが、案に違い結構未だ「縛り」を利かしているような。
その一線が暗黙裡にあるために、幼い頃から大っぴらに「敵情視察」ができず、各陣営において勝手な推測が蔓延ってしまった。
つまり敵情視察できない疑心暗鬼から「どうせ駆け引き。本心など出すはずがない。正反対の攪乱工作に決まっている」と。
其々の陣営が門戸を開いていれば、そんなことは起こらなかった筈なのに。
この推測因果関係は現世界の様相にも多々当て嵌まる様で、少し怖い気がしております。

2020/7/25-2

(「今日も飽きずに悪あがき」)

「ファンを作りなさい」
弊社のデジタル系コンサルタントで物書きの方から、そういわれました。
「時代がどうであれ、外部環境がどうであれ、どんな事業も基本はそれです。何も変わってはいません」
一方、現コロナ禍、我が国では第二波到来への備えから、巣ごもり消費に益々シフトしております。お店でのお食事は激減。
その代わり幸いにもテイクアウトはかなり浸透しました。
残るは宅配の再開拓。
それで、来月から宅配の強化をすることにしました。
曰く、昼のテイクアウトメニューのみならず、ディナータイムの一品料理やセット料理も宅配。更にお酒も酒販業者とバッティングしないように価格設定して、これも宅配。
弊社にとっては単価アップ、お客様にとっては、ちょっとしたプチホームパーティができる内容に拡充することに致しました。
その際、切込対象として重要なのが、既に宅配をご注文いただいたお客様です。
その方々に対しては、ダイレクトメールを、敢えてあて名書きソフトを使わずに手書きにし、更には、ちょっとした、これも一人一人に合わせたコメントを手書きでお送りしようかと思っております。
何故かというと「時代がどうであれ、外部環境がどうであれ、事業の基本はファンづくり」だという話に心底納得したからです。
兎に角「座して死を待つ」のだけはまっぴら御免。
それで毎日、なんかかんか、悪あがきをしております。

2020/7/24-2

(「コロナ禍、我が安眠熟睡のコツ」)

相手に切り札を持たれていると不安になります。
今コロナ禍、勤め人は所属事業体の状況如何によっては「首を切られるのか否か？」
「それが分かるのはいつなのか？」
の答えが向こうからやって来るのをじっと待ってなくてはならないからです。
悲しいかな、殺生与奪の伝家の宝刀を握っているのは相手で、自分にはないからです。
同じく事業の縮小に当たって「引き際（撤退）をいつにするのか？」
これも市場の動向把握に依るという意味では、自分に切り札はなく、市場動向に切り札を握られているわけです。
しかし、これら二ついずれも自営業であれば、市場動向以上に自分の「意志」で「これだけは実現したい」「やりおおせたい」というのであれば、撤退するか否かは、自分で決められるわけです。損をしてでもやり通すのか、その価値がなかったと判断するのかを決める切り札は自分にあるからです。
結果さえ覚悟すれば「引くも引かぬも自分次第」
切り札、カード、持ち駒を、どんなに小さなものでも、自分の手中にさえ持っていれば、危機下に於いても、びくびくイライラせずに、案外、毎晩、安眠熟睡できるもののようです。
脳天気な自分の場合は、ですが。

2020/7/26-2

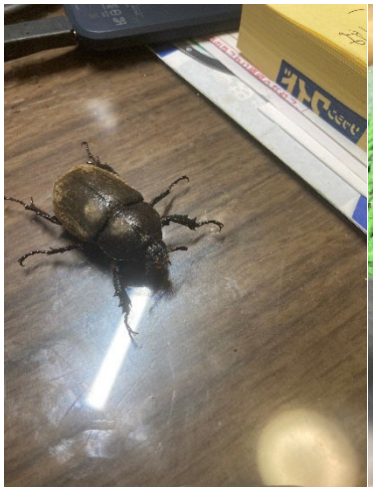
（Good Chance!! かも）

「No と言えない日本人」
という書籍が確か以前にありました。
前の記事でも書きましたが、外国の女の人は興味、関心があるとドカンとやってきて、興味、関心がないとなると、バサッと引いていく。
それに対して、我が国国民婦女子は「興味がなくてもある素振り。興味があるのにない素振り」と、在るんだかないのだかワカラナイ「何とか未満」の常に煮え切らないグレーゾーン状態。
この婦女子の性向が、いつの間にか婦女子とのやり取りを続ける中で「無症状感染」した男子を通して、職場に広がり、それが残業時間は世界各国の中で断トツに多いにも拘らず、ホワイトカラーの生産性が一向に上がらない真因ではないかと思っております。
一方、働いている本人さんたちからは
「こんなに一生懸命働いているのに、なんで生産性が低いと言われなきゃならないの？調査の仕方か定義の在り方が少しおかしいんじゃないの？」
など、そのレポートは、とても実感とそぐわないといった声も聞こえてきます。
果たしてどちらが正しいのか？
一度、自分もその方たちもお互いに、どちらが正解か？という前に、今コロナ禍、その先を考えてみるいいチャンスかもしれません。

2020/7/27

（親父が悲しむかも＋余談）

よく、亡くなった親父が
「アホんだら！！人の言うことなんぞ、いちいち気、遣っとられん！！ほっとき」
といっておりました。
と同時に
「なんで、人のこと気遣わんのや？アホ、ちゃうかっ！！」
とも言っておりました。
一見、正反対に聞こえる同じ「気遣う」という言葉を、どうやら親父は、二つの situation で使い分けていたようです。
即ち、前者の場合「背後からの密やかなる隠れ目線、言動」に対し、そんな「スパイもどき」は気にせずほっとけばいいという意味で使い、後者の場合、前者を念頭に「自分がどう見られているかより、人がどうなっているか、背後より前や横を見ろ」という意味で使い分けていたようです。同じ言葉を。
どうも最近は、前者を言い切るだけの勇気もなく、後者を行う心と目配りもないまま、後者をしない言い訳に、敢えて前者の意味合いに差し替えて、言葉だけ後者に宛がう例が増えているように感じます。
「人の言う事なんぞ」の「いう事」を抜かして「人のこと」にすり替え「敢然不評受忍」の勇気ある態度も、人を想い、それを実行に移す敢然たる行動も、どちらもしなくていいように、こっそりかわして逃げている。
親父がこの様子を見たらさぞ悲しむだろうと思っております。
（余談：朝起きたら、胸にカブトムシが張り付いておりました。食器を洗おうとしたら、スポンジに蝉が張り付いてもおりました。虫には好かれているようです　笑）



2020/7/28

（「笑の差」考）

SNS 投稿文で(笑）と書くのを英語では（lol）=laugh out loud だという事を今日初めて知りました。
で、そこから脇道的一考。
我が国では「ひとひねり」したジョークじゃないと余り受けませんが、外国の人は、どちらかというと、ひねりのない「ストレートなもの」を好むようです。
又、我が国では一回笑いを取ると、まるで全員がお笑い芸人にでもなったかのように「常に笑いを取らないといけない」と言うような強迫観念に陥ってしまう場合が多々あるようで、結果、却って固くなって何もジョークが言えなくなってしまうケースもありそうです。
「しらける」「すべる」「ひく」の言葉を想像しただけで体中金縛り &頭の中が white out。
ところが外国の人は一回笑ったら、それはそれでおしまい。二回目があったら lucky、なければないで、それはそれで normal。
そもそも毎回ジョークなんて言えるものじゃない。時にはスベルし、しらけることも言うし、ひく思いもさせるだろうが、そんなの当たり前だから、気にする必要はないし、強要されるなんてあり得ないと。
理由は簡単
「だって自分はコメディアンじゃないんだから」
冒頭のひねりのないジョークが好きなのも「笑う時にまでアタマ使ってどうするの?
疲れるだけでリラックスできないなんて、考えられない」
それで、日本人が外国人の笑いの頻度の多さを見ると「そんな事で笑うなんて、どうなってんの？」と逆に不思議に思うのかもしれませんね。

2020/7/28-2

（気が付けば黄昏？）

我が国を中心とした世界地図から見て、左側に位置する大陸の或る国では、以前お話ししたように、国外の会議に間に合わないからと戦車をぶっ飛ばして空港に駆け付けるビジネスマンが居たり、また別の国では、飛ぶものなら飛行機以外、走るものなら戦車以外、水の中に住むものなら潜水艦以外は何でも食べてしまう国民が居たりしますが、今回は右側に位置する大陸から、今コロナ禍においてすら、どうしてもわが国の知人に会いたいからと、軍用機をかっ飛ばし、首都圏上空からパラシュート降下する勢いで、お忍び来日する若い兵隊さんがいたりします。

つまるところ海外ではこのように、人々がエネルギーに満ちあふれているのに、なぜ我が国では試験に落ちたくらい、面接に受からなかったくらいで世をはかなんでしまう人たちが多いのでしょう。

道は他に、千も万もあるのに。どうして同じような所にばかり押し寄せ、お互いが押し合いへし合いの喧嘩腰になってしまうのでしょう？もっとバラければいいのに。

一か所で枝がせめぎあうと、お互い遮りあって枝はかれてしまうでしょう。しかし、それぞれの方向に延びれば、どの枝も太陽を浴びて生き延びられるのに。

嘗て我が国が極小赤貧国だったころ唯一の生き残り策として教育に特化、一人一人は弱くても、その均一性による結束力で生き延びたまではよかったのですが、その同質性が同じ方向のみを見る弊害を生み、個性を奪って、逆に同質競争を未だに激しくしている気がします。

だとすれば、もうそろそろその時代的役割の終焉を認識して、多様性の受容、即ち先に述べた、お互いを枯らさないために、それぞれの枝がてんでばらばらな方向に延び、相互に邪魔することなく、それぞれの個性を活かしあえる教育に切り替えた方がよいと思いますが。。

このままではコロナ禍後、１０等国への陥落どころか、その伸びしろという意味では、２００を超える世界各国、地域の中でドンケツ争いの事態に陥ってしまうような気がしてなりません。

「気が付けば黄昏」に。

自分としてはそうならないための「お隣さんとの国際間、世代間交流事業」を一刻も早く軌道に乗せないとヤバいという危機感にさいなまれております。昨今。

2020/7/29

（剣が峰）

かねてよりご案内の「宅配をこれ迄にご注文いただいたお客様」へ「ディナーメニューも宅配」のダイレクトメール（DM）を本日発送致しました。
「気持ちの籠ったものを」という思いで出しましたが、別に DM 封筒を山積し、護摩炊きの上、加持祈祷を行って念を込めたものを発送、というような不可視、不可思議なものではなく、三つ折にした案内チラシの目につきやすい処に一人一人に合わせた message を黄色のポストイット凡そ７０枚に手書きでしたため、それを全てのチラシに貼ってお出し申し上げた次第。
兎に角これが現時点、最終兵器。
外出抑制、店内２m 空けではどんなにいっても、売上は前年同月比５０％達成が Max。それを凌ぐには平均単価を５０％up しなくてはなりませんが,それは、この地のお客様特性には全く合わない。
となれば、店内食ではないテイクアウトか宅配を伸ばすしかない。
それでテイクアウトと宅配メニューを充実した旨のチラシを、お名前と住所がわかっている宅配のお客様に DM した次第。
この DM を無理して７月末ギリギリに間に合わせたのは、今月の売上が前月比１％でも上回れるか否か、それが今冬、夏の業績評価現出のお客様「冬の下振れボーナス」を吸収して、当店が来年を迎えられるか否か、年後半を占う上での貴重な試金石となるや、に思えたからです。
本日午前発送３０日着、３０日夜と３１日で後いくら積み増せるか？
ギリギリの剣が峰でございます。

2020/7/30

（周回遅れの１位争い？）

実はテイクアウト＆宅配拡充のDMを出すにあたって郵便局でひと悶着ありました。
「宛名がアルファベット表記だと届かない可能性があります。そのリスクを承知の上でお出し戴くか、宛名を全部日本名に書改めて戴くか」
その数凡そ７０通。
「やむをえません。このままで」
というのも、お客様の電話注文を外国人従業員が書き留めるので、当然筆記は英字。
なので、中には架空の例として「Naka」と書かれていても,それを漢字にすると中と那加で全然違った人と配達人に思われそうなので、こちらなりに考えた「宛先不在リスク」低減の為に敢えて全部アルファベット表記で持ち込んだわけですが、それがあっけなく全部アウト。
理由は「兎に角日本語じゃないから」
それにしても、我が国は役所、病院、銀行、警察等公的機関が全て日本語でないとダメとは。諸外国の公的機関で英語が使えない国等まずないのに。
さて、話はコロッとコロナに変わりますが、昨日申請していた外国人従業員のビザ更新が認可されて戻ってきたのですが、なんと毎年更新が３年更新に延長されておりました。
従業員は大喜びだったのは勿論なのですが、深読みすれば
「コロナ禍とその影響は数年続く。その間テレワーク等で手が足りなくなるから、現時点問題のない申請者は延長した方が得策」
との読みがあったような。
そういう事になると役所は早い。
兎に角二例とも利用者不在は役所の常識。
最早、知らぬ間に周回遅れの１位争いをしているのかもしれません、我が国は。

2020/7/31

（それって new normal なの？）

現コロナ禍。
駅傍繁華街一等地。
好立地だったお店ほど苦境に立たされている。
ネットを駆使した予約システム等、超効率化による大量集客だった飲食店ほど、同じく苦境に陥っている。
その対策として、客席を持たないキッチンスタジアムで調理をし、成る丈非接触のテイクアウトか宅配をするようになりつつある。
そうしてこれを飲食業界の「new normal」とメディアは書き立てておりますが「またいい加減な事を」と思ってしまいます。
一番目の話はともかく、二番目と三番目はコロナ禍前もコロナ禍後も、完全にひとを「モノ」として扱っています。
もともと人間は外出したい、人と接したい、更には多分に構ってほしいという本能みたいなものを持っていますから、今の減少は一時的な回避行動で、いずれまた外出、対面接触は戻ってくる筈です。
ですので「new normal」と宣言するには今少し経過観察が必要なのに、大した検証もせずいとも簡単に宣言を囃子立てるのはどうなのでしょう？
なぜこのような事がまたぞろ起きるのか？
恐らく第二、第三の観点が相も変わらず「利益」というところからのみ見ているからだと思います。
利益というのは人の満足の結果で後から付いてくるものだと思うのですが、先の二景は、またひとを利益獲得の「道具（モノ）」としてしか見ていない気がします。
それでは今までと何一つ変わっていません。
new normal？
いささか、おこがましい気がしております。

2020/7/31-2

（寛容英語と不寛容英語）

「国の数だけ英語はある」
と外国の友人が言っておりましたが、どうやら
「その場の数だけ英語はある」
ようです。
当店の外国人従業員も亭主の自分も英語が母国語ではありませんし、お互いの国の文字が余りにも違う為、各々の言葉を使うには難があり、結局英語ベースで話さざるを得ないのですが、どうやらそれは「英語」というより「うと Q 語」といった方がいいような代物となっております。
話は替わりますが、同じ SNS の英語でも LinkedIn や FACEBOOK に出てくる英語はしょっちゅう辞書を引く必要があるのですが、messenger や viber、line の chat 英語は殆ど辞書を引かなくても済むものばかりです。
はたまた、英語が母国語ではない国の大卒の人と、英語が母国語の大卒ではない人とでは、前者の方が、語彙数が多かったり、文法的に正しかったりすることもあります。
そうして更に、英語をしゃべる人達の多くは、我が国の教育でうるさく言われる時制や単数複数、定冠詞不定冠詞（the と a）について意外にも、かなり無頓着だったりもします。
こうしてみると、我が国でこれじゃなきゃ外国では全く通じませんよと言われて教わっている英語は、実は英語圏の内でも超エリート層の公的場面英語、中でも外交交渉並の出現率1%以下の英語である事が分かってきます。
これらを一言で言うと、我が国の英語（教育）は間違い探しの不寛容英語で、諸外国の英語は間違い許し(no problem)の寛容英語。
さて、如何に？

2020/7/31-3

（寛容英語と不寛容英語＋おまけ）

「国の数だけ英語はある」
と外国の友人が言っておりましたが、どうやら
「その場の数だけ英語はある」
ようです。
当店の外国人従業員も亭主の自分も英語が母国語ではありませんし、お互いの国の文字が余りにも違う為、各々の言葉を使うには難があり、結局英語ベースで話さざるを得ないのですが、どうやらそれは「英語」というより「うと Q 語」といった方がいいような代物となっております。
話は替わりますが、同じ SNS の英語でも LinkedIn や FACEBOOK に出てくる英語はしょっちゅう辞書を引く必要があるのですが、messenger や viber、line の chat 英語は殆ど辞書を引かなくても済むものばかりです。
はたまた、英語が母国語ではない国の大卒の人と、英語が母国語の大卒ではない人とでは、前者の方が、語彙数が多かったり、文法的に正しかったりすることもあります。
そうして更に、英語をしゃべる人達の多くは、我が国の教育でうるさく言われる時制や単数複数、定冠詞不定冠詞（the と a）について意外にも、かなり無頓着だったりもします。
こうしてみると、我が国でこれじゃなきゃ外国では全く通じませんよと言われて教わっている英語は、実は英語圏の内でも超エリート層の公的場面英語、中でも外交交渉並の出現率1%以下の英語である事が分かってきます。
これらを一言で言うと、我が国の英語（教育）は間違い探しの不寛容英語で、諸外国の英語は間違い許し(no problem)の寛容英語。
さて、如何に？
（おまけ）
彼の夏目漱石が英国留学中に抑うつ状態になり引きこもってしまった話は有名ですが、大方の推測では、得意の英語が本場英国で通じなかったからだろうというのが通説になっているようです。
が、ひょっとしたら正反対の理由からではないかと上述の記事を書きながらふと勝手な想像をしてしまいました。
曰く「英語が出来すぎたから」ではないか？と。
何のことかと言いますと、帝国大学で漱石は英語が大変できた。師として英国人もついていた。そうして、漱石は後年胃潰瘍になるほど神経質でもあった。
となれば、彼は厳密に英語を学んだ筈。そうして理解し、実際に書き、話すこともできたであろう。
ところが渡英して、下宿住まいをしていた周りの住人が書き、話す英語があまりにいい加減

だったために、嫌気がさしてしまったのではないか？
そうしてこれを体験したのち、帰国した漱石は、当時弱小国だった我が国文部官僚を
「本場英国の英語もたいしたことはない。これなら我が国でしっかりとした英語教育をすれば本場英国を抜き、世界で一番英語がうまい国になれる可能性がある」
とたきつけ、それを機に、その文部官僚らによって、その後の厳格かつ厳密な英語教育が始まったのではなかろうか？
と妙な推測を立ててみました。
もちろん自分の勝手な思い付きにしかすぎませんが。

二〇二〇年八月

2020/8/1

（もっと沖合に船を出せ）

とうとう８月になってしまいました。だのにまだ梅雨が上げていない（横浜市ベース）
そうして何よりコロナ君が居座ったまま、彼らの戦略を着実に実行に移しながら、次第にその拡大ペースを上げ始めている。
そんな状況下、昨日は弊社の７月度の締め日でした。
結果は、ギリギリの前月実績越え。
飛び移った直後にカカトより後ろの地面が、音を立てて崩れ落ちたようなギリギリの間一髪セーフ。
加えて、絶対数は圧倒的に少なかったのですが、２９日発送の DM に反応して下さったお客様もいらっしゃったので、更に状況が厳しくなることが予想される年末へ向けて、辛うじて「希望を繋ぎ止めた」感がありました。
資金繰りの問題も確かにありますが、経営者にとって最重点事項はいかに従業員と自分自身の mind down を防ぐかです。
Mind down が引き起こす「最大の疫病」は「idea の枯渇」或いは「idea を出そうとする気力とそれを出し続けようとする気力の枯渇」です。
仮に資金が潤沢でも上記の二つがない企業はもはや「ゾンビ企業」でしかないような気もします。
Idea というものは平時にはなかなか出てきません。困ったときや苦しいときに「ひょんなことから」出てくる場合が多いようです。
但し弊社ではまだ出てくる idea が小粒なものばかり。大物「売上本マグロ」を未だ釣り上げていない。
それが悔しい。
嵐の中でも、もっと沖合に船を出さないといけないのかもしれませんね。

2020/8/2

蚊蜻蛉（かとんぼ）

家の中で寝っ転がって何気なく天井に目をやっていると、どこからか蚊蜻蛉（かとんぼ）がやってきて、見ているその天井に留まりました。

名前の「蚊」が示すように、手足がとても細長くていかにも「か細く、華奢」にみえました。

そういえば子供の頃、親父が

「蚊蜻蛉は天からの遣いやで。昔な、罪人として焚刑（ひあぶりの刑）にされそうになった若い男のところに、蚊蜻蛉が飛んできたんやが、その若い男はこういったん、そうな

「こんなところにおったらお前も焼け焦げになる。はよ、あっちへいね」ってな。ところがそれを聞いていた判官さんが、その焚刑を止めて、若い男を放してやったそうなんや。なんでや、言うたら、な

「そんな気持ちの優しい男に悪事ができるはずがない。放してやり」

ってな」

それ以来、自分は「虫も殺せぬ」男になりました。

今でも、自分はいろんな虫を見るたびに、いろんな感情が湧いてくることがよくあります。

多分それは、この、親父の話のせいでしょう。

2020/8/2

（黒糸とんぼ）

真っ黒な糸とんぼが、気象異常に見舞われた長雨続きの七月のある日、かなり激しい雨の中を一匹、飛んでいました。
とんぼからみた雨滴の大きさ、強さを人間である自分に置き換えてみると、ハンドボールのゴールシュートが雨あられと降る中を飛んでいるようなものだろうと推察できました。
それでも、黒い糸とんぼは何事も起きていないかのように易々と飛んでいました。
それを見て昔読んだ本の中の一節を思い出しました。
「韃靼海峡をてふてふ（蝶々）が一匹渡っていく」
何とも言えず、胸が熱い思いに満たされました。

2020/8/3

（コロナ禍最大の恩恵「睡眠時間が伸びた」）

コロナになる前となってからで、自分又は自分の生活の中で、何が一番変わったかといえば
「睡眠時間が伸びた」
というのが一番顕著な差でしょうか。
「ここまで酷いと、小賢しいことをちょこちょこやっても仕方がない。要するに世の中、なるようにしかならない。すべては当たるも八卦、当たらぬも八卦を、出たとこ勝負で切り抜けるしかないみたいだし」
この気持ちを一言、国語辞典的に申し上げますと「ケツヲまくる」か「開き直る」
せいぜいよく言って「肚を決める」か「肝を据える」
昔うつ病が快方に向かいだした時もこんな感じでしたっけ。
「何のことはない。自分は大した奴じゃぁなかったんだ。
出来損ないの小者。
ま、それでいいのかもしれない。自分の身の丈はそこまで。これが自分の分相応」
そんな事情で、今般も睡眠時間が伸びたようです。

2020/8/3-2

（「一」）

「人の不幸は蜜の味」
この言葉は世界のどこでも同じなのだろうと思っていたのですが、最近どうやらそうでもないらしいと思い始めました。
一方、我が国の社会を表す言葉に「村社会」という言葉があります。構成の中核にあるのは「村八分」の心理。
要するに異質を排除する。異質扱いされる恐ろしさを十分に感じさせて同質である事を強要するとでも申しましょうか。
以上の二つから想起される言葉があります。
「横並び」
人の不幸の件では、相手が自分より先、又は上に行く事への不快感。それをこちら側は何の努力もせず、相手側から自己崩壊して、自分と同じ位置、又は後方に下がる事に対する快感意識。簡単に言うと自分の位置まで引き戻そうとする心理。
村八分の件では、例えばイラストで説明すると、外国では、複数人グループの島があちらこちらに点在している絵になりますが、我が国では９９人がぎゅうぎゅうにつまっている島と、一つだけ離れた処に一人だけいる島がある絵姿を想像すれば理解し易いかもしれません。
これらから浮かび上がる漢字があります。
1.　　です。
横並び「一線」と離れ小島を認めず「一島」であろうとする心理を表す漢字が「一」
「一致団結」「一丸となって」「一糸乱れず」
これって何となく「一〇独裁」を連想させるような。
国からよりも国民自身による「相互監視社会」
そう換言した方が妥当かもしれません。
代表例として「自粛警察」とか。

2020/8/4

（くそジジイからのご報告）

飼い犬にもコロナウィルスの陽性反応が見つかったとか。
本日の新聞記事に出ておりました。
人間様は危ないので、成る丈、鳥とかわんこと仲良くするようにしていたのですが、在ろうことかわんこまでも。
そのわんこですが、わんこにも性格があるようで。
臆病なわんこ、気の強いわんこ、仔犬の頃いじめられたのが成犬になってもトラウマとして残ってしまっているわんことか、女好きのわんことか。
特に雄のわんこ同士だと、どうしても性格が合わない相手があるようで、これに会うとすぐに威嚇しあいます。
なかんずく、縄張り争いとなるとムキになったりします。
これを見ると、人間様の男子に瓜二つです。違っているのは二足歩行か四つん這いかとか全身毛でおおわれているか部分的かくらいの差があるだけで、後は殆ど大差なし。
「むきになる。虚勢を張って偉ぶる。負けそうになると尻尾を巻いてすぐ逃げる」
最近わんこの散歩をしながらわんこの方へは全く目をやらずにスマホばかり見ている男子が年齢を問わず多いのですが、少しは愛犬を観察して「（人のふり見て）わがふりを直せ」を自らに当てはめてみた方がいいようなきもしたりします。
以上、自分自身がそれそのもののくそジジイからのご報告でした。

2020/8/4

カナカナゼミ

　コロナ禍、梅雨明け初日の朝、自転車でお店に向かうため、森林公園を抜けようとすると、突然、森の奥の方でカナカナゼミが鳴き出しました。

「かなかなかなぁ」

　カナカナゼミは別名「日暮し」と言って、夏の日が落ちるころに鳴く蝉です。

　その鳴き声を聞いていると、日が陰って薄暗くなり、少しずつひんやりしてくるせいもあって「お祭りが終わった後」のようになんとなく物悲しい気分になるのですが、それをこれからお店が始まる「気分の上り坂」にしなくてはならない朝から聞くとは思ってもいなかったので、少し憂鬱な気分になりました。

「なんで、選りによってやっと梅雨が明けた日の、しかも朝から、鳴いているんだ、縁起でもない」

　そう思うと少し腹立たしくなってきたのですが、更にその「かなかなかなぁ」という鳴き声を否応なしに耳にしていると

「ほんと、かな？ほんと、かな？本当にそれでいいの、かな？かなかなかなぁ？」

と言っているような気がしてきました。

「あんた方、なんで私たちがこんな時間に鳴くようになってしまったのか、少しは考えてみたらどうですか？」

　そういって、何かの気づきを促しているような気も致しました。

2020/8/5

（かなり助かる話。但し弊社にとって）

世の中には「案外知られていない事実」というのがあります。
或いは全く逆に思われている事実とでも申しましょうか。
例えば、自分に卑近な例で言えば
「バタバタと忙しくしている社長の会社ほど儲かっていない。儲かっている会社の社長は案外、暇なものである」
という事実。
世の中的には、大抵その反対に捉えられております。
であるが為に
「いつもお忙しそうで、誠に結構ですな。儲かって仕方がないのでしょう」
と、お声がけいただくのですが、事実は全くその反対。
儲かっていないからこそ、あの手この手を追加的に打たねばならず、結果として多忙にならざるを得ないのが事実、実態、実相です。
ですから今後は
「おや、お忙しそうで。色々大変ですね、会社が危なくなると。じゃぁ、援護射撃に今度ひとす、お宅のレストランのカリーのテイクアウトか宅配のお願いでもしましょうかね？ディナーのサイドメニューも４，５品くっつけて。あとククリラムのボトルもくっつけて」
と言っていただけると、かなり助かるのですが…

2020/8/6

（元気のなさの正体）

外国の人と接していて、我が国国民の大半の方が抱いている「元気のなさの正体」が見えてきたような気がします。
簡単に一言で言うと
「外と内のアンマッチ」
もう少し説明を付け加えるとすれば
「建前と本音のアンマッチ」
もっと言えば
「見せ掛けと中身のアンマッチ」
「見せたい外見（そとみ）外面（そとづら）とそうはなっていない中身、本心本音のアンマッチ」又は「隠しておきたい秘匿の事実とのアンマッチ」
なので、内と外がほぼ正反対になっている。
「いいよ」は「いやだ」
「いやよ」は「して欲しい（いいわよ）」
「関心ないわ」が「興味津々」とか。
これでは疲れるはずです。内と外との行き来、調整、整合取りだけで。
休む暇がありませんし、一瞬たりとも気が抜けませんから常に気が張ってばかりいて。
元気を出す前に、すべて吸い取られるか、使い果たしてしまって、とても元気を出すどころではないでしょう。
たぶんそれが、我が国国民、大半の方の元気のなさの原因だと思っております。
「生来の自分に素直（すなお）になればいいだけ」のような気もしておりますが。
どうなんでしょうね。

2020/8/7

（我身に起きた、超硬派による「honey trap(甘い罠)」詐欺未遂事件の顛末）

「弾丸を受けて怪我したの。紛争地でカードは使えないから現金を送って、ドルで」
もし、インターネットサイトで知り合った、超グラマーでセクシーな、某大国の若い女性軍人から、長い時間のやり取りをした後、こんなメールを受け取ったら、我が国の男子、特に高齢の男子としてどうしますでしょう？
「危を見てせざるは、勇なき也」（我造句）とばかりに、入院費用や手術代金を国際送金してしまうのではないでしょうか。
もう少し具体的に言うと。
仕事がメインの公式サイトで知り合った、某大国の若い女性軍人から「これから某紛争地において、孤立した同朋救助奪還の為の特殊任務に就く」と言われた数日後に「被弾した。入院しているが、紛争地故、カードは使えないし、病院はどの国でも現金だけだから、至急現金を国際送金して。私を愛しているなら」（被弾した部位の病院での応急手当写真付きで）
というような、緊迫感迫ったメールが「紛争地で怪我をして危ない状態」と思えるセクシー女軍人さんから届いたら「大和魂保持者」の我が国男子はどうするでしょう。
（話はもっと複雑なのですが、分かりやすくするためにかなり端折っております）
当然、なにが何でも、即送金。
しかも、円をドルに交換して、訳の分からぬ振込先に送るために「恋に浮かれた高齢者」は、それが詐欺だという公的機関のアドバイスを、むしろ阻害要因「人の恋路を邪魔立て」する人情を解しない理不尽モノとして、却って送金を通すために「善意の忠告者」に対して「犯罪者側の肩を持つ嘘」をつくかもしれません。
これこそが「軍事兵法の極意。戦わずして勝つ。まずは味方につける事」という例をよくわきまえたやからのストーリーメイキングだと思われます。
我国内においては、コロナ禍で国内の特殊詐欺が横行し、当局による締め付けが極めてきつくなった分「海外送金」という新手法で、お金を騙し取ろうとする新たな詐欺分野が開拓され始めているようです。
その手口たるや、驚愕至極。
彼らの後ろにはストリーライターがいるような気がします。
ただ単に、話が上手いだけではなく、十分に実践的で、且つ弱みに付け込む際の人間心理を熟知し、更には兵法の極意を免許皆伝され、その後、自らそれを悪事に使うことを選んだストーリーメイキングライターさんが、背後に。

この期に及んで、国際レベルのこの詐欺行為を防ぐには、我が国国民としては、国際情勢の知識において「政治」「経済」分野の動向だけでは、明らかに不十分で「軍事上の基礎知識と常識」を食わず嫌いする前に持っていないと、いとも容易く「カモられる」ことは、まず間違いないような気がします。
本日、自らの「助平」なる心があったが故に、危うく、全く未知の「某大国女特殊部隊軍人」による「honey trap（甘い罠）」にひっかかり、住んでのところで餌食になるのを免れた経験をして、このことの恐ろしさと、常にそれが身近に存在していることを、肌身に染みて感じました。
最終的になんでわかったかと言えば「pay attention, too much sweet story」
という過去の恵まれない経験則があったから、銀行での送金審査の際に、敢えて女軍人さんの言う処の禁を破って、恥を覚悟で事実の一端を、銀行側の TV モニター上の審査官にリークしたからでした。
「自分のような男が、女にもてるわけがない。何か変だ。どこか違う気がする」
結果、最後の最後まで残っていたほんの５％の疑問が、自分を救ってくれました。
何事も１００％にしない方がいいようです。

2020/8/7-3

（little bit strange）

以下、本日前記事の端折り版でござりまする。
鴨がネギをしょって来、海老が鯛を釣って持参、棚から牡丹餅が、豪華リゾート無料宿泊券付きで落ちてくるような話が一度に起こりかけ、あわや最後の一押しという処で、鴨はネギをしょって逃げ、海老は踵を返して持って帰り、棚から落ちてくるはずだったクーポン付きの牡丹餅は、突如映像巻き戻しで、一転帰巣してしまうような結末が、これまた一度に起こってしまった。
超おいしい話が、at once lost。
譬えを重ねて言えば
「美人姑娘、謎の女スパイの色仕掛けに「どんどんして。お願いだから」というような至福と、一瞬にしての喪失。まさに胡蝶の夢が如く。
真昼の蜃気楼となって消えてしまった様な場合。
しかし、それでも思いのほか落胆の水底に沈まずに済む方策、それは気力でも、脳天気さでも、負けず嫌いの空元気でもなく、言ってみれば日頃の「常態（normal）」の取り方のような気もします。
内心「自分は特別な人間である」と無意識にも浸れる幸せな人は、初めはおいしい話に警戒しつつも、最後の最後の土壇場では「大丈夫、俺は特別だから」と一線を越えて失意落胆の海へ。
しかし「自分はどう考えても特別な人間ではない」と本当に思っている人は、多分最後の最後まで「こんなはずじゃない。何か 1ittle bit strange」という思いが、一線の前で思いとどまらせる。
要するに日頃の「自分の認識の仕方次第」
そんな気がしないでもありません。

2020/8/8

（元気のなさの正体 その２）

自分がそういう見方をするから、相手も恐らくそうだろうと勝手に思い込む。そうして牽制し合う。
自分がそう思うから、恐らく相手もそう思っているだろうと、またまた勝手に思い込み牽制のし合いを上重ねる。
言動思念が正反対。
気づいていても知らぬふり、見て見ぬふり、気づかぬふり。
そうしてお互い腹の探り合いのスパイ合戦。
それを見透かされぬための厚手のバリアー造りと安全確保の為の十重二十重のバッファー造り。
結果、奥へ奥へと籠り、目深帽子と巨大マスクの間からこっそり辺りを覗いつつ、裏の、裏の、更にそのまた裏の何回裏返したかさえ覚えていない程の、それは元々何の話だったっけ、最初は？と、本人すらも解らなくなってしまっているような状態が日頃の「常態」となる始末。
これでは相手との距離はどんどん遠のくばかり。
相手に元気を与える事での発散も、元気をもらう事での吸収もないので、お互い、元気になりようがない。
そんな風にお互い共々、つまらぬことにエネルギーを無駄遣いするものだから、相互にどんどん疲弊して、元気をなくしてしまう。
何かそんな気がしないでもありません。
昔の TVCM で、凛としたキャリアウーマンが帰宅し、部屋に入るや否や「はぁ～」と大きなため息をついた後、顔をぐちゃぐちゃにして「きゅうりの漬物茶漬け」を貪り食うのがありましたが、何かそんな映像しか浮かんでこないのが寂しいです。

2020/8/8-2

（元気のなさの正体 その３）

幅にして、平均台横方向、差し渡し並みの狭さ。
しかもオリンピック会場の衆目集まる中での、高難度技の視線要求。
日々、こうしたレベルを衆目「監視」の中で常に求められているような気がしていれば、とてもじゃないが、おいそれとは登場しにくいでしょうし、一挙手一投足に全神経を集中せざるを得ませんから、身も心もカッチンコッチンになるのは当然でしょう。
そうして、お互い同士が、自分がするときは演技者として、相手がそれを見るときは観客として、或いは相手が演技者の時なら、自分が逆に観客として、相互に縛りあっている。
しかしその観客は、オリンピックの時とは正反対に、相手が演技者の時には、その敵失を密かに願っている。
では、その元は一体何なのか？
それは、我が国国民が古来より珍重してやまない「形式美」への希求が、ある時どこかでねじ曲がってしまい、その後、数限りなく変異を重ねた結果、今の時代において疫病の如く猛威を振るっているような気がします。ワクチンもないまま。
何よりもまず、要求レベルの幅と高さが余りにも限定されすぎ、それ以外は一つ欠けても「全くの無意味」となれば、鼻からやる気がなくなる人がいても仕方ありません。
それも又、元気のなさの原因正体。
何せ最高点が「減点なし」のゼロ、後は引かれるばかりなのですから、やる気は失せ、元気が出る筈もないでしょう。
少なくとも、初っ端くらいは、幅を広くとり、ハードルを下げ「初めだから失敗の百や二百はOKよ！」位にしておいてあげないと、誰一人として「元気獲得競技」に参加する人はいなくなってしまうような気がしております。
「悲しいかな」

2020/8/9

（100 年後の我が国 ?）

もし、自分の奥さんが自分と同じ墓に入らず、実家の墓に入るつもりだという事が何かのきっかけで分かってしまったら、恐らく男子の 50%は敢えて苦労をして迄、結婚しようと思わなくなるかもしれません。
しかし、それにもめげず結婚した男子の内、自分で料理が出来るようになったとすれば、その後の家庭生活の窮屈で気疲れが甚だしかったそれ迄の経験から、その 50%は結婚しない方がよかったと思うかもしれません。
となると 50+(50x0.5)=75%の男子が結婚を望まない事になる可能性が出てきます。
この可能性が実際となった場合、出生率が大幅に低下して、国力を支える為に、その損失分を他の方法でリカバーしなくては国と国民が立ち行かなくなるので、海外からの移住誘致という可能性が大きくなりそうです。
外国からの移住の前に「個々人の生産性の大幅 up を」という選択肢もありますが、生産性に関しては、25%（0.25）の逆数 4、即ち一人の生産性を 4 倍にしなくてはなりませんが、それはまず不可能でしょう。
となると、詰まる処、我が国は国民の結婚比率が 25%になったことで起こる欠損分 75%の海外移民を受け入れざるを得なくなり、凡そ 100 年後には、図らずも「多民族国家」になっている可能性を否定できないような気がします。
かなり大胆な予測ですが、案外当っているような気がしないでもありません。
男子が女性に求めるものや自分の在り方を変えない限り、或いは女子は、男性の抱いている価値観はせいぜいそんなものだろうという思い込みを正し、自らの「売り」をかえない限り、今の男女にとってお互いは「そうまでしてもずっと一緒に居たい相手」ではないのではないでしょうか。

2020/8/10

（我らが飲食業界の状況説明）

「夏草や兵（つわもの）どもの夢の跡」
誰が詠んだ句か忘れましたが、この句の焦点は明らかに兵の悲哀にあたっておりますが、これを書き出しの「夏草」にあててみると、あっという間に地面を覆いつくす夏草の生命力が見えてきます。
かく言う自分の家の庭も、刈っても、刈っても、あとから、あとから立ち上がってきて、たちどころに繁茂してしまいます。
一方その自宅は、コロナ禍換気重視で玄関扉を開けっぱなしにしているせいで、時たま外から「ゴッキー(Mr. cockroach)」が入ってきたりします。
手ごろな叩き棒になるものがないときは、開封前の中身満杯のティッシュの箱で上から爆撃したりしますが「豈（あに）はからん哉（や）」で「なんの、なんの、なんのその」
ぜんぜんびくともしやぁしません(なんせ３億年の生存戦略覇者ですし)
はたまた黄金虫なんかも飛び入ってきたりもしますが、これまたかなりの兵でして、机の上に留まっていて邪魔なので、ポンと指弾きをして床に落とすのですが、裏返っていても暫くもぞもぞした後、また歩き出したりします。
人間に換算すると机から床までの距離はおよそ３０メートルの断崖絶壁から転落したようなものなのに、その柔軟性と申しますか発条（バネ）力ともうしますか、驚愕に値します。
こうしてみると「大自然」まで行かずとも身近な自然界ですら強靭な生命力に満たされているようです。
ここはひとつこれに肖って（あやかって）今（こん）コロナ禍を切り抜けたいものだと。
「てめぇ、なにカッコつけて、やがんだ」とお思いでしょうが、逆にそんなものにでも、すがらざるを得ない状況下にあるという事なのです、我々飲食業者は。

2020/8/11

（弊社企業コンセプトの真意）

「世代間、国際間、隣人間交流」が弊社の企業コンセプトです。
世代間、国際間と漢語で書いたので、語呂合わせ上「隣人間」交流と書きましたが、真意は「今あなたの隣にいる人との交流」という意味です。
今あなたの隣にいる人が、老人であれ若い人であれ、男であれ女であれ、同国人であれ外国人であれ、遠くにいる抽象的な隣人ではなく、まさに偶然隣に居合わせた、たとえそれが前掲の中のどの人であれ「ちゃんとまともに交流しましょうよ」という事です。
「誰とでも仲良く」という意味では決してありません。
「ちゃんとまともに」の意味は、喧嘩をしたっていい、決別したっていい。しかし、その前にちゃんとまともに話をしましょうという事です。
「おざなり」や「逃げ腰」や「当たらず触らず」や「毒にも薬にもならない」話ではなく、結果の良し悪しは別として、まずは噛み合う話をしましょうと。
「当たらず触らず」の話でお互い「毒にも薬にも」ならないやり取りをして、確かに身の安全は確保されるのかもしれませんが、それで一生の最後の最後になって
「何も思い出せない、何も思い浮かばない人生」だったら、どうするのでしょう。
他人はおろか、家族との関係においてすら、そうだったら、一体その時、どうするのでしょう？
我々の事業は「その答えを見つけられるかどうかは分からない」が「少なくとも、できるところまででいいから、まずは探し始めてみよう」というのがその核になっております。

2020/8/12

（ちゃんとした真っ当な交流 事始め）

当店の給料は、他の本場アジア系外国人が経営する飲食店に比べて、悪い給料ではありません。
日本人と全く同格の扱いをしているからです。社会保険、労働保険、その他諸手当完備。
しかし、それでも当店の外国人従業員達はいつもお金にピーピーしております。
それというのも、彼らほぼ全員が故国の家族や親戚に送金をしているからです。月平均で 2 万円から 4 万円位。
日本円で見ると大した額には見えませんが、この金額が故国では 6 倍くらいになるとすれば、受け取り側にすると現地換算で毎月 12 万円から 25 万円弱を得ていることになります。
処が反対に、我が国で働いている外国人にしてみれば、現地換算で 6 倍高い生活費を払っていることになるのです。
なので、ごくごく限られた身の回り品以外はほとんど何も買えませんし、買いもしません。
最近、アラブ諸国に出稼ぎに出ていた東南アジアや中南米の外国人労働者が今（こん）コロナ禍の影響で、故国に送還されたニュースが出ておりましたが、元々彼らのほぼ全員が自国内では生活できない、その家族の生活費の穴埋めに働きに出ているのです。そうして同じように現地では貧しい生活を送っている。
一攫千金の為でも、箔付けの為でも、自己実現の為でもない。家族への送金の為。
そういう事実をわが国民は知っておく必要がありそうです。
そうして彼らにそれなりの尊敬の念を払ったり、労をねぎらったり、手助けをしたりすることが「ちゃんとした真っ当な交流」の初めのような気もいたしております。
受け入れて後、彼らと争わない為には、より高度なスキルを我々自身が身に着けることは言うまでもありませんが。

2020/8/13

（元気のなさの正体 その４）

以前、ある読者から
「あんたは書き過ぎ。いちいち事細かに説明して貰わなくても、その位わかる。却ってうるさいから止めろ」
と。
このご意見を戴いて「自分の傲慢」に気づきました。
曰く「人はここまで説明して上げないとわからないだろうから」という見下しに。
それ以来よくみると、人には「かなりの想像力」があって、ほんの少しのヒントで相当な部分を説明なしで理解していることに気づきました。
そういう人々にとっては「小さな親切、大きなお世話」である事にも。
しかし更にみると、折角備え持ったこの「想像力」もっと言えば周囲の変化や芽生えを察知する「レーダー(探知)機能を備えた感覚器官」が全く動作していないに事にづきました。
折角あるのにそれが作動していない「宝の持ち腐れ」状態。
何故？
で、考え付いたのが、そのレーダーの向きが水平３６０度の有用方向ではなく、例えば真上か真下の無用方向に向いていて、その本来機能を発揮できていない様な事になっているのではなかろうか？と。
分かり易く言えば「目が明後日の方向を向いている」か「向かされている」
どうしてこんな事が起こっているのかは分かりません。
しかし我々の中の相当数が、あらぬ方向を向いて「気づきの機会」を失ったまま「宝の持ち腐れ常態」に陥り、発散、吸収ではなく硬直、拒否により、元気の機会を失っているような気がしないでもありません。
しかし、このレーダー機能の動作方向が本来方向に向き、ちゃんと動作するよう暫く訓練するだけで、それは容易に回復できるものだとも思っております。
一刻も早い視界、視野、動作方向の点検、修正が必要なような気がします。

2020/8/15

（元気のなさの正体 その５）

本日終戦記念日。
又、今日は開戦 12 月 8 日と同年月日に産まれ、同終戦年月日の本日に他界した祖母の命日。
で、本日は戦後特に目立ってきた兆候の話を一つ。
「一度でも失敗したらダメ」
「一人にでも嫌われたらダメ」
と、無意識野に迄浸透するほど幼児期から暗黙裡に教わってきた。
しかし、そんな上手い方法のある訳もなく。
というより、そもそもそれ自体が道理不適合なのである訳がない。
ある訳がないものを探しているから見つかる筈がない。時間ばかりいたずらに過ぎ、その内臨終を迎える。
「ならば止めればいいのに」
と思うものの、中々そうはならない。
まず、上記に付け込んで
「一度も失敗しないお手軽な方法があります。貴方にだけ」
又は
「誰からも愛され嫌われない方法があります。貴女にだけ」
というお誘い広告。
「面倒臭いの、是罪悪」の現代人は程度の差こそあれ、この手の広告にあっけなく陥落。
陥落迄いかない迄も、目と視野と方向がそちらの方に向かされてしまうか、向いてしまう。
益々事実から遠ざかり、相変わらず「ないもの探しの旅」を続けさせられるか、続ける。
そうして更に混迷の度合いが深まる。
分岐点は何処？
一番初め。
曰く
「一度でも」
「一人にでも」
のスタート時点からの完全無欠要求。高すぎるか「あり得へん」ハードルの高さ。
是では元気の出る訳がない。恐怖で縮こまって手も足も出せぬ「達磨さん」状態。
産まれ落ちたその瞬間から「リスク・テイク（冒険又は挑戦）」という単語を人生の辞書から delete され、替わりに「愛情たっぷり」という美名の元に事実上「自宅幽閉人生」を申し渡されたに等しい。
是を分かり易く一言で言えば

曰く
「過保護」

2020/8/15-2

（元気のなさの正体 その５ ＋ オマケ篇）

本日終戦記念日。
又、今日は開戦 12 月 8 日と同年月日に産まれ、同終戦年月日の本日に他界した祖母の命日。
で、本日は戦後特に目立ってきた兆候の話を一つ。
「一度でも失敗したらダメ」
「一人にでも嫌われたらダメ」
と、無意識野に迄浸透するほど幼児期から暗黙裡に教わってきた。
しかし、そんな上手い方法のある訳もなく。
というより、そもそもそれ自体が道理不適合なのである訳がない。
ある訳がないものを探しているから見つかる筈がない。時間ばかりいたずらに過ぎ、その内臨終を迎える。
「ならば止めればいいのに」
と思うものの、中々そうはならない。
まず、上記に付け込んで
「一度も失敗しないお手軽な方法があります。貴方にだけ」
又は
「誰からも愛され嫌われない方法があります。貴女にだけ」
というお誘い広告。
「面倒臭いの、是罪悪」の現代人は程度の差こそあれ、この手の広告にあっけなく陥落。
陥落迄いかない迄も、目と視野と方向がそちらの方に向かされてしまうか、向いてしまう。
益々事実から遠ざかり、相変わらず「ないもの探しの旅」を続けさせられるか、続ける。
そうして更に混迷の度合いが深まる。
分岐点は何処？
一番初め。
曰く
「一度でも」
「一人にでも」
のスタート時点からの完全無欠要求。高すぎるか「あり得へん」ハードルの高さ。
是では元気の出る訳がない。恐怖で縮こまって手も足も出せぬ「達磨さん」状態。
産まれ落ちたその瞬間から「リスク・テイク（冒険又は挑戦）」という単語を人生の辞書から delete され、替わりに「愛情たっぷり」という美名の元に事実上「自宅幽閉人生」を申し渡されたに等しい。
是を分かり易く一言で言えば

曰く
「過保護（による懐柔）」
（以下、オマケ）
これは実父母による我が子への「悪魔の懐柔策、不平等和平協定（草案）」突如（最終案）に昇格の後、一方的締結の如き也。
本日は終戦記念日により、自前にて上記協定案、創案。
（尚、日米終戦（和平）協定、降伏調印は 1945 年 9 月 2 日米国戦艦ミズーリ号艦上にて調印されております。本日付けには之、あらず。受験生は誤解無きよう）
しかし、何故実父母が実子にこのようなことをするのか？
それは、実父母そのものが周囲からの「親の責任」への詰問視線を浴びているからではないでしょうか。
なんでもかんでも「親の責任」「上司の責任」「管理監督者の責任」と須らくあらゆることにおいて詰問視線を常時投げかける周囲の存在。
「あんた、自分の子（自分の部下）の管理監督もできないのか？いったいこの責任を親として（上司として）どう考えているんだ」と。
かくの如き「責任警察」の周囲が、本来、親の責任でもないことまでをも、十把一からげにすべて「親の責任」として詰問してくるために「非難を受けないためには、徹底的に我が子を自分の管理監督内に置き、逸脱の萌芽である冒険やら挑戦などという不確定要素は完全に取り払わなくてはなるまい」
との思いが無意識に芽生え、それをまた無意識に自分と奥さん子供を含めた「我が家の安全」の為におこなってしまう。
例えば、その周囲の詰問視線の逸脱（即ち「責任警察」）の一例として TV ワイドショーのある有名司会者の３０歳を過ぎた息子が不祥事をしでかした際に、ワイドショーマスコミは、その司会者の元へはせ参じ「この件についての責任をどうお考えですか？どう締めくくるおつもりですか？」
と鬼の首でも取ったかのようにマイクを突きつけ詰問しておりましたが、ふと思ったのが
「不祥事をしでかした息子は３０歳過ぎなんだろ？じゃぁ、なんで本人のところに行かないんだ？
何故、親のところに真っ先に行くんだ？
不祥事をしでかした子供が、２０歳前ならわかる。
なんなんや、こりゃ？
２０歳過ぎたら親子は、別々独立の社会人やが。
一体いつまで親や子や、言うてんのや。あほ、ちゃうか、こんたら。
無名の息子んところへ行ってもワイドショーとして金にならんから、行きおろうが？あん？」

事程左様に我が国においては、言論界、教育界、政界、官界の先生やインテリと呼ばれる方々ほど、あまり「お利口さん」とは言えない気がしてなりません。
完全なるミスリード役としか言えないような気がしております。
（以上、オマケでした）

2020/8/17

書直し版（元気のなさの正体 その６）

昨日猛暑。日の陰り始めた夕間暮れ、近くの遊歩道で、とても小さな蜥蜴に出くわしました。
あまりに小さいので初めは気づきませんでしたが、何やら「ちらっ」と動いて気がして、足を止めてよく見てみると、それがちぃちゃな蜥蜴君でした。
「わっ、なっつかしぃ!!」
蜥蜴で思い出すのは、何といっても「イモリの黒焼き、惚れ薬」です。
小学生の頃大好きな女の子がいて、学校の帰り道、男友達とお互いに好きな子と自分の今後の「恋の行方」を占う「あきすとぜねこ」をしながら帰ったものですが、それをしながらも、どうやったら好きな子とラブラブになれるのか日々真剣に検討を繰り返しておりました。
流石に親や先生には聞けないし、友達もあてにならない。
で、仕方なく近所の爺さまに聞きに行った処
「そりゃぁお前、何たってイモリの黒焼きだわ」
と即座に一発回答。
何でもイモリを黒焼きにして、それを砕いた粉末を好きな子に飲ませるとの事。
それからというもの随分とイモリを探す毎日を送った記憶がありました。
今時、そんな事をしたら動物愛護協会、保健所からは大目玉、警察署からはオーバーストーキングで逮捕状でも出そうですが、当時は悪ガキのよくある「いたずら」位のことで、別にどうって事なかったのです。
それにとどまらず、中学でも、相変わらず誰が好きかとか、誰かが持ち込んだエロネタでワーワー、キャーキャー、やっておりました。大らかなものです。
ところが昨今では、猥談ダメ、下ネタダメ、エロ話ダメの「健全警察」「品行方正警察」全盛期。あれダメ、これダメ、みんなダメ。
しかし思うにそれは、全く逆効果のような気もします。
押さえつけるから下にもぐるのです。
「行儀のよさが、礼儀を殺す」です。

こんなもの、大っぴらにさせておけば、かえってコマメにガス抜きができて犯罪も減るでしょうし、みんなの元気も出易くなります。
それをやらないと、ガスが溜まりに溜まって一挙にレバノンの大爆発の如きが起こる可能性がありますし、抑圧が長く続くと元気も反発力を失って圧死又は窒息死してしまいます。
そうならないためにはコマメなガス抜きが不可欠です。
因みに、外国人ばかりの当店の国際交流開始原点は「エロ・ジョーク」からでした。
エロ話は世界共通コミュニケーション開始言語なのです。
相手や周囲を不快にさせない範囲で、どんどんやればいいとおもいます。
元気を取り戻す為には。

020/8/18

（弊社企業理念の根底にあるもの「カッコ悪い戦略」）

現下、コロナ禍、不景気。こういう時こそ強気に出る。
将来、好景気到来。こういう時にはむしろ沈静、投資を控える。
要するに、時間軸を意識して次に備えるわけです。
不景気であれば次の好景気に備えて強気投資。
好景気であれば、次は下り坂が来るので抑制。
不景気だからと投資を抑え、好景気だからとどんどん投資をするのは、その時点しか見ていないからです。
次を見れば、次に来るのは波動（サイクル）の波から言って、今と逆な状況が来るわけですから、今の状況と正反対の行動に出る方が、より道理にかなっています。
又は、こうも言えます。
下降局面では、逆である上向きの力を注ぎ込んで中心線（水平線）に戻し、上昇局面では、行き過ぎを抑えて下向きの力を働かせ中心線（水平線）に戻す。
下がりっぱなしの株はない。上がりっぱなしの株もなし。
常に次を見据えて一手を打つ。しかも今の状況とは正反対方向、正反対作用の手を打つ。
それが正解であるような気がしております。
我々の企業目的は「（その時点での）利益の最大化」等ではなく、末永く活動を続けられる「存続の最長化」
即ち我々の企業理念の根底にあるのは、少しでも長く、少しでも先へ歩みを進めようとするかわし、切り抜け、間一髪滑り込みセーフの「くねくねドジョウ戦略」換言すれば「サバイバル戦略」なのでございます。
「カッコ悪い戦略」なのでございます。

2020/8/19

（「最高の人生」？）

「好きなことをやって、それで飯が食えれば苦労はない」
「仕事は楽しいことばかりではない。それは仕事の大変さを知らないから言えることだ」
しかし、今までよく耳にしたそれらのご託宣は「まことしやかな嘘」か「勘違い」のような気もします。
「好きなことだから、少ない実入りだってやっていける（家族に迷惑をかけない範囲で。或いは、それを理解する家族を持つことで）」
「好きなことをやっているんだから、苦しいこともあまり苦にならない」
というのが本道ではないかと。
或いは「何故そう先をみるのだ？」という問いに対して
「経営の要諦はいかに先を読んで、その推測に対して鼓舞乃至は抑制の布石を打つことだ」
という、これまたまことしやかでご立派な「ご託宣」ですが、実のところは
「えっ、それでこの先どうなるんだろう？次回はどうなるんだろう？」
という、子供の頃の人気連載漫画の次号を楽しみに待つ、或いは待ちきれないこども心に等しいものでしかない、そんなところが本道のような気も致します。
好きなことで、とっつ、かっつ、でありながらも飯を食い、ワクワクしながら明日を待つ（読む）
そんな人生を経営者として送れれば最高かな？と思っております。

2020/8/20

（それだけの話、でして）

「こんな状況下で、よく冗談なんか言っていられるね」
とはよく言われるのですが、別段脳天気だからでも大物だからでもありません。
深刻な顔をしたところで事態が好転するわけでもないし、逆に自分の不機嫌が従業員に影響し、従業員の不機嫌がお客様の不快を招いて売上に影響する。
それで朝っぱらから腰ふりダンス付きの、前の記事でお話ししたエロジョークを４，５連発かっ飛ばすわけです。
例えば今度はエアコンの件。
従業員はお客もいないのにエアコンつけるのはもったいないと言って点けたがらないのですが、夏場はナンを焼くタンドリー窯の前は５０度にもなりますし、休み時間も窯の火を落とすことができないので、エアコンなしの室内は４０度にもなります。
なので、休み時間もエアコンをつけるように厳しく言うのですが、それは自分が善人だからでも人格者だからでもなく、エアコンの電気代のアップに対して従業員がダウンして店を閉めなくてはならなくなる売上減の方が遥かにマイナスだからです。
はたまた、従業員全員に社会保険、労働保険を適応しているのも、今後わが国に外国人が増えれば「不法就労チェック」が厳しくなるであろう事を鼻から予測して、早い段階から手を打っただけの話。
それもこれも偏に（ひとえに）弊社の事業目的を最初から（その時時点の）「利益の最大化」ではなく（将来における）「事業存続の最長化」に置いているからです。
オーナーの人格の出来不出来次元の話ではありませんし、それに類するモラル話とも何ら関係がないのです。
存続の為に、社是に則って、淡々とそれを遂行する。
それだけの話なのでございます。

2020/8/21

（お店評価、星一つの件）

深夜、PC をチェックしたところ、クチコミがあった旨の通知がありました。
開くと、星一つの評価で、コメントなし（星５つが最高点。つまり最低評価。当店の平均点は 4.3 です）
以前にも別のお客様から星一つ（最低点）を戴いたことがあったのですが、理由が書いてあったので、さっそく改善手立てを打ちました。その後、同じ原因での悪評価はなくなりました。
しかし、今回は理由が書かれていない。
昨日お店で何があったのか？
（因みに昨日、自分は裏方の仕事でほぼ前日本社におり、お店には不在でした）
理由が書かれていないことには、改善のしようがありません。
改善されなければ、ご当人は無論、他のお客様へも改善が反映されないことになります。
当店としても当然不安材料を抱えることになります。
それを避けようとすれば、予測で改善案を立てることになりますが、あくまで予測なので、当たっているかいないか分かりませんし、予備を取って複数案実施することになるので、資金負担が増える事になります。
三方両得の正反対、三方丸損です。
コロナ禍で経営が極めて厳しい飲食店においては、これは物心両面で相当なストレスになりそうです。
皆様へお願いです。
悪いなら悪いで、理由をお書きくださいませ。
無論、良いなら良いでの。
そうするとお互い同士の歯車が噛み合いますので。
何となく悪い、何となく良いが一番悪いのです。私共にとっては。

2020/8/21-2

(（続）お店評価　星一つの件)

前の記事の続きですが、出社した外国人従業員に早速「ここ二、三日でお客様とトラブルがあったかどうか」訊きましたが、なかったとのことでした。
前回星一つ評価を戴いた事例から、混雑で食事の提供が遅くなったことを予測して「遡って混雑する、土日にはトラブルがなかったかどうか」も尋ねましたがやはり全員が「そのようなことは全くなかった」との回答でした。
だのに星一つで、しかもコメントなし。
従業員は「どうして？どうして？理由は何？」と騒ぎ始めたので、お客様と従業員、それにお店、三方の為に、取り敢えずはコストのかからない対策を予防的に打つしかないなと思いました。
それで、味、マナー、スピードの再点検をするよう言い渡しました。
味とスピードは毎日言い渡してあるので、主にマナーについてだったのですが、このレストランは従業員が全員外国人なので、店内は日本であって日本でないようなところがあります。
言ってみれば江戸時代の「長崎の出島」軒みたような。
なので、余り日本流の「厳密さ」を外国人従業員に押し付けると彼らが「窒息」してしまいますし、お客様にとっても
「だったら日本人コックさんを雇えばいいんじゃないの？でも、それだと面白くもおかしくもないし、カリーが売りの只の日本料理店になってしまうでしょ？だったらわざわざここに来る意味ないし」
になってしまいます。
はてさて、どうしたものやら。
とにかく毎日、未経験のいろんなことが起こります。
ボケ防止にはいいのですが、度が過ぎると心身に異常をきたしてしまいそうです。

2020/8/22

（切羽詰まった「最終的販促策」）

コロナ禍の郊外戸建て住宅街。
朝はやたらと犬の散歩をする人やジョギングをする高齢者の姿が目立つようになりました。
昼は、コロナ禍に合わせて生じたような炎天下のせいか、ひとっこ一人歩いていません。
動いているのはせいぜい蜻蛉と蝉くらい。
夜も人っ子一人歩いていませんが、昼の炎天下とは対照的に、そろそろ秋が近いのか、公園の草陰では鈴虫が鳴き始めました。
一方お店傍の団地群住宅街。
朝は、地元スーパーの開店時間を待つ人の姿が激減しました。
昼は、まぁ、そこそこな人出の数ですが、夜となると、元々夜はゴーストタウン化していたのですが近ごろゴーストタウン化する時間がとみに早くなっているような。
我々飲食業の商売というのは、店の前の単位時間当たり通行量 X 通行時間 X 立ち寄り率ですから、郊外店での地元回帰で単位時間当たりの通行量は上がったものの、通行時間が大幅に減ったため売上が厳しくなっているわけです（立ち寄り率は広告投資でキープしているとして）
しかし、国策と国民自らによる自粛警察とで外出自粛が続く限り通行量と通行時間の拡大は難しいでしょう。まぁ、せいぜい宅配でしのぐしかありません。
となれば、やはり立ち寄り率を上げるしかない、となります。即ちテイクアウトのお客さんのアップ（内食は勧められませんので）
そこで今、力を入れ始めたのが「当たるも八卦、当たらぬも八卦」のイベントの連発。
もっと言えば興味関心を引きそうな話題の提供。
そんな訳で、カリー屋（飲食業）による「コロナ禍同時進行執筆」の「サバイバル日記」をEC サイトで毎月、電子出版（紙本ではないのでコストはが限りなくほぼゼロ、手間暇だけです）することに致しました。無論冊数がそんなに売れないのは承知の上です。
しかしこれはお店の生き残りをかけた、かなり切羽詰まった「最終的販促策」のひとつなのです。
ですので、今月の売上に、その端緒が幾ばくかでも見えるよう、現在、ギリギリの準備を昼夜兼行で進めて居る次第でございます。

2020/8/22-2

（うな垂れひまわり）

コロナ禍で且つ猛暑。
元気なのは蝉君と蜻蛉さんだけのようです。
わんこは舌を出しっぱなしで肩で息をしているし、植物でもモノによっては焼け焦げてしまった様な状態のモノも見かけます。
そんな中、今日ちょっと驚いたのは、ひまわり畑で、いつもなら太陽に顔を向けて凛として屹立している筈のそのひまわりさん達が、なんと全員集団で地面に向けて首をうな垂れていたのです。
自転車をこぎながら遠くから見てひまわり畑に何故かひとつも黄色が見えなかったので、
自転車の向かう方向を切り替えて近づいてみると、なんと畑全部が
「うな垂れひまわり」
こんな光景、生まれて初めて見ました。
いつもの年なら同じ最期を迎えるにも、太陽に向かっての「立ち枯れ」ひまわりさんが、今年は何と「うな垂れ」ひまわりさんになっている。
まるで今の我々の、心象風景みたい。
なんか、見てはいけないものを見てしまった様な、一種の怖さを感じた、今日の午前中でした。

2020/8/23

（「ニューノーマル考」）

大変なものが今三つ。
「コロナ禍」「経済活動大減速」「台風風水害熱波」
これを、数字を使って表すと
（A）コロナ禍＋５（B）経済活動大失速―１０（C）台風風水害熱波＋５で
（A）＋(B)＋(C)=5+(-10)+5=0
となります。
これを見ると（A）コロナ禍と（C）台風風水害熱波が（B）人間の経済活動を
抑え込もうとしている、何か意思のようなものを感じてしまいます。
ではその前はどうだったかと言えば

A.　　と(C)がゼロで、（B）が断トツの＋１０、それで総合計が＋１０となり、完全に０

均衡点が崩れていたような気がしないでもありません。なので、今何かが(A)と(C)を使って(B)に警告を発する目的で、それを抑え込んでいる気がしたのです。
もし、０均衡がお互いにとって正しいポジションであるなら、(A)と(C)は今から其々―５ずつを以て０にする事になりますが（B）の人間の経済活動は今から見ると＋１０で０。
しかしそれ以前の＋１０から見ると戻りは、差分の２０の約半分なので５０％となります。
自分が思うにエネルギー上はこれが正しいポジションなのだと思います。
ここでいうエネルギーとは人々の「快適さの追求」或いは「合法的な欲望の発露」と言い換えることができるような気がしますが、そうなるとこれ以降は「制御、抑制、自粛」の生活を強いられることになり、大いに不満が溜まる事になりそうです。

恐らく今までの考え方の延長線上では想像もつかないようなレベルとなり、とても「エコバックの使用」や「エアコンの適正温度維持」レベルどころの話ではない筈だからです。
極端な喩えですが、５０%抑制なので「夏はエアコン使っていいけれど、冬は一切使ってはダメ」くらいのレベル。
そんなものに現代人が耐えられる筈がありません。
ならばどうするか？
これはもう「自分にとっての快適さの定義」と「欲望の向かう先とその達成の仕方」を変えるしかない気がします。
それが今何なのかはまだ分かりませんが、恐らくそれこそがニューノーマルのような気がいたしております。
今月、８月末発売の
コロナ禍、同時進行執筆
カリー屋、ナマステ別館堂主人
「ニューノーマル探索サバイバル日記」
では、その辺を書き進めて参りたいと思っております。

2020/8/24

（難問愛好家冥利）

「これだけ」「これっきり」「ワンパックですべてに対応」
といったものが、全くの絵空事で、クソの役に立たないことを、ものの見事に暴き出したのが今回のコロナ禍でしょう。
一品一葉、一件につき一つ、一人につき、同じく一つ。
十把一絡げは存在せず十人十色だったことがはっきりと炙り出された。
又、リモートワークになって上司の自信のなさと部下の指示待ち体質も炙り出された。
将又（はたまた）、在宅勤務になって愛情と思いやりで成り立っている家庭と、そうではない要因（ほぼ魂胆に近い何か）で成り立っていた家庭の差が否応なく暴露されてしまった。
更には、顧客のことを考えている会社と自社の都合だけの会社の違いも歴然としてきた。
かてて加えて、上下を問わず、国も問わず、自分の立場しか考えない人とひとのこと「も」考えられる人間の違いも顕著になってきた。
そうして、慾ボケから、本来母体である「共通土壌探索」をないがしろにして、共通土壌の上に生えているだけの木々のような存在にすぎない「差別化差異化」のみに着目。
それを異様にクローズアップし過ぎて、共通土壌の存在を忘れた結果、木々だけが対話口のないまま孤立対立したような構図が産まれた。
そして、その「頭（派生物）でっかちな」不安定極まりないアンバランスの中で、以上に育った木々の対立が生み出す「勝ち組妄念」に囚われた人間同士の争いが、どれだけ他の生き物や天然自然に対して「大変なご迷惑をおかけしている」かも分かって来た。
そういったことが分かって来た上で、この卓袱台返し（ちゃぶだいがえし）状態をどう整理し、新たなニューノーマル（新常態）をどう築いていくか？或いは今あるものの中から掘り起こしていくか？
ヒントは、この認識外になってやせ細った「共通土壌」をいかに膨らますか？にあるような気がしないでもない。
しかしそれはどうやれば？
これは大変な難問ですが、難問好きの自分としては「誠に解き甲斐のある問題」を戴いて「ウッシッシ。なんとのう、おもろうなって来よった、やないけ」という感じで
「難問愛好家冥利に尽きる」の一言。
で、そのワクワク感から、いささか興奮気味なのでございます。

2020/8/25-2

（ナマステ主人の「超簡単男の手料理教室の巻」でんがな）書庫版

今日から、以前やっていた「うとＱクッキングスタジアム」をはじめようかな？と。
今日はお酒のおつまみに最適な
単価１００円以上の豆腐とナスの浅漬けのシンプル和えと
ビーフハヤシとビールシチューのミックスによるビーフハヤシ鍋ご飯掛けの一品。
めちゃ、安い割には、見た目豪華で味良し、手間暇いらずで、可なり「うまかった」です。
豆腐ナスが一食２００円、ビーフハヤシ＆ビーフシチューミックスライスが一品食当たり４００円強。
掲載写真の受け入れ数の関係で全部の写真は載せられないかもしれませんが悪しからず。

2020/8/25

（誤解を覚悟で）

コロナ禍に至る迄に、何故ここまで酷くなってしまったのか？
しかも相当広範なる範囲で。
思うに、ここまで広範だと酷くなった原因として考えられるのは「教育」位しか思い当たりません。
ではどのような教育によってなのか？
家庭教育？学校教育？職場教育？
恐らくそういう切り口では分からない様な気がします。というのは全ての段階に於いて、に見えるからです。
そうした中で、その起因を探すのは単なる犯人捜し的「責任の擦り合い」位にしか見えません。
ならば、どのような教育に起因しているのか？
こういう言い方が成り立つのかどうかは分かりませんが、自分なりの言い方をすれば
「教えない教育」のせいではないのか？と。
旧世代が新世代に教えて然るべきものを教えていない。
旧世代が教えるだけの経験をなくしてしまったのか？教えるだけの中身がないのか？教えるだけの自信がないのか？それとも教えることで食らう反発を恐れてのことなのか？
言うべきことを或いは伝えて然るべきものを教えないで沈黙してしまっている。
これを非常に大胆な、ともすると誤解を招きやすい言い方であることを覚悟の上で申し上げると
「女子供の前で、男が何も言えなくなってしまっている」
「現世代の前で、先行世代が何も言えなくなってしまっている」
弱者と呼ばれて久しい「女子供」の、完全には一致しませんが、換言すれば「教わる側」の権限が過度に増大し、その複数いる「隠れ帝王」達の前で「家臣」となり果ててしまった「男達」が何も言えなくなっているのが実態。
或いはまた現世代の前で先行世代が「抑圧者」「守旧派」のレッテルを恐れ、沈黙してしまっているのが実態のような気がするのです。
昔は「泣く子と地頭」でしたが今は「女子供と現世代には逆らうな」であるかの様な。
故に男性復権、旧世代復興、等とアナクロな事を言う気は更々なく、それこそ「男女平等」「新旧対等」即ち「New 格差ゼロ」にしないといけないのではないか？とだけ。
男や先行世代が女子供、現世代の反発や非難を恐れて「教えない教育」をするに至った弊害が昨今の状況を招いている。
自らの反省も含め、そんな気がしているのです。

2020/8/26

（誤解を覚悟で　その２）

自分は元重度うつ病患者で１２年間罹患しましたが、その時の状況を思い出すと、今後冬にかけて相当数のうつ病予備軍が「発症に至る」（発症宣言をする）予感がしております。
きっかけは言わずと知れたコロナ禍ですが、それは単なるきっかけに過ぎず、その温床はかなり以前からあったような気がします。
むしろコロナ禍という「大義名分」を得て、ここぞとばかり我も我もと名乗りを上げる可能性すら感じております。
つまりかなり前から相当な「抑うつ状態」に多くの人々が陥っていた。
というのも数年前から、街ゆく人々からあまりにも元気が失われているように見えていたからです。
その人たちが、今まで隠していたその「不都合な事実」をコロナ禍という大義名分の「安心感」「正当、妥当性」「横並び観」を得て噴出させる。なので、今後うつ病の季節である冬にかけて発症者数が激増する。
これが自分の見立て。
ではなぜ、そのような抑うつ状態の「うつ病予備軍」が急速に増えていたのか？何がそれを引き起こしていたのか？しかも近年急速に。
観察の結果見つけた自分なりの答えは
「隣人（その時隣に偶然なりとも居合わせた人々。近親者や赤の他人を問わず事実位置関係のみでの臨際者）によるスパイ活動（盗み見、無関心の装い）の深化、高度化、拡大」が原因。
本来打開や気分転換のきっかけをもたらす筈の隣人が、一挙暗転してスパイ、監視者になってしまった。
いや、それが事実かどうか以前に、自分がそうする様になったから、恐らく隣人、臨際者もそうであろうと疑心暗鬼になってしまったという事かもしれません。
これでは元気になりよう筈もない。かといってそれを理由に「うつ病になりました」とも言えない。
なので、今コロナ禍は、その不都合な原因を隠して治癒や休職という結果だけを求める為の「名乗りを上げる」には絶好の機会だからではないか？と申し上げた次第。
しかし、上述の観察が当たっているとすれば、大元の原因が他にあるので、恐らくコロナ禍が過ぎ去っても一転快癒する事はないでしょう。
これ又本日も、昨日に続いて誤解、反発を覚悟で敢えて申上げました。

2020/8/26-2

（この手が使えないか？）

高校時代「哲学」という言葉に大変憧れまして、よくわかりもしないのに課外授業で「フランス哲学」と「ドイツ哲学」を二年間、履修しました。
全校生徒 1800 人の中で受講したのは両クラス併せて１２、３人位だったでしょうか。最後は 10 人を切っていたと思います。
その中でドイツ哲学の巨星ヘーゲルのアウフヘーベン（止揚）という考え方を教わりました。
簡単に言うと相反するものを包含してその上の次元に移行することが止揚。止めて（とどめて）持ち揚げる（揚がる）から止揚。
この方法が昨今のコロナ禍の解決策に適応できないだろうか？とふと思いました。
「感染拡大防止」（定位）と経済活動再開（反定位）の対立を解消し、それらを包含する上位概念（高次）に移行できる何か。
或いは「有形資産（製造、ハード）」と「無形資産（知識や智慧、ソフト）」や「生産と消費」などなどの上位移行はないだろうか？
量子コンピュータなどはこの考え方を取り入れているような気もします。
「黒と白（０と１）」以外に「黒であっても白であってもいい（０でも１でもいいもの）」或いは各々「そうでなくてもいいもの」の存在を認めたからこそ、計算能力が飛躍的に上がったのだそうだからです。
相反するものの対立の勝ち負けや、そのどちら側に着くかという選択議論ではない何か？もっと言えば「勝ち組に着く」とか「負け組にならない」といった妙な競争と選別や格差を煽るものではない、何かはないか？
そういう視点に立つ必要が今回こそ最大に求められているような気がしております。
しかしこれは自分の経験則上、物事を曖昧にしてしまう極めて危険な因子も含んでいるので、その解を得るには、かなりの難問、難行程になる、であろう予感に包まれております。

2020/8/26-3

（そうなりたいような手本の存在）

自分が子供の頃は、自分も「そうなりたいような手本になる人」というのが結構周りに居ました。
例を挙げれば薬局をやっていた父方の叔父さん、親父の弟です。
面白くて人情家で腰も低く、商売も抜群に上手かった。
しかし若い時には本人は中学卒なのに薬大卒の、後の奥さんになった人と駆け落ちまでして結婚し、その後、許しを得て、本人は薬剤の知識など全くないにも拘らず、後日においては市内随一の薬局にまで育て上げた人です。
こどもは６人もいて、商売がうまくいき始めた頃、子供たちがお母さん（つまり駆け落ちした奥さん）の脚に血管ミミズ腫れ瘤ができたのを「カッコ悪い」といったのを耳にして、普段は穏やかな叔父さんが
「許さん。お母さんが一日、立ち仕事をしているから瘤が出来たんだ。その立ち仕事の御蔭でお前たちはご飯が食べられるんだぞ。それを笑うなど、俺は絶対に許さん。謝れ!!お母さんに謝れ!!」
夏休みで九州に遊びに行っていた時、この事件を目にして
「めっちゃ、カッコええ」
と思いました。
自分の親父も終戦後、外地で捕虜となり、金品（腕時計やアルミ食器等）目当ての現地の「土人」に夜襲をかけられたりし乍、武器がないにも拘らず何とか切り抜け、部下の最後の一人が帰国するまで２年間、外地に留まった後、自分はそれを見届けた上で、最後の最後に復員したのですが、この親父の事も滅茶苦茶カッコええなぁと思っておりました。
（終戦を迎えて軍隊は解体されていたので、もう上官ではなくなっていたのに、でした）
幸いにも、この歳になってすら、数は多くないのですが、周りにそういう方が何人かいます。
皆、何というのか「男気」のある人たちです。男気というのは何も男だけが持つものではなく、女でも「男気」のある人はおります。
男気というのは「あんたがそこまでするんやったら、こちらも一肌脱がせてもらうわ」という気持ちの事です、
或いは、物事の「筋を通す」気持ち、ともいえます。
そういう手本になる人が最近とみ減り、取り分け、自分の身の回りにいないのは大変辛い事なのかもしれませんね。
全ての成長は、模倣（まね）から始まるとすれば。

2020/8/27

（速やかに行われる必要があると思われる「真犯人探し」）

我が国の国民というのは、自分の観察するところによれば、人の為に役立ったり、動いたり、助けたりすることがとても好きな、或いはそれを「嬉しい」と感じる国民だと思うのです。
例えば、震災や風水害が起きると、多くの人がボランティアで現地入りするのを見てもわかります。
しかし、都会生活の中では、それとは全く反対に、困っている相手が身近にいる場合、何故か見て見ぬふりをするケースが頻繁に見かけられます。
同じ国民、いや同じ人でありながら何故このような逆転現象が起きるのか？
都会生活の中では、言い方を少し変えて言えば、非常時ではない日常生活の中では、何故裏返ってしまうのか？
何がそうさせてしまうのか？
これまた明け方、つらつら考えてみました。
で、思ったのが
「同時に多くの人が集団で行うか、一人で行うか、の差」
と
「周囲にある善意の人の目と、疑義の人の目の差」
でした。
要するに都会生活のような場で、人の為に「役立つ」「動く」「助ける」などの行為は周囲からは、まず「異質」「目立ちたがり」「偽善」「スタンドプレー」等の負の評価が先行するか、本人自らがそれを想像して二の足を踏む、手が出ない、息苦しくなるのではないかなと。
バスや電車の中でお年寄りや体に不自由を抱えた人に席を譲る気持ちは十分あるのに、それができない（特に若い人）
それはSNSなどで、何人かの有名人が慈善活動や救済活動をすると「ことあるごとに批難中傷」を受ける恐ろしさを目の当たりにして、腰がすくんでしまうからのような気がします。
或いは近くで、ひそひそ話か、敢えて聞こえよがしに
「カッコつけやがって、よっ」とか「いい子ぶっちゃって、さっ」とか「何様のつもりよっ」とかを耳にするので（特に年配の声）
冒頭でも申上げましたが、本来我が国国民は「人助け」の好きな国民性を持ち合わせているのを強く感じております。
だのに、この優れた特性を「偽物」「まがい物」「薄汚れたもの」としてみるようにしてしまっているのは、いったい何なのか？

いつかその「真犯人」を突き止め、捕縛し、二度と悪さができないようにしてやりたい気がしております。

2020/8/28

（餅は餅屋）

受け答えに情味や思いやり、ユーモアもなく、自分のテリトリーの知識にも乏しく、組織横断的な話となると、それまでの居丈高な態度を一変して途端に「逃げに回る」窓口で、人間ならではの情味、思いやり、ユーモアがまるで期待できないのであるなら、少なくとも後者の知識の正確さ、横断的な事柄に関わる検索照合能力とスピードを持ち合わせたAIロボットの方が余程ましでしょう。

となれば、早晩、役所、銀行、病院等の窓口の９０％はAIロボに置き換わっても不思議ではありません。

所属組織体の経営的に見ても「退職金いらない」「給与いらない」「人事考課必要なし」「メンタルメンテナンス不要」となれば願ったりかなったりの筈。必要なのは IT&メカニズムメンテナンスマンの経費のみ。

となれば恐らく５年以内には、否応なくこの流れは実現してしまうでしょう。

が、しかしそうなると、失職した窓口の雇用をどうするのか？という問題が起きますが、これはある意味今まで胡坐をかき過ぎた故の自業自得なので、新しいスキルノウハウを身につけなさいね、というアドバイスをする位しかありません。

問題は、その身に着けるべきスキル、ノウハウとは一体何なのか？です。

しかしこの答えは既に冒頭に出ていると思います。

人間ならではの、情味や思いやりユーモアのブラッシュアップとそれを活かした職の創造です。

この点では接客業、或いは接客業務というのがこれに最も近いと思います。

そうして極端に言えば、お客様一人に対して一人のスタッフ（接客業務従事者）がサポートする。人間の声と体温（暖かみ）で。

まさに効率万能のAIとは正反対の、徹底的に不効率な人海戦術大作戦。

こうなれば、多大な失職者分だけ雇用が生み出せますし、AI とかち合わなくて済み、棲み分けと共生が可能になります。

餅は餅屋。お互い特異な分野を分担する。これに越したことはありません。

AI をフィンテックや暗号解読にだけ使うなんて勿体ないし馬鹿げています。まずは役所にでも使うのが一番だと思いますけれど、ね。

2020/8/29

（誤解を覚悟で　その３）

数字はうろ覚えなのですが
「このコロナ禍において旦那さんが失職又は、かなりの減収になっても、働きに出ない専業主婦が４０％？いる」
という記事を目にしてちょっと驚きました。
自分が知っている多くのアジアの国々では、旦那さんが働けなくなったら奥さんが働き、奥さんも働けなくなったら、子供たちが働く、つまり旦那さんこそが唯一の働き手と決まっているわけではなく、困ったときには誰かが代わりに働くというスタンスで、お互い家族が支え合って暮らしているのも目の当たりにしてきたからです。
話は少し飛びますが、戦前は結婚というと「お見合い結婚」が大半だったそうです。
お見合い結婚というのは「政略結婚」又は「親都合結婚」と混同されがちですが、実際には結婚する本人の周囲が事前に、それ相応の人物を取り巻く一種の「市場調査」をし、妥当なものだけが「まな板」の上にのって来たので、ある意味、ご当人たちは「楽ちん」でした。
ところが戦後、この「お見合い結婚」が、封建制の旧弊な因襲とみなされ、戦後の解放感もあって、大変古い言い方ですが「自由恋愛」と「恋愛結婚」へと大半に移行しました。
しかし、そうなると、今まで「お膳立ての整った客間」に姿を現せばいいだけだった男女それぞれが、各々自分で「市場調査」をし、その調査の後に選択した結果も自分で負わなければならなくなってしまいました。
特にここにおいて、女性はかなり大変だったと思います。
自ら市場調査をしていいと言われたものの、どうやったらいいか分からなかったでしょうし、その結果を自ら負わなくてはならない「自己責任」というのも初めてだったからだと思われます。
こうなると、今までの「周囲の眼力や調整能力」に代えて、一体何を頼りにすればいいのか？と戸惑った事でしょう。
で、頼ったのが「世間の風評」「マスコミ」「見かけ」でした。言い方は変かもしれませんが、お見合いが超エリアマーケティングだったのに対して、これは超「投網（とあみ）マーケティング」です。
その結果、投網マーケティングに引っかかったのが、バブル前では高学歴、高身長、高収入の「三高」でした。
ところがバブルが崩壊し、そんなターゲットに巡り合う確率が激減、今後もそのターゲットが増加する見込みがないとなると、今度は途端に「身の丈マーケティング」に変化。
即ち「ハイスペックではないにしろ、それなりのコスパで、むしろ自分の扱い易さに焦点をあてた」戦略に代わってきました。

その表れが、暫く前では「アッシー君（車）」や「メッシー君（食事）」でありましたが、最近になると、それがもっと深化して、大人しくて優しそうで気の弱そうな旦那さんがスマホ片手に先頭を切って歩く奥さんの影を、三歩下がって踏まないようにベビーカーを後押しながら付き従うカップルの姿となっているようです。このカップルの姿は自分が見る限りにおいては都市部では激増しました。
こうしてみると、戦後、お見合い結婚が激減し、大半が恋愛結婚になったというのですが、「あなたに首ったけ」とか「あなたなしでは生きられない」といった本当の恋愛結婚などというのはほんの微々たるレアケースでしかなく、実際にはお見合い代わりに、全く熱を帯びない「広範な投網マーケティング」による「消去法結婚」でしかないような気もします。
そのため「代替燃焼アイテム」として激増したのが結婚後の「巧妙な不倫遊戯」
最後になりますが、ある時、不図、違和感を覚えたお話を一つ。
これまたアジア系外国人との対比で恐縮ですが、最近の新聞を見ていて
「夫は、働きに出る奥さんへもっと理解を」
といった記事に接するたびに、他の国々の人々は、夫婦そろって働くなんて当たり前のことなのに、何で我が国ではそれが殊更に記事にまでなるのだろう？と。
で、思ったのが
「この記事の根底には、何のことはない、逆説的に言えば旦那が働いて奥さんが専業主婦でいるのが当たり前。それを超えてまで私が働きに出るのだから、相当なる便宜を図って然るべきじゃない？」
という我が国特有の、外国人男性が恐れおののく、働きに出ない「専業主婦当然思考」が根底にあるのではなかろうか？と思った次第です。
なので、旦那さんが失職又は減収になっても「働きに出ない専業主婦」が４０％にも上る結果になったのだろうと。直前上記の仮説を冒頭に掲げた引用記事が裏打ちしているのではなかろうか？とも。
本日も、三度、誤解覚悟で申し上げました。悪しからず。

2020/8/30

（「ニューノーマル考」　その２）

「ニューノーマル（新常態）」を探索する前に、大切なことがひとつ。
それは、自分にとっての「常態（ノーマル）」をどう認識しているか？です。
安心で安全。常に平時で「意のままになる」のが常態と思っている人と、
いつ何が起こるか分からない。常に不確実が常時で「意のままになること等ほとんどない」と思っている人。
その差は今回のコロナ禍、風水害、異常気象、経済の大減速に際して如実に表れました。
前者は「こんなはずじゃない。何とかしてよ」
後者は「また来たか。今回のはかなりデカいが、また超えるしかないな」
今回の件に関して「ニューノーマル」とメディアが騒ぐのは、どうも前者に立脚してのような気がします。
しかし、我々が認識を改めないといけないのは、後者へのシフトそのもの。
そうして、それを超えてサバイバルするためにはどうすればいいのか？や、大袈裟ですが、これから、どのような「世界観」や「価値観」を持つのが理にかなっているか？という認識の切り替えや深堀ではないでしょうか？
それをここではマスコミやメディアの言う前者とは違った立ち位置で探り、サバイバルにつながる道を見つけたいと思っております（敢えて大風呂敷を広げさせて戴きます）

2020/8/31

（Hangout(たまり場)考）

テレワークになって、仕事の後、会社近くの飲食店で同僚と飲む比率が下がりました。
コロナ禍による自粛解除後も、感染への恐れから地元に早く帰る傾向が顕著です。
そのおかげで、当店は都会の飲食店ほど売上が滅茶苦茶に落ち込まずに済んでいますが、逆にコロナ禍後は、お客様が地元から都会に戻る分、売上減少の懸念があります。
しからばどうすればいいのか？
簡単に言うと「地元の居心地の良さ」を増すことです。
コロナ禍後もテレワークの比率はそう下がらないでしょうから、直接「隣にいない」同僚との関係は疎遠になり、本来直接面談を求める「人目人科」の特性として、身近に呼吸音や心音が聞ける地元民との接触機会が増えるはずです。
まず、第一に、地元の方が利害関係は全くないとは言えませんが、勤め先ほど露骨ではないでしょうし、いろんな立場や職業の人が「多民族国家」にも似て周りにいるので、そこでの暮らしがより楽しくなるような気もします。
であるなら、それを（或いは其処を）より楽しく、面白くするイベントや場所を提供すれば、当店にとって、又は近隣商店街にとってもこの上ない販促策になる筈です。
しかも地域の活性化にも寄与できますし。

この考えをもっと普遍的、敷衍的にコロナ禍後のニューノーマル世界観、価値観に当てはめてみると、回復後も経済活動、コロナ禍前比７割がマックスという「新常態」の中にあっては、最早「経済」という指標（お金の力）では人々の「幸福」は満たされないことになりそうなので、その穴埋めをする者との合計による「幸福」の発見が求められるようになるとすると、その「欠落部穴埋め」の第一候補は「心理的満足度＝充足感」を基にした「世界観」「価値観」になるような気が、不図致しました。
そもそもこのコロナ禍初め異常気象等が地球生態系からの人目人科への警告であるなら、経済７割マックスはエネルギー的には誠に正しい在り方で、上記の心理的満足度＝充足感が追加的新指標であるとするなら、それ自体の物理的エネルギー発生量はそれ程多くはない筈です。
では、上述した「心理的満足度＝充足感」は、具体的には何なのか？
卑近な例として、手前どもの「お店」を参考に申上げれば「お祭り」とか「たまり場」みたいなものではなかろうか？という気がしております。
そういえば以前私共の「ナマステ別館堂」は国際間交流を模索する「Hangout(たまり場)from overseas(海の向こうから)」という名前でしたっけ。
今後は国際間交流に加えて、地元の世代間、隣人間（あなたの隣にたまたまいる人）交流に拡大できればいいなぁ、と現「ナマステ別館堂主人」は思っております。
あと、地元の社会福祉関係や地域コミュニケーション関係の NPO や自治会との連携も。

二〇二〇年九月

2020/9/1

（ニューノーマル必携 開拓者魂（frontier spirit））

「新商品」「新品」「新開発」の新は、何となく新鮮さやワクワク感を抱かせて嬉しい気持ちになります。
反対に「新事実」「新事態」「新時代」などは、備えがまだできていないうちに突如生起するので、何となく身構えや警戒感を呼び起こします。当然「新常態（ニューノーマル）」もこちらの部類に属します。
ところが「新世界」や「新機軸」「新次元」は、期待感と同時に不安要素の入り混じった言葉のような感じです。
言ってみれば「吉と出るか凶と出るか」「丁と出るか半と出るか」の確率５０対５０で半々のフィフティーフィフティー。
まさにリスク・テイクの大賭博、大博打。
しかしここで賽子（さいころ）を振らないことには、双六（すごろく）のその先へは進めない。双六なので先に進むこともあれば逆に進みすぎて戻ることもあるかもしれないが、とにかく賽子（さいころ）を振らないことには、その先へ進むことは絶対にありえない。
ならば座して死を待つ「停滞」よりも、その先確実にあるかどうかはわからないが、リスク覚悟で「新世界」「新機軸」「新次元」の「新発見」を求めて未来に駒を進める。
そこで何が見つかるのか？１４９２年のアメリカ大陸発見ならぬ２０２０年以降の「新常態」発見の「大航海時代」の始まり.

まさに今求められているのは、あの時の「開拓者魂（フロンティアスピリット）」であるような気がしないでもありません（ただし今回こそは行った先、見つけた先を荒らさぬように）

2020/9/2

（ニューノーマルサバイバル術 スッポン的性格の勧め）

「石の上にも三年」とか「継続は力なり」というと「辛抱」「忍耐」「我慢」などという言葉が浮かびがちですが、自分は「諦めずに続けていれば、いくらなんでも、知らないうちに、それ相応の力が付くだろう（効果が出てくるだろう）」くらいのことに捉えています。
弊社の外国人従業員も、１年前までは１０回同じことを言っても「no problem」「だいじょボ。だいじょボ。じぇんじぇんモンダイナイ」といいながら、まるで何一つ分っていなかったのですが、最近では、言いつけたことがわかるどころか、自分の方から「提案をもってくる」ようにすらなってきました。
「新しいメニュー増やす。海老タンドリーとチキンソップ。お客さん色々食べられる。うれし、うれし、になる」とか。
で、その一年の間に何が起こったかというと、
数々の大困難。
そして、何故それが起こったのかとか、どうやったら切り抜けられるかとかを、毎朝始業前の２，３分、黒板に数字と表とイラストをチョークで書いて説明し、意見交換した事、多数回。
で、最後には必ずエロジョークを３，４発サービス。
すると１０回ではだめなことでも、諦めずに３６５回位続けていると、次第に効果が現れ始めました。
同じく１０回くらいの改善では伝達方法や共有方法が分からない事でも、流石に３６５回も毎日毎日改善し続けていると、数字や表、イラストを描くタイミングや表記方法なども、ブラッシュアップされ、なかんずく、その「見える化」（visualizing）によって「なぁんだ、説明の仕方が悪かっただけで、理解力や関心がないわけではなかったのだ」という事もわかってきました。
それを自分自らが分かるには、たった１０回のトライでは全然足りなくて、３６５回位やる必要があったのだという事も。
昔からいろんな仇名を頂戴して参りましたが、今回は「スッポンの宇都宮（うとQ）」という仇名の元になった性格が、幾分幸いしたようでございます。
「自画自賛」且つ「我田引水」のおそまつ、ご容赦のほど、お願い仕る（つかまつる）

2020/9/3-2

（わが本性、本日は「超意地悪」目線で ）

「自分も結構意地の悪い見方をする時があるなぁ」と思う事があります。
本日は、その例をひとつ。
以前にも申し上げましたが、最近、朝にジョギングやワォーキングをする若い人や年配者をよく見かけるようになりました。
ところがこれが揃いも揃って結構ド派手な格好なのです。如何にも「自分が元気に」ジョギングやワォーキングをしていることを「周囲の人たちが否応なく気付くように」という story making の臭い（におい）が…
ここからが自分の意地悪の本領発揮、フルスロットル全開モードです。
もしご当人が本当に元気一杯なら、それを周囲にひけらかすことは、説明せずとも既に分かり切っている事を、十重二十重にくどくど何度も説明するかの如く「嫌味やこれ見よがし」にしかならならぬ事を恐れて、却って控えるのが人間心理としてあると思いますが、そういう事にはついぞ気が回らず、上述のように目立つ事を目的とした「チンドン屋」か「季節外れのハローウィン仮装行列」と見まがうばかりの出で立ちは、逆に「ほんとは元気の「ゲ」の字もない。でも、周りからは、そうは絶対に見られたくないから、こうなった」という図らずも裏正体を露わにした真実吐露。
一方、周りからすると、その姿には微かながらも違和感を覚え「なんかちょっと…」と無意識にも距離を置く事に。
なのに、一体我が国では、老いも若きも男女子も、何でこんな「裏返し表現」「逆張りポジション」をそこかしこ、誰彼を問わず張るようになってしまったのか？
誰一人として得をしないのに。
本人は苦しく、周囲は鬱陶しく感じるだけなのに。
その原因探索はこれからですが「在宅勤務」「テレワーク」「近場クリニックでの院内サロン壊滅状況」などのコロナ禍余波をきっかけにして、それ以前からあったこれらの「誰にも必要のない無意味な現象」が最近とみに散見されるような気がしてなりません。
「見せ掛け」は、それをすればするほど、事実や解決から遠ざかり、益々の不具合や不調、強いては破綻の元になるだけなのに。
「リア充なんてカケラもない」「虚勢によるパフォーマンスだけです」と自分自身に対して
「一刻も早く自白（げろ）して楽になった方がよくないか？」
「それが周囲の人達のためにもなりゃしないか？んっ？」
にわか刑事（デカ）としてはそう思うのですが。
どうなんでしょう？見過ぎですかね？
刑事物。

2020/9/4

（自分の中に軸がない。自分の軸は他人目線の中にある。これでは人生辛かろう）

昨日の記事(これはSNSには上梓せず。サバイバル日記９月の巻（１０月発刊予定）に掲載)を読み返してみて、ふと思ったのですが

「結局、軸（と視界）が自分の中の何処にも無い」

だからふらふらするし、落ち着かないし、逃げ腰になる。

「軸」については、まず人の目線がとにかく気になり、それに合わせて自分を作る。なので、軸（＝殺生与奪の権限）が自分の外にあることになって、これがふらふらと落ち着きのなさの元になる。

「自分の主が自分ではない」から。

次に「視界」に関しては、これは目線を発する側の話で、自分はさておき棚に上げ、というより自分に関する不都合は、十重二十重の捻りを入れて自分の背面、後方、奥深くに隠匿したうえで、界最上位特別審査官（員）として、実にハイレベルな審査内容で、のっけから相手の対象規定演技評価箇所(＝欠点や粗)の減点項目を探し始める。視界の中にあるのは「交流すべき隣人」などではなく「高得点獲得の為なら何でもいいなりになりそうな嘆願者」との関係のような雰囲気。

冒頭の前者は後者にもなり、後者になるからこそ前者の振舞いにならざるを得ない。

これは少し言い方を変えれば、する方もされる方も「自分をさておいて」の仮想代理空間(アバターワールド)のようなものなので、仮想である分、実の結びようがないことにもなります。

一体この悪循環はいつから始まったのでしょうか？

まぁ、いつから始まったか？何故そうなったのか？は別として

「人がどう見ようと、自分はこれで行く。言いたい奴には言わせておけ。全員に好かれることなど決してないのだから、それで一向にかまわない」

と言い切ってしまえば上述の悪循環など飛散霧消するような気もするのですが、どうなんでしょうかね？

自分はそれが、少なくとも我が国のニューノーマル始まりの核心的条件の一つだと思っているのですが。

2020/9/4-2

（地球様の相当なるお怒り）

既に何度も書いたことですが、改めてここで再度申し上げます。
コロナ禍、異常猛暑、そして明日、明後日の、伊勢湾台風並みの超ド級１０号の発生。
ウィルス禍の間隔はもう少しあるとしても、猛暑と猛烈台風はもはや毎年恒例となったしまったことが指し示しているのは、たった一言「地球から人類への強烈な警告、イヤ最後通告」ではないかと。
「自分たちにとってだけの快適さを追求するために、もうこれ以上地球を壊すな。いい加減に慎め」
もっと言えば「（今の定義での）経済活動を減らせ」
本来人間が全部自分でやっていたものを、産業革命以降 150 年ほどかけて人間以外のものに代替させてきた。例えば機械などに。
それを代替させればさせるほど、或いは代替させるアイテムが増えれば増えるほど、人間は楽になったものの、その分、代替物の発するエネルギー（熱量）はどんどん増え、地球を傷つけるに至った。
代替物が増えるにしたがって人口は爆発的に増え、更にそれが都市という一点に集中したため、あたかも都市という槍が天を突くような形でオゾン層を突き破り始めた。
さらに増えた代替物のアイテム数に勝るとも劣らないレベルで、代替物（商品）の買い替えサイクルの短縮化が破壊を深刻なものにしていった。陳腐化抑止、価格下落抑止、需要喚起の名のもとに、大して差のない「新商品」という名のごみの山を排出し続けた。
地球は言っているのでしょう
「そういうレベルでしかない自分の首を絞めるような経済活動など、いい加減に止めなさい」
と。
「代替物（物理的物質）にエネルギーを発散させるのではなく、人間自らがアタマとこころと身体を使った「地球を壊さない生き物としての自分のエネルギー（心理的熱量？）を発電放出させるように切り替えなさい。そしてそれを含めた総量を（新定義＝ニューノーマル）経済と呼びなさい。そうすれば破壊が減り、人間自身も元気になる」
と強く警告しているような気がしてなりません。
何処の国、どこの陣営などと悠長なことを言っている場合ではない！！そんなの地球上に生息する数多ある生物の中の「人目人科同士」の単なる内輪もめでしかなかろうが。猿山のボス争いでしかなかろうが。
そんなことを吐き捨てるようにして地球様が言っているような気がしてならないのです。

2020/9/5

（カッコつけなきゃ楽になる）

我が国国民の中にある最強位基底概念は、道徳でも倫理でも法律でもなく「美学・美意識」である。
一体何のことを言っているの？と思われる方も多いかと思います。
そこで、もう少し申し上げますと
「様式美」「型」「スタイル」
で、更に申し上げますと
「カッコ」（カッコいいか悪いか）です。
しかも、その「カッコよさ」の幅、範囲たるや極めて「狭く」「精緻」且つ「厳密」で、殆どオリンピックの超難度技、完璧美技実現レベルであり、そのターゲット幅を少しでも外れると「何の価値もない」無意味なものとして却下される極めて「峻烈峻厳」なものといえましょう（反対に言えば「カッコわるさ」の蔑み方が半端なく物すざましい）
なので、そう負いそれとは手を出せなくなってしまいます。しかもお互いがその出来不出来について監視し合うという「日常的監視網」に晒されているとすれば、益々の事となります。
少し話を元に戻しますと、この「様式美」のもたらす例として挙げられる物に、我が国の英語教育の過度に厳密な文法規則の適応やら儀式の重用、お役所における文書、書面、手続きの「何をおいても守るべきルーティン」等があります。
今コロナ禍に於いて、これらに頻繁に接する機会が増えると、この様式美に基づく、わが国民の几帳面さ、生真面目さ、丁寧さがいい加減いやになる時があります。
「ここまでやらないといけないのか！！」「何をそう儀式ばっているんだ？」「もっとラフにできないの？」
縦横斜め、上下左右すべてに矛盾無きよう整合性が取れて初めて「よし」とする「様式美重用癖」
外国人は様式美（フォーマル）をたまにはカッコいいと思いますが、ラフはラフで楽しんでしまうのに対して、我が国国民はフォーマルだと安心しますが、ラフとなるとむしろ不安や警戒心を抱いてしまうようです。
もっと言えば相手が自分に対してフォーマルに振舞うと納得し、ラフに振舞うと何か一つ下に見られた、粗雑に扱われた、いや馬鹿にされた、と侮蔑感を感じるようです。
となると、我が国国民自身が自然に抱くラフで型の整わないものは、自然とネグられ、その行き場を失い、水面下に潜ることになってしまいます。
ところが人間というものは、逆にその型の整わない自然なもの、つまり「本音本心」を知りたがるものなので、それを求めて「カッコよさの維持上」或いは「カッコ悪さの隠蔽上」表

立ってはできない探索行為、即ち「重層的裏読み行為、逆張り行為、気づかぬ振りのチラ見行為」が始まることになるようです
（これは譬えていえば各々の日常全てが、片や、自国（自分）の体裁、大義名分を繕いつつ、片や、相手の弱みに付け入るすきを虎視眈々と窺っている国際会議上での外交代表部全権責任者のようなもので、一瞬たりとも気の抜けない駆け引き（緊張）の連続となります）
そんなことを行住坐臥やっていては身が持ちません。なので、いっそのこと
「カッコなんかつけず、細かいこと、ぐちゃぐちゃ言わないで、大らかにラフも認めろよな!!」
と周りに言い放ってしまってはどうでしょう？
本来、それだけで済む話が、あれよ、あれよという間に「とんでもなく御大層」になってしまっているような気がします。
事業の成功にしても小さな物は其処かしこに数多あるのに「一代にして年商ウン千億」じゃないと成功とは認めない風土が、却って「起業しようという思い」の芽を無言のうちに摘んでしまっている様な気もしております。
蛇足ながら、ですが。

2020/9/6

（不得手克服に活路在りや？）

ずいぶん昔の記事で
「得意なことで成功するよりも、苦手を克服した時の喜びの方が遥かに大きい」
という意味のことを書いた記憶があります。
会社に入ったものの型に会わず上司からは
「お前に対する扱い方を変えなくちゃならんようだな」
と言われ、その後猛烈なパワハラに会ってうつ病になりました。
その大きな会社内でうつ病になり、その大組織内では、なかなか立ち直れずにい自分を見て親父が
「どうやら俺はお前の進路指導を間違えたようだな。好きにさせておけばよかったのかもしれない」
と言いました。
その後、長期罹患のうつ病が元で、奥さんと離婚した後で担当の精神科の医師が
「離婚にはいい離婚と悪い離婚があるが、あなたの場合は、いい離婚だったようだ」
と自分に個人的な感想を漏らしました。
であるなら、結論として「大きな会社などには鼻から入らず、自分なりの得意分野で生きていけばよかった」となるかといえば、そうとも言えない気がします。
むしろ自分の得手、得意分野とは全く正反対の「苦手、不得手」分野の中に身を置いた効用というものは、必ずあったような気がしております。
そうしてそれを克服（得解会得）した折の喜びの記憶が、今の自分の、矢鱈と難問にばかり挑みたがる「難問愛好家」の元になっているような気がしないでもありません。
もちろん自分の完全なる勘違いで「単なる自虐体質」というだけなのかもしれませんが。

2020/9/6

（単なるマゾ？かも）

ずいぶん昔の記事で
「得意なことで成功するよりも、苦手を克服した時の喜びの方が遥かに大きい」
という意味のことを書いた記憶があります。
会社に入ったものの型に会わず上司からは
「お前に対する扱い方を変えなくちゃならんようだな」
と言われ、その後猛烈なパワハラに会ってうつ病になりました。
その大きな会社内でうつ病になり、その大組織内では、なかなか立ち直れずにい自分を見て親父が
「どうやら俺はお前の進路指導を間違えたようだな。好きにさせておけばよかったのかもしれない」
と言いました。
その後、長期罹患のうつ病が元で、奥さんと離婚した後で担当の精神科の医師が
「離婚にはいい離婚と悪い離婚があるが、あなたの場合は、いい離婚だったようだ」
と自分に個人的な感想を漏らしました。
であるなら、結論として「大きな会社などには鼻から入らず、自分なりの得意分野で生きていけばよかった」となるかといえば、そうとも言えない気がします。
むしろ自分の得手、得意分野とは全く正反対の「苦手、不得手」分野の中に身を置いた効用というものは、必ずあったような気がしております。
そうしてそれを克服（得解会得）した折の喜びの記憶が、今の自分の、矢鱈と難問にばかり挑みたがる「難問愛好家」の元になっているような気がしないでもありません。
もちろん自分の完全なる勘違いで「単なるマゾ体質」というだけなのかもしれませんが。

2020/9/7

（痛切に）

若いころ読んだ本で、書かれた方がどなただったのか、はたまた何という題名の小説だったのかはまるで覚えておりませんが、ある末期がんを患った老夫が病院のベッドで、その痛みに耐えかねて嗚咽を漏らした時、その患者さんの年老いた奥さんが
「何も言わず黙ったまま、何度も何回も夫の背中をさすっていました。そうするよりほかに慰める（痛みを和らげる？）手立てがなかったのです（手立てを思いつかなかったのです？）」
というような一文がありました。
その一節を目にした折、それまで読んだ、どの本より、こころに「ずっしん」とくるような、深く、重たい感銘を受けました。
今日、不図、何故か、長らく忘れていたその一節を思い出して
「答えは見つからずとも、そのようなことが自然にできるひとになれたらいいなぁ」
と思いました。
自分に今一番欠けているものは「それだなぁ」と痛切に思いました。

追記）
本日より「うとＱブログ」改め「うとＱ世話し」に改名いたします。
理由は「何となく」でございます。

2020/9/8

（誤解覚悟で　その４）

以下にお話しするのは「アナクロ復活奨励話」ではなく「姿勢点検」のお話です。
本日も又、誤解覚悟で申し上げます。
「百聞は一見に如かず」
例えばネットで見る写真や動画も含めて「聞」と定義すると、ネットの情報はほぼ１００％が加工２次情報（引き回し）なので、それよりは自分の目や耳で確かめた身の回りの現実世界の１次情報「見」の方が、自分にとっての「オリジナル」を得る確率は遥かに高いという風にも解釈できそうです。
又
「習うより、慣れろ」の後半文言を
「習うより、盗め」と敢えて替えてみると
相手が自分に気づいて自席にやってくるのを待ち、何も言わずとも、痒い所に手が届く様なおまかせメニューで「習う」より、学習方法もわからないところからスタートし、相手の技量を観察によって盗み取って分解し、自分なりに原理原則を組立てて「自分最適解」を見出す方が、遥かに頭を使い、工夫や推理推論を凝らす分、深く身に付くことは想像に難くない気がします。
昔気質の職人は、確かに「意地の悪い一面」もあったかもしれませんが、多くの例を見たところ、それ以上に「どうやったら確実に、しかも相手本人の為に最適な形で伝承できるか？」を自身の体験から熟知していたのではないかなと想像しております。
まず相手が上であるという「謙虚さ」がなくてはならない。
次に「教えてくれぬなら、それでよし。それでも俺は」という「盗むほどの意欲」がなくては、ならない。
三番目には「盗んだものを分析し、推理推論を重ねて原理原則を発見する」観察眼と知恵がなくてはならない。
第四には「それを自分流にアレンジする柔軟さとオリジナリティ」がなくてはならない。
そして最後に何より
「盗んでやる」と「盗めるものなら盗んでみろ」の「真剣勝負」と、その実「速く盗め、俺が目の黒いうちに早く盗んでくれ。そしてもっと先に行ってくれ」の裏に隠された「慈愛」が人（後進）を育てたような気がしております。
席まで来て分かり易く教えてくれなきゃ、勉強なんかしてやんねぇ」というのに、言われるままに「のこのこ出向く」ようでは、教える側、教わる側も、相互の先が見えた、も同然のような気もしております。
以上を踏まえて
自耳自眼見聞（じじ、じがんけんぶん）に基づく「自主自発」での自自「考」「行」

即ち、個々人の既成概念、現常識からの「自主独立」
これからは、それが何より大切な気が致します。就中、コロナ禍の向こうの「ニューノーマル時代」においては。

2020/9/9

（なぜ自分の中に軸がないのか？いつの間に他人目線の中に軸が移ってしまったのか？ 答えは幼少期にあり？）

「何故、自分の中に軸がないのか？」
「いつの間に、他人目線の中に軸が移ってしまったのか？」
を、つらつら考えてみていたところ、何となく次の言葉達が浮かんできました。
曰く
「出る釘は打たれる」「壁に耳あり障子に目あり」「触らぬ神に祟りなし」「臭いものには蓋」
そうして、その最後の言葉からの連想で浮かんだ「極めつけ」は、幼少期の排便の躾の厳しさでした。
「何度言ったら分かるの!!おもらししちゃダメでしょ！！おもらししたらお母さんが恥をかくんだからね!!」
自分の背後から響くその声。その監視の目。
そうしてその核心は
「親が恥をかく」の「親の恥」の「恥」
もうこの段階で、子供は「恥」という最重要概念を教え込まされ「人の顔色、しかも最近親者の顔色すらも窺うようになってしまう」のではないか。
そうしてその後に、上記の言葉たちの順番を反対にすると
「臭いものには蓋」から始まり「触らぬ神に祟りなし」更に「壁に耳あり障子に目あり」と続いて最後に「出る釘は打たれる」から「見ざる言わざる聞かざる」となって沈黙してしまう。
即ち
「子供である自分に正当性はない。幼児期に於いて「見放されたら大変」になる親に殺生与奪の権限がある。つまり自分以外の他者目線の中に全ての権限がある」
と、無意識裡に教え込まれる。
想像してみてください
排便で失敗しないかどうかと緊張しまくっている、その後ろから「怖い親の目」に晒され、あたかも平均台の上を背後からナイフを突きつけられながら歩くような幼子の焦りや体の強張りを。
「親＝恥＝恐怖＝沈黙」
そうしてそれと引き換えに失うのが「自分の声＝自信」

結局「恥の元」である自分が「自分の声＝自信」を持つのは大きな間違いだから「出る釘は打たれる」ことにしかならないとなり「自信のなさ」と「沈黙」だけが残る。
つまり「自信のなさ」が「他人目線の中に自分の軸を明け渡している」
或いはその反対に「他人目線」が「自信を持つことを非難している」とも。
最後にこれらを別の言葉で纏めてみると
「親がマニュアル通りにできないことを恥じ、子も又マニュアル通りにできないことを恥じる」
そこに大元の原因があるような気がしております。
で、最後の疑問
「じゃぁ、マニュアルって何？」
手引き？定型？
又々ここでも、我が国固有の様式（美）？

2020/9/10

（夏休み頂戴のご連絡 ）

今の気分を一言で言うと
「もう、うんざり」
手垢にまみれたようなことを、毎日毎日見聞きさせられて「うんざり」
一つのことに１０から２０視点、あらゆる角度から事細かに「分析をして戴く」ことにいい加減「うんざり」
そうして、自分自身が書いていることも、その数多ある分析の一つであることに最も「うんざり」
自分も過多な分析の御先棒を担いで「事実汚し」に加担し「目くそ鼻糞を笑う」でしかないことに心底「うんざり」したので「目を少し遠くへやる」ために数日間、この「世話し」の夏休みを頂戴させていただきます。
突然の身勝手は重々承知しておりますが、本当に今の自分に「うんざり」しちゃったので。
ごめんなさい。

2020/9/13

（夏休みの宿題の…）

短い夏休みを終えて。
「勝ち組」「負け組」
「成功」だの「失敗」だの。
「成功の絶頂期」には、既に「失敗の最大要因」を孕んでいると以前に書きましたが、仮にそれが正しいとすると、死ぬ間際を「勝ち組」で「成功裡」に終えるという「タイミング合わせ」は非常に困難で、しかも稀な確率でしか実現しない気が致します。
そんな極めて稀にしか実現しない出来事を一生かけて注視し乍、神経を尖らせ、しかも、そこまでした挙句に、そのような事は滅多に生起しないという当たり前の事で、多くの人々を無駄に落胆させるだけの結果に終わる位なら、いっそのこと、
死ぬ間際になって
「まぁ、いろいろあったよな。成功もあったし失敗もあった。しかし兎に角いろいろはやって来た。いろいろやって来られて面白かった。それで十分楽しめた。これで充分だわ」
と言えるような「幅を持たせたしめくくり方」の方が「ふつうの人」である我々にとっては、いいような気がしてきました。
なので、これ以降は「こうやったら成功する」「これが唯一の正解」などというような「虚しい」ノウハウ開示記事等には一切手を出さず
「こんなことをしたら、こうなったよ」
という事（観察、実験報告）だけ書いていけばいいのかな？と思い始めました。
そうして、上記のような暮らし方を、もし仮に楽しみたくなったら、一つの方策として、これ（観察、実験報告）を手に取るか取らないかは皆様方や後世の方々次第。
いらなければ「どうぞお捨てくださいまし」
いるなら「どうぞご自由にお使いくださいませ」で。
それを自分の、この世への「置き土産」にしようかなとも、思い出しました。
以上、簡単ではございますが、短い夏休みの宿題（書く立ち位置）の「答えらしきもの」で御座います。

2020/9/13-2

(退屈しのぎの「オイタ」をひとつ)

退屈しのぎにチョットいいかも?という「オイタ」を思いつきました。
A「わたしは、本当は金目当てから」B「本文」C「と、保証等全くするつもりのないことを平気で言っております」
ネットや何かの広告の見出しタイトルBの前にAを、Bの後にCをくっつけると、その広告の正体が大体わかる遊びです。特に誇大広告にはてき面。
具体例を書くと問題になりそうなので、ご自分でお試しくださいませ。
他には上司が行っている言葉の前後に
A「私は自分可愛さに」B「上司の言葉」C「と、責任逃れの目くらましで言っております」
も同様。
偉そうにしている退職じいさんの言葉の前後に
A「私は肩書喪失で不安で仕方がないから」B「じいさんの言葉」C「と、虚勢を張って言っております」
も、これまた同じ
相手の話に対して何でも直ぐに相槌を打つママ友さんの言葉の前後に
A「私は、仲間外れにされると怖いので」B「ママ友さんの言葉」C「と、何も耳に貼っていないけれど、取り敢えず場しのぎに、言っているだけです」
最後に「見て見ぬ振り、気づかぬ振り」をしながらその実、興味津々のスパイ活動。その根拠として「自分はただでさえ、みんなの注目の的」だからワザと身を隠してそうしているの、と本気で思っているおばちゃんの言葉の前後に
A「私は、女優レベルだから」B「おばちゃんの言葉」C「と、言ってもおかしくはないわよね？」
これを充て嵌めてみて、スムースに流れれば、相手の正体は「それである」「そうでしかない」と大体分かります。
（但し、最後の例だけは、文章が「破綻したら、正体がばれる」という反対評価になっておりますので、ご注意を）
自分としては結構面白かったので、お暇なときにでも、やってみてはいかがでしょう。
（注）全部覚えるのが大変でしたら、Cは全て「と、言っております」に統一すると楽でしょう。

2020/9/13-3

（諺「オイタ」）

本日、二つ目の「オイタ」
諺「オイタ」を思いつきました。
例えば
「泣きっ面に蜂」を「上っ面で恥」
（見てくればかりの知ったかぶりで恥をかく、の意）とか。
「着膨れ（きぶくれ）」を「名膨れ（なぶくれ）」
（中身なしで肩書ばかり膨れる、の意）とか。
「意あれば通ず」を「胃あれば通ず」
（胃腸の働きが活発になればお通じが出易い、の意）とか。
それからの連想で
「憤懣やるかたなし」を「糞便跡形もなし」
（お通じがあれば、腸内に糞便は跡形もなくなる、の意）とか。
「大は小を兼ねる」を「堕意は省を金る」
（お役人さんの堕落した意思は省のお金をカモる）とか
ちょっと「いかにも」のありふれた言い方ですけど。
こうやると結構遊べます。
では、本日分の最後として
「植木等（うえきひとし）」を「無益に等し」
（外見を繕うばかりのことは、すべて無益に等しい、の意）
そしてオマケで
「笑う門には福来る」は、そのまま、
か
「笑う門には不苦、来る」
おそまつさま。

2020/9/14

（交流三種の神器とその使い方（案））

何よりも気になるのは外国人従業員の事でございます。
以下。
外国人と話をしたり仕事をしたりする上で、もっと一纏めにいうとコミュニケーション（意思疎通、交流）をする上で一番有効なのは、自分の経験則上「数字」「図表」「フロー（流れ）図」を使う事です。
いずれも言ってみれば世界共通言語になり易く、下手をすると宇宙共通言語としても使えそうなものです。これを一言で言うと
「ビジュアライズ（見える化）」
言いたい事、伝えたい事をこの３つに置き換えて、自分の店の場合は外国人従業員に黒板に板書を毎日行いました。
しかし、その折大切だと思えた事は、いきなり結論の数字、図表、フロー図を見せる（ビジュアライズする）のではなく、紙芝居（紙めくり）方式で順々に組合せながら書いていく事でした。
但し黒板は紙めくりには向いていないので、説明や時間の経過を追うに従って順々に書き足していき、最後に
「しやからこうなるやし？」
というやり方を行いました。
これは、説明者側がこの方法に辿り着くのに可成の時間を要しましたが、急がば回れで、最近では意思伝達が max 5 分以内にほぼ 90%出来るようになっております。
一方我が国の大きな企業やお役所の文化は、是とは全く異なる「書き文字文化」「書面による通達文化」が大半です。ネット時代でも紙タイプ文字がスクリーン上の電子文字に替わっただけで、実質は何も変わっていない様です。
「書面で通達（通知）を出しただろ。だからちゃんと読んで、読んだら直ぐにやっておきなさい。だって通知を既にちゃんと出してあるのだから」
と一方的な場合が多いようです。
これは、発信元が楽な分、受け手は相当なる負担を負う事になります。
ですので、受け手である漢字を含んだ文章を「解読できない絶望的気分」になっている在日外国人にとっては、ほぼ致命的な事態を招いて仕舞う事にもなりかねません。
現場に立つ者としては、この点をかなり憂慮して居る次第。
「ここは日本なんやから、それに従うのは当たり前やし」
というのは簡単ですが、それでは交流をする上で、又は交流のロス、非効率非効果を抑える上で何の役にも立たない気が致しております。

コロナ禍後こそ「我が国の主流民族」である我々が一歩下がって「耳を傾ける謙虚さを持つ」必要があるのではないのかな？とおもっております。

2020/9/14-2

（たったそれだけの事で、セミナーまでするの？）

ネット上では「成功法則伝授のセミナー」のような意味のタイトルを冠した講習会が、たくさん見つかります。
砂山の砂、満天の星空の星を数える位、うんざりする程の数。
でもこれは、何も講習会を、お金まで取って開催する程の量でも技術でもない気がします。
とても簡単。
ならば、成功の法則って何よ？言ってみんしゃい。
「成功するまでやり続ける。つまり諦めない事」
そして
「成功したら、その成功法則が全く当てはまらない完全に別な分野に一からトライする事」
この二つを何があっても、ブレずに、維持し続ける事、だけでしょう、肝は。
（注：現実問題としては、その前に、そこまで続けるための資金調達をどうやってするか？その際に貸し手を納得させるビジョンと、それを何度転んでも次の手を繰り出せるだけの数限りないアイデアと自分の人格的信用力をどう産みだし、どう示せるか？があります）
なので、上記一切を含めて、A4 一枚で済んでしまいますから、お金を取って迄、長時間の講習会など開く必要は更々ないと思うのですが。
どうでしょう？
嫌味かな？
もう法則、ここに、タダで書いちゃったし。

2020/9/16

（「うんざり」から「自分の中に軸がない」を経て「ニューノーマル考」迄）

「うんざり」
という言葉を英語に置き換えると「too much enough」
それを今度は日本語に再度置き換えなおすと「あまりに十分すぎる（で、うんざり）」
要するに「多すぎる」「し過ぎ」「在り過ぎ」「過多」「飽和以上」という事です。
度重なる失敗や繰り返される不具合、不都合の感覚よりも、不必要なもの、余計な物、しなくてもいいようなものが多過ぎる感覚の方が近い気がします。
或いはもっと日常の一コマ的に言うと
「毎日同じメニューが出てくる」「どのチャンネルに切り替えても同じ番組をやっている」
という「繰り返し」と「代わり映えの無さ」
更にこれを絵画的に表してみると
「一本立ちした木が、多くの蔦に絡まれて身動きできなくなっている絵」
要するに「がんじがらめ」
いい加減やめたいのに、止められない、というより抜け出せない。
悪路のぬかるみに嵌ったジープがいくらエンジンをふかして車輪を全力で高速回転させても「空回り」ばかりして抜け出せないのはおろか、逆に益々深みに嵌ってしまう「苛立ち」と「徒労感」
即ち「閉塞」
「なんで自分は必要のない虚勢ばかり張っているんだろう」という、気が付くと既にやってしまっている虚しい反射神経に実は「うんざり」
「なんで自分は人に合わせて意味のない相槌ばかりうっているんだろう」という陽炎の様な当たり障りの無さに実は「うんざり」
「なんで自分は人の目線に脅されて、黙ってみて見ぬ振り、無関心を装って逃げてばかりいるんだろう」そんな自分の十重二十重の事細かすぎる過剰防衛に実は最もうんざり。
それで
「自分の中に軸がない。他人の目線の中に軸がある。これでは人生辛かろう」
となり、逆に今回のコロナ禍で、その辺の「がんじがらめ」に穴が開かないか？縛りが解けないか？換言すれば「ニューな変化が起きないか」を無意識世界で内心密かに期待している
それが
「ニューノーマル考」
まで、多くの方々に拙記事を読んでいただいた理由？

実は、上記の「うんざり」「自分の中に軸がない云々」「ニューノーマル考」は直近の自分の記事の中で、断トツのご購読数を戴いた記事の略式タイトルの抜粋綴りでした。
それを俯瞰してみて、何となく以上のような事を想像致しましたので、ご報告がてら、本日は感想ベースの推論を記してみました。

2020/9/16-2

（お客様がおっしゃるので…）

お店のお客様のおひとりが、弊社の企業理念を皆さんにご紹介したらどうですか？と盛んにおっしゃるので、お言葉に甘えて以下、ご紹介させて戴きます。

企業理念：さくこら（corporation concept “sakukora”）

名前の由来は「コラボすればお互いに桜のように満開の花が咲く」から来ています。
「さくら咲くコラボレーション」を短くして「さくこら」

争いが消えないのはなぜ？
それは一人一人に「差がある」からです。その差を認め合わずに否定するからです。
差をなくせば争いは消えますが、差がなければどっちを向いてもみな同じ。街を歩いていておんなじ顔の人ばかりぞろぞろやって来れば気持ち悪いでしょう？新しい発見がなくてつまらないでしょう？
お互いの差を差として認め、受け容れて、その差を活かし合う。悪いところは直し合う。それがコラボ。
木の枝はまんべんなく四方八方に伸びます。それが一方向ばかりに伸びて、混み合ったらお互いの枝が邪魔をして日差しが足りずに木の枝は枯れてしまします。四方八方に伸びるからまんべんなく日が当たって生き延びられるのです。混み合わないから争いも減ります。その四方八方を許すのもコラボ。

「さくらさく」は合格通知の電文文言。ただし、受験ではなくて、命が目いっぱい花開くという意味です。花が咲いて実がなって、それが地面に落ちてまた芽が出る。そういう循環、エコサイクルをも意味しています。

あと、事業体（チーム）を意味する、こらぼ社の「社」は会社の社ではなくて「やしろ」の意味です。お祭りの行われる場所がやしろ。集まる人は社員ではなくて「社中」
さくら踊りなどを踊るひとを社員とは呼びませんよね。社中と呼ぶでしょう？あれです。

主に社会人になる前、あるいはなりたての若い方と仕事を退職された方、それと今の社会に何となくつかれていらっしゃる方や、日本に住んでいていろいろご苦労をされている外国の方々を結んでそれぞれを活かし合う場になれればいいなと思っています。

2017/4/6 策定
2020/9/16 一部文言改訂

2020/9/17

（お客さまのアドバイスから）

あるお客様から
「いつ会っても「ゲンキ？」って同じ事ばかり訊く。新しい展開が何もない。そんなワンパターンばかりじゃ、つまらんでしょう？来る身にしてみれば」
と言われ、同じ言葉の中に微妙な違いを読み取る事にいつの間にか長けてしまっていた自分の「お客様との乖離」に気づき、早速、休憩時間の内、１５分だけを使って、外国人従業員に再度の日本語教室を始めました。
「お客さんはお前たちと話したがっている。もっと日本語がたくさんしゃべれるようになれば、売上ももっと上がる。喋れないとどんどん下がる。だからまた始めるぞ」
実は昨日がその第一回目の授業でした。
で、再開するにあたっていろいろ考えた挙句に、前回の日本語教室が定着しなかった反省を踏まえて、言葉数よりもコミュニケーション優先、スキル（技量）よりも heart touching（心に触れる）優先で行こうと思いました。
それで
第一に「言葉数はそんなに急には増えない。増えない分、表情とアクション（振舞い動作）で補え」
第二に「ゲンキ？ばかりじゃだめだ。平均より気分が上な時はゲンキ？と訊いてもいいが、平均より下の時は、却って uncomfortable（不快に）感じられてしまう。そういう時は、ダイジョウブデスカ？と訊け。これがワンパターンから逃れる手だ。
アツイ！！だけではダメ。外アツイ。タイヘンね。とか、外アツイから、気を付けてくださいね、をくっつける。くっつける言葉くらいはちゃんと覚えろ」
第三は「要するに、お客さんのことを心配して上げなさい。気遣ってあげなさい。それを言葉と表情と動作で示しなさい。そうしたら good communication ができる。お客さんもスタッフもみんな嬉しくなる。お金もガッポガッポ入る」
そして最後に「ハートを使え。機械や AI には真似のできない、人間だけにしかできないことをやれ。コストダウン効率一点張りの無人店舗の反対をやれ。非効率極まりない十人十色の人海戦術１００％だ。時流とは正反対のことをやれ。それをメインにアナ・デジでやる。それが我々の生き残る唯一の道だ。忘れるな」
話しを終えたとき、スタッフたちの目に前回とは違う、驚き半分、納得半分＋なんか面白そうだ、の色合いが浮かんだのが見え
「やっぱりこれしかないようだな」
と進む方向の肚を決めました。

2020/9/17-2

（（続)お客さまのアドバイスから「遣ったもの勝ち」）

コミュニケーション優先、heart touching（心に触れる）優先。
と前回書いた後で、不図ある逆転の発想を思いつきました。
「何も日本語を教えるのに、先生が日本人である必要はないな。反対に外国人が先生で、先生の国の言葉を教える。その際についでに日本語も覚えてもらう」
例えば、
お客様がお店に入ってこられた折に、外国人（直近の場合はネパール人）スタッフがお客様を席に案内しますが、その席をスタッフがお客様に手で示す時に
「どうぞ。どうぞはネパール語でクリパヤと言います。覚えてください」
と一会話する。
或いは反対に、お客様がコップの中のお酒を指して、
「じゃ、これはネパール語でなんて言うの？お酒は？」
「ラクシ」
するとネパール人は「お酒」という日本語を覚え、お客様は「ラクシ」というネパール語を覚えられる。
そう持ち掛ければ、お互いがお互いに先生であり生徒にもなる。そして、会話も弾む。
その前に、外の宣伝用黒板に「本日のネパール語」というのを日替わりで書き出してみるのも面白そうだ。
例えば
「本日のネパール語は、ミト。
日本語で、おいしい」
とか。
お客様に覚えてほしい単語（ネパール語）や、自分が覚えたい単語（日本語）を毎日考えてもらうことで、学習に興味を持ってもらうこともできそうだ。
スタッフも、単純だけれど毎日変化があるので、案外素直に面白がるかもしれない。
こんな風に考えると、なんかいろいろ発想が湧いてきて、自分自身も楽しくなってきました。
肝心要は、当のお客様がどう感じるか？
興味がわくのか、それとも煩わしく感じるのか？
しかし、結果はどうあれ、興味半分、実利半分ながら、何もしないよりはなんぼかマシ。
取り敢えず、何はさておき、試してみるだけの価値はありそうです。

上手くいけば、スタッフの遣り甲斐アップ、会社はコスト上積みゼロで固定費吸収力もアップ、で、尚且つ販促費ゼロで売上もアップ。
そして何より、お客様自身が追加料金ゼロで”1 hour happy time”を楽しめる三方両得。
はて、さて、本当にそうなるのか？
これはもう、試してみるしかないでしょう。なにせ、やったもの勝ちですから。

2020/9/17-4

（待ったなし!!）加筆版

「AI、デジタル」に取り残され「英語」に取り残され、基礎学問である「数学、物理」で後れを取り、自発性、活発性のバロメーターである「起業意欲」で主要 62 カ国中最下位を拝し、気が付けば「いつか来た道」で「あぁ、そういえばそんな国、在ったみたいね」
と後代から言われることになりかねない状況が、今の我が国のような気がしないでもありません。
物事の道理としてある「適者生存に向けた不断の努力、革新を行わなければ、それまで大きかろうと強かろうと、長く続いていようとそれ迄は滅びたことが無かろうと、適さなくなれば一つの例外もなく、あっという間に没落滅亡してしまう」という極めて単純な歴史上の道理を忘れているような。
「万世一系」はともかくとして「神代の時代から続く紀元２６００年だか２７００年で世界歴代最長存続国家。絶対不滅の国と国民」という、これまでは確かにそうだった過去の遺産を、皆が無意識に安心の根拠にして、既に許容限度枠とその残された時間限度枠を超えてしまっているにも拘らず、あたかも「胡蝶の夢」が如く、実際には存在しない架空の「安寧安逸を貪っている」気が時折しております。
それこそいかにも「公平、平等に」あらゆる立場の人々が「我が国と国民は何があっても潰れっこない。だって特別な存在だから。
今までだって何度も潰れそうで潰れなかったし、いざとなったらまた元寇以来の神風だって吹くだろし」と、無意識裡にタカをくくっているか、
それよりは一歩進んで、意識野で気づいてはいても
「いいの。後代の事なんか。このまま眠らせておいて」と現実直視の苦しさや革新の困難、多大な努力から目を背けて「見て見ぬ振り」を敢えてしているか。
思うに前者の道理は、後者の現時点までの事象より遥かに強力で普遍的です。
そろそろ、この強弱大小関係を「認識のまな板」や「正視のまな板」の上に持ち出して、自覚的にスイッチを切り替えないと後者（我が国とわが国民）はいとも簡単に前者（歴史上の道理）に飲み込まれ、憂うる間も無く「過去に存在した歴史上の国家、国民」（卑近な言い方をすれば「置いてきぼり」「落ちこぼれ」国家、国民）になってしまいそうな気がして、最近少しジジイの寝覚めが悪くなっております。
ニューノーマルの発見、獲得は我々と後代の為にも「待ったなし」
一刻の猶予も許さないところにあるや、に思われます。

2020/9/18

（（続々）お客さまのアドバイスから「新しい授業形態」）

「今日から昨日までの日本語の授業は止める。替わって語学の授業をする」
そういってナマステ別館堂に集まった外国人従業員の前で、黒板に板書してあった「Japanese language lesson」の「Japanese」を消して「Language lesson」だけにしました。
そしてその下に矢印で引き出して「communication」と書きました。
当然三人とも怪訝な顔つきをしました。
「何のことだかさっぱり分からない」
で、そこから説明を。
「いつも自分が先生だった。いつもみんなが生徒だった。それでいつも自分がみんなにプレッシャーばかり与えていた。それでは面白くないだろう？」
みんな何のことか分からない也にも「なんだ？なんだ？」と身を乗り出してきました。
「だから今日から、時にはみんながネパール語やパキスタン語の先生になってボスの自分に教え、時には自分が反対に日本語を教える。替わり番子にするのや」
で更に
「それを今度はお客様とみんなでもやってもらう。お店で」
更に
「席に案内して日本語で「どうぞ」といった後に「ネパール語ではクリパヤと言います」というのやで。うるさいと思う人もおるが、興味を示す人もおる。興味を持ってもらったらみっけもんや」
この辺からみんな身を乗り出してきました。
「サインボードの店頭黒板には「今日のネパール語」を毎日日替わりで書くんや。何を書くかはみんなで相談しよか」

そのうち笑顔がこぼれてきました。
「アイデア、アイデア、オモシロイ」
という訳で、本日から新しいコミュニケーション授業と実践を開始いたします。
追記）
しかし、よくよく考えてみたら、元々３年前に現在のナマステ別館堂で開講していた「すすき野留学」の「カリーを食べながら英語も学んじゃおう。へたっぴぃ同士で教えっこし合おう」に、英語をネパール語に差し替えて、周回遅れで戻ってきた（辿り着いた）だけでした。
それに気づくのに、なんと遠回りをしたことか。
我ながらホンマ、情っさけなぁ。

2020/9/19

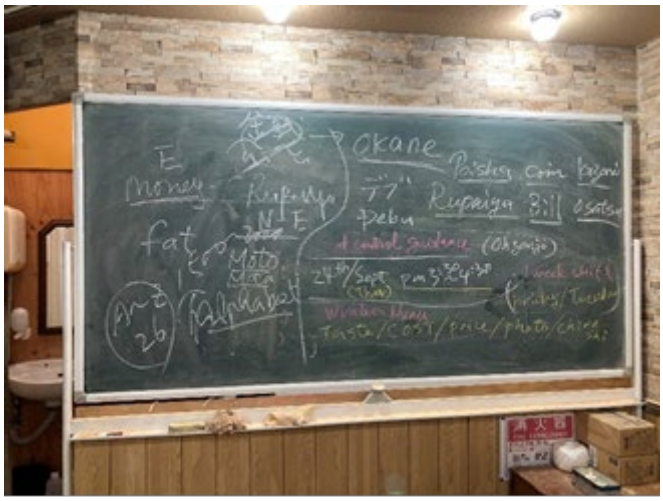
（幾ばくかの救い）

「とにかく書類が多い」
コロナ禍で大きな打撃を受け、その中での生き残り策の策定や実行で忙しくて仕方がないのに、詩人の立原道造作の「丸の内ビル？」の一節ではありませんが
「出てくるわ、出てくるわ、どんどんどんどん出てくるわ」恭（うやうや）しく整えられた書類提出依頼の数々。
何で我が国は、こんな状況下に於いてすら、官民を問わずこれほどしゃっちょこばった書類の提出が多いのか？
自分の推測では、恐らく「様式美愛＋威厳誇示＋慣行という惰性」からではないかと。
それでも日本人の自分はまだ慣れと耐性があるからいいのですが、在日就労外国人にとっては、この「漢字交じりの紙爆弾」による「昼夜を問わない十重二十重の爆撃」には「諦観マスク」装着以外にない様子。
それだけならまだしも、たまにはちょっとした事件になる場合も。
当店の例で言えば、従業員の前の勤め先での「住民税未納の督促」やら「給与差し押さえ通告」が突如、新規雇用主である自分の元にある日突然舞い込んで来たﾘ。
びっくりして当人や督促元、通告元に慌てて聞いて回ると、２例中２例とも「支払い契約」やら「未納請求」の漢字が読めないために、何が来たのかも拘らず、且つまた相談する日本人もいないためにほったらかしになってしまったままでした。
自分の店では従業員に「来た書類は一切捨てずに自分の処に持って来るよう」指示をしてあるのですが、そうでなかった場合、上記のような事態になってしまう訳です。
当人達にとってみれば「払う意思がない」訳でもなく「逃げている訳でもない」のに、ある日突然「罪人扱い」の文書がやってくる。しかもそれすらも分からないままに、土壇場詰まって事態が分かり、雇い主のこちらも四苦八苦。
日本人の自分ですら内容が複雑すぎて理解に困る程の内容とちょっとの違いで何度も何度も送付されてくる、その数の多さ。
当然彼らには全く分かる筈もない訳で。
だったら「日本語を習ってから来い」
とおっしゃるかもしれませんが、それを故国でできるのはお金持ちだけです。働きに来ているアジア系就労者の大半は貧しいから出稼ぎ、故国送金をしに来日しているのです。
そのような事もあって自分は自らの経験則から、その電話をかけてきた主に
「文書はせめて英語でも出して下さい。英語も分からないアジア系外国人には、漢字交じりの日本語文を全てローマ字表記文で書いて出してやって下さい。
例えば「住民税」なら「juumin-zei」と表記すれば、これは「tax（税）」の話だと直ぐに分かりますから。

彼らは日本語を音で覚えている場合が多いので、発音記号代わりのローマ字文を見れば、漢字交じり日本語や「文法的に正しい」英語なんかより遥かに分かりますので」
（もし、これが実現できれば、国は税収が増え、在日外国人は不要なリスクから少なからず逃れられ、日本人雇用主は相当量の手間が省ける、の三方両得）
でも、この電話の方はとても理解のある方で
「そういう現実があったんですか。全く想像もしていませんでした。少し検討をしてみます。上にもあげてみます」
それを聞いて自分は、そういう若いお役人さんがまだいらっしゃることに幾ばくかの救いを感じました。
頑張って欲しいものです。

2020/9/19-2

（新授業法実践 当店流ニューノーマル語の誕生）書庫版



一昨日考えた新授業方針と直前に書いた記事「幾ばくかの救い」の内容に従って、本日は早速それを教室で実践してみました。
まず、外国人従業員のひとりを黒板の前に立たせて先生にしました。
当人は、思いもよらぬ事態に（昨日説明したにも拘らず、本当に翌日からやるとは思ってもみなかったようです）
「えぇっ！？ワタシ、ナニスル？？？ワカラナイナ！！」
と大慌て。
「お前ら、先生、うるさい、うるさい、言うが、ここにスタンド（立つ）するのが大変なの、分かったに、あん？」
そういって無理やり押し切って従業員を立たせたまま、今度は自分が椅子に座って
「今日はワシが生徒や。質問するで！！えぇか？」
「ナニ、ナニ、ナニ、ナンヤネン？」
「ティーチャー（teacher）教えて、ネパール語でお金（金銭）ってなんていうのや？」
「オカネ？」
「英語の money のこっちゃ」
「オカネは、ポイシャ（と訳の分からないネパール文字で書きました）」
「じゃぁ、税金は？英語の Tax のことや」
「カル（同じく訳の分からないネパール文字で書きました）」
「さよか」
で、そこまで来て今度は自分が

「英語で money。日本語でお金、金銭。ネパール語で poisha(実際にはネパール文字板書)。
　税金は英語で tax。日本語で zeikin。ネパール語で kal(bill,vat)（同様板書）
どや、これやと英語アルファベット文字２６、ネパール文字３６、日本語のひらがな、カタカナ、当用漢字含めて２０００文字位。タイヘンやし？特に日本語の漢字。
せやけど、これを全部アルファベット２６文字で書いたらどうなる？
Tax, zeikin, kal(bill, vat)
アルファベット２６文字だけで３か国語全部書けるやし？あん？
ワシが三つのうちどれか書いて、お前がそのうちどれか分かれば話簡単に通じるやし？それにこうやればお互いに３か国語いっぺんにおぼえられるし。
しやから今日からは、ワシは日本語、全部アルファベット２６文字で書くで。
漢字は全く使わんから安心しぃや。みんなもネパール語、パキスタン語、アルファベットで書きや」
当人以外、他のスタッフからも一種のどよめきのようなものがあがりました。
ここに「当店流ニューノーマル語」が出来上がりましたが、逆に言うと、彼らはそれ程、日本語、特に漢字に苦しめられていたという事なのだろうと理解致しました。
追記）
スタッフから最後に注釈。
Poisha　は coin, kozeni のことで、osatsu, bills は rupaiya だそうです。ご参考迄。

2020/9/20

（「矛盾」のその先？）

例えば、半球ドーム形の殻に閉じこもっていると、そのうちドーム形の殻の中の酸素が欠乏して、息苦しくなり、それを放っておくと、最後には即身仏になってしまいます。
それでは大変と、意を決し、自分を覆っているドーム形の殻を跳ね上げて、外気の中に出てみると、子宮内のように温かく静かだった環境とは大違いの激変。
それで慌てて盾（たて）や鎧で身を包む。
処が鎧はともかく盾は「矛盾」の原義となった言葉の片割れ。
自分の盾が世界で一番堅牢だと言い張ると、相手は自分の矛（ほこ）が世界で一番鋭利だといいはり、お互い一番争いを始めますが、そもそもが「同一地点（一番という地点）に二物は存在しえない」という物理法則上の、それこそ「矛盾」の極み。
となれば、相手を排除するしかなくなり争いが始まる。
であるなら、更にさらさら、殻の外に出た勇気をもっと推し進めて、お互いに自分からの武装解除、盾も矛も鎧も脱ぎ捨て、後は言葉でお互い「和睦」し「相互受容」の元「相互協力する」のがよろしいかと、
思う次第でございます。

2020/9/21

（ニューノーマル探しの取っかかり方）

ニューノーマル（新常態）という前に、そもそも「常態」とは何かといえば
「これが自分にとっての当たり前（フツ―）」と言い換えられるとすると、ニューノーマル（新常態）というのは、取りも直さず
「その人にとっての新たな当たり前（フツ―）」という事になります。
つまり、ニューノーマルの発見、獲得、確立にあたってまず必要なのが
「今ある当たり前（フツ―）、今の生活（行動パターン）の総ざらい、総点検」
そしてそこから深堀を始めて、次はその生活（行動パターン）に箍（たが）や枠や型を嵌めて縛っている「自分の意識、認識や価値観」（属している社会の価値観であっても、それを受け入れているのが自分だとすると、自分が属する、その社会の価値観も含めて）の把握。
そのために有効なのが「今を自問自答」し続ける事。
曰く
「それって、なんで？それって、どうして？それって、ほんとに、ほんとに、ほんと？」
を何度も何度も繰り返し尋ね続ける。
よろしければ、一度お試しくださいませ。

2020/9/21-2

(想像するに余りある)

「想像するに余りある」
相手の苦悩、苦境、苦渋、困難、悲痛な状況や立場、身の上。
この「想像するに余りある」の「想像力」が欠けていた場合、どうなるか？
例えば、「想像力という能力」ではなく、想像するだけの「経験数、経験幅」を持っていない、想像する元となる「周囲への観察の蓄積」がない、想像力を働かせる前に常にそれに先んじて「正解や対処ノウハウ」を与えられてばかりいる。例えばマニュアル。
なんか４行目以降の部分は、何処かでよく見る風景ではないでしょうか。
経験数や幅については、過度の安全安心指向から「危ないことや冒険」はその安全が１００％保証されない限りさせないとか、周囲への無関心や視界の狭さは「歩きスマホ」のことを指している様にも見えますし、最後の一例は「時間制限内」という縛りから、自分なりに或いは深く考える時間をまず省いていきなり解き方や効率的な覚え方をすぐさま伝授する学校や会社研修の姿に見えませんでしょうか？
これでは、相手を思いやり、慮って（おもんぱかって）、その苦悩、苦境、苦渋、困難、悲痛な状況や立場、身の上をわが身の事として受け止め、それをその時に「自分の想像力で想像してみようと最大限努力しても」それに及ばず、ついには
「想像するに余りある」
と言わしめるような若い人を育成することなど、言動（理念）と実際（社会システム、風潮）が正反対の様な今、出来ようはずもないと思うのですが。
どうなのでしょう。
若い人は混乱するばかりだと思います。
それこそ若い人の混乱は「想像するに余り」あります。

2020/9/22

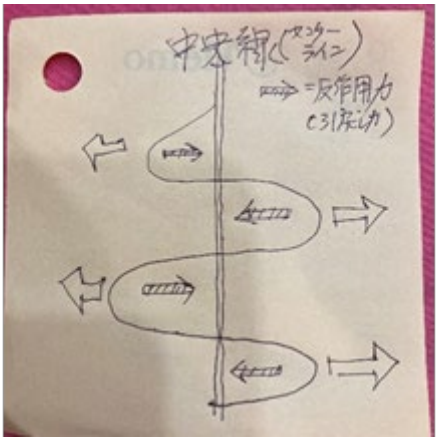
（推論「我が国の執拗な様式美の源流」）

今日はちょっとした思い付きの仮説のお話し。
昔々のその昔、自分がロシア文学科の学生だったころ、ロシア語の勉強で、1か月ほど大陸で過ごし、日本に帰国した折に、我が国の自然を見て
「なんか、ずいぶんこじんまりしているな（なんかちょっと物足りない」」
と思った記憶があります。
大陸の荒々しさに対して、いわゆる「とても箱庭的」とでもいいましょうか。
今日のお話は、そこからの連想ですが
「荒々しい自然相手に闘ってきて、当時繋がっていた陸地伝いに、この地に渡来してきた我が国の祖先たちは、この自然を見て、それまでの荒々しい自然との闘いに費やしていた膨大なエネルギーの使い道に戸惑い、この地が大陸から切り離されて後、その物足りなさを鋭角的に変容させて「箱庭的自然」の中に見出される「こじんまりさ」を「精緻さ」「精巧さ」「様式美」に昇華。
そしてその行き場を失った等価エネルギーが、昇華されて「精神的ソウルフード」にまで高まった「美学美意識」に注ぎ込まれるようになったのではないだろうか？」
と、不図想像致しました。
世界でも類を見ない我が国の、ともすると現在、国民自身を苦しめ始めているようにも思える過重過ぎる「精緻さ」「精巧さ」「様式美」への執拗なこだわりは、この辺に源流があるのではないかなという気が致しましたので、本日はニューノーマルの探索がてら、ちょっとそんな推論を立ててみました。

2020/9/23

（誤解覚悟で　その５　混同してしまったがために）

書庫版



こどもや後輩や部下を教育するのに使うある種の「荒療治」に「愛のムチ」などとしゃれた表現を使おうとするから焦点がぼけてしまいます。
はっきり
「愛の往復ビンタ」とか「愛のげんこつ」「愛の、怒鳴りつけ」とか言えばいいのに。
こんな乱暴なことを書くと早速「暴力主義者」「暴力積極論者」「暴力礼賛主義者」
等と言われそうですし、そういわれることを恐れて黙ってしまう場合も多いかと思います。
しかし、多くの人が自らの経験則に照らし合わせて内心では「確かに、その方が有効な場合もあるよな」と思うこともあるかと思います。
例外的に発せられる「強烈な教育的警告又は指導」即ち相手を育てるために「叱る」行為としてなら。
（因みに暴力は「叱る」にある「相手を育てる」意味合いのまるでない、自分の「怒り」の一方的な「吐き捨て」のことです）
しかしそんなことは口が裂けても言えない。
「暴力」という言葉は「戦争」や「反社会組織」や「家庭内のそれ」を連想させ、それが元で、碌に「現象と意図」の切り分け為の個別精査もせず、十把一からげにされて上記３つの内のどれかのレッテルを貼られてしまうから。
ここに精査不足による思考の飛躍とそれに気づかぬ早すぎる結論、即ち「混同」があるように思います。
ではその「混同」とは何なのか？
「暴力によってしか解決しない」「いかなる状況下に於いても暴力使用」

これが上記の「暴力主義者」「暴力積極論者」「暴力礼賛主義者」の定義とします。
例えばいかなる状況であっても「常に右が正しい」というのが右翼と例えると分かり易いかもしれません。或いはその反対。
ならば、世の中が過度に右傾化した時に左方向に引っ張る、又は過度に左傾化した時に右方向に引き戻すなど、行き過ぎを是正し中央線に戻す「均衡目的の反作用力」は上述のたとえ話に出てくる右翼や左翼とは全く別物です。
だとするなら先の例の暴力の話も
「言葉による説得が全く無理な場合」や
「時間的余裕が全くない場合」或いは
「有効なインパクト目的でショックによる強力な視野切り替えを促す場合」などに限って相手の過度の油断、即ち
「どうせ、言葉だけだ。聞いたふりをしておこう」
を中央ライン（聞く耳を持たせる）に戻す「均衡目的の反作用力」としてはあるような気がします。
（もし、時間の経過とともに一部是認した均衡目的の反作用力が行き過ぎれば、今度は再び逆に「反作用力の反作用方向（反の反で順方向）」に切り替え戻すわけです。常に同じ方向に進むのではなく、順反をコントロールするわけです）
しかしこの「常に暴力」と「均衡（引き戻し）の為の一時的反作用力」を区別せず、ごっちゃごちゃ、に混同して、精査も碌にせず、思考の飛躍と早すぎる結論を出してしまったために、若い人に舐められても黙るしかなくなり、ひいては見て見ぬ振りをする大人ばかりになってしまい、その結果、若い人は益々大人をなめてかかるようになってしまった様な気もします。
「だれも止めないし誰も叱らない。だから何がいいのか悪いのかよくわからない」まま育ち、大人たちはその前で意思の不疎通から生じる不安、恐怖と身構えにより、益々沈黙し元気をなくす。
そしてタダ見て見ぬ振りとご機嫌取りや、その反対に切れて「本当の暴力」を振るうようになる。
簡単に言えば「止めどない悪循環」が、この切り分けをしないままの手抜きによる「十把一絡げの混同」により起こっているような気がしております。

2020/9/24

（本日の観察スケッチ 早くそこから）

「形（型）を重んじる」の型（又は形）をカッコに置き換えると
「カッコをつけたがる」に変形し、更にカッコを殻に置き換えると
「直ぐに殻の中に引き籠ってしまう」にもなります。
これが我が国の若い人の傾向。
困難や意見の違いに会うと直ぐに「殻という固い型（形）」の中に逃げ込んでしまう。
或いは「マニュアルという型（形）」にばかり頼ってしまう。
では
「カッコをつけたがる」以下の変形を肩書に置き換えると
「肩書、命になり易い」
が今の我が国の年配者の傾向。
退職でそれを失った途端、おろおろガタガタ.
それを隠しに虚勢という「虚しい型（形）」で誤魔化す。
要するに我が国は型、形、様式の世界。
それ（美意識過多の価値観）が国民諸氏の苦しみの大元であるような気がしないでもありません。
「早くそこから解放されないと」
ニューノーマルへ行くには。
以上、
本日の観察スケッチでございました。

2020/9/24-3

（本日の観察スケッチ　その３　あれから 15 年、遍路は続くよ何処までも）

15 年前、それまでの 12 年間の抑うつ状態をようやく脱し、それでもまだ、再びぶり返すのではないかという不安を抱きながら、この先自分は
「どうなるのだろう」
「どうすれば再びあの地獄のような日々に戻らなくて済むだろう」
と考えておりました。
それを考えるにあたって、幾つかの仮想定事態を自分に設け（問い掛け）ました。
「例えば、大不況が訪れて、今勤めている会社が潰れて、うつ病からの病み上がりなんぞ雇われそうもない世の中で、自分はそれでもめげずに元気に仕事を探し始める気力があるだろうか？」
「もし、地震その他の大災害が突如発生し自分の土地家屋始め一切の財産を失っても、自分はもう一度立ち上がるぞという気力が持てるだろうか？」
「もし、家族崩壊がそのまま続いて誰も戻ってこなくても、それでも自分は沈むことなく遣っていけるだろうか？」
「そうして、それらの社会的ポジションを全て失っても自分は再び元気を取り戻して、その先に進むことができるだろうか？」
ようやっと立ち直ることが出来たその時に、それを維持し続けるためには、そのくらい強烈な質問が自分には必要でした。
それ程 12 年間の抑うつ状態からの立ち直りというものが、希少且つ奇跡的なものに思われたのです（後日医師から「正直に言うと、あなたは廃人になると思っていました」との言葉に現れているように）
「いったい自分は最終的には何によって立っていけばいいのだろうか？何を基底に置けば、想定外の度ごとにぐらつかずに済むだろうか？」
それを探して答えを見つけるために、まず、この 4 つの問いを俯瞰してみました。
「会社、肩書、所有財産、家庭、社会的地位」
そして、唐突にあることに気づきました。それは
「全部名詞だ」
で、更にそこからの連想で
「名詞、即ち、型、箱、外観、静止」
という言葉が浮かびました。
「今の社会、特に我が国では「名詞」を評価している」
要するに「入れ物」や「持ち物」を。

しかも形あるものは必ず崩れる。物体や形態はあの世にも持っていけない。全てはバブルだ。バブルでしかない。
では、名詞の対極は何か？
といえば「動詞」だ（形容詞は名詞につくから省き、副詞は動詞に着くけれど、話がぼけるから外そう）
「動詞かぁ」
それで仮に、名詞である肩書の「課長」を「働く」や「面倒を見る」に、所有財産を「住む」や「暮らす」に、家庭を「愛する」に、社会的地位を「動き回る」や「役に立つ」という動詞に置き換えてみました。
そこでまたあることに気づきました。
「これら動詞はこの世でだけのもので、あの世には持っていけない」
だとしたら、どうせ名詞群もあの世には持っていけないのだから、条件は同じ。
であれば、この世で楽しい方がずっといいだろう。
ならば、誰でもが持っているもので（当然自分も持っているもの）で動詞生活をフルに楽しめるものは何だろうと考えてみました。
で、出てきた答えが
誰でもが等しく持っているもの、すべてを失っても生きている限り残っているもの。逆に言えば失うもののないギリギリのもの。だってなくなったら死んでしまうのだから。
それは何なのだろう。
そして出てきた答えが、
「アタマとこころと身体」
それを三位一体でフルに回す。
どれ一つ欠けてもダメ。どれかに偏ってもダメ。すべてを満遍なく回してフルに活かす。
そしてまた唐突に次の言葉が浮かびました（名詞ですが）
「義理人情」とはこのことかもしれない。
これを科学的に分解すれば
「人」即ち「身体」という字を天秤の軸にして、左に「義」と「理」で「アタマ」
バランスを取るように、右には「情」の「こころ」
で均衡する。
見て分かる通り左側の「義 0.5」と「理 0.5」（合計アタマ 1.0）に対して右側は「情」（こころだけで単体合計 1.0。
で左右均衡。その均衡が身体を軸に成り立っている。
そうしてこの活動で得たその果実を自分だけに閉じ込めず、次世代にバトンタッチしていく。
終活はなし。死ぬ間際まで動き回る。

話して、書いて、歩いて、飲んで、食べて、起きて、歌って、眠って、また起きて働く、遊ぶというように。
よし、これで行こう。
是なら何物にも執着せずに闊達に生きられる。
それから 15 年。
言った事は立派だったのですが、なかなかそれが出来ません。
行程ははるか先までまだ、ずぅーっと伸びています。

2020/9/25

（本日の観察スケッチ　その４　痛感事項 ）

子供の頃に聞いた話で、物凄く意外だったのは
「地球の重力とのバランスで、一番いいのは身長１６０センチ。つまりナポレオン・ボナパルトの身長くらいが最適なのだよ」
というお話でした。
子供の考えでは、単純に大きい方がいいと思っていたからです。
それが意外にも小柄な方がいい、というのはちょっと驚きでした。
「何でもデカけりゃいいってもんでも、ないんだなぁ」
で、時代は飛んで、昨今のコロナ禍による３割減の７０％経済活動のお話。
この３０％減によって、PM2.5 をはじめとする世界各国の C0２で汚れたり霞んだりしていた空が、排出ガスが減ったおかげで、いつの間にか青空になっているという記事を読みました。
で、
「案外、この７割経済の方が正しいのかもしれないなぁ」
と。
それで上述の、その感想に従って、仮に人間様の利害を度外視して、地球さんの立場に立って見ると、この人間社会の３割減の経済活動生活の方を是とします。上記のナポレオンさんの身長の話のように。
しかし、一方人間様である我々は、それでは「おマンマの食い上げ」になってしまいますので、そう簡単には「ハイ、そうですね」とは言えません。
ならばどうしたらいいのか？
それであれこれ考えた挙句に、こう考えてみてはどうだろうと以下のように思いました。
過剰にエネルギーを発して環境に悪影響を与える経済活動は７割に落とす。
しかし、殆どエネルギーを発せず環境に悪影響を与えない経済活動３割を創出する。
合計で経済効果１００％を維持（コロナ禍前との比較値）
前者が１次から第３次産業の一部までだとすると、後者は第３次（サービス産業）の残り一部と第４次ともいえる無形資産産業。
それを、更に具体的に言えば、IT, 知財、芸術などの産業（ただしこれは先進国中心の話で、未だ貧しい国々には、１次から３次産業の一部までの充実は欠かせませんが）
但し、この話の中で十二分に注意が必要なのは、肥大化しすぎて富の偏在を招くようになってしまった IT 関連産業の見直しや活用目的のブラッシュアップでしょう。
まぁ、それやこれや、を含めて、ニューノーマルの新スタンダードを至急考えてみる必要が日増しに高まっているなぁと、最近とみに痛感しております。

2020/9/25-2

（本日の観察スケッチ　その５　この先ちょっと考えてみたいこと）

「義理と人情を秤（はかり）に掛けりゃ、義理が重たい世の中だ」
という諺とも歌の歌詞ともつかぬ言葉が我が国にはあります。
まぁ、平たく言えばアタマとこころの訴えを比べると、アタマの訴えの方が勝ることが多いという事になります。
もっと言えば「こころ」の働きである自分の「感情」や「気持ち」より「アタマ」の働きである「金勘定」や「世間様の御意向」の方に目を奪われて選んでしまうということでしょうか。
しかし、本当にそれでいいのか？
コロナ禍前までは、有史以来そうだったけれど、コロナ禍以降もそれでいいのか？
という疑問が湧いてきました。
例えば、こうはならないのか？
「義理と人情を秤に掛けて、平衡保持がこれからだ」
とか。
というのも観察するところ結局人間は「感情の生き物」だからです。
こころ「感情」の方がアタマ「義理」より基底にあるからです。
以前の記事でも書きましたように「人」（身体）という天秤の軸の左側のアタマにあたるところで「義」が 0.5、「理」が 0.5、その合計で 1.0 になるのに対して、右側のこころにあたる「情」が単体合計で 1.0 だというのはそのことの現れです（右一項目で、左二項目と均衡なのは）
また「義理」そのものの在り方や姿も、時としては「感情」の表出や投影でしかない場合もあるからです。
なので「義理」で「感情」を押さえつけるのではなく、感情を上手く「浄化」させて「義理」に振り向ければ「感情」も「義理」も両立する。お互い反目や敵対、相反争議しなくても済む方法はないのかなぁと。
またこの先ちょっと、考えてみたいなぁと思っております。

2020/9/27

（捨てる神あれば拾う神あり？）

「馬脚を現す」
つまり、それ迄立派に見えていたものが、何かの経緯で馬の脚の高さ分、嵩上げされた上げ底の見せ掛けだった事を露呈する事の映像的な譬えです。
そういう意味では、現コロナ禍において、周囲に突如現れた「馬脚群」により、自分の認識上、これ迄「真」だったものが「偽」に変じつつあります。
つまり同音異語で「信義」の揺らぎの発生。
余り具体的に書くと差し障りがありますので、ぼかして書きますが、本日はその一例を。
昨日突如、全く同じデザインレイアウト仕様の督促状が 4 通同時に舞い込んで参りました。
配達証明付きで。
見ると同一会社から。
どう多めに見ても 2 通で済む処、いや場合によっては 1 通でも問題のない処を、ご丁寧にわざわざ小分けにして 4 通、しかも 36 ポはあるかと思われる表情の無い黒々としたカクカク明朝体大書文字での宛名書きでドドーンと 4 通。
これには郵便配達員の人も 4 通並べてみての 4 役揃い踏みの圧巻姿に、流石口元が緩んで、少し苦笑。
どうやら相手は威嚇のつもりでそうしたのでしょうが、何か幾分度が過ぎていて虚仮脅し（こけおどし）の意図がくっきりと透けてしまったのがその苦笑の原因かもしれません。
余談はさておき、
更に、さらさら、中の書面を読めば、金曜日起日で出して、金融機関の窓口業務を行っていない昨日土曜日に配達され、本日、日曜も入れると既に 3 日経過済が判明。
支払期限まで余す処、後 4 日しか残っていない。
オマケに、というかこれが一番肝心なのですが、記載された未払い額が倍以上にもなっている。
契約書上の未納限度額と未納期限はぎりぎり守っていたつもりであったし、相手をそういった目で疑ったことがこれまで一度もなかったので、正直、これには本当に驚きました。
書面では更に、5 か月未納とありましたが、本件に関しては、今まで一回も書面又は電話での催促やフォローはなし。
確かに、満額支払出来ない月もあったことは事実ですが、それを除けば毎月ギリギリながらもきちんと振り込んでいる（コロナ禍の飲食業者である自分にとってこれは実に大変な事なのですが）
しかも支払期限未到来の今月分迄未納扱として加算表記されているようでしたが、その月毎の内訳明細が添付されていないので請求総額の算出根拠が分かりません。

もちろんきれいに毎月満額支払をしていない自分が一番悪いことはわかっておりますが、現在は平時とはいささか状況が異なります（それも自分勝手な言い訳と言われればそれまでのことですが。とはいえ、とはいえ、さわ、さりながら）
で、即座に相手に中身の説明を求めて電話をかけても出てこない（やむなく留守電）
しかし、二回目も同じ（またもや留守電に要件と折り返し電話を要請）
仕方がないので、本日日曜、既に金策を願い出ている支援者と面談の後、了解が取れれば、明けて月曜日に兎に角、相手の言う満額を一旦、振込むことにしました。
（その旨はすでに電話で未納請求元には「見る前に飛べ」とばかりに約束事として空手形を切ってしまっております）
その上で、支払いに関しては、今のところ長と出るか半と出るかは分かりませんが、取り敢えずの手を打った後にできる時間を使って、きちんとデータを集めて精査をし、エビデンスを取り揃えるつもりです。
そして、この「奇妙さ」がきちんと論理的に証明できるようになったら、それなりの手段を講じる。
兎に角、かくのごとく周囲が馬脚だらけでは真偽の見極めがつかなくなり、誤判断の元なりかねないので、いったん整理、総ざらいをする必要がありそうです。
ですが、逆にこんな時こそ「まさかの友は、真の友」（まさかの時の友達こそ本当の友達だの意）を見つけ、真偽整理の上、この面でもニューノーマルを見つける絶好のチャンスになるかもしれません。
その取捨選択の整理の仕方を我が国の諺を用いていえば
「捨てる神あれば拾う神あり」
というのが本日のオチというところでしょうか。
追記）
本日、手前どもの台所事情の長広舌、お許しくだされ。

2020/9/27-2

（人生最大の大失態。だが、泣いている場合ではない）

今朝がたの、記事のその後でございます。
自分の完全なる誤りでございました。相手の方には心底お詫びを申し上げます。
唯々、自分のせいでございます。
大失態でございます。
あの後、入念に再計算を致しましたところ、先方様ご呈示請求金額の１．７倍の額が未払いとなっておりました。
指数でいえば 100 ではなく 170 払わなくてはならない。
4 日以内に。
原因は、自分の支払管理の甘さ。
人を責めるにキツク、自分に対して甘かった。というより自分を顧みていなかった。
自省能力ゼロ。経営者完全失格。
と、今頃してももう遅い。
遅いけれど、放り出すわけにはいきません。
泣き言と反省は保留。
資金捻出に今は全力を傾注。
それ以外に今はなし。

2020/9/28

（タイムマシン通勤路）

朝、自転車に乗って職場に向かいます。
市区名は都会なのですが、実際には可成の大田舎。
まず、両親の故郷である九州、片田舎の山間（やまあい）の様な、稲穂たなびき雀が群れ飛ぶ水田や里山のある風景の中を進み、
それを過ぎると昭和 30 年代の子供の頃の風景を思い出させる、神社や焚火、黄色く色づいた柿木のある農家の脇を通り、
早朝の虫の音や小鳥の囀りに満ち溢れた森林墓地公園をすり抜けると、
今度は突如現れる、高度成長期時代の 40 年前に出来た、今から見るとかなりゆったりとした造りの幅広い通りや背の高い街路樹を中心に広がるエレベーター無しの団地群の中に出、その広い通りを、軽快に自転車を飛ばして更に突き進むと、ネパール国旗たなびくわが職場のカリー屋に着く。
其処には、現下、コロナ禍に翻弄される「今」がある。
気が付けば、この自転車通勤は「誕生から今に至る歴史のダイジェスト絵巻の通し閲覧を日々繰り返す」結果になっていたようです。
もし、我々のお店が都会の駅前にでもあったら、このお店に着く直前までの子供の頃から 67 歳となる現在迄のタイムマシン風景はなく、それがなければ、昨今行い始めた有史以来レベルの長大な時間軸を通しての観察や、我々人間も所詮生態系内生物界の一員に過ぎないといった視座視点での、現下世の中を席巻しているコロナ禍や、その向こう側に必ずあるニューノーマルを捉えようとする思考態度は思いつきもしなかったような気がします。
コロナ禍襲来直前、低迷するお店の経営打開の為に、従業員に事ある毎にせっつかれて、駅前の繁華街に移転するかどうかを散々迷った折、どうしてもその決心が今一つ、つかなかったのは、実のところこのタイムマシン通勤路という稀有の環境を失うことの方が、目先の利得より遥かに大きな損失になるのでないかという無意識の抵抗があったからかもしれません。
「結果的には」それで危うく難を逃れた。
この全く以て不可視なる深層連環に「不思議の念」を抱いておりまする。

2020/9/28-2

(昨日の件)

昨日、二つの記事を掲載いたしましたが、削除いたしました。
その後、何人かの方々からご心配のご連絡を戴き誠にありがたく存じます。
この場を借りまして厚く御礼申し上げます。
結果だけご報告いたします。
今朝、全額を一喝にて未払い先様にお振込み申上げました。
皆様方には、ご心配や多大なご迷惑をおかけしたことをここに謹んで深くお詫び申し上げます。

2020/9/28-3

（そもそも初めは一体何のためだったんだっけ？）

観察するに、今般のコロナ禍で、自分が知っている各国の人間の中で、極小極貧国の高学歴ではない人間ほど強い気がします。
反対に先進国や大国の高学歴の人間ほど、精神を病んでしまうケースが多いように思われます。
だとすれば、この災禍にあたり、いったい何のために大国になったり、高学歴を苦労して獲得したりするのか？という疑問が湧いてきました。
紐解けば、大国、強国、先進国、高学歴取得の目的は「よりよい生活」と言いながら、その実、地位、名誉、覇権、金力の獲得による「見下し」ないしは「自分都合による我儘の常なる実現」や「優越による満足」
それを平たい言葉で一言いえば
「札束で横面をひっぱたく得も言われぬ快感」の所有権獲得維持。
もっと短く言えば
「私が帝王」
そう言わしめ、在らしめるのが自分の真の目的、欲求、願望、熱望。
しかし、そんなことが目的で、それが実現しない時に欲求不満や抑うつ状態に陥り精神を病むのは当たり前でしょう。
だって世の中の仕組みはそんな風にはできていないからです。そんな我儘を放置する程不公平にはできていないからです。
短期的には不公平に見えても、長期的には必ずそれらは没落という形で公平さの餌食になっているようだからです。
ニューノーマルの時代では、まず大国、強国、先進国になる本心の底からの目的や、高学歴を苦労し得る本心の底からの目的を変えていかないと、世の中も国民諸氏も何一つ今までとは変わらず、果てしない競争の果てに、精神を病むだけの繰り返しをすることになるばかりのような気が致します。
「そもそも初めは、一体何のためにそれをやり始めたんだったっけ？」
そこから自らを深く問い直さない限り、有史以来の数えるいとまがない程、何回となく繰り返されてきた「いつか見た景色」をまたぞろ見るだけの「うんざり」気分を味わうだけことになるような気がしてなりません。

2020/9/29

（過ぎたるは、及ばざるがごとし）

「正月は冥途の旅への一里塚。目出度くもあり目出度くもなし」
を少しモジって日曜日の感想を自作二首。
「日曜は、明日から又、の一里塚。楽ではあるが楽しくはなし」
と
「日曜は、明日も又か、の一里塚。楽ではあるが楽しくはなし」
前者が、うつ病だったころの自分の感想。
処理しきれない仕事量があふれてどうしていいか分からないまま、日曜日の残り時間だけが砂時計のように無音のまま容赦なく減っていく、憂鬱。
後者が、退職してすることがなくなってしまった人の感想。
暇がありすぎて何をどうやって時間を潰せばいいのか分からないまま、遅々として進まない日曜日が今日も、明日も、明後日もやってくる、憂鬱。
いずれも結末は
「楽しくはなし」
仕事（遣る事が）があり過ぎるのも、又なさ過ぎるのも、いずれも心地が悪い。
やはり何事も「過ぎたるは、及ばざるがごとし」で、適量がよろしいようでございます。

2020/9/29-2

（ある予感 ）

要するに
「寄らば、大樹の陰」
は何処にも無かった。
思い起こせば、バブル崩壊だ、失われた 20 年だ、リーマンショックだ、東日本大震災だ、コロナ禍だ、風水害だ、気候変動だと右だ、左だ、上に行け、下に行け、と振り回され続けてきた。
その結果、会社にせよ国にせよ、頼りにならないことに気づいた。そんなものいつ潰れるか消えるか分からない。
そうしてとどのつまりは、世の中がどう変わろうが、何が潰れようと何が消えようと、結局頼りになるのは自分とその自分がこれから得て持つノウハウやスキルだけなのだと思い当たった。
それでもまだ、会社や国にすがる世代と、きっぱりと見切りをつけて自らの足で歩きだす世代との間に、現下のコロナ禍以降、大きな差が出てくる予感がいたします。
ここに初めて本格的な労働の流動化やグローバル化が我が国にもたらされるような気がしております。

2020/9/29-3

（怖い）

「世界は自分を中心に回っているわけではない」
というあまりにも当たり前な事実が十分に腑に落ちると、つまり心底、実感を伴って納得すると、かなり冷静な判断ができるようになるようです。
又
「それでも、世界を自分中心に回そう」
とすれば、結局は
「夏草や、兵どもが夢の跡」
の虚しく寂しい光景しか後に残らないという事実にも気づくと思います。
もし、本人が事実を事実として受け入れる幾ばくかの謙虚さと賢明さ、なかんずく勇気と科学的、歴史学的視点視座を持っていれば。
そろそろこの事に多くの人が思い当たり、そしてそれに基づいて行動の変容を取り始めないと、この先我々はコロナ禍どころではない、飛んでもなく信じがたい光景を眼前に見ることになるような気がしてなりません。
怖い。

2020/9/30

（高等戦略）

「譲歩」「譲渡」をする。その前、
というより「せざるを得なくなる」前に、こちらから先んじて「譲る」のが戦略的に見て、最も高度な技である場合があります。
昔ある代議士先生が
「二番じゃいけないの？二番手だって、いいんじゃないですか？」
と言ったことがありましたが、それとは全く意味を異にします。
まず、一番を取れる実力は必ず獲得する。
そのうえで、一番である実力をそのまま行使するか、敢えて一歩下がって二番手につき、一番も二番も、どちらでも取りえる選択肢を保有温存するか。
つまり、敢えて先方を先に立たせて、背後からその出方を観察しうるポジションに立ち、普段は相手を風よけ代わりにし、いざという時は脱兎のごとく一番を取り得るというカード（切り札）を二枚持つ「より高度なポジションの獲得」の事です。
これは本当に二番手の実力しかなければ、絶対に取りえない高等戦略です。
しかも対外的には「寛大にして謙虚」という大義名分も立ちます。
我が国の街中や交通機関で昔よく見かけた
「どうそ、どうぞ。そちらこそどうぞお先に」
と続く「果てしない譲り合い」の光景は、実はわが国固有であり古から伝わる、この高等戦略の庶民レベルでの発露だったのかもしれません。
「相手を立てる」
「急がば回れ」
も、この高等戦略の別の表現。
そう考えると一本「筋が通る」気がいたします。
しかし悲しいかな、この高等戦略を我が国初め、世界の為政者達も忘れてしまい、我勝ちに露骨な先頭ポジション取りに明け暮れているようです。
戦略的には、かなり稚拙なような気が致します。
「お子ちゃまレベル」
と言ったら相当叱られる気も致しますが、昔を知るじじぃの自分の正直な感想でございます。

2020/9/30-2

（二度目はないから）

「遣りたいからやる。遣りたくないからやらない」
と言うと、いささか問題がありそうです。
特に後半部分の「遣りたくないから遣らない」に対しては「権利と義務」の問題を持ち出され「権利ばかり主張して義務を果たさないのはけしからん」と。
しかし、冒頭の言い方は正しいと思っております。
ただ、前半と後半の間に一文が隠されているとしてですが。
その一文とは
前文「遣りたいからやる」
中文「遣りたいことをやるためには、時によって遣りたくないこともやる。しかし、遣りたいことをするためにする、遣りたくない事以外の、本当に」
後文「遣りたくないことは遣らない」
の真ん中にある中文です。
上記の「遣りたい」の文言を「仕事」という文言に置き換えることもできます。
例えば
「好きな仕事はやる。好きではない仕事はしない」
を
「好きな仕事はやる」
「好きだから、実入りは少なくても、その仕事を続けられる（していける）その仕事を続けるために、時によって好きではない仕事もする。しかし、実入りがよくても」
「好きではない仕事はしない（つまらないし、時間の無駄遣いにしかならないから）」
遣りたいこと、好きなことをするのが一番だと思います。
人生に「二度目はない」ですから。

2020/9/30-3

（「やり過ごすしかない」）

一つトラブルを終えたと思ったら、またすぐトラブルがやってくる。
毎日毎日トラブルだらけ。
毎日何かしら予期せぬアクシデントが起こる。
それを外国人従業員も自分も、アクシデントとは言わずにトラブルと言っている。
トラブルはもめ事。アクシデントは突発事態。
お互いが通じる語彙が少ないので、本当は後者の意味合いが強いのですが、口をついて出る言葉はお互い最低限分かり合える「あまりいいことではない、起きてほしくない」という意味でトラブルという英単語を使っております。細かい差異はこの際、というかいつも無視して。
それで唐突に思ったのですが、
「幸せになりたい」
という時に、
（単にストレートに幸せになれることはないな。こういったトラブルやアクシデントを乗り越えて）
という言葉を心の中で思ったうえで
「幸せになりたい」
というのが本当なのかもしれないな、と。
抑圧や困難があるからこそ、幸せだという実感がわく。
それもないまま、幸せになったとしたら、幸せだという実感を、あまり感られないだろうし、ないまま口にする「幸せだ」という言葉には、何処か「口にしただけ」という不実感が漂うような気が、不図、致しました。
「…」
本当に苦しいと、今の抑圧や困難に意味を与えて、やり過ごすしかないのです。

二〇二〇年十月

2020/10/2

（瓢箪から駒の「一石三鳥、三方両得」）

お店が日本語だけで運営できれば、こんなに楽なことはありません。
同じく、お店が英語だけで運営できれば、それはそれなりに何とかしようもあります。
しかし、我がネパールカリーのお店では、全外国人従業員がすべてという訳ではないのですが、肝心要の店長さんが、日本語ダメ、英語ダメ、ネパール語オッケーで、これが大変。
（なんでそんな人が店長なのかといえば、言葉以外は一番いいからです）
今までは、それでも、一かは覚えるだろうと日本語や英語をレクチャーしてきたのですが、何度やってもすぐ忘れるか覚えてもくれない。
それでも休止中を挟んで今まで 2 年余の歳月を費やしてきたのですが、とうとう諦めました。
仕方がないので、最近では自分がネパール語を学ぶことにしました。
他の従業員はそれとは違う、パキスタン語（ウルドゥー語）とかインド語（ヒンディー語）なのですが、まずは使用頻度メインのネパール語から。

（それが面倒くさかったので、まずは三カ国共通で使える英語をシャカリキになって覚えたわけですが、結果的には遠回りだったような）
それで、自分のその意思を長続きさせるために、敢えてお客様向けに、店頭告知用黒板にチョークの板書で「日本語、ネパール語、英語」の対訳単語教室みたいなことを始めました。
こうすれば否応なく毎日ひとつはネパール語を覚えざるを得ませんから。
処が、これが思わぬ効果を発揮したようです。
訊くと結構なお客様が「なんだろ、なんだろ」とご覧になって行かれるようで、中にはスマホで写真を撮られる方もいらっしゃるとか。
「ならば」と一つアイデアを思いつきました。
「毎日一語。ひと月で、定休日を除いた 25 日分の 25 語が集まる。ならばそれを小冊子にして無料で配ったらどうだろう」
と。
民間外交にもなるし、客寄せパンダにもなる。もちろん自らの学習の縛り役にもなる。
是こそ一石三鳥、三方両得。
思い立ったが吉日。
この小冊子。
今月末から実行しましょう。
「そうしよう」

2020/10/2-2

（そう考えた方が「なんぼもマシ」ちゃぃまっか？）

何か苦しいことや辛いことが続けざまに起きた時に
「耐えろ、我慢しろ、そのうちいいことがあるから」
の連発ではいくら何でも持ちません。一回くらいならいいでしょうが。
しかも
「そのうちいいことがあるから」
等という気休めや保証のバックグラウンドもよく分からない口約束を言われては、かえって気が滅入ってしまいます。言った相手との立場の違いや計測不能な程の距離を感じて。
ならばどうすればいいのか？
自分はあることをテレビの特集からヒントを得ました。
何でもその特集によれば、さる国の技能実習生が喜んで我が国の介護施設で働きたいと言っているというのです。
その理由は
「困っている人をこの世にいるうちにたくさん助けてあげると、それは功徳を積むことになり、天国にかなり近づける」
という考え方によるのだそうです。
自分は、宗教方面はほとんと門外漢にも等しいので、あまり詳しいことはわかりませんが、上記の話をこう解釈してみてはどうだろうと思いました。
「要するに、プラスに考えればいいのだろう」
と。
「耐えろ、我慢しろ」というのは爆発係数 100 を 100 のまま維持せよ。どんなに苦しいことや辛いことが追加的に加算されても。
或いは 100 を 0 にせよとか、それはもう非科学的というものでしょう。
ならば、100 からの減算式ではなく、ゼロからの加算積み上げ式に置き換えればいいのではないか？
という事です。
耐える、我慢するだけではなく、それを「解決しようとする行動を起こす」
起こして上手くいくか行かないかは二の次にして、とにかくその経験を積むこと自体で 1 ポイント、2 ポイントと加算していくわけです。
そうすれば「行動した結果が良好であってもなくても行動を起こしたことそれ自体に 1 ポイント加算」ですから、遣ったもの勝ち、参加したもの勝ちになりますでしょう？
（失敗はない。ただ経験があるのみの考え方から）
そういう「プラス思考をした方が、なんぼもマシ、やんか」
と思った次第。

「しなはれ、しなはれ、ドンドンやっておくれやし」
こういうイケイケどんどんは、誠に結構至極なような気がいたします。

2020/10/3

（数式表現を使ってコロナ禍脱出をトライ　あくまでトライアル　その１）

最早、人類は、最後の一線を越えてしまったために「適者生存の枠外」となってしまった感があります。
コロナ禍によって経済活動が停滞したせいで気候温暖化をはじめとする生態系、環境破壊に図らずも歯止めがかかった。
これは地球にとって「よし」
一方、同じコロナ禍によって経済活動が停滞したせいで「これまでよしとされてきた」物心に渡る満足度が大幅に低下した。
これは人間様にとっては「わるし」
要するに地球様と人間様の利害関係が完全に相反してしまったのが今。
で、上記の文言の同一項は何かと見ると「経済活動」
で、更にこの経済活動という文言を自分なりに分解すると
1 人当たりの生産性 X 人口（人間の数）と分解できます。
これはどこかで見た数字。
そう、一人当たりの生産性を上げ、人口減少に歯止めをかけよという現在の経済政策です。
簡略化して言えば「GDP(国内総生産)を上げよ」
これが達成できていないのを「日本化病」といい、それが現在世界各国に拡がりつつあるとの懸念が言われるようになりました。
それは特に今回のコロナ禍において。
しかしその対策を追いかければ追いかけるほど上述の地球様との利害関係はますます悪化し、とどのつまりには冒頭で述べた「適者生存枠外」の烙印を押され地球史上から消えていく羽目にもなりかねません。
ならばどうすればいいのか？
まず、相手側（地球側）を変えるのは大変なので、自分側（人類側）を変えるしかありません。又はその方が近道で労力も少ないでしょう。
ならば何を変えるのか？
そこで着目するのが
経済活動＝GDP＝一人当たりの生産性 X 人口（人間の数）
それを上述の隠れたキーワード「物心に渡る満足度」に置き換えてみると
最終目的＝人間の満足＝快適さの追求＝もの所有の満足＋心理的満足
に分解できました。
ご覧いただいてお分かりの通り

経済活動（或いはその復活と再成長）とは「モノの所有の満足（生産消費によってもたらされるエネルギーの過大放出）」だけを今のところ指しているに過ぎないという事が見て取れます。
それが、地球様との相反の原因でもありそうだとも。
そうしてそういった考え方に基づく一人当たりの生産性のアップもそういった考え方に基づく人間（種族）の増加にも地球様は「No need」(いらんわ)と言っているようもに自分には、見えます。
（紙幅の関係で続きはまた…）

2020/10/3-2

（数式表現を使ってコロナ禍脱出をトライ あくまでトライアル その２）

前回の式の「今の経済活動」の正体が「モノの所有の満足」である仮定すると、それは物ですから容易に数値化できる訳です。数値化できるという事は同じく容易に自分と他人の優劣を比較できる事になります。
例えば「金銭の所有量」によって。
或いは「所有財産の数」によって。
ここに序列化が始まります。比較対照の上で、どちらが上位でどちらが下位かといった具合に。
或いは所有の有無の〇×形式で是はあり。是はなしとかでも。
この比較「対照」によって個々人の個性（差異）が、本来比較「対象」にならない筈の個々を、独立したものとして認める余裕がなくなり、お金、所有財産数にだけ目が行くことで同じ方向に走り出し、同じ方向故に単位面積当たりの人口密度が増え、限られたπの中のので争いが激化、益々差異を許容しない傾向が強くなる悪循環に陥るようです。
もし、金銭保有量や財産保有数という単一の価値観以外にも他の価値観や尺度があれば、こういった争いは、なくなりはしないにせよ、選択肢が増えた分、各選択肢フィールド単位当たりの人口密度は減って、今よりは争いの数が減るか、争っても穏やかなものに落ち着く事になるような気がします。
つまり譬えて言えば
「同じ方向に枝が密集して光を求めるようになると、お互いがお互いを遮蔽し合って日射量が確保できなくなり立枯れてしまいますが、枝が各々の方向に分散し、拡がって伸びればお互いに邪魔することなく、十分な日射量が得られて相互に生き延びられる」という
訳です。
恐らく地球様から「御叱り」を受けているのはこの部分、即ち
「モノやカネの数値にだけ目が行き、互いに優劣を競って争ってばかりいて、他の人間国や生物種族、生態系に全く目が向いていない事」に対してではないでしょうか。
嘗て、さる高貴なりし御方が
「和を以て貴としと為す」
とおっしゃられた時の、この「和」とは
「臭いものに蓋をしてなぁなぁでやりなさい」という意味では全くなく
「お互い足りない処は補い合い、足りる処は分け合う
と同時に更に磨いて延ばし合い、互敬相受恵なさい」
という「コラボ」の事をおっしゃられたような気がしております。

「和」という漢字は禾扁（のぎへん）に口と書きます。
禾扁は米を表すそうで、それを皆で分け合って口にする（食べる）事から「和」という文字になったのだそうで御座います。

2020/10/4-2

（新たな海図が…）

「New normal は No normal」
最早海図なき航海。
今までの常識やスタンダード、既成概念は使えなくなっているようです。
このような時は、前方の海原や足下の海面を見ていると思わぬところへ行ってしまいます。
むしろ空を見上げて星を見、その星になったつもりの俯瞰視点（鳥の目）で進んだ用がいいのかもしれません。
ですが、空に舞い上がるためには、まず、成る丈身軽になる必要があります。
ですので、今までの所有物を意識的に手放して地に置き、グランドゼロにする必要がありそうです。
そうして身軽になって空に舞い上がり、そこから全体を見渡しながら、今までの常識、スタンダード、既成概念に囚われずに「一から考え直して」みる。
その方法としては、全てについてその正反対が正しいと仮定した推論をすることでしょう。
例えば今までが「お金が一番役に立つ」なら、仮定推論の為に敢えて正反対の「お金が一番役に立たない」としたうえで、今後の在り方を考えてみるという具合です。
そうして二番目の方法としては全てを実態（実体）と事実が確認できそうな「名詞」と「動詞」だけを使い、感想や思惑、自分の都合が産みだし、それによって実態（実体）や事実を不透明にしてしまう、名詞を修飾する「形容詞（形容句）」や動詞を修飾する「副詞（副詞句）」を全て省いて考えるようにする事でしょうか。
例えば
「万能なお金」なら単に「お金」とし「カッコよく暮らす」ならこれも単に「暮らす」といった具合に脚色や装飾を極力排してみるわけです。
そうしてそれらを鳥の目で大所高所から俯瞰的に見渡してみる努力をする。
何故なら今のマスメディアやネット社会、ビジネス企業はじめ国やその他団体の多くは、この形容詞（形容句）や副詞（副詞句）にばかり偏って力を入れ我々の目から名詞や動詞の実態（実体）や事実のレベルを覆い隠してばかり来た（している）からです。
例えば「ESG（環境、社会、企業統治）」という名詞レベルで見直す視点が大切なのに、それを形容詞句化して「ESG（企業や活動への）投資」等という具合に。
簡単に言えば
「煙に巻いてきた」
或いは
「まだ性懲りもなく煙に巻き続けている」

さて、それを外して大所高所に立った時、一体何が見えてくるか？
案外、脚色に覆われて見損じていた論理的矛盾や思いもよらぬ斬新な構図、即ち「新たな海図」が見えてくるかもしれません。

2020/10/5

（昼下がりの出来事）修正版

近所のスーパーの袋詰め台で
買ったものをレジ袋に詰めていると、
この辺りでは初顔のロシア人の女の人が近づいて来ました。
そして、微笑みながらウィンクをしてきました。
自分も微笑んで、ウィンクを返しました。
「楽しいの？」
と、日本語で尋ねると
「うん」
彼女は４，５歳くらい。
「じゃぁ、またね」
「うん」
その後、
お互いに胸の前で小さく手を振って別れました。
その子に背を向けて、出口に向かって歩きながら、
思わずまた微笑んでしまった、
とてもいい一日（ひとひ）の、昼下がりの出来事でした。

2020/10/5-2

（三方両損）

小さい頃、九州の叔父さんに
「こら、無益な殺生をするもんじゃなか。そん、蟻んこさぁにも、親や兄弟がおるとやけん。死んだら悲しむ。やめっ」
そう叱られて以来、この歳になるまで、割合と地面に注意を払いながら歩くようなっておりました。
一方、最近では疫病はじめ様々な災害や、それがもたらす不景気等へのやり場のない憤懣のせいか、そこから二次的に起こる職場や家庭に起因した原因元（例えば上司や妻子）とは面と向き合わず、全く関係のない鳩や雀に当たり散らすようにワザと集まりの中にドンと足音を鳴らして踏み込んでいくような人をよく見かけるようになりました。
それは鳥たちに対してだけではなく、例えば電車を降りるときに、同じく全く関係のない見知らぬ乗客に対してワザと出口をふさいで意地悪をする人や、早くから気付いているにもかかわらず、気づかぬふりをして通行の邪魔をする意地悪な人もよく見かけるようにもなりました。
昨日は駅舎下のバスターミナルで、そういった大人達の真似をした子供が鳩の群れを追い立てるように踏み込んでいったのを見た、あまり風采の上がらない爺さんが、叔父さんと同じ九州弁で
「弱かもんを、いじめるもんじゃなか。そげんこつばぁ、しよったら、碌なもんになりよらん。やめっ」
といったのですが、その後ろにいた若い母親が
「危ないから、こっちへ来なさい。勝手にウロチョロしないで、って言っているでしょ。そのひとキチガイッだから、ぐずぐずしないのっ」
と、その子の腕を力任せにひっつかむと、逃げるようにして人ごみの中へ紛れ込んでしまいました。
残った周りの通行人たちは、皆変な顔をして、疾風の後に残された風采の上がらない爺さんをこそこそと冷ややかな目で見ておりました。
一方、その爺さんは、周囲からチラ見をする人たちの目線に気をされて、しばしカッコのつけようもなく戸惑っておりました。
「はぁーっ」
この本末転倒、逆切れの「とばっちり」を見て、自分は心の中で大きなため息とともに、何か怒りとも悲しみともつかない、とてもやりきれない気持ちになりました。
「此方（こなた）八つ当たり、此方（こなた）とばっちり、而（しこう）して、するもされるも、直接の利害関係なき、行きずりの人々也」
なんか、虚しい気がします。

する側、される側、たまたま見ている側、三方両損でしかないような気が致します。

2020/10/6

（「もともと生き物は、元気が常態」のようですから）

米国在住の友達の小さなお子さんの動画を見ていて
「活発でいいなぁ」
と思いました。
初秋に飛んでいる赤とんぼも紋黄蝶も雀も、みんな元気。
しかし、身体は不調でもなさそうなのに、何故か元気もなく活気もない人間様や、人間様に飼われているわんこにも、元気がない子たちが散見されます。
「元気がない、元気が出ない、活力が湧かない」
というのは、やはり何かが間違っているか、おかしくなっているような気がします。
周りのせいなのか？自分自身のせいなのか？
それは人さまざま、わんこ様々でしょうが、言えることは「何かが間違っているようですね」という事。
今までの自分や自分の家族に照らしてみて、今はそう思うようになりました。
仮に、自分自身が
「そんな筈はない。だって〇〇〇、×××があるから、そんな筈はない」
と思っても（或いは立ち位置上からそう言わざるを得ない場合でも）、見せかけや自分自身への「あってしかるべき論」は取り除いてみて、もし「本当を言えば」元気も湧かず、活力も湧いてこないと、少しでも「感じる」なら、手遅れにならないうちに、一度全部を素直に疑ってみるか、総点検してみた方がいいような気がいたします。
だって、長年いろいろ観察し続けたところ、どうやら
「もともと生き物は、元気が常態」
の、ようですから。
注）
（気付く時機が遅い場合、本来の元気の取戻しに可成の時間を要する場合がありますから、速やかに、一度全部を疑ってみるなり、総点検をしてみることを、強くお勧めいたします）

2020/10/7

（騙されついで）

大新聞、TV などのマスメディアやネットの記事、それに銀行、証券会社などの金融関係の話がなんとなく信用できない、胡散臭いと感じるのは、それがほとんどポジショントーク（記者や担当者の立場や都合でなされる物言い）だからかもしれません。
要するにその者たちへの利益誘導を巧妙に隠した話し方の中の、どことなく漂う「巧妙さと隠匿の臭い」に脳ではなく、鼻の方が先に、敏感に反応して。
しかし、当然ながらかく言う自分も含めて自分の立場や都合というものはあるわけです。
そんな折、上述の方々が
「貴方にだけ特別なお話があります。他の方には内緒ですよ」
と、こちらが密かに隠し持っている立場や都合に「さも合わせたか」のように言い寄って来られると、ついつい魔が差してしまうこともあります。
しかし、そのお誘いとリークが破綻したときに、その「最大の味方」はいつの間にか消えてしまって、どこにもいなくなっている、というような羽目に突如出くわす事に。
そして
「すべては連中のポジショントークだっただけだ。まんまと引っかかったな。もうだまされないぞ」
といいつつ、何度も騙される。
それは、我々が皆「助平根性の持ち主」だからです。
自分だけ、いともた易く「得をしたい」からでしょう。
そして結局騙されるか、大損をする。
ならばそれを防ぐにはどうすればいいのか？
三段論法的にいえば
「騙されたり、大損をしたりするのは自分にポジション（立場や都合）があるから」
で
「話を持ち掛けてくる相手も同じで、更に狡猾である」
ならば
「共通項であるポジションで判断したり動いたりするのを一旦脇に置き、たとえ当座は自分にとって不都合で、耳に痛くても、物事の道理（メカニズム）を学んで、それに従った判断を優先的に行った後、それに従って粛々と行動する」
となります。
ポジション思考を止め、物事のメカニズムに従う。
現時点、そこまでの理屈は頭では、わかるのですが、しかし、それをするのは至難の業。
理由は
「自分が生身の人間で、助平根性満載だから」

です。
となれば
What should I do?（どうしましょう？ドレミファソラシド（↑）、どしたら、よかんべぇ（↓）？）
とはいえ、まずは訓練してみますか。
騙されついで、に。

2020/10/7-2

（フラスコ型コミュニケーションの「末路」？）

ボトルネック。日本語で隘路。
もっと分かり易いイメージで言うと
実験に使うフラスコ。
胴体が丸く膨らんでいて、首のところがキュッとしまっているので、中身が外に出にくいイメージ。
ちょっとお下品に言えば「便秘」みたいな感じ。
出るに出られず、進に進めず、腹、膨れるばかりの膨満感。閉塞感。
何のことをイメージしてお話しているのかと申しますと、
「自分には信じられない程の寛容さ。他人には信じられない程の不寛容さ」
の事です。
「不寛容」即ち、他人様への寛容の幅の狭さから、自分からの相手へのコミュニケーション欲求が出口を失い、その逆流が（理由はよくわかりませんが）自分への過度の寛容を増長、膨満させることの譬えに使いました。
そう感じたのは、昨日コンビニで、そこで働いている若いアルバイトさんが、アルバイト終了後に、同じ店で一日の内、かなりの時間を一緒に過ごしている筈の、古参のおばさんアルバイトさんと買い物の精算を行うほんの僅かの間にも、何を話していいのかわからないからでしょうか？スマホにばかり目をやって相手の目を一回もみない。
だのに、精算が終わると最後に、実に愛そうよく
「はいどうもぉ」
と会釈をした、この取って付けたような締め括りという、極めてちぐはぐな光景を目の当たりにしたからです。
自分の欲求を、こちらが何も言わずとも以心伝心で１００％満たす相手でない限り、警戒を紐解かない。
そのくくりっ放しの警戒を解かない論拠として、相手のいたらなさを次々に列挙して。最後にこう結論付ける。
曰く
「こんなにも自分はコミュニケーションを求めているのに、気づかないのはあなたが悪い」
すべてを相手のせいにして、自分に対しては「こちらに落ち度は何一つないのに」と相手への不寛容さの逆数分だけ裏返しに、自分への寛容さばかりをどんどん膨らませているのではないのかな？と図らずも思ってしまったからでした（当然フラスコの口が狭くて内圧が上がる分、飛び出てくる相手、即ち不容対象への「不平不満圧力」は強く、キツクなります。

そしてそれを煽り立てている実験用加熱アルコールランプ役が、恐らく幼少期からの親の言葉「貴方はちっとも悪くないわ。悪いのは相手の方よ」）
そうして、最後に何気なく思い浮かんだ言葉は
「末路」
誰も望んでいない、行く末のうら寂しくも物悲しい光景しか浮かんできませんでした。

2020/10/8-2

（三十七年間の会社生活を振り返って）

「転ばぬ先の杖」
危機に対して常に備えよ、という意味では正しいのですが、どうも我々は、どちらかというと、更に何本も「つっかえ棒」役の杖を張って、更にさらに奥の方に引っ込むが如く
「君子危うきに近寄らず」ならまだしも、
「触らぬ神に祟りなし」「寝た子を起こすな」「見ざる言わざる聞かざる」
に意味（捉え方、解釈の仕方）が変じてしまっているような気がしないでもありません。
簡単に言うと十重二十重の「予防線の張りまくり」
もしそのように「転ばぬ先の杖」が誤解釈されるのであれば
「何度転ぶも起き上がり小法師（こぼし）」
とかに替えた方がいいような気もします。
起業して７年目、未だ「鳴かず飛ばず」ながらも、それ以前の、３７年間に及ぶ会社生活を振り返っての感想でございます。

2020/10/8-3

（三十七年間の会社生活を振り返って オマケ篇）

「転ばぬ先の杖」
で、もう一つ思った事がありました。
いや、会社生活３７年の後、起業して７年目となる今、どちらかというとこちらの方が、強く感じた事かもしれません。
それは
「転ばぬ先の杖」の心構えから、
常時、不確定要素を念頭に置き、可能な限り予測される不測の事態に対して、その打開策を常に用意するのが「転ばぬ先の杖」の本当の意味だといくら言っても、所詮、人知の及ぶ範囲は限られている。万事を尽くしたつもりでも、当たるも八卦、当たらぬも八卦に結果は等しい。
であるなら、外れるのは当然至極の事として、外れた後に
「何度転ぶも起き上がり小法師（こぼし）」
の方が、より妥当且つ先にも繋がるであろう、
というのが一番強く抱いた感想だったかも。
オマケ的ではありますが、キャラメルよりもオマケの方が本命の場合もあります。
所謂、子供にとっての「●●●のオマケ」みたいな。

2020/10/9

（詐欺被害　身の上扁）

コロナ禍の影響で世の中が混乱する中、その混乱に乗じての詐欺行為とその逆の詐欺被害が多発しているようです。
かく言う自分も今年３月から今迄に､ネット上での詐欺被害に遭いそうになったことが３回あり、可成用心をしていた積もりだったのですが、それとは全く別ルートで、何処かの誰かにクレジットカードを使われてしまい、全く身に覚えのない請求金額が突如ドカンと来たりもしました。
こうした折によく言われるのが
「騙す方も悪いが騙される方も悪い」
という物言い。
そして
「世の中には騙す奴と騙される奴。その二種類しかいない。どちらになるか、だけだ」
というご託宣。
この物言いを黙って聞いていると「すーっと」納得してしまいそうになりますが、落ち着いてよく考えてみると、実は重大な見落としをしている事に気づきます。それは
「世の中には騙す奴と騙される奴の二種類以外にも､騙さない奴と騙されない奴の合計４種類位は最低限居そうだ」
という事です。
二者択一ではなく四者択一。いや四者択二かもしれません。
これは試験問題でも同じで、
「五択の中から正解を一つ探しなさい」或いは「五択の中から誤っているものを一つ探しなさい」という設問は、現実世界では
「その数未確定の多沢の中から、合っているものと合っていないものを、適宜それぞれ回答しなさい。それぞれが幾つずつであるかは提示できません」
というのが普通です。
要するにヤマカンのヒントになりそうなガイドが一つも明示されていないのが普通です。
こうした現実世界での事実と照らし合わせてみると、五者択一はおろか四者択一自体が妙な設定であり、いわんやＡかＢかの選択を迫る二者択一といったもの（事象切捨、仮設定強要）は、短絡思考に付け込んだ「大いなるまやかし」であることに気づかされます。
詐欺行為というのは、この相手の「思い込みを巧みに利用して、更に思い違いを促す」行為と言えなくもありません。
自分のケースでは「ネットを利用した新手の詐欺にはもう騙されない力を得た」という思い込みから「極めてオーソドックスな古手の詐欺」に遭う様なお粗末をしてしまった事でしょうか。

ネットの新手詐欺の記事ばかり読んでいたので、そんな思い込みに陥ってしまいました。
記事の書き手に悪意はないのでしょうが、この無意識での
「貴方の手間省き、絞り込み提示」さえ、自らへの過信も含めて十分ご注意召されまし。

2020/10/9-2

（閻魔様の御（おん）前で）

ネパール語と日本語と英語の対訳（単語と極短文のみ）のお知らせ用店外黒板板書を始めて今日で凡そ 2 週間。
結構皆さんご覧になっていかれるようで。
一方自分にも新しい発見が。
何とネパール語と日本語は語並びがほぼ一緒なのです。
例えば「私は、カレーを、食べ、たい」が日本語の語順だとすると、ネパール語も
「モ、　カリー　、カナ、チャ―ハンチュ」でぴったり。
因みに「モは私」「カリーはカレー」「カナが食べる」「チャ―ハンチュがしたい」
むしろ英語の
「I want to eat curry」の方が
「私は、したい、食べる、カレーを」
で、我がネパールコックさん達には「変な言葉」らしいのです。
しかも、ネパール語とヒンディ（インド語）とウルドゥー（パキスタン語）は文章構造が近いらしい（というのは結構不自由なく話しているからですが）
だとすれば「何故そんな事に今迄気づかなかったの？」と言われて当然。
で、何故かと言えば近所の本屋さんに当該文法書がなかったから。
ならば何故ネットで探さなかったのか？と更に言われそうですが、自分では此処に書き乍も、ここ２、3 年、ネットを閲覧するのにいい加減嫌気がさしていたからです。
というのも、見れども、見れども出くわすのは「ヨイショ」に「コキオロシ」に「…」ばかりでもう「うんざり」
特に二番目の「誹謗中傷」は、自分自身経験した事もあるので、その恐ろしさを身に染みて知っているからです。
その後、再びネットに投稿するようになる迄、相当量の時間を要しました。
中には、それに耐えきれず、有名無名を問わず、命を落とされた方も可成いらっしゃる様で。
ところが、そこまで追い込んだご当人様方は、自分がどんな事をしているかの意識を余りお持ちになっていらっしゃらないようで。
例えば、その方々が鬼籍に入られた後に、閻魔様の前に進んだ折、その閻魔様から
「お前は、生前に 10 名の人間を自殺に追いやった極悪非道の輩。依って地獄行きじゃ」
との閻魔帳を見ながらの宣告を受けて
「えっ、何、なに？そんなこと知りませんよ。自分は税金も納めていたし、詐欺や泥棒もした事なんて一度もないですから、何かの間違いじゃないですか？」
という具合に「思いもよらぬ」裁定に驚愕される方が結構いらっしゃる様な。

しかし、その時は「時、既に遅し」
もし、そんな目に遭いたくないのであれば、今からでもお止めになられては如何かと思いますよ。
老婆心ながら。

2020/10/11

（誹謗中傷の原因と対策 案）

前記事の続きです。
「何故、こうまで多くの誹謗中傷が起きるのか？」
恐らくしている本人も「決していい事ではない」と思いつつも、気が付くと「爆発的にそれをやっている」羽目に何故陥っているのか？
自分の観察では
「自分の欲求が満たされていない」事の発散か
「相手を自分と同じ境遇に引きずり降ろそう」とする一種の「同調圧力」
のいずれかからではないかと。
では、どういった欲求が満たされていないのか？
これも自分の観察からですが、敢えて誤解を恐れずに言うと、
「世の中で価値あるものはこれらだ、と物心ついた頃から、それとなく教わったものを何一つ手に出来ていない」からではないかと。
それは何かといえば、思いつく範囲で以下の三つ。
まず「平和（健康で文化的な生活）」
確かに鉄砲玉もミサイルも飛んでは来ないが、進学、就活、同期との争い、家族や友達とのもめ事等、とても心理的には「平和」等ではないじゃないか「争いだらけ」
次が「自分尊重」
何よりも「自分を大切に」と教わったが、誰も一向に「私（自分）を大切にしてくれない」じゃないか。
（注：これは往々にして「自分の都合」を「自分」とすり替え、その「自分の都合」をいつの間にか「他人も私（自分）に対して行って然るべき」だと二重のすり替えと思い違いがありそうですが。多分大人（先達）が「自分都合の優先で高位を得た事を見習った」からかも）
そして三番目が「地位、名誉、肩書、お金」
その他にも価値あるものは数多あるのに、それこそ物心ついた時には、親、親戚、先生、上級生など、身近なあらゆる「先達（自分より先を歩く人）」がそれ以外の事には一切触れず、関心も示さず、何の疑いもなく只ひたすら「所与の事実」として「もうそこから始めていた」
そして今、気づいてみると自分は何一つ手に出来ていない。
「話が違うじゃないか。おかしいじゃないか。なんで自分だけ…!!」
となった。
では、以上の三点の行き違いを解きほぐすにはどうすればいいのか？
まず、個々人に差異がある分、決していい事ではありませんが「争いは起こりうる」という事実。

次に「自分を大切にする」ことと「自分（私）の都合を大切にする（しろ）」とは全く違う事（むしろ正反対の結果を産む）
そして最後に「道（価値）は一本（ひとつ）ではない。百も千もある」
という真相、実態、事実を先達がちゃんと伝える事かな？と思っております。

2020/10/11-2

（いいエコサイクル提案(誤解を恐れずに））

「することがない。一日がとても長い」
退職されてかなりの年月が経たれた方からよく耳にする言葉です。
「勤め人時代は仕事が忙しくて、趣味を見つける暇がなかった」
「特段、これといって好きなこともないし、したいこともそれほどない」
「この歳じゃ雇ってくれるところもないし」
と、理由は様々なようです。
しかし、これらを聞いていると幾つか疑問が湧いてきます。
ご意見の逆から申上げて参りますと
「お金を戴けなくても仕事というのはあります。大抵の奥さん方は無給ですが、家事は立派な仕事ではないですか？年金を戴いているのなら手弁当の仕事だってあるのではないですか？」
「好きなこと、したいことがないって本当でしょうか?お金があれば、ワンサカ出てくるのではないですか？」
そして
「仕事が忙しくて趣味を見つけられなかったのではなくて、仕事ではお金が入るけれど、趣味ではともすると多額のお金が出ていく事を無意識に避けたのではありませんか？」
要するに
「一銭の得にもならない事はずっと避けてきただけ」ではないですか？
勿論全部それが原因だとは申しませんが。
そこで、今日も又誤解を恐れずに申し上げますと
「だったら、余生、今度は現役時代とは逆に「思いっきり損をする」事を考えてみてはいかがですか？」
残すのではなく使い切ることを。
何もヤケッパチで豪遊しろとなんか申しません。
細々とでも、手弁当で奉仕活動や社会活動に参画されては？とかのレベルの「思いっきり損」をすることです。
これなら若い人の職を奪わなくて済みますし、若い人が職を得る機会が多ければ、現在の「皆さんの年金額実質立て替え者」からの年金額も維持されますし。
いいエコサイクルができるような気がするのですが、どうでしょうかね？

2020/10/12

（「目的次第」なのかな？）

最近、ネパール語単語・短文掲示黒板を店頭に出すようになってから、日本語、英語をなるたけ使わずに、覚えたてのネパール単語・短文を使うようにしております。
「モ　ホンシャ　ジャヌ」（本社に行くぞ）とか
「モ　タクヌン」（俺、疲れた）とか
「アラマイ　チャ？」（元気？）とか
「モ　ルパイヤ　ラ　ウーマン　デレイ　モンパルチャ」（私、金と女、大好きあるよ）とかです。
するとネパール従業員たちは、とても面白がりますし、親近感もかなり感じるようです。
しかし、元々単語か短文しか喋れないので、それを補うために、ある工夫をするようになりました。
それは、変化をつけたり、単語、短文の中により多くの情報を盛り込んだりするために（つまり、より意思疎通をはかり、コミュニケーションを円滑にするために）話す時には、リズミカルにテンポよく、成る丈語呂を併せたり、抑揚や強弱をはっきりつけ、少し大げさな振り（ジェスチャー）をつけたりしたのです。
例えば、一番後のネパール文の例だと親指と人差し指で「輪っか」を作ったり（お金マーク）胸の前に両手でおわん型、ドン、おしりの後ろに、これ又両手でおわん型、ドン（女性の体つき表現）をつけて腰を振ったりするジェスチャーをつけながら上記の文言を、ややオーバーアクセントをつけて言うわけです。
すると男性従業員達は益々喜び
「シャチュさん（社長さんの事）、ジョーク、ジョーク」
と大笑い。
（余談ですが、彼らは自分のことをシャチュさんと呼び、いつの間にか社長が社中になっており、無意識ながらも、「長」を「中」くらいに格下げしているようです（笑）
それで思ったのですが、手前味噌ながらこういった発想は、文法的に正しく完璧なネパール語を話そうと思っていたら、多分、出てこなかったと思います。いや、目的を「円滑なコミュニケーション」に替えていなかったら、絶対に思いつかなかったストーリー展開だと思います。
要するに、全ては「目的次第」なのかな？と思うようになりつつある、今日この頃です。

2020/10/13

（まだまだ過剰な「バブル真っ盛り部分の剥落」でしかないような）書庫版

１割減経済だとか３割減経済だとか最近よく耳にしますが、恐らくこちらの方がノーマルだったのかもしれません。

暫く前のネットの記事で、確か気象庁だか気象協会だかの主任研究員さんのチームが、温暖化の影響が異常気象に影響を与えている事の確証を得るために、膨大な計算をして「温暖化の影響がある現実の地球」と「温暖化の影響がない架空の地球」を再現したところ、明らかに産業革命以降、我々が馴染んできた前者の世界による温暖化現象が異常気象を巻き起こしていることが証明されと書かれておりました。

これを冒頭の文章に当てはめてみますと「温暖化の影響がない架空の世界」が現在の１割乃至３割減経済にあたり、その方がノーマルだと言えなくもありません。

しかし、この研究とは異なって、１割減経済も３割減経済も、もはや架空ではなく実際に起こってしまってはいます。

そうしてもう一つ実際に起こってしまっているのが、ここ 200 年ほどの異常な人口急増と異常な都市集中化です。異常な急伸カーブです。

このカーブを人類史的及び生態学的視点で見てみると「失われた 30 年でのデフレ」どころか、それとは反対にまだまだ過剰な「バブル真っ盛り」が深層真実であるような気もします。

紙幅の関係で、まぁ、それはさておき、
次のお話は
「では、その減った分の１割乃至は３割の経済とは何だったのか？」
です。
自分の観察を基に端的に言うと
「付加価値と言われた部分、差別化と言われた部分、基本機能以外のデコレーション部分」
ではないかと。
もっと単刀直入に言えば
「踊らされていた部分」
ではなかろうかという気がします。
「簡単お手軽便利」「貴方が主役」「一段上の快適な生活」「貴方の個性にぴったり」「自分にご褒美」等などの謳い文句のオンパレード部分。
それをモノやサービスで「シンボライズした譬え」として具体的に書きますと
「旅行（非日常）」「飲食（ごちそう）」「タワマン（背伸び）」など。
それらが図らずもコロナ禍で軌を一にして、例の過剰「バブル真っ盛りの一部分」が単に「剥落し始めただけのような」気がしないでもありません。
もちろん、コロナ禍で大打撃を受け「恨み（うらみ）妬み（ねたみ）嫉み（そねみ）憤懣やるかたない」上述二番目の「飲食業に属する」意地悪ジイサンの目から見た「歪んだ？」観察によれば、の話ですが。

2020/10/14

（お互いの為に）

昨日のスタッフ面接の折、浮かない顔の弊社英訳担当のパキ姉ちゃんが
「主人が、いい仕事が見つかればカナダか英国に移住したいっていうの。テレワークで日本人上司（Japanese boss）から、昼休みと言わず夜と言わずのべつ幕なしに電話やメッセージが、送られてきて、プロジェクトリーダーの主人が近ごろ鬱っぽいの。それでイライラして私たちにあたるから、当然自分や子供も何となく鬱っぽくなってくるし」
と家族の危機を訴えてきました。
「でも、私はこの会社をとても気に入っているから、出来る事なら一緒にカナダか英国に移住して向こうで新しくビジネス始めない？」
とも。
「みんなもそういっているわ。仕事のやり方、日本語、来ます、来ますって言って全然来ないとか。自分たちには全然わからないって。
確かに生活はとても便利だし安全ではあるんだけど、風習や習慣が余りにも「特異(abnormal)」過ぎて住み辛いからって」
それを聞いて、今の我が国で起きている、就労外国人受け入れの「問題の縮図」を全て見せられたような気がしました。
いや、就労外国人ばかりか、我が国国民にさえ、上述の問題は当てはまる気もしました。
曰く
「On と off との不分明、タダでさえ語彙数が多すぎて複雑な言語の上に、更に載せられた裏読み、深読み、行間を読む、以心伝心、腹芸などのコミュニケーション疎外要員の数々。
それができないと「KY」と呼ばれ、益々恐怖に陥り、結果、来ます、来ますと言って来ない（或いは怖くて来られなくなる）事態に陥っているのではないのかな？」
と。
一体何がそれ等の問題を生起させているのか？
今はまだ、自分には分かりません。
しかし、今、ぼんやりとながらも自分に想像がつくのは、
「このままでは、我が国は早晩、衰退し、世界地図から消えてしまうだろうな」
という事です。
どうすれば「このまま」を変えることが出来るのか？
もちろん今、そんなことの答えは持ち合わせてはおりません。
しかし、それでも
「パキ姉ちゃん、安心しろ。これから俺が全力で、この難問を解いてみせるから。とりあえずお前たち家族はまだ、我が国に残っていろよな」

ホスト国のホスト会社のホスト「シャチュ（社長）」としては、そういうしかありませんでした。
いや。
これはもう、見つけるしかありません。
お互いの為に。

2020/10/15

（「このままでは」崩しの、具体的な取り組み。手始めは民間外交から）

前の記事のように「このままでは」と、大それたことを言うだけでは、物事は進みません。
実際に具体的に何かを始めないことには。
そこで、日々の改善努力を少しばかりしようかと。
以前にもお話ししましたが、日本語、ネパール語、英語の対訳単語帳を店頭のサインボードに板書しておりますが、それを今度は、新商品発売予告のリーフレットの裏に印刷したものを店内の各テーブルの上に置くことにしました。
新商品の発売が 10 月 24 日。それまでの間、その新商品発売予告の裏に、例の対訳単語帳を印刷したリーフレットを置いてお客様の目に留まるようにするわけです。
効能書きは、
「ご注文のお品が来るまでの間、退屈しのぎに、裏でもご覧いただき、ネパール語を使ってお遊びくださいませ。多少の時間潰しにはなるかもしれませんし、会話が更に弾むかもしれませんから」
とでも。
次は、上述のそれと同じものを 10 月 24 日以降三回にわたり、お客様の「冬のボーナス激減」に備え、多少ながらも需要喚起の為に、チラシとして新聞の中に入れて配る。
そうして、店内とチラシの表面（おもてめん）は同じ新商品の案内ですが、裏面は月ごとに更新されたネパール単語帳。
初回は 9 月店頭掲載分。二回目は 10 月前半分、三回目は 10 月後半分と更新していくわけです。
このチラシや店内のリーフレットにお客様が関心を示されて、お客様自身のスマホでお撮りになられ、ストックして戴き始めたらしめたもの。
そうして行く行くは、この地でネパール語を始め諸外国語、諸外国文化交流ブームでも起きればいいなぁ、と思っております。
各国と我が国の民間外交の為に、そうなってほしいものだと、強く願っております。

2020/10/16

（「本当のニューノーマル」を迎えるには、その位はしないと、ダメでしょう）

「同調圧力軍団」
我が国には、国や会社や各種団体の側のからより、むしろ国民の側自身の方に、そう呼ぶしかない、遥かに強固で巨大な「塊」のようなものが存在しているような気が最近してきました。
最近というのは、勿論今回のコロナ禍での経験からです。
曰く
「自粛警察」とか「マスク警察」とか「SNS 警察」とか呼ばれる、例の行為などです。
ここまでの文章で、図らずも無意識に出てきた言葉「軍団」「警察」
「前に倣え」「右に倣え」「左に倣え」「前後左右全てに倣え（矛盾なき整合を取れ）」
そこから連想されるのは「足音高く歩調を合わせ」「一糸乱れぬ」「鉄の行進」
何か過去にも、現在にも、何処かで見たような映像が自然と想起されて、少し怖い気がしております。
問題は無論、それらをどうやったら止めることが出来のか？もありますが、さらに重要なことは、いろいろな激動変化をくぐってきた我が国国民が、それにもかかわらず、この部分だけ、国民生活の細部にまで渡って、何故変わることがないのか？その理由の解明の方が、より重要な気がしております。
「横並び」という言葉があります。
「村八分」という言葉もあります。
どちらが主語でもいいのですが、例えば
「横並び、それも度を超しゃ、墓並び」
という気がしないでもないでもありません。
善意であれ、改善であれ、起業であれ、規制緩和であれ、同調隊列を乱すものは、容赦なく引きずりおろして、村八分にする。
なぜ我々にはこのような傾向が強いのか？
そしていつまでたっても、この縛りから抜け出せないのか？
一刻も早く、その正体を突き止め、「化けの皮を剥ぐ」必要性をひしひしと感じております。
目安として、このコロナ禍が終わるくらい迄には、是非とも。
我々自身が「本当のニューノーマル」を迎えるには、そのくらいはしないと、ダメでしょう。

2020/10/17

（観察報告「蟻地獄社会」）

前回の記事で我々国民の側の中にある不可解な塊を「同調圧力軍団」と書きましたが、更に観察を進めていくと、あるキーワードが浮かび上がってきました。
それは、異常なまでの「嫉妬心」です。
もっと砕けて言うと「妬み（ねたみ）」「嫉み（そねみ）」
果ては「足の引っ張り合い」「粗さがし」
更に進むと「人の不幸は蜜の味」
それは男女間よりも男性同士、女性同士の間で多く、遠隔者よりも近隣者間で多い。
なぜこの様な傾向が起きるのか？
自分の推測では、それはひとえに「混み合っている」からだと考えております。
我々が、よしとする（或いは成功とみなす）価値観の幅が非常に狭く、その限られたπの中での地位を巡って、そこへ多くの人が詰めかけ、過度な奪い合いが起こる為に、当然ながら相手を蹴落とす必要が生まれてくるからです。
それは時として何気ない日常の中の「意地悪」であったり、公に於いては「目立つ存在」への「誹謗」「中傷」であったりするわけです。
価値観が広く、方向性がばらばらで、立地スペースに余裕があればこういった「同質競争」は起こりません。
しかも悪い事に、昨今「礼儀（こころ）はなくとも行儀（そとづら）のよい」人たちが増え、表向きは「礼節」や「正義」「遵法」を装いながら、その実それは「嫉妬心以外の何物でもないもの」をひた隠しに隠して「抜け駆け」「出し抜き」はご法度とばかりに「監視し合う」のが「同調圧力」の正体ではないかなと思っております。
それが「同質指向」のわが国民の中に蔓延しているが為に、意図せず「軍団化」してしまったのではなかろうか？と。
「意地の悪い人間」「狭量な人間」「卑怯な人間」「品性を疑わざるを得ない人間」とは絶対に言われたくない。それは自分や自分の社会の中での「美学に反する」
しかしその「見せ掛け圧力」が高まれば高まるほど、前者の「ネグられた嫉妬心」は行き場を失い、異様化する。
もがけばもがくほど、繕えば繕うほどに嵌り込んで行く一種の「蟻地獄社会」に現社会はなって久しいのではないのかな？と推察しております。
では、どうやったらそこから抜け出せるのか？
ヒントは「価値観をばらけさせる、多様化」にありやと、うっすらとは思っておりますが、まだそれに至る有効な方図が見つかっておりません。
が「解を得るトライ」だけはしてみようと思っております。
粘り強く、諦めず、に。

2020/10/18

（疎外）

前々回の「同調圧力軍団」の元を、前回の記事で「嫉妬心」からきているのではないかとの推測を申し上げましたが、今日の記事は更にそこからの連想です。
曰く
「いじめっ子」
いじめっ子というからには勿論こどもです。名前は「いじめっ子」ですが、昔は「いじめっ子」とは、本当のいじめを陰湿にするような子を言うのではなく、せいぜい「意地悪をする子」位の意味合いでした。
で、そのいじめっ子がどういった場合に「意地悪」をするかといえば、好きな女の子の気を引きたくて「ちょっと意地の悪いちょっかいを出す」といったものでした。
要するに「俺に関心を持てよ」という遠まわしメッセージ。
自分の時代には男の子ばかりではなく、これをやる女の子も結構いました。
「私に、関心を持ちなさいよ」と同じ遠まわしメッセージホルダー。
それが、それほど深刻ではない事の譬えとして、TV アニメの「ちびまる子ちゃん」でよく使われたフレーズの「いけずぅ（方言でいじわるぅの意味）」のトーンを思い浮かべて戴ければ、当たらずとも遠からず、でしょうか。
これは恐らく「男女七歳にして席を同じゅうせず」の暗黙の縛りがこのような変形アプローチを生んだような気もしますが、その同じ縛りが時を経て幾星霜の後に、妙な変形を重ね、だんだん常態化、且つ巧妙化して現在のジジババたちの中で「異様な開花」を始めたような気もします。
チョット道を塞ぐ。ちょっと気づかぬふりをして相手の前を横切る。あれやこれやで何くれとなく邪魔をする。
しかしこの邪魔は裏返せば、何のことはない「邪魔することによって自分を相手の前に見せつけに来る」事以外の何物でもなく、換言すれば「早く私（俺）に気づきなさいよ（気づけよ）」のメッセージのような気もします。
そうしてそれは、子供の頃の無邪気な「ほのぼのとした恋心もどき」等ではなく、かといって悪質な意地悪一辺倒という訳でもなく、変形の奥底にあるのは「疎んぜられてきた人間」の必死なメッセージであるような気もします。
自分も他人には無関心であった分、他人からもその報復としてとは言わないまでも同様に関心を払われてこなかった過去、現在、そして未来も。死ぬ迄。
何かやっても誰も怒らない。誰も注意しない。見て見ぬ振りしか帰って来ない。
無反応、ノーリアクション。声、発すれども、こだま無し。
これこそ
疎んじられ外される

「疎外」
そのものではないでしょうか。

2020/10/19

（交流とはお互いの差違を楽しむ事也）

前々前回の記事では「同調圧力軍団」、前々回では「嫉妬心」そして前回の記事では「嫉妬心」の裏に「疎外」が隠されていたのではないかと推測致しました。
そこで今回は更にその推測を進めてみようと思います。
無反応、無接点が生み出す「疎外」
では、その反対語はといいますと
「反応（あり）」「接点（あり）」
となります。これは換言すれば「交流、やり取り」即ち
「コミュニケーション」
しかし、ここで問題が。
反応がいいものであれば、OK
接点がジャストポイントでお互いを侵食し合わなければ、これまたOK。
しかし、反応が悪いものであったり、お互い、左右から相互に半円を描いた接点が重なりあったりしていたら、領土不可侵条約違反で、争いの元になる。
しかし、よく考えてみれば「反応がいつも１００％いい」とか「常に接点が付かず離れずギリギリのジャストを維持している」などという状態は、人間界、いや自然界にすらあり得ません。
反応は常の好悪両方ですし、接点は深く交わったり離れたりの不安定極まりない繰り返しが、それこそ「常態（ノーマル）」です。
それが「常態（ノーマル）」なのに、我々はいつの頃からか「自分への反応は常に１００％いつも好反応」とか「１ｍｍでも自分の半円内に交わってくれば、それは侵害行為」だと思い込まされてこなかったでしょうか？
そんな極めてレアケースが「常態（ノーマル）」なのだと。
我々が、もしそれを探していたのだとすれば、そしてそれが「無い」と騒ぎ、不条理だと騒いでいたのだとすれば、それは「あり得ない解を求めて」の完全に無駄な抗議の時間を過ごしていた可能性があります。
仮に「反応は好悪両方ある」「接点位置不動不変など皆無。侵害、離散が常」なのが「常態（ノーマル）」なのだと認識が変われば「不平」「不満」「不条理」感の量も変わるような気がするのですが。
「自分が１００％もない。代わりに相手の１００％もない。50 対 50 の半々で、相半ばする」
だから残り５０を貸したり、借りたりして助け合う。それが「新常態（ニューノーマル）」
嫉妬心はじめ「争い」は個々に「差違」がある事から生じます。
全く同じ金太郎飴であれば、争いはなくなりますが面白くもおかしくもない。

だからお互いの差違を認め受け入れ、その「差違」を楽しむ。
それが「ニューノーマル（新常態）」になれば嬉しき事この上なし、でございます。

2020/10/20

（だったらまず、自分からやれよ）

どうも我々は「笑って誤魔化せ、自分の失敗。あくまで罵れ、他人の失敗」傾向が相当に強いようで。
これは「勧善懲悪（悪を懲（こら）らしめ、善を勧める）」ならぬ
「完全懲不完全（完全が不完全を懲らしめる）」
の様相です。
しかしこの世に「完全」などありませんから、実態は
「不完全懲不完全（不完全が不完全を懲らしめている）」
でしかないことになります。換言すれば、あまり綺麗な言い方ではありませんが
「目クソ、鼻クソを笑う」
に等しいのかも。
しかし我々はともするとそういった事実を忘れ、相手の不完全さを責めた段階で、無意識に「自分はその不完全さ既に克服している」と勘違いをし、或いは又、思っている理想的なことを口にした段階で、何の努力をせずとも、即座にそれが成就したような錯覚に陥る場合がよくあります。
「人に厳しく自分に甘い」
「自分の場合、口にしただけですべてが成就していること疑いなし」
これでは、自分以外の人が浮かばれません。
いや、これを続ける限り相手が浮かばれないばかりか、実は「自分も」浮かばれないのかもしれません。
何故なら「自分も相手からそうみられている」事を知っているからです。
その監視や粗さがしの恐怖に恐れおののいて息苦しくなって居るからです。
だったら、我々は「まず自分からそれを止めた方がよくはなかろうか？」
そう言った以上、多分、自分からするしかないのかもしれません。
昔、会社勤めで、生意気盛りの若造だった頃、よく先輩から言われましたっけ。
「だったらまず、言い出しっぺの自分からやれよ」
そして
「口先だけなら何とでも言える。けど、評論は一銭にもならん。評論家を雇うほどうちは暇じゃない。分かったら口先を動かす前に手と足と頭を動かせ。話を聞くのは、それからだ」
やはり、自分から始めるしかないようですね。

2020/10/21

（return to home(town)）

以下にお話する内容は、自分の経験に基づくイメージの話です。
正しいとは限りませんので、その点はご容赦下さいませ。
「自分は新たに生まれ変わりました」
というのは、実はあり得ない事だと思っています。
どんなにボロでもガタガタでも、身体を脱ぎ変える事はできませんし、アタマを挿げ替える事もできません。どんなにつぎはぎだらけであろうと、それを騙しだまし使っていくしかありません。
しかし、アタマそのものは挿げ替えられなくても、認識はいくらでも挿げ替えられます。
自分の場合、子供の頃は「大人しくて静かで引っ込み思案」
が、今は「途轍もなく御喋りで、曰く男のおばさんみたいでガチャガチャうるさい」とまで呼ばれる始末。
確かに「生まれ変わった」ようには見えますが、実際は何も変わっていませんでした。
どういう事？
と、もし人様から訊かれたら
「元が御喋りだっただけ。
それをべらべらつまんないこと喋らないの、とか、黙ってお行儀よくしていなさい、とか、口にするなら値千金の気の利いた事以外ダメ、とか言われたものですから、初めは窮屈に感じましたが、いつの間にか自分は、その「求められる人物像」路線をひた走るようになっておりました。
しかし、常々自分の何処かに違和感が残り、それが段々に高じて、突如崩壊が起こり、開き直ったら出てきたんです、元の地合いが。
どうでもいいような事をべらべら喋りまくる男のおばさん本性が、ひょいと」
いやぁ、楽になりました。スッキリしました。
恐らく「教育（周囲環境）という名の後天的な産物」である、作り物や被り物を脱ぎ捨てた事で、自分に最も適した「素の自分」に立ち返ったのだと思います。
これを現コロナ禍に当てはめてみると「自分は益々多くの豊かさを身に着けた存在である」という「産業革命以降の付加価値（上乗せ分）という名の作り物、被り物」（「」は自分の仮説です）を脱ぎ捨てて本来の素性（生き物としての人目人科）に立ち返った方が、案外楽しくなるような気もします。
端折って言うと「return to home(town)」という事かなぁと。
ひょっとすると、それがコロナ禍で失われた３０％経済分で、それは存外正しいのかもしれません。そしてそれがニューノーマルの方向性のヒントなのかも。
以上はあくまでも私見に基づくイメージのお話でございました。

2020/10/22

（サンプル１の「成功原則」推論）

「下手な鉄砲も数撃ちゃ当たる」
「犬も歩けば棒に当たる」
以上二つです、成功の要諦が何かと問われた場合の自分の答えは。
何かを企てて、思った通りになるのは 100 に一つあればいい方で、９９％は思い通りになった試しがない。
これが自分の勝敗統計からの実感です。
なので、10 や 20 遣って失敗したからと言って嘆く方がおかしいような気もします。それは明らかに認識の誤りで「うまくいかないのが世の中の常態（normal）」だという正しい認識を持てば、「うまくいかないのが当たり前である」事を前提として
「では、その次に何をするか？何が出来るか?できそうか？」のアイデア、カード、選択肢を何枚持てるか？が勝敗を分ける唯一の分水嶺である様な気がします。
そしてそれらのアイデア、カード、選択肢を紡ぎだせなくなった時が「一巻の終わり」で、決して資金がなくなった時が終わりという訳ではない事も、必然的に分かってくるようです。
それは初期の頃、大赤字だったにも拘らず大きなビジョンとその実行選択肢を豊富に抱えていた Amazon やテスラに資金サポートを続けた投資家の数が多かったことを思い出せば一目瞭然でしょう。
Amazon やテスラは、一つ二つの成功を紡ぎだすアイデア以外に失敗覚悟の 100 や 200 の実験的アイデアを持っていたのだと思います。
この「失敗覚悟の 100 や 200 の実験的アイデア」こそが、冒頭の
「下手な鉄砲も数撃ちゃ」や「犬も歩けば」にあたる部分だと思うのです。
成功者に対しての「100 発 100 中幻想」や「起業即成功（正にスタートアップの急カーブ幻想）」「初回から完全的中幻想」こそが「失敗者の誤謬、誤認識」即ち「不成功の原因」でしかないような気がします（思念即実現法等「あり得ない解」探しは完全な時間の無駄です）
この視点は「効率」のみを見ていたのでは決して気づかない視点だと思います。
あくまでも「効果」と「効率」更に言えば「効果に対しての効率」効果が第一で、効率はその従者と考えないと気づかない視点だと言えます。
世の中には意味のある無駄と無意味な無駄がある。意味のある無駄はどんどんしようという視点が欠落しているからです。
以上を諺で纏めてみると
「急がば回れ」
「急いては事を仕損じる」

「人事を尽くして天命を待つ」
その上で
「果報は寝て待て」
そうすればやがて
「待てば海路の日和あり」
であろうと思っております。
サンプル１の自分の経験則的推論からは。

2020/10/23

（「快適さ」を読み替え始めた「ニューノーマル時代」の先駆？）

「お手軽、簡単、便利。これさえあれば（すれば）何でも OK」というのに対して
「何ごとも手間暇かけないといいものは手に入りませんよ」
という自分の投稿は「即効性、全くなし」ということらしく、全然人気がないようです。
「そんなものに用はない」
しかし、最近ある TV ニュースで
「you tube の中でこんな投稿が密かに人気を集め、再生回数百数十万回になっているそうです」
と言って紹介されたのが、毎日、アパートの一室で、朝食をひたすら作る「映像だけ」を投稿している動画でした。
コメントなし、撮影者は後ろ姿だけで顔は出てこない。
そうして、ご飯は一人前を土鍋で炊き、鯵の塩焼きは開きの鯵ではなく丸のままの鯵だったり、御浸しや出汁巻き卵も手作りだったり。
そんな朝食を毎日作る。
その動画を毎日淡々と投稿する。
その動画を毎日おびただしい数の人たちが見ている。
そうして、この投稿者の年齢が何と 26 歳の男子。
これまでの自分の観察では、理由はわかりませんが 25,6 歳以下と、それ以上の全ての年齢層とで、何か大きな段差があるような気がしておりました。
受け取り方、考え方、生活態度などなどで。
そんな折、この動画を TV ニュースで見て、
「ひょっとしたら、それまで以前の世代と「快適さ」の定義が変わり始めているのかもしれないなぁ」
と思いました。
お金があれば、何でも簡単に手に入り、物事がスムーズに運ぶ「快適さ」から、
お金がないので、そういった方法では「（従来の）快適さ」は手に入らないことを知り抜いた人達が「新たな快適さ」を探し始めだしたのではなかろうか？とも。
お金がないので手間暇をかけざるを得ず、遠回りもしなくてはならない。
しかし仮にお金が手に入る position になっても、今迄の「お金の力に頼ったやり方（ある種の手抜き）」で得られるものは、本当に「快適」と言えるのだろうかと疑問を抱き始めた人達。

そうして彼らは、それ迄の人達のように「（従来の）快適さ」を求めてあくせく走り回るのではなく、どっかりと腰を落ち着けて「だったらその不便を、むしろ楽しんでしまう」事から何かを掴もうと模索を始めた。
そういった価値観や「快適さ」の読み替えが、新しい世代の一部で起きつつあるのではないかな？と思った次第。
自分の希望では、彼らこそが新たに訪れる筈の「ニューノーマル時代」の先駆になればいいなぁと思っております。

2020/10/24

（「快適」の「適」が外れた！！）

生き物の行動は「生存と子孫維持」の為のものです。
「快」を得るために狩りをしたりはしません。
ところが生き物の端くれである我々人間の行動は、お金、地位、名誉、人気等、子孫維持はともかく単に「生存」を目的とするのとは少し違ったものになっているようです。
冒頭で申し上げた、生き物がしない「快」を得ることが行動原理になっている場合が多々ありそうです。
実感的にお分かりかと思いますが「快」とは苦と楽の落差が大きいほど強く感じるものです。
卑近な例で言えば「うだるような暑さの外から帰宅して冷房の効いた部屋に入った時」から始まって「食うや食わずの生活から突如億万長者になった」時とか。
しかし、ふつう我々は「より強い快」を得るために、わざわざ苦から始めたりはしません。
せいぜいやっても「御馳走を戴く前の二食を抜く」くらいのものです。
となると、何が起こるかといえば、今既にある「そこそこ、の快」からスタートして「強い快」を感じられる段差分上位にある「とんでもない快」を求めるようになります。
「とんでもない」という形容詞が付くからには、それ相当な行動（エネルギー放出）を要することが推測されます。
例えば、おなか一杯になるだけでは満足できなくなり、何処々々産の何々品種でないとダメだとかいうことになり、結果それを求めて山奥に取りに行くような事態が発生するわけです。
そうした結果、パンドラの箱を開けてしまう場合が出てくるようです。
仮に、の話ですが、どこの国によらず、普通生活している分には絶対に振れることのない山奥の洞穴の「蝙蝠の糞」とかに。
そうして未知なる微生物（？）が人間界にもたらされ、災厄を招くことになる場合もある。
もちろん自分も人間の端くれですから「快」は大好きです。
しかしそのどこが問題なのかを、非常に簡単に申し上げれば
「快適の適（適度、適切）の箍（たが）が外れて、快だけになってしまったための災厄」と言えないこともないような気がしております。
勿論食い物屋のオヤジが食い物を例に例えた私見、ではございますが。

2020/10/26

（おかぁちゃぁん、こわいよぉ～、助けてぇ～）

表の顔と裏の顔。二重人格。多重人格。
果ては「ジキル氏とハイド氏」に「怪人二十面相」
「いつもニコニコしている奴には気をつけろ。そういう奴ほど裏が怖い」
「貴様ぁ、見たな、俺の正体。生かしてはおけぬ。覚悟しろ」
等など、おどろおどろしい言葉が並びます。
更には「風見鶏」「変節漢」に「機を見るに敏なり」とか。
要するに、その反対語として「常時一定」「「終始一貫」「表裏一体」等が求められ、誠実なる事の証として重用されてきた様に思います。
確かに、それはそれなりに自分としても「誠に、御尤も（ごもっとも）」な事だとは思いますし、かくいう自分もそう努めては参りました。
しかし、最近コロナ禍の元、日々翻弄される生活を送る様になると、それらの価値観に対していささか疑問を抱く様になりました。
「そもそも人間というのは一つの顔（側面）だけなんだっけ？」
そうして
「喜怒哀楽、少なくとも四面ある筈なのに、なんで常時穏やかで涼しい顔、一つだけをいつもしていなくてはいけないんだっけ？」
と。
まぁ「常時穏やかで涼しい顔」は悟達した阿闍梨様でもない限り無理そうなので、結果我々がどうするかといえば「不変的表情」即ち「無表情」「無反応」「無関心（見て見ぬ振り）」を装ってしまっている様な気がして参りました。
「いつも同じじゃなければいろいろ言われそうで怖いので、まずは何も出さないことにしておきます」
というところでしょうか。
そうして更に
「こうした変動期こそ、あわてず騒がず、常に落ち着きを持って冷静に」
等と尤もらしい事を言われると益々「喜怒哀楽」を出せなくなってしまい、更にさらさら上述の「三無間地獄」に陥り、その轍（わだち）から抜け出せなくなってしまっているような気もします。
なので、ここらで一つこう言ってみては如何でしょうか
「うっせぇ、不安で、不安で仕方がねぇんだ。怖くて、怖くてビビってぇんだ。おかぁちゃぁん、こわいよぉ～、助けてぇ～」
位の事は。
追記）

六十七歳、海千山千自営業のジジイが言う位ですから、特に学生さん等、お若い方は恥ずかしがらずにいくらでもどうぞ。

2020/10/27

（辛うじて自らを「励ます」）

このコロナ禍のざわめきの中においてすら
「判で押したような毎日。同じことの繰り返し」
と感じている向きもいらっしゃるかと思います。
お金に窮している私共は、おしりに火がついている状態なので、そんなことを感じている暇はありませんが、そこそこ、余裕のある方程、そんな感じを抱いている気がしないでもありません。それは、この大波の下で相対的に安定度が増したような状態の年金生活者も含めてです。
しかしもとをただせば、コロナが来ようが来なかろうが、日々いろいろな変化が起きていることに変わりがなかったはずです。
ただ、それに気づいていたかどうか？
それに気づくか気づかないかの差は、自分の観察によれば「興味関心の対象範囲の拡がり」に比例しているように思われます。
譬えて言えば、網を広く張っていれば、どこかしら、に何かが引っかかるでしょうし、網が小さいと、どこかしら、を何かが飛び交っているのに、気づかず見落として、今日は（今日も）何も起きなかったという錯覚に陥ってしまうのに似ています。
であるので
「判で押したような毎日。同じことの繰り返し」という、この退屈さ(変化に気づかないために感じる刺激の無さ)の原因は、上述の例に従えば「興味関心の対象範囲の狭さ」由来以外の何物でもないような気がします。
そうして、図らずも今コロナ禍に於いて、元々不安定極まりない生活を余儀なくされていた私共「中の下、下の上クラス」の階層の人間は、生存確保の為に否応なく「網（アンテナ・レーダー）」を拡げざるを得なくなっております。
むしろ今、曲がりなりにも「相対的に安定している階層」の方がある意味危険な状態にいると言えなくもありません。
自分の考えでは、恐らくこのメカニズムが新しい時代を切り開く「古来よりの常套（じょうとう）伝法」のような気がしないでもありません。
変革は中心からは起きない。必ずその時代の「辺境（不遇の片隅）から起きる」
何となくそう思って、苦しいばかりの状況下の自分を、辛うじて励ましております。

2020/10/27-2

（「そうなればいいなぁ」としみじみ思った事 ）

「人災、天災に依らず、結局不遇を嘆いてばかりいても何も始まらない。詰まる処、頼りになるのは自分たちだけ。遠い権威にすがるのではなく、顔の見える身近な仲間と助けあう。そういう自分たちだけが頼りになる」

「失われた 20 年」だか 25 年だか 30 年だか、よく分かりませんが、最近の若い人たちの一部は、特に今コロナ禍に於いて、そう肚決めをしたような気がしてなりません。

そう感じたのは、ここ数日の雑誌で

「集合教育無し、現場訓練無しのオンライン講習だけの新人教育にも拘らず、自分たちなりに工夫をして何度もトレーニングをし、分からないところはオンラインを通して仲間と問題を共有して助け、補い合った結果、それまでの集合教育あり、現場訓練ありで配属された直近年世代と何ら遜色なく新しい業務に就くことが出来た。いやむしろ自発性、協調性という意味では前世代を遥かに凌いでいると配属先の評価が高い」

との記事を目にしたからです（勿論他にもそれらの傾向を示す幾多の記事も目にした結果ですが、紙幅の関係で代表例としてこれを上げました）

これを読んで、何か非常にうれしくなりました。日頃の鬱憤が晴れ、溜飲が下がった思いがしました。

「わからないけれど、何かが水面下で着実に動き始めている。それも新時代の到来などという浮かれたものではない、着実性のある何かが」

出来れば、わが社もそういう方々と繋がりを持つことが出来ればいいなぁとしみじみと思った今朝の出来事でした。

本日、当地域は朝から晴天。いい感じです。

2020/10/28

（「循環関係式」として捉えれば）

「若い人がどう育とうが、じいさんであるアンタに直接関係ないじゃないの？なんかいい子ぶってない？若い人の人気取りしてない？あの記事」
というようなご意見を少なからず頂戴いたしました。
書く前からそのようなご意見を頂戴するであろう事は予測しておりましたので、少し補足させて戴きますと、真意は「完全な実利」に基づいて、の事でした。
どういう事かと申しますと、あまり好きな話題ではありませんが例として年金を引き合いに説明致します。
年金受給世代である自分が今頂戴している年金というのは、自分が現役時代に働いて支払った厚生年金又は国民年金保険料が、クラウドのような処にアップロード後「誰の誰兵衛分」という名札付きでプールされ、それが受給年齢になると、その名札のついた「誰の誰兵衛分」が、そのまま自動的に自分にダウンロードされる、短く言えば自分の預けた分がそのまま自分に戻ってくる（後入れ後出し）という仕組みにはなっていないという事です。
自分が現役世代に働いて国庫に納めた年金保険料は、その当時のじいさんばあさんに即座に支払われ（使い込まれ）、今度は自分が受給年代になると、今現役で働いている若い人達が支払っている年金保険料は「即座に我々に支払われる（使い込まれる）」という仕組み、これまた短く言えば、自分達は人の為に支払っている（後入れ先出し）、こちらから言えば自分達は人の金で食っている、という仕組みになっているからです。
ですので、若い世代の人口が減ったり、若い人達が働かなくなったり、或いは若い人達の実入りが減ったりすると、即座に「我々現役、じじばばの受給年金が減る（使い込めなくなる）」という事態を招く事になるからです。
先に申し上げた「実利に基づく」というのは、この
「情けは人の為ならず」
の観察に基づいての事です。
「会社（団体、組織）を定年退職したから、もう後の事は知らないし、関係ない」というのは大間違いで、後の事こそ何より大切なのだと思います。
もし自分が楽をしたいなら、あくまでも後進をしっかり育てる事が何よりそれに供する唯一の方策だと思います。
少なくとも自分は世の中のメカニズムをそのような、更にそのあとへも続く「循環関係式」であればいいなぁと思っていた為、若い人達が伸び始めていそうな証左を少なからず見出して、素直に喜んだ次第でございます。

2020/10/30

（雨にも負けず、風にも負けず ）

「好事魔多し」
状態や業績が良ければよいほど、その時の中にこそ最も多くの魔が潜んでいる。
そして言葉は悪いですが
「豚も煽てりゃ木に登る」
褒めて囃せば、実力が伴わない事でもついつい図に乗ってやってしまう。
例えば、昨今のコロナ禍に於いて「巣ごもり需要」による業績の件で、ビジネス雑誌や新聞は「勝ち組負け組」「勝ち組の中での業績アップ率ベスト３社」等と書き立て「成功の秘訣は？」とか「需要の先取りをした視点は？」等のインタビュー記事をてんこ盛りで載せ、いやが上にも囃し立てます。
そうしてインタビューされた方は、業績が良くて、おまけに褒め上げられるものですから、ついつい万能感に陥り「我が行く道はこれしかない」と思い込んでしまいます。
この時点で、その正反対のストーリーや視野視点は切り捨てられてしまうか忘れ去られてしまう為に、選択肢や視界が半分になってしまいます。要するに持ち駒が半分に。
そうなると、視界が半分になった分「選択と集中投資」等と言い出して、同じパターン分野に過度の投資をする事になります。
褒められた手前、今の業績を更に「急峻にアップ」させなくてはならないと自分自身に強迫観念を植え付けてしまうわけです。
こうなると正に「好事魔多し」の縮図が完成されてしまいます。煽てられて木に登ってしまった豚である自分の事はすっかり忘れて。
ここで注意点。
期間内急峻業績アップには要注意。急峻アップの後には必ずその反動で急降下業績がやって来ます。
ならばそれを避ける為にはどうしたらいいのか？
答えは「好事魔多し」である事を常に念頭に置き「煽てられても木に登らない豚」になる事以外にはありません。
もう少し具体的の申し上げますと期間内業績の一期間の区切りをまず外し、複数期間（中長期間）に伸ばしてみる事と、単一期間内の過去最高業績等というものは追いかけずに、如何に長期間、事業を存続させるかにだけ目をやることでしょう。
更に具体的なイメージで申し上げれば、小石を一つ一つ埋め込んで叩き上げながらうっすらと上り坂の石畳を作り続ける様な、それこそ「地道造り」とでも申しましょうか。
要するに派手な脚光を浴びる表舞台に立たずに、土台作りに徹した黒子裏方稼業に徹せよと。
そうしてその時の姿として宮沢賢治のあの一節を思い出すのが宜しいのではないかと。

曰く
「雨にも負けず、風にも負けず」
が。

2020/10/31

（「出る釘は打たれる」はヤメ「出た芽は育てろ」に変えよ）

今コロナ禍、ニューノーマル探索にあたって
「上下、高低、尊卑」の位置を大逆転するくらいのことをしないと、答えは見つからないような気がしてきました。
今日のお話は、そこまで大げさではないのですが。
わが国民は「対等かそれより上」に置かれることを当然と思うか、又は慣れていて、対等か下に置かれると、それを「恥」又は「不当」だと感じることが多いようです。
これを少し逆転の目線で見てみると
「たまには下の位置に立って見ると、つまり自分より上の存在を肯定すると、却って自分が諭されたり磨かれたりするチャンスを手にすることが出来る可能性がある」
となります。
これは「上を成功、栄華」「下を失敗又は苦難」と置き換えることもできそうです。
処が我々我が国の国民は、時として「今まで下に見ていた者が、いつの間にか自分を抜いて上に行きそう」なほどに成長し始めてくると、途端に「恥探知・敏感レーダー」が作動し、それらを叩き潰しにかかるようです。
これが我が国における新規起業の少なさだったり、優秀な人材程会社を辞める理由だったりしているのかもしれません。
そうなるのも「既存が新興から刺激を得る」とか「古参が若手からヒントを得る」といった素直に相手の長所や優れた点を上に置き、その点に関しては自らを教えを乞うものとして下に置いて見習う、自らを磨くという姿勢がないからでしょうか。
そんな折、蹴落とす方も、外に出ず内に残ってただひたすら蹴落とされまいとする者も、総じて説得に使ったり、説得されてしまったりする言葉が
「出る釘は打たれる」
でしょう。
しかし、これではいつまでたっても芽が出ません。また体内代謝機能や活性化も得ることが出来ません。
こういった場合には「出る釘は打たれる」の代わりにコロナ禍以降は
「出た芽は育てろ」
に諺を変えた方がいいような気がしております。

二〇二〇年十一月

2020/11/2

（「歴史は繰り返す」から見た「東京砂漠」の落としどころ）

「東京砂漠」
ふと、昔の歌の歌詞の中にあった、そんな言葉が浮かびました。
それで何を思ったかというと
「結局、人の偏った過密が限られたπの奪い合いを起こし、結果、反目や疑心暗鬼によって殺伐を産んでいるのだろうな」
という事でした。
これは別に都市の話だけではなく、市場の富の偏在や、年齢の若年礼賛やら歴史軸のここ数百年のイベント、事件事案発生の過密、そうして元に戻って人口の爆発的膨張やらの偏りが争いや格差や不信やらの「殺伐」を産んでいるのだろうとも思いました。
であるなら、これまでの 200 年間が集中と統合なが産みだした偏りであったなら、今後 200 年程度はその修正過程としての分離と分散に軸が振れる揺り戻しが来そうなことは「歴史は繰り返す」の観点から容易に見て取れる気がします。
サーバー中心のクラウドコンピューティングから分散コンピューティングへとか、国家発行のお金から各人がチェックし合うブロックチェーンなどの仮想通貨へとか、合衆（省）共和国が州（省）別共和国へ独立し始めるとか、都市から地方へとか静的超巨大企業から動的噴霧状飛翔集合体へ拡散し始めるとか等などへ。
そうしてその後又数百年はその逆揺り戻しで統合と集中へと振り子が振り戻される反復がずぅーっと続いていくという歴史の繰り返しでしょう。
とまれ、我々が今、立ち始めているのは「分散分離の一里塚」
という訳で、弊社も今後二号店、三号店を出すのであれば、企業や事業の巨大化や単一店の大規模化を目指すような大きな店は構えず、お客様と直接会話ができる大きさの小規模店を、成る丈コマメに運営して、更にどちらかというと田舎っぽいところに鈍くさく出店していこうかなぁと思っております。
まぁ、現時点の落としどころは、そういったところでありましょうか。
（追記）

それにしても、同じことの繰り返しであれ、少なくともスパイラル（螺旋階段）的にいい方向（上昇方向）に向かっていればいいんですけれどもねぇ。どうなんでしょう？深層の真相は。

2020/11/2-2

（「なんてったってアイドル」で思い出した「年輪」のお話 ）

たった今従業員と電話で話をしていて
「今何シテル、アルカ？」
と訊かれたので
「お仕事よ。じいさんはウーマンと遊んでいる暇ないの。じいさんはなんてったってお仕事でしょうに」
と、事実そのままを本当に言うと相手の負担になりそうだったので、そこはかとなく冗談めかして口にした折、ふと嘗てのスーパーアイドル小泉今日子の「なんてったってアイドル」という歌の題名を思い出しました。
そう思い出した途端、これまた不図
「今時のじいさんばあさんは、ひょっとした自分の孫子を含め、若い人はじめみんなから自分のことをアイドル視してもらいたがっているのではなかろうか？」
と思いつきました。
で、思いついた途端
「それならすべての話の辻褄があう」
と合点がいきました。
若作りや若ぶり指向、人気者や話題の中心人物指向等があり、それがかなわない反動として「すねる」「むくれる」「意地悪をする」「偉ぶる」「虚勢を張る」などの行動に出ているのではないのかな？と。
歳を重ねることによる習熟や熟達といった方向ではなく、ひたすらアイドルを目指して逆遡行（さかのぼる）をやっている不手際というかアンマッチのミスマッチ願望と行動。
早い話が年輪ではなく、若い芽ばかりに目が行き、そればかりを目指す。
しかし、本物の若い人のマネをしても所詮それは「もどき」でしかないので、叶う筈もなくすぐさま正体を見破られて無様を露呈するしかない事に。
であるなら、なんで素直に「年輪の重み」で若い人と勝負しないのか？と不思議に思いだしました。
それにしても「年輪百輪」より「年輪無し（一年では年輪はできませんので）」の方に価値があると誰がいいだし始めたのでしょう？
「昔の価値観を全て逆転させれば新しい未来が訪れる」という置換方程式をあまりにも単純に、且つすべてに対して安易に当てはめ過ぎた弊害ではないでしょうか。
それこそ「お手軽簡単便利」式の手抜きを行い、一つ一つの精査を行う手間を省いてしまったための弊害。

おっと、話が横にそれてしまいました。
それでは最後に、話を上の話題に戻し結論的に申し上げますと、我々じじ、ばばの勝負所は「自分の土俵（年輪）に引き込んで取るのが一番勝ち目あり」のような気もするのですがねぇ。
（蛇足）
但し、生物学的にだけ歳をとっても年輪がないのであれば、手の打ちようがありませんが。

2020/11/3

(密かに思っている事)

多様性と言ったら多様性方向ばかり。
DX(Digital transformation＝デジタル技術を使った大変革)と言ったら DX 方向ばかり。
多様性と言い出したら一様性を敢えて宛がって暴走を抑えたり、DX と言出したらこれまた敢えてアナログの人海戦術を組み合わせて引き戻しを図ったりするといったような偏（かたより）抑制機能が全く働かない。
それではまずかろうと、意図してその反対方向を持ち出すと「KY(空気読めない)」と村八分扱いになったり「流れを乱すもの」のレッテルを張られ疎外されたり「異質、変人」と白い目を向けられたりする。
早い話が「井戸端会議でのひそひそ話」
で、そのいい例が以前の記事でもお話しました今コロナ禍でのわが国民性に由来する「自粛警察」「マスク警察」「品行方正警察」の話題持ち出しと正確無比なるその監視実行等など。
確かに世の中には１００％永続的に同一同方向に向かい続ける事はあり得ないので、いずれは反対方向に向かい始めるのですが、余りに一方向への力が強すぎると反転するまでに多大な時間を要し、その分不具合の修正を行うのに手間取るので、改革や改善が大幅に遅れて遅々として進まないことになります。
自分はわが国の改革の遅れの原因が、この「無言の同調圧力に屈しない異端（辺境）インテリジェンスを受容できない不寛容さ（そのマイナス面を我々は「規律正しき連帯感とそれを実現している民度の高さ」というプラス面だと勘違いしている)」にあると密かに思っております。
メディア記事を見ている限り上述の「多様性」も「DX」もそれを言えば「今売れる」から口にしているだけであって、到底深く考えている様には思えないので、それを連続的に目の当たりにすると思わずこんな風に毒づきたくなってしまいます。
「あっ、またぞろやっている。いい加減懲りないね、このお歴々は」
夫またまた話がそれてしまいました。
それにしても、なぜ「こういった事（集団同調圧力)」が、起きるのか？
それは自分の観察するところによれば、偏（ひとえ）に
「恥への恐怖」故。
耳の根元まで赤らむような恥を掻く事への恐怖。
お互い同士の監視、採点評価目線の前で密かに且つこっそりと、しかし残酷極まりないほど問答無用の峻烈さを以て瞬時にダメ出しをされてしまう事への恐怖。
その故からだと、これまた密かに思って居る次第でございます。

2020/11/4

（超難問に直面す）

Go to eat キャンペーンの効果は想像した以上にありました。途端に予約が毎日入ってきま
す。売上げも徐々に回復してきました。
ですが、いい事ばかりではありません。
まず、キャンペーン中のお客様のお支払立替分の入金が 1 か月後になるので、予約が入れば入る程、材料費の支払が増え、手元資金残高が浸食されて資金繰りが苦しくなります。
今一つは、これは特需でしかないので、いずれキャンペーンの終了と共に、その反動減が「どっかーん」とやって参ります。要するにこれはよくある話ですが需要の先食いでしかないからです。消費増税前の駆け込み需要とその後の需要大幅減と同じ現象が起きる筈だからです。
なので、資金繰りはともかく、来年の 1 月末終了後の落ち込み回避策を今から考えておかなくてはなりません。
今日も従業員を集めて申したのですが
「とにかくここでしか手に入らない、ここでしか味わえないものを作れ。それしか来年を生き延びる手立てはないぞ」
勿論、味の話だけではありません。
今は Go to eat キャンペーンをこの近隣のお店では殆どやっていないので、当店の特徴の一
つにはなっています。他にはネパール語単語帳の発行とか、本の出版をしているとか文化面とのコラボをやっているのも特徴にはなっています。
しかし、それ位の事では到底足りません。小手先の話でしかありません。
ならば何を「ここでしか手に入らない」ものとするのか？しかも「ニューノーマル」も見据えて。
相当な難問です。しかしそのきっかけ位は来年の 1 月迄にどうしても見出さなくては生き延びられませんし生き残れません。
さて、何を？
で、唐突に思ったのが（単にキーワードでしかありませんが）
あそこに行けばくつろげる。けれど世の中から取り残された感じはしない。アナクロや逃避ではなく「人心地着いた。さて、また出かけるとするか」といった感じになれるような場所の提供。
それから今一つの当店の問題として「品質は絶対に下げない。給料も下げない。だとすれば売上を上げるしかない」のに、開店時の値付けを失敗して低くつけすぎた。となれば値上げするしかないけれど、それは「お客様にとって更にハイコストパフォーマンスなもの」でな

くてはならない。
さて、この二つの連立方程式をどうやって解くのか？
これまたイメージでしかありませんが
「今まで気づかなかったが、自分はこういうものを探していたのかもしれない。こういうものが欲しかったのかもしれない」
と思って戴けるようなもの。
誤解を恐れず、或いはまたお笑いになるかもしれませんが、それをも覚悟で敢えて率直に申し上げれば「義理人情」の内の
「人情」かなと。
ではその具体的な形は？
我々は開店以来の、超難問に直面しております。

2020/11/5

（超難問に直面す その２「情」）

「お金を手にする」「お金が欲しい」というのはどういう事なのか？
をちょっと考えてみました。
各人各様で諸説ふんぷん出てくるとは思いますが、自分の定義では
「お金」は「可能性の増大」とか「選択肢の幅の拡大」に置き換えられる気がしました。
可能性ですから万能ではないし絶対でもない気がします。
「金さえあれば何でもできる」とはよく耳にします。
「愛情さえも買うことが出来る」と迄言う方も。
でもそれは無理でしょう。相手は「愛しているふりをしているだけ」
お金の力はそこ迄でしょう。
また「お金があれば安心この上ない」という方もいらっしゃいますが、不慮の天災を前にしてお金は無力です。天災の後の復興には有効かもしれませんが。
なので、矢張お金は万能でもないし、絶対でもないので「可能性の増大」や「選択肢の幅の拡大」レベルの範囲だと思った訳です。
自分は、ことお金に関しては、それを得る才能も余りないようですし、お金の方でも自分を嫌って余り寄り付いてもくれない様なので、お金を求めるのはしばし脇に置いて、お金の効用を「可能性の増大」や「選択肢の幅の拡大」に置き換え、その視点から見て、お金の力に代わるものはないかと、探し始めました。
そこに現れてきたのが「人の力」という言葉でした。
と言っても知力や体力の事ではなく「未開拓の無意識界や潜在意識界の力」の分野です。
何でも人間の意識界､顕在意識界は未だ全能力の 10%にしか過ぎないのだそうで｡残り 90%は未開拓、未踏の分野で眠ったままだとか。
以前の記事でも申上げましたが「義理人情」の内「義と理」即ち上述の意識界、顕在意識界が、アタマ（知）の部分にあたるとすると「人」という天秤の軸にあたる身体を挟んだ反対側の「情」の部分が無意識界と潜在意識界にあたる事になります。
自分が直前の記事で「ニューノーマル発見のヒントは情にあり」と申上げたのは、実はこの部分の力の引き出しを指しての事でした。
前回は紙幅の関係で端折りましたので、今回遅ればせながらご説明させて戴きました。
最後に「情」というとまだ説明が足りなさそうなので、今少し分かり易く申しますと「情」は英語の「heart」に置き換えた方が適切かもしれません。そうしてこの英語を使って「heart touching」と話を進めると、それを逆和訳して「心の琴線に触れる」
その時にこそ金力を凌ぐ爆発的な力が生まれるような気がしております。

2020/11/5-2

（超難問に直面す その３「ハリ」）

分かり易い説明というのは大変難しいものです。
前回の記事で「心」という言葉が出てきたので、古い言葉で言えば「唯心論」（唯物論に対する哲学用語）を何となく想起された方がいらっしゃるかもしれません。
或いはそんな哲学用語を知らなくても「即効性や実効性に乏しい戯言」として捉えられた方もいらっしゃると思います。
そこで今回は今少し追加的なご説明を申し上げます。
自分はこの世を実効的に動かしている両輪は端的に申し上げれば「金と情」だと認識しております。
お金は、もうそのままで何の説明もいりませんが「情」が何なのかをお伝えするのはなかなか難しい処があります。
情を慈愛や愛情、情けとだけ捉えると何かを取り溢した気がします。
その様な正の面以外に負の面もあるからです。
強いて言うなら、愛するより愛されたい欲求。更に端的に申せば
「人気取り」
「人はお金と自分への注目を求めて行動する存在だ」と申上げると分かり易いかもしれません。例えば今迄の権者が何を求めて行動したのかに上述の文言を充て嵌めてみると想像し易い気がします。
それを我々庶民レベルに充て嵌め直してみると
お金は「喰えないのは嫌だ」となり、情は「人に顧みられず忘れ去られて寂しい想いをするのは嫌だ」と言えるかもしれません。
となれば権者は「歴史に残る王」になる事を求めて行動し、我々庶民は、そこ迄は行かずとも、上述二項が欠落した状態（食えないし見向きもされない）での「ハリ（活性感、充足感）がない生活は嫌だ」の反意「ハリのある暮らし向き」を求めて行動する事が想像されます。
ハリは言い換えれば「元気」です。
そうして今一つ大切な視点は、この世を動かしている二大要素だと思われる「お金と情」には時間推移による比重変動があるという事です。
産業革命以降ここ 200 年程は上記二要素の内「お金」に可成の比重が移動しました。
しかしコロナ禍でお金の力に限界が見え始めると権者層は「人気取り」即ちポピュリズム（大衆迎合路線）に走り始め、我々庶民層は、お金より「生き甲斐」「遣り甲斐」となる「甲斐」を求め始め、現れ方は違うにせよどうやら昨今は両者とも後者の「情」にシフトしている様に見えます。
さてこの権者の「情（力）」の支配が優勢になるのか、それとも我々庶民の「情（ハリ）」の希求が優位に立つのか？

ニューノーマルは正にそこにかかっている気が致します。

2020/11/5-3

（超難問に直面す その４ 要は気の持ちよう「から」）

さぁ、いよいよ具体的な形に落とし込まなくてはならなくなって参りました。
落とし込む先の対象は「お客様の気持ちのハリ（元気）」です。
それを何で実現するか？無論当店にしかできない方法で。
読者の方によっては
「なぁんだ。前の記事までは大風呂敷を広げておいて、最後は自分の処の商売の話かよ。語るに落ちたな」
と思われる方もいらっしゃるとは思いますが、何せ私共も食べていかなくてはなりません。
また、話がそこまで落とし込まれないと、今まで語って来た事は逆に「机上の空論」「砂上の楼閣」「インテリ（一応学卒なので）の言葉遊び」となってしまい、それこそ「語るに落ちる」以外の何物でもなくなってしまう気がするからです。
しかし、それにしてもこれは難問中の超難問。
素手で兵力数百万の金満軍団と戦うようなものですから。
或いはまた、大河の反乱にたった一騎で、洪水に槍を持って立ち向かうようなものですから。
そんなイメージを抱いている折、不図ある言葉が浮かびました。以前の記事で自分が使った言葉です。曰く
「適者生存」
それをやや因数分解風に解き分けて
「コロナ禍に適することで生き延びる事」
そして更に
「コロナ禍初め大変こそ大機（不条理こそ成長や成功の大チャンス）」
とブレークダウンし、そういった心理もあり得るのだという事を知って戴き
「要は、気の持ちようだな」
となれば、自分の様な「ダイナミック借金」生活でもお金がない事がそれ程苦にならないような気もします。
全てのスタートはそこからのような気がします。
お金がない事と気が沈む事は同一視され、且つまた一緒くたにされがちですが、恐らくそれは同一ではない気がするのです。
お金がなくても気持ちさえ沈み込まなければ、まだまだ何とかなる気がするのです。

お金がなくて気が残っていれば借金すればいいんですから。借金出来たら、返すために又働けばいいんですから。現に当店は今、まさしくそれですし。
とはいえこれはお店側の話。
なので、お客様側の件につきましては、勿論この先を更にさらさらもっと、もっと因数分解して落とし込んでいかなくてはなりませんが、取り敢えずこのお話、今日のところは、この辺で筆を侵させていただきたく存じます。
次回以降、もっと落とし込んだ具体的なお話が出来ればいいなぁと思っております。
いや、ここまで書いた以上、せずばなりますまい。

2020/11/6

（バブルそぎ落としに効きそうな今コロナ禍）

「言わなくても自分の事はみんな分かっている筈だ」
「言わないから相手の事はわからなくて当然だ」
これが今現在の大混乱の元のような気がしないでもありません。
そうしてたまたま話す機会があって、実際に口を開いてみたらお互いに
「えっー、そんな風に見ていたの？そんなこと考えていたの？」
と予想を打にしなかった相手からの言葉に絶句、とか。
これでは今までどこの誰と何の話をしていたのかわからなくなってしまって当然でしょう。
いや、その前に話をしてみない事には、それさえも分からないでしょう。
世の中では、プレゼン術だ、折衝術だ、説得術だ、果てはベンチャーキャピタルが階上から階下まで下りる僅か 30 秒の間に投資を説き伏せる「エレベーターピッチの極意は？」などと言っているようですが、そもそもその前に共通土台と共通認識を産むコミュニケーションが成り立っていないのであれば、是こそ正に「表層化粧術のスキルアップ」という「茶番講義」以外の何物でもないような気がしてなりません。
お肌の改善や生活習慣の改善には一切手を付けずにファンデーションの塗り方や刷毛ブラシの使い方だけ教えているようなものでしょう。
少なくとも順番としてはまず、腹を割って話す状態とその場が必要ではないでしょうか。
場はともかく、そういう状態にどうやって持っていくか？どうやったらそういった状態を作り出せるのか？
それが第一先決のような気がしてなりません。
世の中のコンサルがその辺を知りながら手を出さないのは「労多くして実入り少なし」だからでしょう。回転率と手離れが悪すぎるからでしょう。
しかし、それでは「結局何の役にも立たない塵芥」が表層雪の如く無駄に積み上がっていくだけです。
いや却って「真層」を覆い隠して見えなくし、ドンドン遠ざからせるだけです。
それではコンサルを受ける側は「労多くして実入り少なし」どころか「労すればする程、却って実を失う」事になります。
それは無意味ですし、意味を成しません。
なので、今コロナ禍下（した）では、現状のコンサルに代表されるバブリーな屋上屋（おくじょうおく）経済圏（商売）層は、我々力のないものでも微振動を与えることによって、一旦、表層雪崩的にそぎ落させ、真層に少しでも近づけてみたい気も致しております。
大海の一滴、砂漠の一砂であっても、蟻の穴から堤を崩せる事もありますから。

2020/11/7

（good position）

こころに「張り」を持たせるにはどうしたらいいのか？
張りですから、ある種、緊張状態です。しかし度が過ぎたりしていると、今度は却ってガチガチに強張ってしまいます。なので、適度でないといけません。
一方それが幾ら適度であっても緊張ばかりでは矢張疲れてしまいますから、時にはくつろぐ事も必要でしょう。
換言すれば緊張と弛緩を交互に繰り返す事です。
物事は何でもそうですが、それ一辺倒というのはよくありません。多方向で相互入替が好ましいと思います。
話を元に戻します。
張り、即ち一種の緊張状態になるのはどういう場合でしょうか？
簡単に言うと「リスク（テイク）」をしている時です。ある程度不安定で、ある程度の危険を冒している時です。或いは冒さざるを得ない時です。
図らずも訪れた（というか見舞われた）今回の「コロナ禍」等はそのトリガとして好機でしょう。
これ程全世界的且つ同時的に多くの人々が緊張を強いられている訳ですから、考え様によっては「こころの張りを持つ最大のきっかけ（チャンス）」を同時共感的に掴む波に大化けする可能性を秘めている様にも思えます。
無論、命を危険に晒す様な事があってはなりません。それは「度が過ぎている」の範疇です。
しかし新たな世界（ニューノーマル）を得るには、この位の危険はやむを得ない気もします。
綺麗な言葉で言えば「創造的破壊」という処でしょうか。
そうしてこの「創造的破壊」を効率的且つ効果的に行う為には二つの考え方の組み合わせがよいのではないでしょうか。
一番目は、前記事でお話した「蟻の穴から堤が崩れる」ポイントを見つける事。
二番目は、支点、力点、作用点の考え方です。
簡単に言い換えると「テコの原理」です。
即ち、小さな力で大きな物を動かすには、その支点と力点をどこに置くかが鍵になります。
支点はある程度作用点に近く、力点は支点から或る程度遠くにセットするのがいい訳ですから、着眼は対象の近くに打ち込みつつも、立ち位置は余り今の流行やメインフィールドの渦中に居ず、少し離れたポジションを取る事が有効かと思います。つまり敢えて一種の「辺境」に位置を取る事です。
（「ある程度」と書いたのは、余り作用棒が長いと自らの自重で棒が垂れ下がり、効力が薄れるからです）

当店のロケーションは「着かず離れずの田舎」なので手前味噌ながら好位置につけていると思っています。
「灯台下暗し」の逆 position です。

2020/11/7-2

（青年よ「大疑」を抱け、とか）

奇しくも我々はコロナ禍という「千載一遇」（後述）の「大事態」に見舞われているわけですから、ここはじっくり今後の事を考えてみるいい機会かもしれません。
例えば
「本当のところ、自分はどうなりたいのか？」とか「何を探しているのか、求めているのか？」とかです。
こういった疑問を明示的に（明確に意識を以て）自分に対して呈することでしょうか。
そうすると、今まで自分で考える間もなく幼少期に前の世代の人たちの日頃の言説や振る舞いから「本音的に欲しいのはお金や地位や名誉」と暗黙裡にそう思い込まされて、気づいた時には、既にもうそれで走り始めていただけなのかもしれないと何人かの人は思い至るかもしれません。
そもそも限りあるものを奪い合うからこそ争いが生まれます。喰いッぱぐれては大変だからです。乗り遅れても大変だからです。
限りあるものの代表例としてはお金やポストや資源があります。お金は新規発行の財源的裏打ちがあればいくらでも刷れるという論もありますが、裏打ちを超えては刷れませんのでやはり有限でしょう。ポストも社員数以上には増やせませんし、資源は言わずもがなでしょう。
ならばどうすればいいのか？
自分なりの答えとしては、有限である物的なものに対して、我々側が物的なもの以外に「価値観」を抱けば、有限な物自体への依存比率が減って、有限な物的価値を上手くシェアできるのではないだろうかとか、更に進んで我々が人数分だけの価値観を個別に持ち、その違いをお互い許容し合えば、ひょっとたら無形の世界においても争いごとが減って、それらを相互に上手くシェアできるかもしれないなぁ、とも何となく想像しております。
このように、考え方の多様性を獲得し、有限なものを上手くシェアするのに今コロナ禍は千載一遇のいい機会なのではないかという意味で、敢えて妙な言い回しと知りつつ「千載一遇」の「大事態」と冒頭に書いたわけです。
そのためには各個々人が、まずは先代から、自ら考える暇もなく「何となく既にそういうものだ」と思い込まされていたかもしれない既存の価値観を今一度疑ってみることは、無駄なことではないのではないか？という思いで
「自分は、本当はどうなりたいのか？」とか「自分は一体何を探しているのか？求めているのか？」
を改めて明示的に考えてみてはどうでしょうか？と申上げている次第でございます。

2020/11/9

（楽しくサバイバルしよかぁ）

自分は子供の頃、昆虫採集やら石や貝殻の標本造り、恐竜やら土器の発掘やらに大変な興味があって、野山を駆け回ったり、そこいら中を掘っくら返したりして遊んでおりました。たまの発掘では、当時としては大金の 100 円札を「発掘」した事もありました。
そんな折、本日ある人の記事が目に留まりました。何故目に留まったかというと、その人も自分と同じ様な少年時代を過ごしていた事が書いてあったからです。
その人は大手生保を辞職後、日本で初めてネット証券を興し、現在は何処だかの国際大学の学長をされている方でした。
まぁ、肩書は兎も角、その人の凄い処は、仕事をしつつこれ迄に一万冊を読破、世界各国 1200 の都市を訪問し、哲学、宗教、歴史、生物学、脳科学等に造詣が深く、実務実業に携わりながら「知の巨人」になられた事です。
で、その人曰く、上記の様々な学問に照らして人の世や生物というのは
「運と適応で決まる」
というのです。
「運」というのは、たまたまその時代のその場所にいる事。
「適応」とはその中でその「運」に合致すべくそれを最大最善に活かした結果だと。
「だから自分は来る者は拒まず、去る者は追わずに来る流れは流れのまま受け止めて流されるままに生きる様にしています。その中で流れを活かした泳ぎ方を学ぶようにしています」
という意味の誠に謙虚な内容で締め括ってありました。
コロナ禍という言葉は一つもできていませんでしたが、何かコロナ下でのサバイバル術を教わった様な気がしました。
話しは少々変わりますが、自分の今の最愛の趣味は「料理を作る」事です。
但し世にいう材料の吟味や手間暇に矢鱈凝り、こうである為にはこれがなくてはならぬといった「男の手料理」というよりは、今あるもので何が出来るか？今日、安いもので何が出来るか？献立を決めずに買いに行って後は成り行き任せという、言ってみれば完全に「出たとこ勝負の主婦」料理です。
オマケにレシピは一切見ずに「これはこうで、あれはああやから、ここはこんなもんやろぅ」位の適当料理です。
そうしてそれで「何が出来るかなぁ」と思うと楽しくて仕方がありません。
後、後片付けも好きです。スッキリするからです。
是を少々御大層に抽象化すれば「創意工夫」と「整理整頓」が大好きという事になります。
それを交互に繰り返す。
今コロナ禍では、この辺を軸に楽しく生き抜こうと思っております。

2020/11/10

（公私混同スベカラズ且ツ公私同一タルベシ）

「公私を混同するな。譬え鉛筆一本でも会社の物を無断で持ち帰えれば、それは泥棒も同じ。その区別をキチンと弁えろ（わきまえろ）」
と子供の頃に、当時某社の総務課長だった親父から厳しく言われました。
その話は以前記事に致しましたが、その後観察を繰り返す度に、歴史上、且つ地理上、全世界史的に見て「公私混同」が国家、王朝、会社、団体の滅亡の第一要因となっている様な気がしておりました。
平たく言えば「公（おおやけ）の私物化」です。
ところが、そういった認識を得てから幾星霜、最近、その自分なりの「公私混同の公式見解」に、多少変化が生じたと申しますか、或いは幾分注釈の必要がある気がして参りました。
それは、アジア系外国人と我が国同朋の振舞いの違いを目にした時からそのような思いを抱く様になったのです。
それは、これ又先般記事に致しましたが「マナーの悪さで有名を馳せた某大陸人が、少なくとも在日某大陸人を見る限り近年、我が同朋より来店マナーに関しては、その汚名を返上し、今ではわが同朋客よりむしろマナーが上になっている」
というネット記事を目にし、失礼ながらその傾向は我々飲食業界でも「あるある」と言わざるを得なかった事が発端でした。
その偶然目にした記事を基に当店の外国人従業員の働きぶりなどを加味して重ね合わせた結果、感じられた「公私混同の注釈づけ」というのは
「業務時間中（即ち公）の仕事の完成度は我が同朋の方がアジア系外国人より可成高い」
が
「業務時間外（即ち私）の過ごし方や態度としては、我が同朋より外国人の言動一致性の方がむしろ高い」
これを図示すれば
「公」を左に「私」を右に取って各グループの公私でのボルテージを線で結ぶと
在日アジア系外国人は「公」微低「私」微高
の右肩なだらか下がり線
に対して我が同朋は「公」可成高「私」可成低
の左肩跳ね上がり右肩落しの垂直近似下がり線
になっているように思えました。
なので、これは「公私混同回避」の逆用悪解釈例の様に思われたのです。
本来なら on（表や外面）と off（裏や内面）は高低差がなく公私同一で、しかも高い位置で
の同一でなくてはならないのに、評価対象である公（仕事時間）のみ立派に振舞い、評価対

象外（私的時間）では一気に手抜きをしている傾向が最近強まっていないだろうか？
と幾分心配になった次第。
己も含め「要点検事項」と思います。

2020/11/11

（ここは joke で）

いよいよ冬到来。
冬のボーナスは上期業績由来なので、Corona 禍で大打撃を受けた上期業績が反映されます故、お勤めの方は支給額大幅減か無配になる可能性がありそうです。
我々自営業者もその影響で年の瀬を越せるか否かの瀬戸際に立たされるかもしれません。
それでも 12 月は学期終了での冬休みや Christmas Eve 等まだ幾分お祭り気分が残っていそうですが、これが年明けとなると恐らく様相が一変することが予測されます。
併せて元々寒季活性化する Corona の特性から第二の大波が来る事も考えられます。仮に来なかったとしても皆さん可成用心されて益々引籠りがちになられる事は想像に難くありません。
更に考えられるのは、その余波で企業業績が悪化し、3 月年度末の決算報告を少しでも良く見せようと大企業は人員整理、弱小企業は倒産前に少しはましな廃業等いずれにせよ大量解雇、失業の大津波、言い換えれば人的激甚災害がやってくることが更に予見されます。
そうして家族内で派生的に起こりうる「Corona 転校」「Corona 中退」「Corona 離婚」等々。
簡単に言うと「お先真っ暗」「いいとこなし」
さてもさてさて、どうしましょう。
自分の最悪期「お先真っ暗」で「いいとこなし」だったうつ病期の経験からすると、こういう状況下では一刻も早く「地獄のどん底」迄行って「自分は所詮小者」と諦め切ってしまえた事の方が却って「小者再起の近道」だった様な気がします。
なまじ中途半端な処で引掛からず且つ生半可な対症療法なんぞは蹴飛ばして、いっそ行くなら地獄の底、一気呵成に「まっしぐら」が良かったような。
要するに下手な背伸びはせずに身丈になり、地に足をつけて一から出直す。
換言すれば乗り越えるハードルを一番低く下げた処から一歩一歩順次上げていく事です。
何しろどん底に辿り着いているのでもう下はないし、下を見る必要もないので後は上方にのみに目と気を向けて上がっていけばいいだけですから。
現在の弊社でいえば売上 0 をも想定内に置いて、さてその先どう上がって行こうか？位の楽観でしょうか。
まぁ、いずれにせよ「朝が来ない夜はなし」「冬来りなば春遠からじ」が世の常でございますから、過度の心配や絶望は禁物。
それで最近従業員には成丈 joke で接する様にしております。
暗いお店にお客様はお越しにはなりません。
「灯なき処、黄金虫は来ず」も世の常だからでしょう。
故に「ここは joke でおもてなし」が現下最善の策かと思い居ります。

2020/11/12

（「大胆にして細心」は「細心故大胆」？）

「大胆にして細心」
自分の記憶では、この言葉は、今は亡き映画の巨匠黒澤明監督を形容するのに用いられた言葉であったと思っております。
しかし自分はこの言葉を学生の頃に耳にして以来、何となくその語並びに違和感を覚えておりました。
まぁ、大胆でもないし細心でもない一介の「カリー屋風情（ふぜい）」が異議をさしはさむのもおこがましいのですが、違和感を覚えると、どうにもその正体を知りたくなってあれこれ考えてしまうのが自分の質（たち）なので致し方ありません。
それでは何に違和感を覚えたのか？
それは「にして」を「且つ」と置き換えてみた場合、相反する二つの概念である「大胆」と「細心」が「同列」に置かれているのに違和感を覚えたようなのです。
そもそもそんな対立項が都合よく同時併存するなど「言葉の遊び」にしか過ぎないのではないか？
「巨匠の映画作品を売るために広告屋が考え出した、お決まりの煙巻き文言ではないのか？」
という疑いが違和感を覚えさせて居たのだと、つい昨日まで自分なりに、そう解釈していたのですが、今朝、不図
「これは対立項ではなく「順番」になっているのではなかろうか？」と思い当たりました。
何故、そう思ったかといえば、単なる思い付きですが「時間軸」を充て嵌めてみたのです。
そうしましたらまず、細心と大胆の順番が入れ替わり、その上であるストーリーが浮かび上がりました。
曰く
「大胆にして細心」ではなく
「細心だったから大胆になれた」と。
細心というのは「用心深い」（監督の作品に「用心棒」というのがありましたっけ）という意味では無論なく「小さな変化にも的確に気が付く鋭い観察眼」と置き換えてみた時に何となく見えてきました。
「細心、即ち観察眼の積み重ねが、より多くの情報を収集させ、それが膨大なデータ量となって、一見周りからは大胆に見える決断や判断を行わせる。しかしそれは周りからは大胆に見えはするが、本人からしてみればデータに基づいた必然の結果（判断と実行）である」
という風に見えました。

ですので「大胆にして細心」は「細心だったが故に大胆になれた」というのが、語呂は悪いですが正しい解釈なのではないかなぁ？と思った次第です（語呂をよくするなら「細心故大胆」でしょうか）
こんな事ばかり日長一日考えているので、儲かる訳がございません。
しかるに止まらない。困りました。

2020/11/12-2

（その結末や如何に）

先般の記事で今コロナ禍「売上 0 をも想定内に置かなくてはならない」という事を申し上げました。
本件に付き今少しご説明を。
まず 3 年前この地にカリー屋として飛来した折、周りには多棟団地群、通りを挟んだ対面には小規模とはいえ SC（shopping center）もあり開店するには最適の場所だと思っておりました。
しかし蓋を開けてみると通りを挟んだ SC 側には往来があるのに、こちら側には殆ど往来がないとか、周りの多棟団地群は築 40 年以上で建物も住人も[老朽化｝して購買力がない事が判明。
その為何とか流れを変えようと様々な催事や情報発信を行い続け、本年年初辺りから少しずつ流れに変化が起き始めた矢先、コロナ禍に見舞われました。
程なく、少し離れた大手ローコストオペレーションスーパーが撤退し、続いて道を挟んだ眼前の SC にテナントとして入居している大手ベビー用品チェーン店が撤退、更に英会話教室や高齢者向け大手エクササイズ教室も撤退、更には今月半ばで一番占有面積の大きかった中高年向けファッションショップも撤退することが決まりました。これらは全て二階建て SC の二階部分の出来事なのですが、下手をすると 1 階部分を占有している電鉄系大手スーパーすら撤退する事も考えられます。
そうなると最早人の流れは激変し、この「方面全体」にお客様の足が全く向かなくなる事が予見されました。
それで先般の記事で「売上 0 をも想定内に置かなくてはならない」と申上げた次第。
しかし又コロナ禍で逆に効用もあります。
感染第二波が起きそうなこれからの寒季、再びテレワーク率が上がれば、却ってこの地の昼間滞在人口が増えます。無論、冬のボーナス支給額低下や寒さそのものと過度の用心といった出足にマイナスの面もありますが、矢張滞在人口そのものが増えるのはプラス面となります。
加えてこの地には EC（ネット上の市場）サイトを運営する大手 IT 企業の外国人ソフトエンジニアが相当数住んでおります。
無論こちらのグループにも上述のマイナス面は当て嵌りますが、彼らが頂戴しているサラリーそのものは悪くはないので購買力としては有望です。
そこで一つ
彼らも外出を控えるのなら、そして EC 注文品が配達に 1 両日を要するのなら、且つ又彼らの大多数がカレー文化圏住民であるなら

「御当地宅配 OK のカレー素材輸入食料品店」を当店隣の未稼働部屋に併設してみてはと思案し始めた次第。
さて、その結末や如何に。

2020/11/13

（コロナ禍直後の経済的「焼野原」に立つ羽目になったとして）

前回の記事で「売上想定０」が考えられる事態として、通りを挟んだ小規模 SC(shopping center)のテナント全てが撤退し、最悪の場合 SC の建物そのものが撤去となり、眼前に終戦直後の「焼野原」状態が拡がる事が考えられました（我々コロナ禍に苦しむ零細飲食業者にとっては正に「悪夢」といえそうですが）

そうして同じ課題に対して前々回に、それを切る抜ける現時点での最善策は「joke しかない」と申上げ、前回では「御当地宅配 OK のカリー素材輸入食料品店」のアイデアを思いつきました。

しかしそれではまだまだインパクトが足りそうもないので、今回の記事ではそれを更に一歩進め、仮に眼前が「焼野原もどき」状態となり、あたり一面四方八方すべてのお店が閉店、移転、撤退、廃業、倒産となった場合、つまり四方八方焼野原状態になった場合にどうするか？或いはまた「どう考えるか？」を検討してみました。

そこでででてきた絵姿は

「例えば当店が、焼野原にたった一軒残ったお店だったとして。その空空漠漠たる空間にただ独り立つ奇跡の一本松みたいなお店から、終戦直後の疲弊し落胆仕切った庶民を励ました笠木シズ子の「東京ブギウギ（♫あの娘可愛や、カンカン娘～♫）」が聞こえてくるような状態を現出出来たら、難破しかけた船が灯台の灯りを目指してくるようにやってきてくれるのではないか？」というイメージが浮かび「そんな何かを仕掛けてみようか？」という意欲が湧いてきました。

「そうか、苦境を乗り切るにはエンターテイメントしかないのかも」

そのエンタメが今回の場合何であるのか迄は、まだ行きついておりませんが、少なくとも大きなヒントを得た気がしております。

「苦境を立て直す第一が経済、金銭だけとは限らない。もし終戦直後に東京ブギウギがなかったらひょっとしてその後に続く奇跡の復興もなかったかもしれない。まずはマインドアップ。それがステップアップの定石ではなかろうか？」

そんな気もして参りました。

お金がないから萎れるのではなく、お金がなくて気分が萎れるからお金が寄り付かなくなって、結果「お金がないから萎れた」と二者を一つのものとして混同しているだけなのかもしれません。

これを上述のように、2 ステップに分けて考えれば、別の解決策や打開策が見えてくる様な気がして参りました。

今後、今少し、先に歩みを進めてみたいと思っております。

2020/11/13-2

（存続）

最近、所謂無理筋からの「バッシング」続きで自分も外国人従業員もホトホト参ってしまい、稼業は止めないもののこの地を去ろうか否か思案に暮れていた折、今、弊社お客様クチコミ欄で「身に余る励ましのお言葉」を頂戴し「何としてでもこの地で店を存続させよう」と思い直しました。
個人情報故お名前も掲載内容も公表はしかねますが人を励ますならこういう書き方が一番、心に沁（し）みるなぁと感心致しました。
書過ぎは先様にご迷惑が掛かりますので話を少々切り替えさせて戴きます。
「存続」という言葉が偶然出てきましたので、本日はその話を少し。
会社員時代「企業の最終目的は利益の最大化である」と教わったのですが、今当地で店を運営するに当たり「我々の最終目的は事業の可能最大限の存続にある」と置き換える様になりました。
話を見え易くする為、上述の文言に、企業の目的は「当期利益」の最大化にあると、カッコ内の文言を付け加えてみると分かり易いと思うのですが、要するに是に従うと企業の事業責任者は常に「右肩上がりの中期計画を立てざるを得なく」なってしまうのです。
自分も会社員時代、企画部門に属しておりましたが「実態を反映した事業計画書」を提出すると、必ず書直しを命ぜられました。
それで弊社の場合、上述の様に目的改定をしたのですが、早い話競争相手に勝つ事や利益の最大化を求める真の理由は、それが「存続の為の最大要因」であると思うからでしょう。もし是が当期のみ競争相手に勝つだけ、当期のみ利益が最大化されるだけで翌期や近未来において存続できないのなら全く無意味でしょう。それこそ「三日天下」
であるなら「（当期）利益の最大化」という目的は「存続」の為に果たして有効なのだろうか？手段の先の真の目的を見ず、手前の単なる手段を目的と穿き違えていないだろうか？
昨日当店で発生した事例ですが、お客様の車の駐車位置で大家や他店ともめ、車移動の件でお客様がお食事を御中断戴く位なら、又外国人従業員に過度の負荷を担わせる位なら、いっそ眼前の SC 内お客様用有料駐車場料金を当店で肩替りするサービスに切り替えた方が長い目で見れば得策と判断。運用を切替える事に致しました。
是は当期利益の最大化を念頭に置けば無駄扱いされ浮かばぬ発想でしょうが存続を第一に考えれば時に損するも可也故、発想自体自然かと。
「慌てぬ乞食は貰いが多い」
と諺が変わるかも、です。

2020/11/14

（プライド）

よく言われる「我が国民特有の恥」の正体は自分の観察によれば「プライド」と大いに関係があるような気がしてきました。
英語の場合 pride, be proud of といえば「誇り」とか「誇りに思う」とかを表し、日本語で言う処の「プライド」とは意味を異にする感じがします。
このカタカナ表記の「プライド」或いは「プライドの高さ」といったものが正に我々に特有な感情のような気がするのです。
英語表記の pride, be proud of つまり「誇り」や「誇りに思う」には、そう思うに足る確たる内実があるような感じなのですが、我が国の「プライド」や「プライドの高さ」には、その確たる内実の有無に依らず「お前は俺を尊敬して然るべきだ」とか「貴方は私に傅（かしず）いて然るべきでしょ」というように根拠なく「まずそうしろ（そうしなさいよ）」になっているような気がします。
「全てはそれからだろ（でしょ）」になっているのです。何故だか。
しかもそれは学歴が高い人ほど、年齢が高い程（ある年齢迄ですが）性別でいえば男性にその傾向が顕著の様に見えます。
何しろ英語表記の pride（誇り）の様に確たる内実の手応えのないまま、形だけそれを繕う（見せ掛けよう）とするものですから、想定外の場面や人物との遭遇で思いもよらぬボロが出るのではないかと人との接触を恐れたり避けたりする様になります。突き崩されては大変だからです。失態を見せる事は「社会的な命取り」になりかねないからです。
なので、安全かつ筋書きのはっきりした落とし処の見える予定調和的な場面にしか行かなくなります。
そうしてその「筋書きのはっきりした予定調和」内容乃至項目（価値観）は、何故かは分かりませんが、極めて限られた幾つかの項目に絞られており、更に絞られている分その価値体系は微に入り細に渡って規定されており身動きが取れなくなっている様です。
仮にその限られた項目から外れ、新たなものを持ち込もうとすると途端に同調圧力がかかり、従わないと「異端、破壊者」とみなし、或いはその中の細目規定を少しでも踏み外したり飛ばしたりすると「乱暴者、無礼者」のレッテルを張る傾向が強いように思われます。
総合すると「中身は兎も角まずは形だけでも整えなさい」
そうして「理由は兎も角まずは私を尊敬しなさい（傅きなさい）」となっている様に思えてなりません。
だとしたら「この不寛容と高慢」を我々は今後どうやって解消していくのか？
難題です。

2020/11/15

（それだけは何としてもご勘弁を）

「本心を語らない人と話をしてもつまらない。仮面をかぶった人と話しても疲れるだけ」
仮面をかぶっているので、いくらこちらが話しても声が届かないでしょうし、相手の声も聞こえてきません。
手応え無しの空回りで虚しいばかり。
一昔前までは「内弁慶」とか「外面（そとづら）がいい」という言い方もありましたが、今では家庭内ですらこの仮面を脱げない方も増えているようで。
それじゃぁ、どこで仮面を脱いでいるのかといえば自室やトイレで一人になった時。
いやいや、それもできなくなって自室にいる時ですら仮面を脱げなくなってしまっている人も。
例えば仮面を脱ぐと目に見えない鏡に自分の本当の姿が映ってしまい、怖くて見られないので自室ですら仮面をかぶり続けているとか。
しかしそれではあまりにも息苦しく、それこそ息つく暇もなくなります。
それでどうするかといえば、仮想空間、ネットの中で「本性を剥き出し」にする。
無論ネットの中でも仮面をかぶっている人もいますが、その人たちはまだそこ迄深刻な「仮面病」になってはいない人。
話を戻します。
その時、本性を剥き出しにする相手は、決まって全くの第三者。
直接の利害関係者には「利害が絡む」ので「ヤバくて」手が出せないので。
その生贄になる第三者さんこそいい迷惑。
上記が若い人に多い傾向だとすると、ネットの技量があまりない年配者は、電車やバスの中、個人を特定しにくい歩道などで、見も知らぬ第三者に「殆ど反射神経レベルでコマメ且つ小出しに意地悪」を繰り返す。少しずつガス抜きをする。
これはもう日課というより「なくて七癖」位にしっかりと身に染みついてしまっている。
仮面を脱いで、少しでも本心が語れる相手や場所があれば、そんなことをしなくて済むはずなのに。
なんでこうなってしまっているのでしょう？昨今の我が国は。
いやいや、もっと言えば仮面をかぶっていることすらもうすっかり忘れてしまっているような気がしないでもありません。
「えっ、何の話？」
そういわれたら返す言葉もありません。
そうして話す気すらうせてしまいそうです。
そうなることだけは「なんとしても」ご勘弁を。

2020/11/16-2

（Go To Eat キャンペーンドタバタ騒動記　「人が石垣、人が城」）

まさか、こんなに早く終わるとは。
しかも前々日にキャンペーンの折り込みチラシを新聞に入れて大量に配ったばかりなのに。
例の「Go To Eat」キャンペーンが突如終わってしまったのです。
当初は来年 1 月末終了予定。
何でも想定以上の利用があったとか。データによると我が国全国民の約半数 5000 万件のご利用があったとか。
確かに、来年 1 月までなど国庫予算も続くまいとは思っていたのですが、それでも 12 月の書き入れ時の途中くらいまでは何とか持つだろうと踏んでいました。
それが、なんと一か月前倒し。
突然の一報に昨日はお客様へのお詫びアナウンスに終日追われました。
確かにいずれは終わるであろうことは覚悟しておりましたが、こうも早く終わると資金繰り計画が大幅に狂って急に資金がひっ迫する事になり、その対策を何よりもまず立てなくてはなりませんし、又キャンペーン終了後の代替売上の具体策を至急実行ベースに落とし込まなくてはならなくなりました。
しかしここでも難問が。
代替策「カリー文化圏輸入食料品店併設」の立役者であるパキ姉ちゃん一家の中でカナダか英国への移住の話が出ているというのです。言語、ワーキングスタイル、煩雑な事務手続き等とてもついていけそうもないとご主人がストレスでパンクしそうになっているからのようです。
「職場の同僚以外は社内でも街中でも英語が全く通じない。テレワークで on off の境界を突き崩してのべつ幕なしにかかってくる電話とメッセージ、しかもそれがただ残の山だけを残している。おまけに何でもかんでも書類、書類、ハンコ、ハンコ」にほとほと参っているようなのです。
パキ姉ちゃんは仕事の腕はまだ発展途上レベルなのですが、父子家庭で長いあいだ母親代わりをしてきたせいもあってか、何といっても心が広く、思いやりにあふれ、自分が苦しいときに随分と助けてもらいました。
が、その貴重な人材を失うかもしれないと思うと茫然自失の思いに駆られます。
うちはスキル優先ではなく、ハートや資質優先で人を雇っております。今のメンバーに辿り着くのに 3 年かかりました。その得難い貴重な人材の一角が欠けることに大変な動揺を覚えております。いや茫然自失に近いものがあります。

何といっても企業は
「人が石垣、人が城」
ですから。
それだけが真相のようですから。

2020/11/17

（屋台骨、揺らぐ。もはや待ったなし）

パキ姉ちゃん一家の海外移住話しの影響で Go To Eat キャンペーン突如終了による売上減少補完策「カリー文化圏輸入食料品店」計画に暗雲がさし始めたというお話を前回致しましたが、よく考えてみたら影響はそれに留まらない予感がしてきました。
いや、当社の経営理念である「貴方の傍にいる人との国際間世代間交流事業」（我々の長年に渡る様式美偏重や心理的鎖国を解き放つ事業）の屋台骨が大きく揺らぐ可能性が感じられるからです。
どういう事かというと、この現象が単にパキ姉ちゃん一家にとどまらず、この近隣に近年、大挙して移り住んできた外国人家族全般の心象だとしたら、輸入食料品店での先々の需要漸減どころの話ではなく、交流の片割れである「国際間フィールド」そのものが消失してしまう事すら考えられるからです。
今コロナ禍で、故国以外で暮らそうとする移住者たちの間では、恐らく移住先の選別が始まっている様な気がします。
「見ると聞くとは大違い」
であった部分が実体験を経て修正され、実存レベルでの判定を潜り抜けた上で再評価、再選別され始めているような気がするのです。
パキ姉ちゃん一家の移住候補地はパキ姉ちゃん一家と洋の東西の他、肌の色も宗教文化も異なりますが、それをも押して迄移住しようと思うようになったのだとすれば、我が国の何がそれを決意させてしまったのか？肌の色もどちらかというと近く、宗教的にもそれ程縛りもきつくない、言ってみれば「楽な筈の我が国」を捨てて迄、移住しようと思う迄に追い込んでしまったのか？
そうしてあれほど苦楽を共にしてきた仲間が、それをも捨ててまで移住しようと思うに至ってしまったのか？
更には決して給与条件の悪くない今の職場を捨てて迄、今コロナ禍、冒険とも言える移住の決意を旦那さんに促してしまったもの（心理的圧力）は何だったのか？
これは我が国の今後の未来の為にも、かなりのレベルで一考に値するような気がします。
そうして、それに関しては早急に本当の「不満、不具合」の源を突き止め、速やかに改善しないといけないという思いに強く捉われております。
事は急を要するようです。
屋台骨が揺らいでいるのは弊社だけの話ではないのかもしれません。ひょっとしたら我が国の未来の屋台骨が揺らいでいる可能性すらあるような。
だとしたら、一刻の猶予もありません。
最早
「待ったなし」

でしょう。

2020/11/17-2

（どちらが先か？臆病？安心安全指向？）

現存するインテリ年配カップル（カップルの若い方が 35 歳以上、同じく 80 歳以下）は最少失点目的の「消去法」で成り立っている。決して積極選択ではないのではないか？
そんな気がしてきました。
特に女性は「消去法」の傾向が強く、男性は「その消去法の中の候補にすら残れない」事を恐れているような関係。
そんな女性の「これよりはこっちの方がまだしもマシ」の安全パイ思考を敢えて裏返して予測するに、実は元々の要求レベルは極めて高く、かといって冷徹な損得勘定に照らせば到達しそうもないので、取り敢えずリスクオフのポジションを取って安全パイを選んでいるようなそぶりが散見されます。
一方男性の方は、女性の「隠された要求の高さ」を薄々は感じているので、何かの機会に女性本人がその内在欲求に気づき、それを切り出されたら一溜りもない事を無意識に察知しているのでしょう。男性陣は何と見られようと、彼女ら自身が今はそれとは気づかずにいるのを幸いに、取り敢えずはうすら惚けて、そちらには蓋をし「消去法次元」での話に留めるべく「唯々諾々」ベースで「ぬれ落ち葉族」（現役世代も含めて）を敢えて演じているのかもしれません。
女性は自分にとっての「最高」を鼻から諦め、男性はこれ又鼻から「最悪」を回避する行動の日々。
これらは全て「安心安全指向」から生み出された「最大最悪の心理的弊害」のような気がしております。
ここでいう「安全安心指向」とは事においてもリスクを取らず、常にバッファーを設けて本体や本心をセンターから微妙に外したりずらしたりする心理状態を指しております。
それにしても我が国のインテリ男女はなぜこう迄「臆病」になってしまったのか？
これまた一考に値する気が致しております。
「臆病」という資質レベルの話と「安心安全指向」という思考レベルの話。
さて、どちらが先だったのでしょう？どちらがより根深いのでしょうか？
付記）
インテリの定義が学卒であるなら恥ずかしながら自分もインテリの部類に属します。年齢は 67 歳なので完全に上記対象範囲内です。しかしカップルではないので、立場的には微妙です。それというのも、自身そうなった場合の検証がまだきちんとはできていないからです。
それと、現在も、一人住まいとはいえ、お化けが怖くて深夜のトイレに行くのを先延ばしする程「肝っ玉の小さい人間」である事は 100%認めます。

2020/11/18

（ 本日も又企業の礎は「人が石垣、人が城」）

事業に於いて幾ら経営者が頑張るといった処で、それだけでは限界があります。
矢張何といっても従業員の力の発揮がものを言います。なぜなら社長の数の方が従業員数より多い会社はありませんから。
なので、かなり前から社員教育には力を注いで参りました。
そのせいか、一例をあげれば、最近では cost down のみではダメで cost performance がより大切なのだという事や、毎日同じ事をやっているだけではいずれじり貧になる。やはり日々変化をつけないと生き残っていけないという様に社員の考え方が変わり、併せて行動も変わってきました。
端的に申し上げれば「自発性」が出てきたのです。
従業員からの新メニュー提案や売上の自主記録開始などはそのいい例でした。
言い方は悪いですが、当店の外国人従業員はわが国でいえば「ろくすっぽ中等教育すらうけていない様な」環境で育ち、縁あって我が国に飛来してきた訳ですが、実の処、学歴がどうのというのはあまり関係がなく、ほんの少しの情報さえ的確に教授すれば、もうそれだけで十分。
これまた端的に申し上げれば「その気にさえなれば」後は何とでもなるようです。
一方、当店では昨年 9 月あたりから「景気低迷対策」を始めておりました。
それというのも、コンドラチェフの波、景気循環説から言えば、そろそろ景気後退が始まってもおかしくない時期に差し掛かっていたからです。
ところが、そのころ景気指数は悪化せず、株価も順調であった事から「もはや景気循環説は古く、このなだらかな適温景気の持続こそニューノーマルだ」という説が拡がり始めておりました（ニューノーマルと言う語は実はコロナ禍以前に登場していたのです）
しかし、その予見もむなしく、まさか年明けにコロナ禍という想定をはるかに超えた超ド級の「景気消滅」ともいえる事態に遭遇するとは。
ですが、何の備えもしていなければもっと手の施しようもない事態に陥り制御不能になっていたかもしれません。
話を始めに戻しましょう。
結局今回の事態で分かったことは、資金力、IT 力、予見力、経営努力もさることながら、最終的にはやはり人力なのだ、しかも従業員の人力をおいて他に突破口は存在し得ない、という事でしょうか。
本日も先般の記事の焼き直しになりますが、
矢張企業の礎は
「人が石垣、人が城」（武田節から借用。武田節では「人は石垣、人は城」となっております）

でございましょう。

2020/11/18-2

（それだけはお忘れになりませぬように）

物事は何でも自発的でないと楽しくもないし、面白くもありません。身にも付きませんし、工夫も生まれません。
自発的でない「チャレンジ」を他から求められた場合、それは殆ど「拷問」
「やらなきゃならないってさ」と「よし、やるぞ」では全然違います。
経営者の仕事は「チャレンジ」を従業員に求めるのではなく
「よし、いっちょ、やったろかいな」
という気分を従業員に興してもらう事でしょう。
例えば cost down をするにしても
「それじゃないと売れないと言われたから」
と、八つ当たり的に業者叩きをするのではなく
「これはぜひみんなに使ってもらいたいから、何としても手頃な価格に納めたい」
を起点にして、同じ効果にだけ着目し、同じくその効用を満たす全く違ったシステムを見出したりする自ら工夫するとか。
そうすれば仕事は創造的になります。
その創造の楽しみを伝えるのも経営者の仕事ではないでしょうか。
仕事でも何でもそうですが、楽しくもなく面白くもなければ続きません。
面白くて楽しいから続けられるのです。
特に状況が悪く苦しいときには猶更です。
楽しさ面白さが苦しみを和らげます。
「仕事は厳しく、苦しいものだ」
等と「したり顔」で部下に訓示を垂れている上司を自分は全く信じません。
出入りの業者で我が国に帰化した中国人先生も言っておりました
「その商売が楽しくなくなったら儲かっていてもやめた方がいい」
と。
仕事は正規であれば 1 日最低 8 時間は拘束される訳です。1 日の 8 時間もが真っ暗な気持ちでどうするのでしょう？
それを正しい認識だと言い、それができないと「認識が甘い」というのは完全な間違いです。
矢張「楽しく面白く感じられる」仕事をすべきです。
その代わりそれと引き換えに
「給料が安くても」是非ともやってみたい

というカッコの中の但し書きは付きます。その但し書きを受け入れる覚悟は必要になります。世の中に 100％自分に好都合な満願成就は存在しません。全ては先様半分、手前半分、何であれ「条件はつきもの」です。
50:50 でセンターに歩み寄る姿をイメージした方がよいと思います。
というのも、仮に 100％が成立したとした場合、それは「独善」か「専横専制」即ち「独裁」に似たようなものになってしまうからです。これには注意が必要です。イメージゴールとして 100％get（独り勝ち）を求めてはいけない気がします。
それだけはお忘れになりませぬように。

2020/11/19

（余りにも辛い事実に際し）

子供の頃「科学と学習」とか「なぜなぜ理科」とかいう少年向け科学雑誌が好きでよく読んでおりました。
これはその後、現在に至る迄結構役立っております。物事を自然界の法則や科学的視点で見ると案外「現代を行く抜くヒント」の様なものを得る場合がありました。
例えば以前の記事で書いた「適者生存」
本日は「沸点」と「融点」
沸点なら 100 度迄は余り変化がないし、融点なら同じく 0 度迄は変化が少ないのですが、各々100 度と 0 度を超えた途端、ブクブクと湧き立ったり、かちんこちんの氷がゆるゆると溶け出したりします。
つまり大きな変化（成果）を得ようと思ったら、兎に角その時機が到来する迄じっと我慢をしているしかない。溜めや含みを積んでひたすら待つしかないのだろうとイメージを抱く事が出来ます。
しかしその時期の到来が余りに遅い場合、反対の科学的イメージとして「弾性の法則」でもないのですが、伸びきったバネはもう元には戻らないという映像も浮かんできます。要するに待ちすぎて我慢の限界を超えてしまったイメージです。
そうして大抵はこの両者のせめぎ合いです。
大河からの下降流と大海からの遡上流が河口付近でぶつかり合い諏訪湖の神渡現象にも似て、流れがせめぎ合って相当距離に渡って波立ち白浪の防波堤もどきができる現象にも似ています。或いはラグビーでの左右激突。
そして次に起こるのはどちらか一方の力が勝り、一気に相手を押し流して、その後何事もなかったように沈静する。
さてどちらが勝つのか？不安か希望か？
答えは「その時、力の勝った者が勝つ」
それだけです。正義や善悪といった価値観とは関係ない処で勝負が決まる。
この辺が自分にとっては実に切なき事実でございます。
自然の法則というのは実に無慈悲なものの様です。
「勝てば官軍負ければ賊軍」
大方の為政者はその事実を知って、権力を握りたがるのかもしれません。
又、人間と virus との戦いもどちらが高等か下等かという価値観による勝敗ではなく、これまた「適者生存」条件にどちらがより多く合致しているかという〇×得点方式で決まってきます。
しかしこれらは、善悪、高等下等などの価値観で育ってきた我々にとっては、余りにも辛い事実でございましょう。

しかし力の支配が全てなら今後は、合気道のように「力の支配」を逆利用して「いい力学（合理的なmechanism）」に変える事が今後我々の大仕事になる気が致します。

2020/11/19-2

（今迄君、嘘をついてこなかったかい？）

「出たとこ勝負」「破れかぶれ」で「火事場の馬鹿力」
全て非論理。
昨今、様々な面で人間の能力を超え始めた AI に勝つには、逆説的な言い方になりますが、上記のような人間の不可思議な力に依るしかない事が想像されます。
或いはまた
「捨て身で掛かる」「捨て石となる」のを「損を覚悟で」等も合理、効率、期間内勝敗、独断的な言い方をすれば「極限大利益＝極限大自己防衛」を重んじる AI（と言いつつ結局は「解」として何を input するかはその背後にいる人間次第。換言すればその人間の分身又は化身）が不得手とする又は想定していない分野を開拓するしかない事も想像されます。
元々AI とて人間のより良き生活に資し、人間の職を奪わずに負荷を軽くするために産まれてきたはずなのに、現在では相手国の暗号の解読やら格差の温床にもなってきている Fintech（金融テクノロジー）、IT、他には国民生活完全掌握の為の監視術等どれもこれも本来恩恵を受ける筈の民（人間様）を苦しめるものばかりが目立つようになって来ております。
AI がもともとの目的で使われているのなら、何も冒頭の様な「妙な物言い」をする必要はなかった訳です。
それを敢えて言わざるを得ない処に「現代の矛盾や悲しさ」を感じます。
最近「格差」という言葉を頻繁に耳にしますが、これはそもそも「レベル差」を表す語だったのですが、今ではレベル差よりも「偏り」の方が実感に合います。
偏りを更に煎じて言えば「傾き」「不均衡」「アンバランス」
要するに「ぐらぐらしている」状態でしょう。
ぐらぐらしているので「不安だ」「落着かない」「苛立つ」等不快を感じる訳です。
この辺の適正バランスをとるにはどういった変数項があるのか、是非とも AI 君に提示して貰いたいものです。
その提示項目を精査して実行レベルに落し込むのは矢張我々自身。全て丸投げの貴方任せはいけません。
もし AI をその役に使わないのであれば、止む無く敵に回った AI 君を打破する為に上記の奇策に出るしかないのかもしれません。
出番のない事を願うばかりです。
後記）
但し不幸にして出番が来る羽目になったら、何とかそれで戦います。仕方ないので。
それにしても我々は現下「表看板として建てている世界観」が偽らざる目的と合致しているのかを否かを、AI を題目として何処からか問われている様な気がしてなりません。

曰く
「今迄君、嘘をついてこなかったかい？」

2020/11/20

（「行先言後」）

「事に於いて冷静なる判断をするには、常に両対極を意識すべし」
等と尤もらしいことを眼前の空きスペースに張り紙した後、自分が「男のおばさん」の如きおしゃべりである対極は何かと考えてみましたら「無言」「沈黙」「静謐」即ち「何も語らず」といった語群が浮かんできました。
そこで、それらの語群に導かれてふわふわーっと浮かび上がってきたのが、読んだ順、生起した順に申し上げますと
チェーホフの「谷間を照らす月明かり」
松尾芭蕉の「荒海や佐渡に横とう天の川」
阿川何某の「特攻護衛機の乗員達は護衛に出、帰ってきて食堂で食事をし、また飛び立って、その内一人また一人と減り、気が付くと食堂で食事をする姿は見受けられなくなった」
そして文学作品の最後は、誰の作品だったかは思い出せないのですが
「末期癌の苦しみにのたうつ老夫の痛みをどうやって和らげたらいいのか分からず、老婦はただ黙って背中をさすり続けた。何度も何度も夜が明ける迄」
そうして現実に生起した話として
愛犬のさくらが死ぬ間際「こちらを振り返り黙って自分を見つめた」
等でしょうか。
自分はこれらに接した折、作品内の情景や実際の事実に於ける無言の中から押し寄せてくる怒涛の様なものに唖然、震撼、圧倒され身震いしました。
チェーホフの救済
芭蕉の壮大
阿川の壮絶
某氏の吸収
さくらの去就
全ては無言なのですが言葉以上の伝達力や刻印力、力量力感がありました。
これらに比べれば箴言、名言、格言、映画の「名セリフ」等、酷く「ちゃっちい」ものに感じられました。
考えてみれば、太古の昔、原始人は言語もなく文字も持たなかった訳ですから伝達の方法として共に同じ場所に立ち共通共感体験をするとか仕草や行為でそれを表すしか意思疎通の方法がなかったかと思います。
ですが、コミュニケーションの原型はそこにあるような気がします。
「黙って座ればぴたりと当たる」ではなく「黙っていても何となく分かる」とでも申しましょうか。
空気が読める、読めないの「忖度」の話ではありません。

「以心伝心」だから「言わずと分かっているよな、お前」という「忖度強要」の話でもありません。
言行一致の内、今の世の中こそ「言」への注視度を下げ
相手の「行」にこそ、より多くの注視を向けて観察又は交流してみてはいかがでしょうか？
というお話でございます。
「言行一致」を促す為に「行先言後」（造語）が今は必要かと。

2020/11/20-2

（実態はそんなもの）

事業でも何でもいいのですが、大きな決断をする時に回顧録や対談等でよく語られる「特筆すべきイベントや要因」があったかというと案外そうではない様な気が致します。
それは無意識の story making か思い違いや思い込みではないでしょうか。
例えば自分の場合、会社を辞めて起業をするに至ったのは、一念発起したからでも、大義を得たと確信したからでもありませんでした。
以前、在籍していた会社の会議で、いつまでたっても終わらない堂々巡りの議論を聞いていた時
「子会社とはいえ、この会社は親会社の金看板で成り立っている。この金看板がなければどうなるか。自分はこの囲いの外にでて、やっていけるのか？今の力で通用するのかな？」
とほんの一瞬、疑問を抱いた事がありました。
ところがその疑問は時を追う毎に次第に膨らみ、遂にはどうなるか、一度試してみたくて仕方なくなってしまったのです。
怖いもの見たさの好奇心。
それで起業を。
或いは
「何故そんなに働くの？」
と時折言われるのですが、これも些細な理由からです。
骨関連の術後 4 年経ちますが、今でも朝起きてから夜寝るまで体のあちこちが痛くて堪らないのです。一時たりとも痛みが消える事がありません。
なので、その痛みを紛らわす為に敢えて忙しくなる仕事を自分にぶつけているような処があります。
率直に言えば、痛みを忘れる為の目暗まし。
他には
「何故こんな田舎に店を開いたの？まぁそれが幸いして今コロナ禍、駅前に比べて打撃は少ないようだが」
と言われた際に、あたかも先見の明があるような回答をしておりますが、詰まる処本当の本当は
仕事時間中に痛い体を自宅本社でちょこちょこ休みに帰るのに最短距離物件だったから
と、これ又至って詰まらない理由による処が大でした。
これが表向きの話となると、
「一念発起して会社を辞め、起業して寝る間も惜しんで働き詰めに働き、長年の観察から先見の明を培い、今コロナ禍を何とか生き抜いている」
となってしまう訳ですが、

実の処は
「怖いもの見たさの好奇心で始め、痛みを忘れる為に矢鱈と動き回り、たまたま選んだ立地が幸いしただけ」
というのが実情です。
人が言う、表向きの理由や原因等あてにはなりません。
大体が取るに足らないひょんな偶然から始まったり、どうでもいい事が決断の理由だったりしている事の方が多い気がします。なので、成功話を聞く度に
「また言ってらぁ」
と思うだけなのです。

2020/11/21

（new catch copy 要請）

「コロナ禍第 3 波襲来で飲食業界連鎖倒産の兆し」
先も見えず、返済の当てもない儘 owner の「気持ちの糸が切れかかっている」
との記事を見ました。
「糸が切れかかっている」
正に言いえて妙。そのものズバリです、我々の心境は。
そんな折、外国人従業員から電話が
「シャチョ、ゲンキ？」
それで毎日救われています。糸が辛うじて繋がります。
で、やおら
「corona だけ見ていると負けてまぅ。こんな時こそその先の new normal に気を向けにゃ」
New normal 即ち「新常態」
その内の「常態」を何と見るか？
それは正に「哲学」領域。
即ち世界をどのように見、捉え、描くかの「認識論」の範疇です。
嘗ては経済学の「神の見えざる手」や念唱の「照一隅即照千隅」で、最後の最後でえいやっと全て打っちゃり貴方任せだったものを、今回は貴方任せをせずに最後まで細部に至る迄明確な絵姿を自力捻出する事が希求されております。
設計図は一か所でも曖昧な処があると物は動きませんから。
「物」という言葉で思い出したのですが、高校時代に哲学の特別授業で出てきた言葉に「唯心論」対「唯(物)論」という二項対立がありました。
唯心論というのは、世界は全て心象の投影であるという考え方。
唯物論は、世界は全て物質由来であるという考え方（心象とて脳という物質が作り出した物という訳です）
換言すれば
心の充足か？物質的豊かさか？
更には愛情か？経済か？
も一つおまけに、文化か？文明か?
等の二者択一を促す二項対立。
当時、このどちらの考え方を取るべきか真剣に悩んだものですが、我が国ではそういった対立概念は馴染まない様で、それをよく表していたのが「物心両面」とか「神仏混交」等の曖昧概念。全ては曖昧模糊の「和洋中華、何でもあり食堂」状態。
それはさておき、同じく特別授業に頻出した独逸哲学者ヘーゲルの定位、反定位、止揚という「弁証法」によれば、この先、上述の二項対立ではなく、さりとて何でもあり食堂でもな

い二項対立の上位概念、即ち止揚された「新しい認識論（観）」が出てくる事が同時代独逸哲学の巨星カントの言葉を借りれば「それは存在するか否かは証明できぬが、必然的にそれは要請される」と。
略せば
「7 割経済でも心の充足が得られる新認識論(観)の到来」
が
「見えざる神の手」や「照一隅即照千隅」等に替わる誰にでも分り、覚え易い「new catch copy」level で強く要請されているのが
正に「今」であり喫緊の急務
とも言えましょう。

2020/11/22

（否応なき risk-take 局面）

自分が書く記事の中に「7 割経済」という言葉がよく出てきます。
経済学者さんが今コロナ禍で new normal 基準として述べているは大抵「9 割経済」です。
それでも激震が起こり「大変だぁ」と。
では何故自分の記事に出てくる減速経済の方が 2 割も少ないのか？
それは 9 割が「希望的観測値」で
7 割の方が「そこ迄下げないと地球がもたない値」反対に言えば「人類が滅びたくなければそこまで下げなさいの値」だからです。
何を隠そう「地球温暖化抑止」から算出され得るであろう、値です。
それは同時に「virus 活発化抑止」の値でもあります（先般の記事で気候変動の大きな要因として雲雨の核になる物質を virus が作り出し過ぎる結果、気候変動が起きているとする仮説を指しております）
あと今一つ 7 割、即ち 9 割より 2 割少なく設定した算出根拠として
9 割＋2 割＝11 割（110%で 10%超過）
7 割+2 割＝ 9 割（10 割から 1 割減）
要するに何が言いたいかと申せば、2 割位は平気で変動するので、上振れ 2 割を勘定に入れると 1 割減速の 9 割経済ではいとも簡単に「元の木阿弥化」してしまうからです。「なし崩し的地滑り現象」が起きてしまう可能性があるからです。
だとすればこの際多大な犠牲を払うことをも覚悟で 9 割経済の「激震」ではなく
7 割経済への意識転換、即ち天動地動逆転のコペルニクス的転換レベルで行わないと、その先に道がない様な気がするからです。
再度申し上げれば 1 割減速の 9 割経済というのは「完全なる希望的観測値以外の何物でもない」気がしております。
結局それは Go to Eat、Go to Travel 同様途中で待ったがかかり、方向修正を余儀なくされる結果しか招かない様な気もしております。
早い話、上記二つのキャンペーンには私共零細業者は「振り回されただけ」で終わっています。
それ位の事でしかないなら、むしろ
「2 か月間完全休業してください。その間は全額保証します。そうして」
ここからが大切ですが
「そうして、3 か月目には皆さんが安心してご商売ができる new normal 経済指針を、責任を以てご提示致します。それ迄の 2 か月、耐え忍んでくださいませ」
と言われた方が余程希望を持てる気がするのですが。
それが守られなければ、後は自然淘汰の波が押し寄せて来るだけでしょうけれど。

これは完全なる賭けです。丁半 fifty-fifty の risk-take せざるを得ない局面です。
しかし誰しも一生に一度位は否応なくそうした時が訪れるのがこれ又、世の「常（常態）」かと。

2020/11/22-2

（職人）

哲学者なのか、物書きなのか、経営者なのか、料理人なのか、と御大層な名が出るばかりで「自惚れるんじゃない」と自分を諫めておりました。
それが昨日あるドキュメンタリーを見て
「あっ、自分は、御大層ではないこれかもしれん」
と思った役がありました。
それは「職人」
それに至るには、かなり昔の事になるのですが、某電機メーカーでテレビの企画をやっていた時に、営業部の或先輩からのこんな評価を戴いた事が伏線としてありました。
「うちのテレビをお前みたいな奴がメインでやっているとは、同業他社の連中は夢にも思わんやろぅな。
お前がやっとぅのは企画の仕事でも事業戦略の仕事あれへん。単なる職人仕事やっ。
頭や数字じゃのぅて、無我夢中でやっているだけや」
当時この言葉を聞いて、どうして「職人」という言葉が出てきたのか全くピンときませんでした。
しかしその言葉だけはしっかりと頭の中に残りました。
続いて思い出したのが、これは数年前あるアジアレストランで飲んでいた折に、そこのアルバイトの女子大生と話した時の話です。
たまたまその店の木製椅子の形の話をしていた時、漫画を描いていると言っていたその美大生が
「今、主に力を入れているのは漫画ですけど、他にもフラワーアートだとか彫刻だとか、いろいろな表現手段にチャレンジしているのです。そうしてその中の何がメインかといえば、全部。全部ひっくるめて私なのです。個展を開くつもりですけれど、いろんなコーナーがある個展で、それ全体が私の作品なのです」
それを聞いた時、何か目の鱗が落ちた様な気がしました。
「そういう考え方があったのか」
実はそれからなのです、択一をせずに好きな事全部に手を出し始めたのは。
哲学、文芸、経営、料理等々。
そうしてそれ全体が自分の表現形態（到底、作品と迄は行きませんが）
そんな事を思い出していた折に、この娘さんと話をするきっかけになった木製椅子を作る木工製作所のドキュメンタリーを偶然見たのです。とんでもなくスゴイ椅子を。昨夜。
で、思ったのが
「この椅子や。自分の遣りたい事の全てに共通しているのは、好きなものを自分の納得いく迄作り込みたい。お金は二の次。損してでも作りたい。自分には手に技術など全くないが、

好きな事を突き詰めたい、いいものを作りたいという自分の根底にあるこの共通気持ちは矢張、出来てなんぼの職人のものなんやろうなぁ」
と、腑に落ちた次第です。

2020/11/23

（「期間限定コロナ禍特例策 零細事業者社長労働組合」はないの？）

「死んで花実が咲くものか」
と言われても、現下の我々飲食業者は
「生きても花実が咲きませぬ」
としか言えないような状態です。
コロナも第一波、第二波、第三波と来て、この後一体第何波までくるのでしょうか？第最終波「是にて打ち止めで御座いまする」宣言が出されるのはいつになるのでしょうか？
いや、そもそも終わりがあるのでしょうか？
本当に、いい加減糸が切れてしまいます。
そんな折、うちの外国人従業員が 3 年前に勤めていた会社が所在する町役場の税務課から、従業員に関する「殆ど恫喝に近いような」税務調査依頼が来ておりました。
しかし、一読しても、その処罰の対象が本人を指しているのか、雇用者である社長の自分を指しているのか即座には判定しかねるような「がっちんがっちん」の法律文言文の後で、最後に引導を渡すが如く
「理由なく調査票提出を拒否した場合は、懲役 1 年以下又は 50 万円以下の罰金刑に処す」と。
3 年前の？それが本人にではなくて勤め先の弊社に？なんで？どっち宛なの？
「それにしても失礼やなぁ」
というのが読後第一の感想。
それこそ、今コロナ禍でけなげに生きている我々の絵姿である
「身を捨ててこそ浮かぶ瀬もあれ」
とは正反対の絵姿
「足元を取られるばかりで、浮かばれず」
と我々に言わしめる様な無慈悲なお言葉。
話しが前後してしまいましたが、かくのごとき状況が毎日続き冒頭の三行目の愚痴が出てしまった次第。
社長と雖も生身の人間。ましてや零細事業者の社長など「基本的人権」ですら護ってもらえません。まだしも外国人従業員の方が「人間扱い」されております。
零細事業者社長労働組合とかないのでしょうか？
「期間限定コロナ禍特例」策として。
後記）
取り敢えずヤケクソで

「零細事業者社長都々逸（どどいつ）友の会設立連絡協議会」
なるものを作ることを思いつきました。
その初回第一作として、まずは
「あぁ嫌だ、嫌だ、いやだ、で日が暮れる」
も一つおまけに、各々方
「同情するなら、金をくれ」
（TV ドラマ「家なき子」より拝借）
お粗末。

二〇二〇年十二月

2020/11/24-2

（「冗談から駒」）

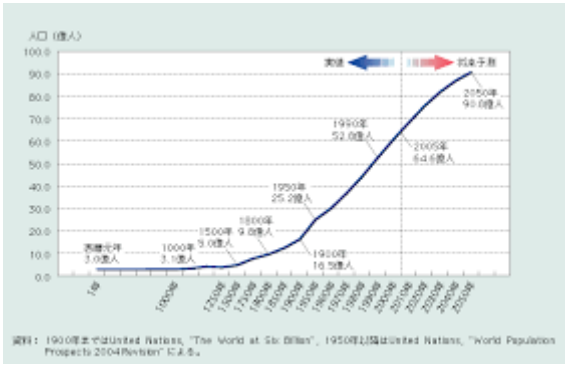
事業は
「資金が尽きたとき」「店舗がなくなった時」
が終わりではなく
「アイデアが出なくなった時」「冗談が出なくなった時」
が終わりだと思っております。
「瓢箪から駒」ではなく「冗談から駒」
「瓢箪から駒」というのは、瓢箪の形を見ると分かるのですが、二か所きゅっと締まっていて隘路（bottle neck）が二つもあるようなところから、思いもかけない時に、思いもところから思いもかけないもの(それが四角い形をした「駒」です)が飛び出してくる事の譬えに使われております。
それを自分の事業に当てはめてみますと
「冗談から駒」
つまり「冗談」みたいに何の役にも立ちそうもないところにこそ、何かの大きなきっかけがある。ひどく迂遠なところにこそ発想の大転換を導き出すアイデアのヒントがあり、それが人知を超えて摩訶不思議な力を発揮する、みたいな感じでとらえております。
それで
「冗談から駒」
以上が「論理的且つ科学的根拠」（左記冗談）に基づく弊社モットーの由来でございます。
本日はお店の定休日ですので、短めに終わらせて戴きたく存じます。
謝謝。多謝。感謝
（三段リズム法）

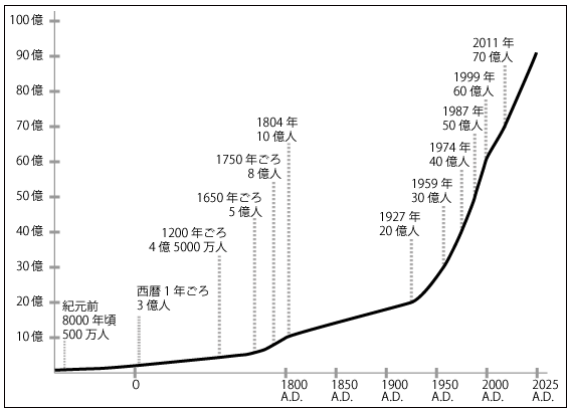
2020/11/25

（「世界人口推移グラフ」から突き付けられたニューノーマルの絵姿 ）

（左記の図は後段の説明を分かり易くする為に、敢えて逆順並べに致しております）

（C）　　（B）　　（A）





以前の記事で、ニューノーマルでは 9 割経済（1 割減）ではなく 7 割経済（3 割減）でなくてはならないのでは？

という記事を書きましたところ大変なご不興を買いました。
「本当に商売している人間なのか？」
「何を考えていやがるんだ、てめぇは」
「どこの回し者だ。どんな裏があるんだ？」
等など。
その時、咄嗟に思ったのが
「頭の中で描いている絵姿（グラフ）が違うのではないだろうか？」
という事でした。
例えば時間軸（年代）の目盛りの取り方によって人口増加のグラフの見え方が全く変わってくるからです。
人類誕生以来の年代を均等にとったグラフと（A）、紀元 0 年以降を細かくとったグラフ（B）、それと凡そ 200 年前の産業革命以降を小刻みにとったグラフ（C）とでは、見るものが受ける印象がまるで違ってくるのです。
我々がよく目にする世界人口推移のグラフは大体が（C）産業革命以降の目盛りを細かくとったものです。
これだと、2020 年に向かってくるカーブがかなり緩やかになります。
それが（B）になるとやや立ち上がってきます。
譬えて言えば（C）が丘陵地帯で、（B）が里山とか裏の山くらいの立ち上がりです。
ところが年代を均等にとった（A）となると、そのカーブはカーブどころか、まるで床を張っていたミミズが急に壁を登り始めたようなほぼ垂直に近い「逆Ｌ字」にも等しい見え方になります。ミミズの胸から下の胴体部分が床に接し、肩から上の頭の部分が壁面に接している絵姿です。
それなので自分はこの、（A）のグラフを見て驚愕したわけです。
「こりゃ、無茶苦茶な（増加率だ）」「これじゃ人間は天に槍を突きつけているのと同じじゃないか」（この場合の「天」というのは、地球乃至はその自然体系の事です。生態系メカニズムともいえます）
そんな訳で自分はあのような文章を書いたわけです。
「ひょっとしたら、人類が存続するためには 7 割経済でもまだ減少率が足りないのかもしれない（即ち抑制率 3 割）。5 割、換言すれば半分経済（抑制率 5 割＝身の丈半分、欲望半分）でないといけない場合も在り得る」
それではいくら何でも度が過ぎそうなので、7 割経済で押し留めた次第だったのです。
正直、恐ろしさに身が震えました。
しかし見てしまったものを誤魔化す訳にも参りませんので、上梓申し上げた次第でございます。

2020/11/26

（誰にも分らない、けど…）

「食べに行けない」「飲みに行けない」「旅行に行けない」「映画やコンサートにも行けない」
早い話どこにも楽しみや息抜き、発散の場がない。
「仕事にも行けないからお金がどんどん減っていく」
「職場に行けないのは嫌な奴の顔を見ずに済む反面、会って話したい人にも直に会えなくなるので、それもツライ」
「結果、家の中に巣籠りを強いられるが、その家の中も今や安全ではない」
となれば一体どうすればいいの？となります。
時短、自粛も必要性は十分わかりますが、それが一体いつまで続くのか？
或いはあと何回繰り返されるのか？
「一番知りたいのはそこ」なのですが、これは現時点では「誰にも分らない」
英語で言えば
no one knows。
言い換えれば
Only God knows
即ち「神のみぞ知る」
で、どこかの大臣様がそう口にした事で大騒ぎ
「責任ある立場の人間が口にする言葉か!! 無責任極まる!!」
と。
冒頭の状況を考えれば、そう声を荒げたくなるのは尤もです。
しかし同様に大臣様とて人の子。そういわざるを得ないのも是また御尤もでしょう。
となればいよいよどうしたらいいのか？
分かっていることといえば「もはや誰をもあてにできない。自分の安全を 100%保証してくれるものは何処にも存在していそうもない」という事くらいでしょうか。
「ならば自分の身は自分で守るしかない」
というのが一般的に言われる「解」でしょうが、でも、それはどうやったら獲得、達成、入手できるのか？
思うに、こんな時こそ逆転の発想、敢えて対極を置いて、その解を見出すトライアルが必要な気がします。
では、具体的にそれは何なのか？
一言で言うと
「誰かに守って貰うのではなく、誰かを守れ」
という事です。

何の事かといえば
誰かに守って貰おうとすると相手と自分の差から全てが二段仕掛になり、対応が後手、後手になります。
しかし、誰かを守ろうとすると常に自分が「一番目の当事者」になるので時間ロスが減り、緊張感と情報量、活動量も上り、結果、自らの罹災回避確率が上昇します。
加えて自ずと「本人が活性」し、人も助かる。
「大変だ、大変だ、自分は被害者だ」というのも可能ですが
「分かった、分かった、ここは自分が何とかしよう」
と敢えて当事者になる事で罹災回避確率を上げる。
何故なら
「好事、魔多し」の対極で
「悪時、魔少なし（逆境時、魔退散）」
もこれ又「常」
故に一歩前に出た方が、却ってサバイバル率が上ると思っております。

2020/11/27

（コロナで「鞍替え」 あな、恥ずかしや）

何を常態（ノーマル）と捉えているか？
言い方を変えれば何を「自分のフツ―」と考えているか？で危機への意識がだいぶん異なってくるようです（本件に付きましては以前記事にした事があるので、今回はその焼き直し版です）
「それは自分には起こりっこない」と思う人と
「なんだって自分にも起こりうる」と思う人で。
こうした意識の差は何によって生まれてくるのかと言えば、自分が観察したところでは
「自分は主役」意識の有無ではないかな？と思っております。
「どんなに周りの端役が消えても、本編の主役である自分が消える（死ぬ）訳がない。なぜならそれでは本編（ストーリー）が成り立たないからだ」
と無意識にも思っている人と
「所詮筋書きなどありはしないのだから、本編（ストーリー）そのものが成り立っていない。主役も脇役もありはしない。だから自分にも何だって（死だって）起こりうる。真っ先に死ぬ可能性だってある」
そうして、思うに前者は裕福な家庭に育った子弟子女や現在高位を得ている人に多いような気がします。
自分は比較的裕福な家庭で育ちましたが、今コロナ禍の激変下で飲食業商売をする中、無意識とはいえ抱いていた「前者主役意識」から、意識的「後者ストーリーなどない意識」に鞍替えしつつあります。
いや、もう後者になっているので、お宝「玉兵衛」様を握り締めて日々恐怖におののいて居る次第でございます。
歳をとる程に肚など一向に座らず、情けなくも、落ち着きなく、益々オタオタ、オロオロの小心者になって行くのを痛感しております。
いい歳こいて
「あな、恥ずかしや」

2020/11/28

（とどのつまりは…？）

この世での生が成功にせよ、失敗にせよ、或いは又どちらでもなかったにせよ終わった後に、もし仮にどこかの惑星で生まれ変わったとしたら、一から又やり直す事になる訳ですが、ではその時どういう concept で生きようかなぁ？と最近考える事が増えました。
「今うっすらと持っている concept の内、例えば文化も文字も自分の姿形も上下左右、東西南北、現在過去未来の時間概念すら異なる様な惑星に生まれ変わったとしても、そこにおいてすら通用するものは何だろうか？」
と、一から又、考え直すのが億劫で面倒臭がりの自分はそう考えた訳です。
そうして見つかったのが
「したい事をする」「全力を尽くす」そして「ダメだったらやり直せばいい。何度でもやり直せばいい。それで、どこまで行けるかは分らないが、兎に角行ける処までは行ってみよう（よ）」
の三つ。
結局どこへ行こうがどこで生まれ変わろうが、この三つが現時点考えられる、最も普遍的且つ最も力強い「拠り所」のような気も致しております。
そうしてとどのつまりは、どの常態（ノーマル）に於いても共通する便（よすが）ではないかとも思っております。
（少なくとも、今までの経験と観察上からは）。

2020/11/28-2

（SNS 未掲載、同日記事変形版 漂流する「私の履歴書」）

この世での生が成功にせよ、失敗にせよ、或いは又どちらでもなかったにせよ終わった後に、もし仮にどこかの惑星で生まれ変わったとしたら、一から又やり直す事になる訳ですが、ではその時どういう concept で生きようかなぁ？と最近考える事が増えました。
「今うっすらと持っている concept の内、例えば文化も文字も自分の姿形も上下左右、東西南北、現在過去未来の時間概念すら異なる様な惑星に生まれ変わったとしても、そこにおいてすら通用するものは何だろうか？」
と、一から又、考え直すのが億劫で面倒臭がりの自分はそう考えた訳です。
そうして見つかったのが
「したい事をする」「全力を尽くす」そして「ダメだったらやり直せばいい。何度でもやり直せばいい。それで、どこまで行けるか分らないが、兎に角行ける処までは行ってみよう（よ）」
の三つ。
後、強いて言えば「人事を尽くして天命を待つ」でしょうか。「果報は寝て待て」「待てば海路の日和あり」で。
その前、もし会社を馘になったら、もし家も失ったら、もし家族を失う羽目になっても、それでも自分は又「もう一回やろう」と思える何かを持っているだろうか？と、最後に在籍した会社崩壊寸前の際に思った答えが
「アタマとこころと身体をフルに回せればそれだけで十分。後はみんなオマケのバブル。だからその三つを満遍なく回す事だけを考えよう」
というものだった事を思い出しました。
そうして、それから遡る事以前、うつ病回復期に思ったのが
「背伸びをせず地に足をつけて身の丈になる」「自分の事はもううんざりだから人の事で働く」「相手の話を聞く耳を持つ」
の三つでした。
それというのも、自分のうつ病というのは「自分は大した人間である筈だ」と背伸びをし、それに届かない自分との差に苦しんだ。結果、自分にばかり目が行って、外の刺激が何も入らなかった。なんの事はない、蛇が自分の尻尾を追いかけてぐるぐると同じ処を回っていたに過ぎない事に気が付いたからです。それで自分以外、ひと様や外界に目を向けたくなった。自分にうんざりして。
その第一歩が「まず人の話を聞くこと。自分の話をする前に人に話を差し向ける事」でした。

ですが、今はこの最後の一項目が全然できなくなっている問題が生じ、振り出しに戻ってしまいました。
さて今コロナ禍、巡り巡って又振り出しのわが履歴書。
悩ましいばかりで御座います。

2020/11/28-3

（当たって欲しくない予測 ）

corona 禍でこれ程景気が悪化しているのに、史上最高値の株高。
なんで？
と思われる向きもございましょうが、是は自分の見た処、偏に
「各国中銀の金融緩和がこの異変の元」であると思っております。
どういう事かと言えば
「金融緩和（金利低下）でお金がどんどん市中に溢れ出します。ところが現実世界では直接投資をするに見合う実体がありません。結局そのお金は行き場を失って、ある時は gold に、ある時は債券に、そしてある時は株式市場に怒涛の如く流入するわけです。
それが今回は株式市場。それがこの異様な株高の原因。
それでは誰がそれをやっているのかと言えば、超富裕層や巨大団体にお金の運用を任された money fund をはじめとする機関投資家達です。個人株主とは全く異質の感性と行動原則を持った集団です。彼らは期間内に運用益を上げることを至上命題としておりますから、どんな悪環境でも運用を止めることが出来ないのです。
その彼らが現在目を向けているのが IT 超巨大企業群です。
処がこの IT 超巨大企業群は少ない人数の超高度技術者達で巨大な利益を産みだしております。
一方、多大な人間が働いているその他の産業の多くは、今 corona 禍で収益が大幅に悪化しております。
少ない人数の所帯に巨額のお金。大人数所帯に雀の涙程のお金しか入ってこないわけです。
これが格差の元になっております。
ある国では国家増強の為にこれを更に推し進めようとし、ある国では、格差による民の不満を合理的沈静策の一つとして、この「超巨大企業群解体」を唱え始めたりしております。
直接の不満が国家に向かい始めると困るからです。
ところが IT 超巨大企業群とて負けている訳にはいきません。
元々彼らは「その他産業」からの広告や寺銭で収益を得ております。なので、その他産業が疲弊すればいずれ「明日は我が身」である事を熟知している筈です。
では彼らがそれを見越して、その次に何をするかと言えば「需給に振り回されにくい」お金そのものを control しようとし出す筈です。
その一例が「企業による bitcoin 等の blockchain」創造（F）や量子 computer が得意とする portfolio 最強最適無敵運用実施の為の量子 computer の開発（G）次には混合 type の仮想市場と物流 system の一括統治（A）交通 system 統治と control（G）等で既に始めている模様です。

是らは全て、彼らが持つ無形資産の賜物です。
さてこの予測が当たるのか？
自分としては「掠（かす）りもしないで外れる」事と強く願っております。
注）
使用文字でアルファベットを使うのは、半角扱いで字数カウントを減らし 1000 文字以内規定に収めるためです。悪しからず。

2020/11/29

（目的談義）

目的というのはと非常に大切です。或いは目的の設定。
「目的の設定は全てを左右」
します。
「初めよければ全てよし」とも言われます。初めの設定を間違えると、その後生起するすべての努力や改善が全くの無駄になってしまうという事です。
いやむしろ、目標設定が間違っている場合には、より高い次元の目標を達成すればするほど悪化又は狙った筈の的からどんどん遠ざかっていくからです。
なので、
「目的を語らずに目標からスタートするな」
という事をまず肝に銘ずる必要があります。
次に注意をしなくてはならない事は
「目的の確認とその従事者が同じ絵姿（image goal）を抱く事」です。
以前お話した例を再度持ち出す事になりますが、企業目的の例です。
「企業の最終目的」は「存続」です。その「存続の手段」のひとつとして「期間内利益の最大化」がある筈なのですが、このあまり語られない最終目的である「存続」が全く議論も認識もされずに、企業目的を語る上で必ず言われる「企業の最終目的は利益の最大化にある」の中の「当期利益の最大化」にのみ目が行ってしまい、更にその責任が真っ先に問われる事から常に右肩上がりの中期計画を乱発し、その不適合投資から最終的には「存続出来なくなる例」です。
ですので、
「目的確認とその共有」
が物事を始めるに当たって極めて重要になります。
次にこれが本日の締めとなりますが、
「当初目的の変質」
に関する話で、実はこれが一番の曲者（くせもの）なのです。
起業当初は企業理念と実態が、例えば「お客様の幸せの為に」で確かに合致していた。
しかしその目的達成の為、資金調達の元である株式市場での投資家評価にばかり目が行き「会社の格付け」が知らぬ間に前者を上回って「無理な背伸びや繕い」をする等、当初目的の変質が密かに起こっている場合です。
或いは薄々はその変質に気づき、違和感を覚えながらも
「この局面では致し方ない。何故なら今を超えないとその先がない。目的自体が達成できなくなる」と自らを納得させ、いつの間にかそのこと自体を忘れてしまう。

結果大義は残ってはいるものの、実態は大義をこっそりと脇に置いて「身勝手なご都合主義」に依る自己正当化に陥ってしまっていた。
なので、常に物事は「直に劣化し易い」事を念頭に
「そもそも是は何の為に始めたのだっけ？」
と事ある毎に自問自疑する事が自らの失敗遍歴上、とても大切な事であろうと感じております。

2020/11/29-2

（悔しいので書直し版「目的談義」目的の勘違い？）

どうも力量が足りず、またまたご不興を招いてしまった様です。「目的談義」に関して。
一つには、上梓した後直ぐに、一つの記事の中に内容を盛り込みすぎて焦点がぼやけてしまっているな、とは思ったのですが、読者の皆様からしてみれば、それ以上に「目的論議」で引き合いに出している例が抽象的過るか、疎遠なものにしか感じられなかった様です。
そこで今少し卑近な例でのご説明を再度 try してみたいと思います。
主に、自分すらも気づかない目的（心の底からの願望）の勘違いと思い違い。
例えば
「私が lesson に励む目的は歌手になりたいからです。だって歌うことが好きだから」
と或る少女が言ったとします。
或いは
「僕が練習に励むのはプロ野球選手になることが目的だからです。なぜなら野球が大好きだから」
でもいいでしょう。
そうして二人は異口同音に「それを達成するためには、どんなことでも頑張り抜きます」
と決意表明をする。
ところが二人とも下積みばかりで、なかなか日の目を見ません。日も当たりません。当然満場の檜舞台は遥か彼方。
で、程なく二人とも歌手と選手稼業を止めて、普通の勤め人になってしまう。
で、質問です。
「では、二人の言っていた目的とは何だったのでしょう？」
答えは
「二人の言っていたのは目的ではなく、目的達成の手段に過ぎなかった」
となるような気がします。
そうして更に質問。
「それじゃぁ、二人にとっての目的とは何だったのでしょう？」
答えはおそらく
「お金と名誉（人気）」
無論それが悪いと言っているのでは全くありません。
只、二人とも本人すら気づかない儘、手段と目的或いは表向きの表明と心の奥底の願望とを勘違いしてしまった「無意識の混同、誤謬」が招いた「残念」に陥ってしまったのではないでしょうか。
目的が「お金と人気」であるなら、もっと他にも方法があったでしょうし、本当に歌手や選手になりたかったのだったら、もっと下積みにも耐えられた気もするのですが。

「何が目的か」を知る事がとても大切だと自分は考えているのですが、その事に関して前の記事よりこの記事の方が幾分なりとも分かり易かったでしょうか？
伝わらないのは悔しいので書き直してみました。
とまれ、本当の目的はその人の言葉より態度、行動、感情の発露に出ます。
相手や自分の本当の目的を知るにはそちらの方に目を向けた方がいいような気がしております。

2020/11/30

（行く先知らず、で書き始め「事実はまるで正反対」のお話 ）

最後にどういう結末になるか分かりませんが、思いついたことを二つ書き進めてみたいと思います。
我々人間の歴史が多寡だか百万年未満。ゴキブリ君が 3 億年。一方ウィルス君は何億年か前から。
かたや、こんな言い方もありました。
「百数十年、変わらぬ老舗の味」
長年のこっているものは「不動である」という見方。
しかし、自分はこれに対して少し違った見解を持ち始めております。
それは
「変化に適応してきたからこそ生き残ってきた」
言い換えれば
「変化に適応してこまめに変化（ウィルスなら変異、老舗なら軌道修正又は改善改良）し続けてきたからこそ生き残り、その姿が不動に見えているだけ」
なのだと。
今少し映像的に申し上げますと
状況が右に 30 センチ動いた時に、それに合わせて自分も右に 30 センチ動けば、それは等しい移動距離なので、自分から状況を見ても、周りからその二者の動きを見ても、それは止まって見える筈です。
反対に状況が 20 センチ左に動いたのに、自分が動かなかったら、自分からは、状況は移動しているようにみえますし、周りもその差違に気づきます。
つまり、いささかややこしい言い方になりますが
「不動に見えるものは、実は反対に動（変化継続）であり、むしろ変動に見えるのは自分が変化しなくなっている（動かなくなっている）からで、実態実相は我々に見えているのとは、まるで反対の事実なのだ」
という事です。
コロナ禍で「激変だ」と騒いでいるのは、その観点からすれば「我々が止まったままでいる」
即ち
「我々は未だ旧来のノーマルの中から抜け出せず、以前のままのものの見方や行動や価値観の中に鎮座増し増しているだけである」という事でしかないと、感じておる次第であります。

我々は、常にこちら側も変化をしなくてはならないのだ、という認識切り替えを可及的速やかに行い、状況（変化）が止まって見えるようになる迄、可能な限り適合適応の努力をし続なくてはならないという事なのかもしれない。
という結末に相成りました。
ややこしいお話で申し訳ありませんでした。

2020/11/30-2

（鬱陶しい思いの元？）

狭い通りで相手を先に通す為に道を譲っても、公園の出入り口で、出る方が先ではあるのですが、敢えて待って入る相手を先に通しても、礼を述べよと迄は申しませんが、いずれの場合も目礼すらせずに知らん顔で通り抜ける。或いは話に夢中になっているふりをして明後日の方向に目をそらし、そのまま通り抜ける。
これらの人々が誰かと申せば、なんと 70 代以上と思しき年齢の人々。
まだしも若い人やアジア系外国人達の方が、礼儀が正しいというのが自分の観察から得た実感です。
では何故こういった事が起きるのか？
それを推測がてら考えてみた処、ある仮説が浮かび上がりました。
それは
「ステークホルダー（利害関係者）つまり職場やご近所、家庭内等では常日頃ぺこぺこしたり、ご機嫌を取ったりしている反動や疲れから、利害関係の全くない第三者の前くらいはぺこぺこしたくないし、ご機嫌を取る気もしない。
更には何処かで「意趣返し」思考や「私を見くびるな（らないで）」思考も働いているのではなかろうか」
と。
要するに「笑顔を振りまいた後に舞台を降りて楽屋に戻った comedian の顔」に加え「腹いせ半分、存在誇示半分」なのではなかろうかという推測です。
その変形的派生として、自分が言える立場になると闇雲に相手を責め立てたりします。
例えば若い人や外国人に対して碌に観察もせず「若い」や「外国」と名がついただけの根拠で「近頃の若い者は」とか「我が国国民ではない奴らは」
と言い出す始末。
だとすれば我が国の、特に 70 代以上の男女は、極めて権威、権力に弱く、利害関係に敏なりという事になり、その反対にそれを手に入れたと感じると、矢鱈目鱈使いたがる傾向がある様に見えます。
且つ又そこから推量を重ねてみると、その人達にそういった現象が起きるのは「自分に自信がないから」ともいえる気がします。
何故なら自信を持つには自分への評価の基準が自分の中にある事が必要だからです。
換言すれば自分への評価の基準が常に他人目線の中にある場合は自信など持てる訳がありませんから。
そうして、実際に相手が「遣っている」事よりも相手の「持っている」肩書や属性に弱い。
「動詞（をする）」より「名詞（である）」偏重の傾向があるとも言えそうです。

それにしても、理由は兎も角、毎朝、通勤の為に公園の出入り口を抜ける度に、曇天続きの様な「鬱陶しい思い」にかられ想像以上にうんざりしております。

2020/11/30-3

（意地悪蔓延国？）

「無理が通れば道理が引っ込む」
という諺はよく耳にしますが、我が国では、そこ迄教鞭な態度をとる人は確かに少ないように思われます。
しかし、それに反して「いじめ」まではいかないのですが、お互い自国民同士、いじめの様に処罰される怖れが伴わない「ちょっと邪魔をする」や「ちょっと足を引っ張る」等の他に気を取られていなければ見過ごしてしまいそうな、しかし気づけば「そんなことまでするのか」と驚くような「意地悪」行為は、想像をはるかに超えた数で蔓延しているような気が致しております。
上記の諺の語句を置き換えて譬え直してみますと
「意地悪が通れば思い遣りが引っ込む」
とでも申しましょうか。
心が段々枯れて萎んでいくような行為である、無意識且つ反射的に行ってしまう「ちょっとした意地悪の連鎖と蔓延」
これが我が国で潜在的に感じられる「生きにくさ、暮らしにくさ」の正体ではないかと、個人的には密かに推測しております。

2020/12/1

（ビックリ。全く違う 180 度の差 ）

えっ、今日からもう 12 月？ はやっ!!
それはさておき
以前の記事で
「この国が住み辛いので他の国に移住する事を考えている」
というパキ姉ちゃん一家のお話をしました。
その時思ったのが、外国の人は、自分の国が住みにくかったらよその国へ、そのよその国 A に実際行ってみて、そこも住み辛かったら他の国 B へと、いとも容易く（たやすく）、住む国すら変えて移動するものなのだなぁという事でした。結構驚きでした。
というのも我々の感覚では生まれた国から離れるというのは相当なる一大事であるはずなのに、その母国すら自分がしたい、なりたい、住みたい、の条件の下に、あっさりと置いて取捨選択してしまっていたからです。
話は替わって、ここ一週間程の internet 記事からですが、今 corona 禍で、中学生の将来希望職種が「公務員志向」（安定志向）になったという記事と同時に、大学生の将来希望職種の内、その記事の title の言葉を借りれば「さらば大企業。安定を捨てる才能たち。自分流で起業」なのだそうで、どうやら我が国では安定志向と risk-take 志向の 2 極化が始まりかけているようです。
この 2 事案を見て思ったのが、世の中には二通りのタイプの人間がいるなぁという事でした。
方や自分を規定している「属性」から入る人と、自分を規定している「属性」は脇に置いて「自分の意思」から入る人の二通り。
例えば前者の人は「自分は何々国国民である」「何々大卒である」「何々検 1 級である」等の属性（持ち駒）から入って行って自分（自分の意思決定）に辿り着き、後者の人は「自分はこれがしたい」がまずあって、その意思の下で上記のような属性（必要になる駒）を考えるか、その属性（駒）それ自体がなければ新たに創ってしまう人と。
それを上述の話に当て嵌めなおしてみますと
前者は「自分はこれとこれの資格を持っているから、これをする」とか「自分は何々人なのでこの国にいる」なのに対して後者は「これをしたいからこれとこの資格をこれから取るか、それに匹敵する know-how を編み出そう」とか「これをしたいから今度はこの国に行ってみるか」の違いでしょうか。
何に「属する（箱、入れ物）」かが第一の人と「何をする（中身）」かが第一の人。
来る迄待っている人と、こちらから出かけていく人。
殆ど 180 度の違い。
この差はデカい。

なので、この差の行き着く先を想像すると
可成の「ビックリ」で御座います。

2020/12/1-2

（今コロナ禍以降、弊社勝利の方程式）

「商売というのは非常に簡単だ。出来るだけ安く仕入れて、成る丈高く売る。それだけの事だ」
と薬局をやっていた叔父さんに子供の頃に教わりました。
そうして、今コロナ禍までそれを一度も疑った事はありませんでした。
只、心の奥底では「妙な違和感」をうっすら感じておりました。今思うと、ですが。
その違和感とは？
安く仕入れるには安く造るも入りますから、ここからフォードに代表される大量生産方式が生まれました。
又、安く仕入れれば納入業者が泣くことになります。納入業者は広義でいえば「生産者」ですから、以前から申上げている「生産者は同時に消費者でもある」の公理に従えば、需要減となります。
しかも、お客様の目から見ると大量生産方式と言うのは相手が不特定多数になりますから購買者は別に「自分でなくてもいいのよね」という事になり、生産者と消費者の関係が疎遠で冷たい関係になりがちです。
反対に、低価格を避けて、出来るだけ高く売ろうとするとお客様の懐が痛みます。
仕入業者、販売業者、購買者の誰にとってもいいことがありません。三方両損です。
多分そのことを自分は「妙な違和感」としてうっすらと感じ、今コロナ禍で大量生産、大量消費、お客様の顔が見えない疎遠性の三方両損をドッカンと目の当たりにしたのだと思います。
では、今後どうすればいいのか？
上段の話をまずは全て裏返してみましょう。
即ち
成る丈仕入れ業者さんからは高く仕入れる。お客様へは成る丈安くお売りする。
当然元を取ろうとすれば、薄利多売になります。そこでまた大量生産（販売）方式が顔を出してきそうです。
しかし、是では同じことの繰り返しです。
そこで一案。
お客様の顔が見えて尚且つ人数を増やすには？
「延べ」人数を上げればいい、のです。
つまり顔の見えるお客様のリピート来店回数を上げればいい訳です。
もっと平たく言うと「お店のファンづくり」を進める。

是ならお客様の顔も見えますし、一回当たりの価格を上げなくてもいいし、仕入れ業者さんを叩かなくても済みます。あわよくば、仕入れ業者さんも弊社のファンになってくれるかもしれません。
纏めると、高く仕入れて安く売る。代わりに仕入とお買い上げいただく方に当店のファンになって戴いて訪問、仕入回数を上げて利益を出す。三方両得。
という事に相成りました。
是が弊社の今コロナ禍以降「勝利の方程式」でございます。

2020/12/2

（何で家だけ違ぅんや？）

「人生は重き荷を背負ぅて、遠き道を行くが如し」
「人生は成る丈背負わず、近き道をすり抜けて楽をすべし」
最初の一句は、戦国三大武将性向比較「鳴かぬなら鳴くまで待とう不如帰」の句で有名な徳川家康公の遺訓で、大昔、家のばぁちゃんが、事ある毎に子供の自分に申しておったものでございます。
二番目の句は自作で、後でお話し申し上げます。
それにしても、じぃさん、ばぁさんや親に言われたことというものは、とまれこうまれ、将又（はたまた）良かれ悪しかれ、何かしらのものが、頭のどこかに残っているようで、その言葉を使わずとも、知らぬ間に自分も中学に上がった頃の息子たちにそのような事を述べていたのかもしれません。
それが癇に障ったのか、ある日息子から
「ほかの親はみんな成る丈苦労しないで行けというのに、家だけは苦労は買ってでもしろという。何で家だけ違ぅんや？あんた、なんやらおかしぃんと、ちゃう？」
実は二番目の句は、それを代弁して自作したものでした。
それが、父子の「諍い（いさかい）始まりの号砲」だったようです。
それから早、20 年。
その 20 年目にあたる今年、奇しくもコロナ禍がやって参りました。
そのせいかどうかは分かりませんが、今年に限って息子は何故か「家だけ変やで」とは言わなくなっております。
一時的な休戦なのか、それとも納得なのか。
それは分かりませんが、例年に比べて多少なりとも助かっている事だけは確かなようで、今般の苦しき折には、とてもありがたき事として受け止めておる次第でございます。

2020/12/2-2

（何で家だけ違ぅんや？の続き「説明不足」のエキスパート）

どうやら自分は説明不足のエキスパートのようです。
またまた遣らかしてしまいました。
以前も「忍耐」と書いて叩かれました。
その時は、
「種を撒いたら、向こうからやってくる発芽到来の「時機」までお待ちなさいね。焦ってはいけませんよ。その時期が来ない限り、いくらこちらだけが一方的に仕掛けても空回りするだけですから、仕掛けを創ったら、その時期が来て、噛み合って効果が出易くなるまで只管待ちましょうね」
という意味で書いたのですが、
「無理難題を言われっぱなしで、それに耐えろというのか」
つまり「忍従」と間違われてしまったわけです。
今回は
「苦労は買ってでもしろ」
と書いたのが、またまた異なった印象をあたえてしまったようです。
これも又、親や雇用者が子や雇用人に「忍従を求め、それを正当化する便法」と誤解されてしまった様です。
なので、自分が申上げたかった事を、今一度改めて書き直しますと、
「苦労」を「経験」という語に置き換えると分かり易いかもしれません。
「経験は買ってでもしろ」
次に
「甘い経験（うまく行った経験）はあまり役に立たないので、成る丈苦い経験（うまく行かなかった経験）を積んだ方がいいですよ。切り抜けるためやそれを咀嚼昇華するためにいろんなノウハウが手に入るので、後で役立ちますからね」
これを連立方程式風に書き合わせると
「苦い経験（=苦労）は買ってでもしろ」
という事になります。
今回はこの連立方程式を書くのを忘れて、いきなりドッカンと「苦労は買ってでもしろ」と書いてしまったので、またまたご不興を買ってしまった様です。
どうも、自分は「自分だけがわかっている」だけでしかない事に気づかず書いてしまうことが多いようです。
なので、自分は「説明不足のエキスパート」

いやいや「自己満足のエキスパート」
も一つおまけに
「只我独合点のエキスパート」
らしいようでございます。

2020/12/3

（「壁に耳あり障子に目あり」であるが故に）

「壁に耳あり障子に目あり」
我が国国民の心の奥底にあるのは、この諺なのではないか？
不図そう感じました。
上記の諺の一部である「壁」と「障子」を「隣人の耳目（盗み見、チラ見や聞き耳、盗み聞き）」に置き換えると実感できるのではないでしょうか。
何処かの国の治安組織よりも遥かに数が多く、遥かに怖い。
それで行住坐臥、手も足も出ず、ひっそりと息を凝らながら暮らしている。
数日前のネットの記事で
「東アジアの小国（面積が小さい）の国民が感じている幸福度に比べて、我が国国民が感じている「幸福度」はかなり低くなっている」
というのを目にしましたが、我が国のインフラや生活レベルの加得点が遥かにその国を上回っているのに、その加点分を物の見事に帳消しにし、あたかも「不幸のどん底」に居るかの如き地位にまで押し下げてしまっている主な原因は、この暗黙の「相互監視社会（相互呪縛、相互自縄自縛。言葉を変えれば横並び意識、或いは、ちょっとでも違うと爪はじきにあってしまう村八分社会）」のような上述の諺に代表される何物かではないのかな？
と不図思った次第です。
創造してもみてください、隣のひとが仲間でもなく、正当な対抗者でもなく、実はスパイか二重スパイ、いやいやもっと多重スパイ、（指数係数）n 乗スパイなのだ…としか思えない心理状態が常に続いている状況を。
それにしても我が国国民はどうしてそう迄、ひとさま、即ち隣の人の事が気になるのでしょう？
「壁に耳あり障子に目あり」
の他
「隣の芝生は青い」
とかありますし。
なので、弊社は企業理念として、この隣の人に特に光を当て
「国際間、世代間、（具体的、且つ実際に）あなたの隣にいる人との交流事業」
を行い始めたわけでございます。
ただ、既に 3 年近くたつのに、未だその端緒にすらつけていない事に自憤（自らにいきどおること）を感じて居りますが。

2020/12/4

（崩壊理由と対策）

過去、歴代の興亡史を自分なりに見渡してみて、恐らくこれが滅亡、衰退の共通原因乃至はそのきっかけであろうと思われるものが二つありました。
一つは以前にお話申上げました「公私の混同」
そうして本日は、その二番目の「内外（うちそと）の乖離」
です（二つとも自己矛盾圧力による崩壊です）
もう少しどぎつく申し上げますと「実態と見せ掛け（恰好つけ）の大差」
この辺ですぐさま思いつくのは、粉飾決算、大本営発表、誇大広告とかでしょうか。
常に右肩上がり、常勝、完璧、全てインチキです。
そもそも常に上昇、負けなし、完全無欠等というものはこの世にありはしません。
ですが、反面、確かに内外を合わせるようにすると、逃げ場がなくなり、バッファーも取れずに鉄砲玉には当たりやすくなりますが、反対に肚が座って却って潔い気持ちにもなります。
それこそ格好よくいえば
「こちらに嘘はない。逃げも隠れもせぬ故、何処から也と掛かってこい」
みたいな。
私事で誠に恐縮ですが、嘗て新しい会社に移った折、歓迎会の自己紹介でいきなり
「自分は 12 年間うつ病を患い、奥さんに逃げられました。なので、大抵の事は平気だと思います」
とやった処、大騒ぎになりました。
「いきなり女子の同情狙いかよ」
「宴席の場でする話じゃないだろう、いくら何でも」
とかです。
その会社の新しい職場は女子の多い職場だったので、自分は以下の様に考えての言動でした。
曰く
「後で「ねっ、聞いて、聞いて」風に実態がばれる方が余程心象が悪い。例えば、あの人うつ病だったんですって、とか、あの人、奥さんに逃げられたんですって、とか、少しずつボロが出るより、通るか通らないか分からないが、ここは一発、初っ端から化けの皮を自ら剥がしておいた方が後々の心象がよさそうだ。通らなければ、それはそれで仕方あるまい」
との算段でした。小出しに出てくる埃を一度にはたきだそうとした訳です。
ですが、人の噂（は）七十五日（続くが）、人の噂（も）七十五日（で消える）。
結果は 76 日目以降に後者の方が勝ってきました。
実態は、おっかなびっくりの賭けでしたが、何とかすり抜ける事が出来ました。

この経験から以降は最初に「最悪」を出し後は極力内外を合わせる様になりました。
余談）
自ら真っ先に「最低ライン」迄行った方が、その後が全て積み上げとなるので、心理的には安定出来て、却って結果はよくなる傾向があるようです。

2020/12/5

（一体我々は何処に向かって歩いているのでしょうか？）

昔、バス（というか、その頃のじいさんばあさんは、確か乗合自動車と言っていたような記憶があります）と言えば運転手さんと車掌さんが乗っておりました。はじめの頃は女の車掌さん、途中からは男の車掌さんに切り替わりました。
そのあと、突然ワンマンカーになりました。車掌さんがいないバスが出てきたのです。バスの形もフロントボンネットタイプから、フロントボンネットレス（がない）タイプに大変更。
そうして今度は、車掌さんはおろか運転手さんもいない無人バスが取りざたされております。
そういえば他にも「無人駅」とか「無人店舗」とか、要するにどんどんオペレーションする人がいなくなっていく訳です。サービスや商品を売る側（提供する側）の人間が減って、サービスや商品を買う側（受ける側）の人間だけになって行く。
で、何度も以前から申し上げておりますように「生産者（サービス、商品の提供者）は同時に消費者（サービス、商品の購入者、使用者、受益者）である」事を思い浮かべると、これは完全なアンバランスとしか言いようがありません。
極言すれば「お金が入ってこないのに、ドンドン買いなさい」と言っているようなものだからです。
一方、技術格差（技術を持てる者と持たない者の格差）唯唯が最近言われるようになりました。
これは一部の技術を持った者（しかも無形資産側で、余り雇用を生み出さない層）にだけ富が集中し、技術を持たないもの（特に有形資産側の雇用人側）はどんどん収入が減り、雇用そのものも危機に瀕するようなアンバランスも生まれております。
これらを自分なりの言葉で「大幅に端折って」申し上げますと
技術を持った者の「分析、解析、分解、ピンポイント狙い」が持たない者の「統合、組立、稼働、ブロード（緩やかな波）」を侵食し、蒸発させているように見えます。
もっと言えば「頭がよくなりすぎて、身体が付いて行っていない」
更には
「頭がよくなりすぎて（分析脳）重箱の隅をつつくようなことばかりに目が行き過ぎ、身体全体を使って大らかに動き回るような寛容、寛大、受容力が減っている」ともいえます。
社会がどんどん頭でっかちになり、しかも人間の仕事面での活動の場（身体を動かす場）がどんどん減っている。
一体我々は、どこに向かって歩いているのでしょう？

何となく、うすら寒く、そら恐ろしい気がしております。

2020/12/5-2

（ビッグチャレンジ）

「安いだけじゃダメ。何でも安けりゃいいってもんではない。安くて思いの他、モノがいい。お値打ち感がないとダメだ。Cost-performance」
と安さ一点張りの外国人従業員に分かってもらうのに１年近くを要しました。
しかし、お値打ち感も本来からすれば「次善の策」
本来尤もいいのは「どうしても欲しい。お金を積んでも欲しい、憧れの品物やサービス」でしょう。
嘗てはそれが３C（Car, color TV, air Conditioner）だったわけです。この時代には、多くの人が「どうしても欲しいもの」がたくさんあったので、景気もよかったわけですし、マーケッティングもそれほど必要ではなかったようです。
所謂シーズオリエンテッド（技術主導型）
それがいつの間にかシーズオリエンテッド型開発が限界を迎え、続いて出てきたのがニーズオリエンティド（必要性主導型とでも言いましょうか）
そうしてそのころから言われ始めたのが「差別化」更にはフィールドを変える「差異化」
しかしこういった「差別化」「差異化」は、需要が旺盛というより顕在需要が見えなくなってきたので、それを作り出そうという「需要喚起型（創造型）」のいわば生産者オリエンティドな発想でした。
しかしここで遣らかしてしまった過ちは「差別化の為の差別化」や「差異化の為の差異化」つまり、それ自体が自己目的化してしまった妙なもので、お客様そっちのけで競争が繰り返され、結果、お客様や世の中にとって必要のない「在庫の山」と「廃棄物の山」が出来上がってしまいました。当然お客様もうんざりしてしまいました。
こういった歴史を基に見てみると、現在の big data の活用による商品開発や商品陳列の適正化、広告効率のアップなどは、見出せない需要の細部の又細部まで調べ上げて、その微かな盛り上がりをトータル的に引っかき集めて売上を増やそうという、言い方は悪いですが「誠にみみっちぃ」戦略（発想）のような気がしております。
ここは矢張原点に立ち返って「どうしても欲しい憧れの商品、サービス」を探したり、創るのが本道でしょう。
只、現在において、それは「商品」というより「サービス」
「サービス」というより「事柄」「出来事」「心理的満足感」に代わってきているように思われます。
さて、それが何か？
それを big data に頼り切らず、生物由来の「人間の五感」を使って見出す big challenge をしたいなぁと思っております。
カッコよく諺を用いて申せば「一寸の虫にも五分の魂」でございます。

20202/12/5-3

(リターンマッチ)書庫版

「商売は生き物でございます」という様な尤もらしい事を言いたい気分になりました。
二年前は全く同じ事をやって何の反応もなかったのですが、今回はありそうな予感が。
予感ですから、またぞろ失敗という事もあります。
あれば、次回又、それらしき折を見て、もう一度チャレンジ致しますが。
では、二年前に何をやって何故うまく行かなかったのか？
遣った事は、同じカリーであっても、我が国国民好みの Nepali curry とは全く味を異にする hot & spicy curry 文化圏の在日就労外国人向けの restaurant の trial でした。これで需要が二倍になり、且つまた異文化相互交流の端緒を切り拓くトリガーとなるであろうというコンセプトの元に、でした。
しかしそれは大失敗。
近年、とみに人口が増加している当該文化圏の近隣在日就労外国人さんは殆ど一人も来ませんでした。
理由は、理想や理念や理屈ばかりが先行して、細部に何も目がいっていなかったからだと思います。
結果、大風呂敷を拡げた「錦の御旗」とは大違いで、その実態たるや「無手勝流」「頭あって手足無し」「猪突猛進」で「怖いもの知らず」であっただけ。
で、今回は頭を少し脇に置いて、具体的な細部に手足目鼻を使って return match をする事に致しました。
まず、menu は彼らが選好する paneer (一種のチーズ) を使った料理に絞り、且つまた corona 禍の影響を読んで takeout と宅配をメインにしました。

第二には、paneer は素材価格が高価で、一方又当該文化圏の人たちは我が国国民の嗜好と違い、甘みのあるナンをあまり好まないので、敢えてナンをつけずに paneer curry pot 単品売りにして価格を抑えました。
更には、同じカリーでも味が全然違うので、調理用のフライパンもそれぞれ別個に用意し、それをアピールする事にも致しました。
そうして、そのアナウンスに関しては、住所特定ができないので新聞に折り込んでのチラシ配布を行わず「来店時の手渡し」か、遠くからでも何か始めたことが分かるように、ポスターチラシが目に留まる工夫を施しました。
その最たるものが、二年前に使った各国国旗を再度お店の前面に押し立てた事です。
一応これで来店迄の客動線がつながった事になります。
しかし、果たしてこれでうまく行くのか？
いくら近隣在日就労外国人さん達が IT エンジニア系の仕事をしているとはいえ、矢張、今コロナ禍、ボーナス減や雇用不安から、それどころの心境ではない事も考えられます。
果たして、この試み、いかがなりますやら。

2020/12/6

（（続）リターンマッチ）

「うと Q 世話し」を続けてお読みになられている方の中には、ナマステエブリバディ（ネパール料理 カレーレストラン）に併設する隣のルームを hot & spicy カリーレストランにするなら、元々キッチンは別々だし、コックさんも別々なのだから敢えて
「フライパンを分ける」
等と書かなくても良かろうに、とお思いになられた方もいらっしゃるかと存じます。
しかし、敢えてこう書かざるを得なかった事情がございました。
一つには hot & spicy curry 担当コックのパキ姉ちゃんの一家が我が国を去る可能性がある事と、
二つ目には、それに伴い、併設する隣のルームをカリー文化圏輸入食材（食肉や魚介系以外）販売食料品店にしようとの計画があり、それによって、ナマステエブリバディのお店一か所で、同一のネパール人コックさんがネパール料理とその他 Hot & spicy、更には Vegan（菜食主義者さん）向けの料理を「独り 3 役」でこなさなくてはならなくなるので、
「それを同じフライパン一つで使い回すのは、各嗜好のお客様に対して、いくら何でも失礼であろう」
と言う事から、三つに分ける事にしたのです。
そうして、むしろそれをアピールしようと考えた訳です。
昨日の土曜日の売上は通常に比べて 30%強減でした。
冬のボーナス支給後の第一土曜日としては、想像以上に悪い数字でした。
矢張、お客様の財布の紐が急速に締まり始めているようです。
こうなると「下げない」と約束した従業員給与と食材を除いた、それ以外のコストを引き締めざるを得ません。
かといって広告をしなければ、益々売り上げが落ちてしまいます。
なので、広告費用の発生を抑えながら広告と同じ効果を出すためには、タダで訴求出来そうなアイテムを発掘し、それを店頭やネットで小まめに伝えていくしかない訳です。
そう言った事情から、前回敢えて、その一例としてフライパンを味毎に分ける話を持ち出した次第。
ご理解戴ければ幸いかと存じます。
追記）
当「うと Q 世話し」では、世界観のはなしから実商売の経過報告に至る迄、様々なお話が「ないまぜ的」に出て参りますが、
自分としては
「理念には現実を、現実には理念の視座視点を必ず附帯すべし」
との思いから

「どちらか一方に偏らない様に」敢えて対極の話を持ち出す事を心掛けております。
どちらか一方のみにご興味を抱かれている方には、片方の話が邪魔に感じられるかもしれませんが、ご理解賜れば、幸いに存じます。

2020/12/6-2

（昔々のその昔 long, long, time ago に「ええぃ、ままよ」と）

昔々のその昔、同時多発に、親父は認知症、お袋は脳外科手術の失敗で植物人間状態、自分はうつ病、それに嫌気がさして奥さんからは三行半、会社ではそのことが密かに知れ渡り、ひそひそがやがや後ろ指、それでも二人の子の養育はせねばならず、どうしようもなくなったことがありました。
そんな時に、どうしたかというと、いい加減嫌気がさして
「全てをほっぽりだして」
しまいました。
暫く、ですが。
考えたってどうにもならない。悩んでも始まらない。どうしようもないんだからほったらかしておくしかないと、周りにはご迷惑だったと思いますが、全てをぶん投げてしまいました。
しかし
「世の中、どうしようもないこともあるもんだ」
という反面
「世の中、どうにかなるもんだ」
という側面もあるようで。
そのうち何とかなってきました。
そう思えるようになった頃、ほっぽり出して、ぶん投げてしまったものを、少しずつ拾い集め、徐々に手を付け始めました。
で、しからば、要するに何がいいたいのかと言うと
「何をやってもダメな時、どうしようもない時は、ほっぽりだすに限る」
という事。
恥も外聞も、メンツも体裁も、「かくあるべし」も、「●●として」もすべてぶん投げて
「一時、楽になる事」
が一番いいみたいです、という事でございます。
現在も商売上、似たような状況なので、この際、全てをぶん投げて、年末年始ぶち抜き 7 日間の御休みを取ります。
社員には有給休暇を、自分には食っちゃ寝、飲んじゃ寝の自堕落生活を付与します。
暫くの間
「ええぃ、ままよ」
でございます。

2020/12/7

（火事場の super man 力をも超える？）

昨日は、自分と手前どもに起きた、或いは起きつつあります「不幸のデパート 商品陳列強化月間」のようなお話を申し上げましたが、その件につきまして、今少し補足を。
要するに人間、追いつめられると「窮鼠かえって猫を噛む」ではありませんが、ある意味開き直ったり、ヤケクソになったり、捨て身になると、とんでもない力を出すことが、ままあるようです。
例えば、それこそ譬えに使われる「火事場の馬鹿力」
運悪く車の下敷きになった孫を救い出そうと、咄嗟にじいさんが重たい車を持ち揚げてひっくり返したという話を昔、聞いたことがあります。
或いはまた、アフリカの草原で、日頃はライオンの餌食になっているインパルスの母親が、子を助けようと、これまた咄嗟に自らを的にしてライオンの目をそらし、子を守るといったような陽動作戦をも考えつかせる場合もあるようです。
これらはまさに、日頃は弱き「一寸の虫」が突如「五分の魂」を発揮して、ただでさえ力のある「火事場の大魔神」か「火事場のウルトラマン」はたまた「火事場の superman, batman, spiderman」をも凌駕するかの如き、信じられぬ事態を巻き起こす事の好例でしょう。
確かに「窮すれば貪（どん）す（自作諺）」場合もありますが「窮すれば通ず」場合もなくはありません。
こうしたたまに起こる事例こそが、人知（自覚上の能力）を超えた「生物としての人目人科」の潜在パワーの発揮による摩訶不思議の成就のような気が致します。
「本当の力を発揮したければ、昔を思い出して、見るのもおぞましかろうが、今一度、最悪最低の地獄の底まで行ってこいや。それが追い詰められたお前に残された、反転攻勢の為の、唯一無二の、最後最後の奥の手やで」
そんな事を言われている様な気がするよ、
と自らを納得（ほとんど自己暗示）させるに必死の昨今でございます。
余談）
暫く前の記事で用いた連立方程式（又は式の代入法）を使えば
「地獄行の切符を一刻も早く手に入れろ」
の「地獄行の切符」を「苦労」に置き換えると
「苦労は一刻も早くしろ」
更には
「苦労は買ってでもしろ」
と、その折話題にした「苦労は買ってでもしろ」に連立方程式の逆分解で溯上する事ができました。
余談２）

上記の諺の元は「若い時の苦労は買ってでもしろ」なのですが、何でわざわざ「若い時」なんて付けたのでしょう？いらない気がしますけど。だって「若い時」に限ったことではないでしょうに。

2020/12/7-2

（「耐」の字（Then) Stay here little bit more ）

以下のお話は、言葉のイメージ遊びみたいなものです。あまり深く考えたり、厳密に考えたりしないでくださいね。
「忍耐」という字を見ると、いやぁな気分になる方もいらっしゃるかと思います。
ところが「耐性（がある）」と言われたとすると、まんざらではない気もするのではないでしょうか。
処がよく見ると「忍耐」と「耐性」には、同じ「耐」という字が使われていることに気づきます。
この「耐」という字は「而」と「寸」の構成で成り立っています。
前の「而」は「しこうして」と読み、意味は「そして、それに加えて」です。
つまり「追加の連なり」を表しています。
(英語にすると and, then と additionally でしょうか)
「寸」の字は、前に「一」をつけると分かり易くなります。即ち
「一寸」と書いて「ちょっと」と読み「今少し」に近い意味になります。
（同じく little bit more でしょうか)
で、これら言葉の部品を組み立てたものを英「文」にしてみるともっと分かり易くなります。
(Then) Stay here little bit more（ついでだから）もうちょっと、ここに留まりなさいな)
の意味になります。
つまり「耐性」の「耐」が顕しているのは(then) Stay here little bit more(大変だろうけど、ついでだから、もう少しここで踏ん張ってみなさいな) という意味になり「耐性」の「性」はその力があるという意味を表していそうです。
つまり、下腹に力を入れて「ごっちごち」になるような大げさなことでは全くなく
「もうちょっとその先まで（行ってみようよ）」位の
「（騙しだましでいいから）あと 1 メートルだけ、ねっ!!」
くらいの話でしかないような気が致します。
本日は毒にも薬にもならない、お話しでした。
おわり。

2020/12/8

（本日は趣向を変えて料理のお話「麻婆豆腐扁」）書庫版

今日はちょっと趣を変えて、料理のお話です。
その前に、本日、今年二回目のフィッシング詐欺に遭い、6 万円何某を失ったショックで夕飯の買い出しで、もうそれ以上お金を使う（失う）のが嫌になり、冷蔵庫の中に残っている食材で夕食を作ることにしました。
それで思いついたのが麻婆豆腐。
というのも、残っていたのが多少干からびた長ネギとひき肉、それに言わずと知れた豆腐だったからです。おまけに作るのに 15 分とかからない。
で、作り始めて途中まで来た時に、傍（はた）と気づいたのが
「麻婆豆腐の素がない」
事でした。
「えっ、なになに？どないしょう！！」
このままでは、豆腐とひき肉、長ネギ炒めでしかなくなってしまいます。
で、咄嗟に思い付いたのが「因数分解」
麻婆豆腐の素って、とどのつまりは味噌と豆板醤とショウガとニンニクでできているよな。

味噌はある。豆板醤も古いけれど、まだ使えそうなのがあった筈。ショウガも半腐れ状態だが削り出せば中は使えそうだし、ニンニクも表面はカサカサだが、中は使えるかもしれない。
で、それらを削り出したり剥いたりして刻んだものをフライパンの中に放り込み、多少炒めた後に味噌と豆板醤をぶち込んで暫く煮込みました。
見た目はちゃんと麻婆豆腐に見えます。
で、出来上がったのを食べてみると、
「まぁ、そこそこ、麻婆豆腐だわ。ま、こんなもんで、いいん、でないかい？」
朝食はどん兵衛特盛で税抜き 215 円。夜は食費使わずで、本日の御食事代、トータル 215 円なり、でございました。
追記）
あと、前回麻婆豆腐の素を買った時に、同梱されていたのに使い忘れて残っていた「花山椒」の小袋があったので、最後にそれをパラパラッと振りかけた上で、混ぜ合わせて食べました。
これが効いたのか、かなりそれっぽくなりました。

2020/12/10

（潮目の変わり時の捉まえ方二種）

昔からよく言われることですが
「大波が来る前には、いったん潮が引く」
といいます。
潮がグーッと沖合の方に向かって引いた後、その力をため込んで、空から覆い被さってくるように「ドッカァ〜ン」と大波が襲いかかってくる。
大波が来る前に、引く潮が良い出来事（つまり悪い予兆）なのか、引く潮が悪い出来事（つまり良い予兆）は様々ですし、その後で来る大波が「大凶」の波なのか「大吉」の波なのかも様々で、その掛け合わせ可能数だけ種々様々な現実が眼前に現れてきます。
ただ、わかっている事は大変時（大波）が来る前には、必ず一旦何かが引いていく（減じていく、遠ざかっていく）事だけははっきりしているようです。
良きにつけ悪しきにつけ何かしらの変化がある訳です。
これを俗に「潮目が変わる」といいます。漁師言葉が起源です。
その掛け合わせ可能数の中で最も気をつけなくてはならないのは、
事前には一旦「悪い出来事」が減って（詰まりよい予兆）安心した処に、ドッカァ〜ンと「大凶」の大波が来るケースです。
そうして、最も苦しいときに持った方がいいのが
事前には一旦「良い出来事」がどんどん減って（詰まり悪い予兆）捨て鉢になりかける気持ちをググッと堪える（こらえる）踏ん張りでしょう。
すると、案外、そのご褒美として「鶴の恩返し」ではありませんが時をおいて「大吉」の大波がやってくる場合もたまにはあります。
確率でいうと前者が 99%、後者が 1%。
そこで出てくるのが、サバイバル精神の御本尊「スポ根大明神様」です。
「1%でもまだ可能性が残っとぅのやったら、諦めたらあかんねんでぇ。世の中どちらか一方が 100%は、絶対にないのやから、なっ」
スポ根台詞をむやみに使うと理不尽かつ大けがの基になりますが、多少なりとも理を踏まえ、使うタイミングを測って用いますと、結構ツボに嵌まった「応援歌」になる場合もあながち「ない」とはいえません。
つまり
「あり」そうだという事です。
追記）
外国の人は、初っ端 1%でも可能性があると（詰まり全くゼロではない限り）
「おっ、ラッキー」
と一声。

そのパーセンテージさえ今後上げていけばいいのだと、遮二無二突っ込んできますが、自分の見る限り、我が国の人は、実現可能性が 99％でも
「どうして 100％ではないのか？」
と不満げに聞くようなところがあります。
どちらが良いとはもうしませんが、好みとしては前者です。

2020/12/10-2

（回顧 私の潮目時 ）

潮の変わり目。
自分にもありました。
それは小学校 5 年生の 3 学期から、突然親に、有名進学校地域に「越境入学」させられた時からです。
その日から、それまで楽しかった学校生活が全然面白くなくなったのです。
壁新聞はなくなるし、夏休みの宿題はドリルみたいなものばかりで、図画工作とか花や石や昆虫の標本作りもなくなったし、近くの青果市場や消防署への徒歩での社会科見学も、全部なくなってしまいました。
おまけに通学路には畑や野原がなく商店街ばかり。
お小遣いをもらう事がなかった自分の身の上では、商店街の品々は却って目の毒でしかなく、只で遊べた畑や野原の通学路が恋しくなりました。
しかも徒歩での通学距離は今までの 2 倍。
更には放課後や休日は、同級生はみな塾や進学会にいくので遊び仲間も殆どいません。
そんな気疲れやら、三学期は冬の真っ盛りであった事からでしょうか、突如体調を崩して、あるとき授業中に朦朧となって倒れてしまいました。
保健室に運ばれ、暫く休んだ後、用務員さんの運転する自転車の荷台に乗せてもらって帰宅する事になりました。
ところが、自分は「越境入学というあまり良くない事をしているインチキ野郎」という自覚があったものですから、バレては親に迷惑がかかると思い、わざわざ越境居住先（名義だけそこに住んでいる事になっていた先）で下ろしてもらい、熱でふらふらしながら、家とは反対方向だったので、元の小学校の通学距離からすると 2X2 でおよそ 4 倍の距離を歩いて帰りました。
転校 1 週間目の事でした。
それからです、人生がしんどくなってしまったのは。
別に良い学校にも良い会社にも入りたい等とは全く思ってもいませんでした。
シルクロードを探検してみたいとか、恐竜の骨を発掘したいとか、ブラジルに渡って開拓民になりたいとか、そんな事ばかりが夢で、どこを探してもいい「学校」の「が」の字も、いい「会社」の「か」の字もでてきはしませんでしたから。
しかしその後、夢に反して良い学校に入り、良い会社に入り、結果散々な目に遭うことになっていまいました。
なぜなら全然体質に合わなかったからです。合わないのに必死で合う振り、合っているような「お芝居」ばかりしていたからです。
なまじ出世してしまったのもいけませんでした。

それやこれやを、今思うと、あの越境入学による転校が悪い方向に向かう大きな潮目だったような気が致しております。

2020/12/11

（回顧「私の潮目時」続編）

二番目の潮の、大きな変わり目は父が他界し、その１週間後に奥さんから三行半を突きつけられ、その又一週間後に家庭崩壊したときでした。
正直その時に味わったのは、自分でも全く意外だったのですが「解放感と安堵感」でした。
要するに
「もうひとの台本で走らなくてすむ。ほっとした」
という気持ちで、それが実際口をついて出たのです。
その直前まで、自分には合わない仕事や周りの求めに応じ続けた結果、重度のうつ病になっておりました。そのせいで、親会社から子会社へリストラされ、行った先では降格されましたが、そのことも自分の気分を徐々に楽にしてくれました。
ろくすっぽ仕事もできない状態なのに、ついている役職から高いお給料をいただいていることが恥ずかしくてならなかったのです。家族がいたときには、それはいえませんでしたが、いなくなった今としては、そんな気遣いはいらないので本当に「肩の荷が下りた」感じがしました。
恐らくこんな事を言うと誰からも同感は得られないのだと思うのですが、実際にそう思ったことなので、素直に書いております。
それからでした、仕事が楽しくなってきたのは。
子会社に行ったこともあって、大組織の親会社ほど仕事は分化されておらず、規制も緩かったし、リーマンショックのせいで更にそれは曖昧になり、結構やりたい放題ができたからです。
そうしてその後５年程して、会社を自ら辞した後、何のためらいも、そして又特に興奮することもなく、ごくごく自然に起業をしました。
今思うとその時のインパクト度は、親父が死に奥さんが出て行った後の解放感や安堵感から来るインパクトに比べると遙かに小さかったと思います。
多分「好きなことやる」という、その延長線上の話でしかなかったからかもしれません。
これで自分は潮の変わり目をすでに二回体験しましたが、人にはその一生のうちに三度の大きな潮の変わり目があると聞いております。
さて残る一回、ナニが来ることになりますことやら。
想像するとわくわくする反面、さすがに怖くもあります。なぜなら「凶」の次が「吉」だったとすると「吉」の次は、順番からいえば「凶」になるからです。
となれば「吉」で終わるためには、第四の潮の変わり目が必要になります。
それで今思うのは
「潮の変わり目の回数なんて誰も決めちゃいないんだから、何回でもすれば良いだけだろう。恐らく」

それだけでございます。

2020/12/11-2

（怖じ気づいてしまった‼まさにサバイバル・モード突入）

かなり前のここの記事で、日本の企業のうち99%は中小企業という事実を書きました。
しかし我々極小零細企業から見ると、その中小企業でさえ、太宰治が初めて佐渡島の断崖を船から見て「こりゃ島なんかじゃない。まさに大陸じゃないか」と驚いたと同じような感覚で、巨大企業に見えるとも書きました。
ところで昨日ネットである記事を読んだところ、政府が景気判断に使っている「労働力調査」（確かそんな名前でした）は、その記事の筆者によると資本金10億円以上の企業の動向を反映しているに過ぎないとのこと。
別の「法人統計調査」（これまた確かそんな名前でした）によると、資本金1千万から2千万円（これ又々、その記事の筆者の定義）の零細企業の今コロナ渦による打撃は、そんな生やさしいものではないとのこと。
しかし、この筆者の記事を見て自分はさらに驚きました。
弊社のような資本金100万円の企業は、その「零細企業」にすら入っていない事に、です。
あるいは資本金などない個人商店はどうなってしまうのでしょう？
我々の実感とマス媒体やネットで踊る数字とのあまりの乖離の原因は、この辺にありそうです。
要するに政府やあらゆる業種の大手さんの員数の中に、我々はカウントされてすらいないのだという事実を見てしまったような気がしました。
（まだしも、我々よりさらに弱い立場の、例えばUber Eatsの宅配契約をしているフリーランス（個人事業主）の方が、記事的価値があるのか、マス媒体や政府の「やっているぞ」ポーズのおかげで話題に上っているような気すらします。
ブビー賞（ビリから二番目）の我々が一番貧乏くじを引いている感があります）
となると、越年後の来年正月以降、一体どんな景色が眼前に広がっているのか？想像するだけで怖くなってきました。
怖じ気づいてしまいました。
さて、今後どうやって生き抜いていきましょう？
まさに、サバイバル・モードに突入です。
頼るものはない。目をかけて見守ってくれるものもいない。
それがわかった。
最早、自力だけを頼りに、生き抜いていくしかなさそうです。

2020/12/12-rewrite

（修正版 当 series の書き方）

拙著「ニューノーマル探索サバイバル日記」をコロナ渦同時進行執筆の形で書き始めたそもそもの発端は、長年の観察から
「我々を自縄自縛に陥れ、皆を苦しめているのは、今迄に累積され岩盤の様な強度を持った「過度の美意識=style」の塊。
その裏返しで「未達は恥。様=style にならん、不様」の一言。
見た目を重んじ、その悪さを忌み嫌う無言の圧力」
それに対して多少なりとも NO を突きつけたいのに、その剣を持たない「悔しさ」からでした。
それでその剣になればと拙著を書き始めた訳です。
その折、形崩しに、前の記事との辻褄の不合や矛盾が生じても無理に合わせず、左右対称、首尾一貫等の様式美を脇に置いて、その時々に思った有りの儘を「出物腫れ物出たとこ勝負」の「同時進行執筆日記」の形で書き始めました。
「隔靴掻痒」「二人羽織」や「木で鼻を括る」様な意に反する事ばかりで思い通りにならないのが常の現実世界。
「読み易く」「頭にも入り易い」「それで納得」という様な story 展開が全くない、その現実実態に合わせよう思ったのです。
しかしその一方、我々の心の奥深くには、美意識由来の「期待を裏切ったら許さないわよ」が常にあり、且つその「そうならなきゃおかしいわよ」筋書きの成就を、相手にどんな事情があっても許す事なく「言外や無言で強要」する傾向を強く感じたのも事実。
確かに「やらせ」をでっち上げる mass-media も悪いですが「お涙頂戴や、今明かされる感動秘話」を無言の内に期待し強要しているのは、むしろ我々の方である可能性が高い気がして
「彼らは単なる needs 請負人では？」
と日記書き始めの当初から思い始めておりました。
なので、この series は、上述の「美意識から逆算された筋書き要求」を自覚的に抑え「その時ゲリラ的に思った事」と「その後、生起した行動」のみを style に落し込まずに書いてみようと思った次第。
このゲリラ戦法は「例外を許さない様式美」を崩す上で、更に出た処勝負は「現実で、どちらに転がるかは rugby ball のその時次第」の捕捉率を up する上で、ICHIRO の言を借りれば「hit を打つには、常にその直前の球筋の軌道変化を読んで合わせるしかありません。それを為し得るのは日々の地道な練習を常態（normal）とする事だけです」に倣い
それを書き物に応用するのも面白いのでは？と思つき
「同時進行執筆日記」

という形で著させて戴きました。
言葉足らずとは存じますがご理解の程、宜敷くお願い申し上げます。

2020/12/13

（「15 年前の我が家の絵姿」私事からの引用話 ）

「あくまで罵れ、他人の失敗。笑って誤魔化せ、自分の失敗」
「人がやれば不倫。自分がやればロマンス」
これらはいずれも
「人に厳しく、自分に甘い」の喩えです。
よくある話で、どこの国でも見かける光景です。
一方、今から 10 年ほど前、たまたま自分の地元の飲み屋さんで隣り合わせた厚労省だったか、その当時まだ厚生省だったかの高級官僚さんから
「我が国の人口問題は、子供が新たに生まれないことよりも、むしろ年配者が死なないことの方が問題なのです」
とドキッとするような本音話を聞かされたことがありました。当時たいそう驚いた記憶があります。未だに残っているくらいですから。
で、上の話に下の逆転の視点を重ね合わせてみると、以下の様なことが言えるかもしれません。
即ち
「他国ではあまり見られない、我が国の国民性から来る固有の問題としてあるその問題はは、人に厳しく、自分に甘いことではない。むしろ人を責めるに厳しいことよりも、自分が相手やその条件を受け入れるのにあまりにも厳し過ぎる（あぁだ、こぅだ言ってなかなか門戸を開かない）事だ」
と。
要するに周りを受容せず、事ある毎に垣根を高くして、周囲とのコミュニケーションを取らない、つまり give and take や win-wine の関係が非常に成り立ちにくい事の方が社会的に見て、より問題なのだと言うことです。
「攻撃は最大の防御」の「攻撃」をも「防御」の変形として含めると、責めるも守るも両者共々「自己防衛本能の発露」です。
自分も含めて我が国国民は、上記の意味で、あまりにも「自己防衛本能が高すぎる」きらいがあるような気がしております。
再び、要するに、で恐縮ですが
中心線を大幅に超えて相手の領域深く踏み込んで「わーわー」騒いでおきながら、そこが相手の領域深くであり、更には土足で踏み込んでいる事にも一切気づかず、相手の当然の権利として、ちょっとでも中心線方向に押し戻そうと、相手から押し返されると、逆に「横暴よ」「理不尽な暴挙だ」と大騒ぎするのも、同根の発生源から出た産物のような気が致しております。

ちなみに後者は、今は崩壊して跡形もなくなってしまった「15 年前の我が家の絵姿」からの引用でございました。
私事からの引用、御免くださいませ。

2020/12/13-2

（外国人従業員教育「百聞は一見にしかず」の例 ）書庫版

「百聞は一見にしかず」
全てはこれに尽きます。
ろくすっぽ日本語も英語も分らない相手と、こちらはろくすっぽネパール語が分らない同士で仕事をするには、以前にも書きましたが、数字を使うか図表を使うか絵を描いて見せるのが一番と。
それで今回は、かねてより従業員にアナウンスをしていたカリー文化圏の輸入食材を扱う食料品店を実際に作って具体的なイメージを従業員たちに沸かさせようと今朝思い立ち、従業員が出社してくる前に実際にセッティングして見せてみる事にしました。

今回はコストもかからないことが分っていたので、後は自分の手間暇だけ。
即座に実行に移しました。
ナニを実行したかというと、Namaste curry restaurant 本館脇の別館 restaurant の客席テーブル（といっても幅 180 センチ、奥行き 45 センチ仕様の会議机 2 基を奥行き方向に束ねた物に臙脂色のテーブルクロスとそれを覆うビニールシートをかけただけの物なのですが）それを動かし、壁の前、横一列に並べて食品陳列台を設定し、余った椅子は全部反対側の壁の前に、これまた横一列の、対面して座らなくてすむように設定しました。
当然真ん中はがらんどうの空きスペースになります。
広々として気持ちが良いし、店内の様子もまるで様変わり。あたかも別店舗のように見えます。
そうであるなら、入り口のガラス引き戸をわざと開けておけば、コロナ渦で数はかなり減ってはいますが、それでもたまに通るカリー文化圏の在日就労外国人さんの目に留まる可能性もありそうです。
まだイメージ作りだけなので、当然食材はまだ並んでおりませんが、あわよくば
「んっ？なんか違う。何だろう」
と、今までと店内の様子ががらりと変わっている事に気づいて、疑問や関心、或いは更に進んで興味迄抱いてもらえるかもしれません。
そうなれば販促効果としてはシメタものです。
そんな捕らぬ狸の皮算用をしていた処に、従業員達が順次出社して参りました。
案の定
「んっ？ナニ？ドウシタ、アルカ？」
それで
「grocery store（食料品店）や」
と一言説明すると
「オォーッ!!」
と素直な歓声。さすが外国人。
もう何の説明もいりません。それだけで OK.
やはり「百聞は一見にしかず」でございました。

2020/12/14

（ピンチ 困惑、動揺 etc.）

本日、定休日。
しかし、それどころではなくなってしまいました。
休みが吹っ飛んだ。
たった一本の電話で。
その瞬間、非常に強く以下を感じました。
「世の中に確かな事など一つもありはしないのだ」
知らぬ間に「これだけは確かだろう。不変だろう」と思い込んでしまっているととんでもない目に遭うか間違いを犯す。
例えば経営判断で「選択と集中」というのは「短期間に」最大効果を出す上では確かに効果的ですが、全てが流動的で、確かな物など一つもないという認識を持てば、これを長期継続する事は、とても危険な行為であることを痛感します。
全てが流動的で過渡的だという認識でいると、つまり短期結果よりも存続を第一是とすれば、多方面からの圧力に対して footwork のいい分散型投資、喩えれば「たこ足投資」の方が遙かに理に叶っている気がします。
又、空間軸以外、時間軸上に於いても、短期最大成果より、需要の先食いを抑える分散刈り取りが、より企業、事業体の存続の理にかなっている気がします。
前置きが長くなりました。
先程の電話は料理長からでしたが、その電話たった一本で、一瞬にして弊社存立の前提が根底から吹っ飛んでしまいました。
そのお話の要約のみ申し上げます。個人情報に属します故。
「現在このお店の要である店長の一家が急遽帰国する可能性が突如発生」
したのです。何の前触れもなく。
そのひと個人の属性に頼っていた属人経営「一本足打法のリスク」の大きさと怖さを、突如嫌という程見せつけられたのです。
是を上述の経営文言に置き換えますと、自分が否定していた将にその
「知らぬ間に選択と集中型経営に陥っていた」
即ち
「分散型、たこ足経営ではなくなっていた」
一時のかっこよさや手柄等求めてはいなかったにも拘わらず、にです。
正直、今回の事業を始めてから、これ程の難問にあった事はありません。
現在、その「解」が見つからずに困惑し心底動揺しております。
ひと（スタッフ、従業員）を大切にしたいとい自分の最大主旨が勝ち過ぎると、却って経営が破綻するというなら、どうすれば良いのか？

その自分自身の根幹に関わる解が見つからなければ最悪、コロナ渦の有無に拘わらず当店は「廃業」か「自主閉店」せざるを得ないでしょう。
追記）
英国移住の話が出ているパキ姉ちゃん、ネパール人としては珍しく緻密な頭の料理長、お隣惣菜屋の大将は唯一無二だという事にも気づかされました。

2020／12／15

（手短に「ご報告」）

今日は短くコメントだけ。
AI に勝る人間の強さは、一言
「ぞっこん惚れ込む事」
だけ。
計算高い、今の若い人の結婚みたいな、条件検索絞り込みでは絶対に AI にかなわない。
だから、勝てるとしたら
「ぞっこん惚れ込み」
のイチロー流、手元切っ先の瞬間判断「惚れた強みの勘所」打ち返し判断意外にはあり得ない。それしかない！！
それができるのは「人が何かに惚れ込んで馬鹿力を出す」
それ以外にないような気が、たった今、しましたので、ご報告申し上げます。
It`s over
以上、終り！！
礼っ！！

2020/12/15-2

(鵜呑みにすべからず)

パキ姉ちゃんのIT エンジニアのご主人は上司から、平日、休日と言わず、時間内、外と言わず、コロナ渦でテレワークの自宅仕事場にのべつ幕なしにメールや電話をしてくる割に、外国人としては、かなりの努力をしているにも拘わらず、ご主人の仕事を一向に評価をせず、反対に給与アップを抑えるためか、Hi-skill な我が国国民スタッフの仕事と事ある毎に比較し、その差の不足部分ばかりをついてくる事にいい加減に嫌気がさして他国へ移住する算段をしている一方
我が社では、それとは全く反対に外国人従業員が「シャチョ」の自分に昼夜を問わず、平日、休日と言わず、のべつ幕なしに電話で
「ゆっくり休んでください」
と言った数時間後、再び電話で
「でも、これだけはお願い。いつもの extra special で、お願い」
という事態が、それこそ恒常的に起きております。
決して、ニュースやネットで報告されるが如き「たった一つの事態だけ起きている」訳ではありません。
これら報道の様に世の中を分かり易く、明快に捉えようと「一つの図式」で表す事がよくありますが、簡単に説明しようとするその試みそのものが、却って事態を複雑にしてしまう場合が時々あります。
曰く
「一つの図式で示せるとニュースでもそう報道しているし、学校でもその方向で教わったし、親もそう言っていたわ。
なのに、そうなっていないのはおかしい。世の中の方が間違っている。だから一つの図式に収まるようにしてよ」
と。
しかし実際の世の中は一つどころか人口の数だけ図式があります。
ちゃんとした解を得ようとすれば、個々一つ一つのケース毎に「一から」スタートしなくてはなりません。
しかしお互い、そんな手間も暇もかけていられませんから「一つの図式」があると思っている人は常に、発送されてもいない荷物を、首を長くして待っている様な事になるので、常にイライラした日々を送る事になってしまいます。
この場合、明らかに「全てを包含し、説明できるたった一つの図式がこの世に存在する。もちろんあなただけのために」が、冒頭でお話ししましたように、悪意ではないにも拘わらず「却って事態を複雑にし、よりましな解から、そのご当人を遠ざけてしまう」結果になる場合もままあるようです。

善意が齎す混乱とでも申しましょうか。
ですので、何でも鵜呑みにしない事が大切なような気がします。
特によくある「お手軽簡単これっきりボタン話」にはご注意を。

2020/12/16

（結果引受、各人相応）

「配達の注文を受けて外国人社員が車で向ったが、全く新しい地域だったので、配達先を特定できずに帰ってきた。時間も時間だった故、帰宅させた後、未配達の curry set が冷蔵庫の中に捨てずにあると聞いたので、一旦立てた売上を消すのも悔しく、自宅本社から自転車に乗って、途中店で注文品を pick up。更に自転車で配達に向かうも、スマホで外国人のお客さんに電話をする度に、告げる住所が 3 転 4 転。仕方がないので mansion 名を頼りに探すと同名 mansion が数カ所。それでもほぼ特定できたところで、遅配を取り戻そうと全速力で自転車を漕いでいたせいか、black one box car にあおられ mansion 目前で転倒。あえなく curry set はおじゃん。それでも是又、悔しいので、外人のお客さんの処まで行って事情説明とお詫びの後、当然お代を戴かないまま深夜に帰宅。その間ほぼ 2 時間余」

「子供を呼び寄せたいとの外国人社員に 1 ヶ月滞在の travel visa と 1 年滞在の family stay visa の取得難度の違いとその対策案を板書で説明。やっとそんなに簡単ではない事が分ったらしい」

「2 週間に渡る検疫観察期間の後「出所」した初来日のインド人顧客が、たばこを吸いに別館に来たので、話していると、IT engineer であると同時に絵の artist であることが判明。スマホ内 stock の絵を見せて貰うと結構良い sense なので、この別館で個展を開いてはどうかと話を持ちかける。冬空の下で友達との立ち話が辛そうだら、場合によってはここをたまり場として使ってもいいとも提案」

「自宅本社に自転車で帰ると、門無し外玄関で、近所の奥様方が立話。見ると草茫々だった玄関周りを綺麗に掃除して下さっていた。Corona でお店も大変で外回り迄手が回らないでしょうからと。一見まるで別邸みたい。感謝感激雨あられ」

「その後、お礼を申して屋内に入るも、疲れ切っていて、食事の支度が億劫になり、出前を頼む。配達員に「寒いし Corona やし大変やね」と声をかけると「結婚記念日に奥さんに豪華な旅行を present したいので頑張っています」との事。「あんたやさしいな」と思わず感涙」

以上が休みを挟んで一両日中に起こった出来事。

大変と言えば大変。

面白いと言えば面白い。

事実列挙とのみ聞こえるかもしれないし

苦労自慢かに聞こえるかもしれない。

しかし只言える事は

「何かをすれば何かが起こる。何もしなければ何も起こらない」

とも言えるし

「何もせずとも何かは起こる」

とも言える。
それを選ぶは各個人。結果引受は各人相応。
本日は是にて。

2020/12/17

（今コロナ渦での、一飲食店業者の感想レポート）

「下手な鉄砲も数打ちゃ当たる」
今はこれしかないような気がします。
今コロナ渦、誰も「解」を持っていない状況下では。
最早、誰かのせいにして事が済むレベルではないでしょう。
既にそれを遙かに超えてしまっているようですから。
ここで話は少し変わって、先回の記事で
「ご近所のおばあさんが草茫だった自宅本社の外玄関先をお掃除してくださった」
というお話をしました。
本日は、年末調整の還付金がある旨、外国人従業員に伝えると、そのうち一人が
「シャッチュ、モッテロ。イラナイ。困ッタトキ二ツカッテ」
というようなことを言ってきました。
そうしてこの記事を書いているたった今、弊社での就職を熱望して我が国の入管政策から、認められず、やむなく故国に戻り、1 年余の間音信不通になっていた外国人元従業員から、突然
「故国は今大変な状況下で、就職もままならないのですが、つい先頃結婚しました」
とその結婚式の様子を伝えたビデオ画像とともに電話がありまいた。
あちら時間深夜の故国から。
以上、三つ、いずれも「お涙頂戴」目的の道具ネタではありません（幾分はあるかも）
ここで又々、お話が更に飛んで
これも以前に書きましたが、この地での最も有効な販促手段を教えてくださった古参電気店の社長さんがおっしゃっていたのは
「新聞のチラシは千三つといって、千枚入れて三人来れば良い方だという意味だ。でもそれがインターネットを見ることが少ない人が多いこの地では、一番確実な販促手段だ」
という事でした。
その言での「三つ」を起点に逆算してみると、下手な鉄砲は 1000 回撃たないと 3 つには当たらないという事になりそうです。
10 や 20 回撃ったところで当たらないのは理の当然の、当たり前。100 や 200 でも範囲内で、当たり前。
1000 を 3 で割って 333 回に一回当たれば、それが一番早い出現確率だ、くらいの話ですから。
上記の「自慢話」もこの地に来てほぼ 3 年。総日数およそ 1000 日強経過後での、ほぼ最終日に千三つの三つがいっぺんに「ドンときた」訳ですから。一番出現が遅れたケースに当てはまった訳ですが、来なかった訳では決してなかったので

「今コロナ渦も、そのくらいのレベルで考えるしかないのかな？」
と思った次第。
以上、一飲食店業者の今コロナ渦、感想レポートでございました。

2020/12/18

（Never give up の後に何故 challenge ではなく try, try, try なのだろうか？）

弊社の外国人従業員にハッパをかけるときに
Never give up（諦めんじゃねぇぞ）」
と吠えた後、自然と次に出てくる言葉は、自分の場合
「try, try, try」
です。
世の中でよく使われる「challenge」という言葉はなぜか出てきません。といより大抵の場合、その言葉が咄嗟には全く浮かんでこないのです。思考野に。
Challenge といえば「チャレンジ精神」
Try といえば、どこやらの学習塾名かラグビーのスクラム「トライ」タッチダウンの「トライ」
Challenge を和訳すれば「挑戦する」文章にすれば「戦いを挑む」です。
一方 try の方は「試みる」それを続けて「Try, try, try」といえば「やってみろ、やってみろ（いろんな方向からいろんな事を）試してみろ」となります。
ですので、challenge「戦いを挑む」と言うほど大げさではないし、挑むからには上目方向の「上昇志向」になりがちですが、try「試みる」には上下左右正方斜方の全方位 360 度あらゆる方向に目が向きそうで、その分チャンスが多いような気がするからかもしれません。
この二つ、即ち challenge と try を映像化すると
Challenge はロッククライミングかフェンスよじ登り競争。
Try の方は、フィールドを縦横無尽に駆け回る、将にラグビーの映像。
で、この感覚的な差は一体自分の中で何を意味しているのだろうと考えてみたところ、思い当たったのが
「失敗後の後遺症」の差ではないかと。
Challenge のイメージは「ハードルが高い」や「敷居が高い」からくるのか「高いところ」からの落下で、落ちる（失敗する或いはしくじると）とても痛そうで立ち直りに多大なエネルギーを要しそうな感じから、なんとなく「一回こっきり」のチャンスしかないような気がするに対して
Try の方のイメージは、スクラムハーフから来ているのだろうと思うのですが、押しつ押し戻されつで、何回でもできそうですし、何回でも巻き返しややり直しがききそうな気がするからかもしれません。
それこそ「何回でもチャレンジできそうな」より幅広いチャンスが存在し（残されて）いる様な気がしているからかもしれません。

Never give up の後に、無意識に「try, try, try」という言葉が出てくるのは。
追記）
確かにチャレンジとトライでは語の長短による口にしやすさとリズム感の有無はあるかもしれないなとは思っておりますけども。

2020/12/19

（本年最後、最早、未知の領域（unknown word）に突入）

「最早、未知の領域（unknown world）に入った」
そんな気がします。
こと、今コロナ渦の我が国についてですが、
医療は崩壊寸前。
感染経路の最多は家庭内感染。
ボーナス大幅減。大学や院を休、退学せざるを得ない人が続出。
「罹患しても看てもらえないかもしれない」
「家の中も安住の地ではない。自室に籠もっていた方が安全かも」
「ボーナス払いの住宅ローン、ボーナスでは足りない」
「もう復学できないかもしれない」「勤め口探さなくては」
飲食業の我が店も、寒波到来の昨日から売上激減。来月新年１月からはもっとひどくなる予測。
コロナ対策と経済回復の両立。
温暖化対策と経済活動維持の両立。
しかし
「二兎を追うものは一兎を得ず」の「虻蜂取らず」状態。
現時点、誰にも解が見いだせない。
「どう考えれば良いのか？どう捉えれば良いのか？」
頭の中が「交通整理不能状態」で不快なまま、今年の暮れが終わりそうです。

お知らせ）
2020 年 12 月 20 日以降の記事は「ニューノーマル探索サバイバル日記 来年 1 月の巻」に掲載いたします。

（著者プロフィール）

うときゅう いっき

本名 宇都宮一貴（うつのみや かずたか）

一九五三年東京生まれ。早稲田大学第一文学部ロシア文学科を二回留年の後、卒業。大手電機メーカー商品企画部に二十年間勤務。同子会社経理部等に十六年間勤務。四十歳から五十二歳まで十二年間重度うつ病を罹患。左遷、リストラ、降格、離婚、家族崩壊の後、生還。定年退職後、嘱託社員契約を辞して株式会社うとQを設立。趣味は観察すること、考えること、書くこと、カメラの四つのｋ。著者名は苗字、宇都宮一貴の音読みで、中学校時代の仇名に由来する。

宇宙の「う」

東京都の「と」

宮殿の「きゅう」

数字の「いち」を詰まり音便で「いっ」

貴族の「き」

で、うときゅういっき　となります。漢字にするとかなり御大層な名前に見えますので、敢えて音読みひらがな表記にしております。

ホームページ：http://utokyu.co.jp

（出版情報）

著　者 うときゅう いっき

発行人 宇都宮一貴

発行所：株式会社うとQ

〒二一五 - 〇〇一八

神奈川県川崎市麻生区王禅寺東５丁目３４番７号

電話：〇四四 - 九八九 - 一六九八

発　売 株式会社 うとQ

編　輯 ナレッジフォレスト（大竹鉄哉）

カバーデザイン＆DTP 製作 ナレッジフォレスト（大竹鉄哉）

©Kazutaka Utsunomiya uploaded in japan 2020

発行日：二〇二一年三月二十五日　初版発行

本書の一部または全部について、著作権上、著作権者の承認を得ずに、無断で複写、
複製することは禁じられています。

（その他著書）

●「人生終わったなと思った時に読む本」（二〇一五年刊 ソフトカバー在庫僅少）

●「人生終わったな」と思う間もなくトンネルの闇を抜けて広野原（二〇二〇年刊 amazon

kindle）
●「コロナ禍 同時進行執筆 ナマステ別館堂主人「ニューノーマル探索サバイバル日記」二〇二〇年壱月の巻〜十二月の巻」（二〇二〇年刊 amazon kindle）
●「コロナ禍 同時進行執筆 ナマステ別館堂主人「二年目の ニューノーマル探索サバイバル日記」二〇二一年一月の巻〜三月の巻」（二〇二一年刊 amazon kindle）
●（初本）カリー屋ナマステ別館堂主人 掌編小説集「冬のひまわり」（二〇二〇年刊 amazon kindle）
●（改訂本）カリー屋ナマステ別館堂主人 掌編小説集「冬のひまわり」（二〇二〇年刊 amazon kindle）
●コロナ渦カリー屋ナマステ別館堂主人 掌編小説集「子、親を選べず」三部作（二〇二一年刊 amazon kindle）
●コロナ渦カリー屋ナマステ別館堂主人 掌編小説集（合本）「子、親を選べず」新四部作（二〇二一年刊 amazon kindle）